親鸞聖人全集

親鸞聖人全集

文學博士　南條文雄
文學博士　前田慧雲
監修
文學博士　村上專精

VELUT ARBOR ÆVO

Presented to the

LIBRARY *of the*

UNIVERSITY OF TORONTO

by

Mr. E. Tamaki

LIBRARY
AUG 27 1996
UNIVERSITY OF TORONTO

CHENG YU TUNG
EAST ASIAN LIBRARY
UNIVERSITY OF TORONTO LIBRARY
130 St. George Street
8th FLOOR
TORONTO, CANADA M5S 1A5

はしがき

一。本書は上下二卷に於て、聖人の御遺著を遺憾なく蒐集致しました積りであります。併し後世の僞作と思ふものは勉めて省きました。

一。本書は考證的の事を避けて、何人にも拜讀し得るやう編纂に意を注きました。故に漢文の御著述によるものは、從來の御延書を用ゐました次第であります。中には和譯の出來ないものが御座いますから、其儘漢文を入れました。乃ち愚禿鈔、二門偈であります。

一。句讀は拜讀し易からしめん爲め施したものですから、或は格の合はぬ所もあらふかと思はれます。又ふりがなは原本の通り用ゐまして、別に改竄を加ふることは致しませぬ。殊に左假名まで保存しました。

一。編纂の順序は御著述の年代によらんかとも思ひましたが、是又從來の順序によることにしました。本書の御製作年代等に關する事柄は下の卷の終りに於て、大略記述致さうと思ひます。

一。校訂に意を用ゐましたけれども、尚誤謬なきを保しませぬ。終に臨んで南條博士、村上博士、前田博士の懇切なる指導を謝します。本書卷頭の親鸞聖人全集の六文字は、前田博士の揮毫であります。

丙午の春

編輯代表者　百目木智璉謹みてしるす

親鸞聖人全集 上卷

目次

一。教行信證（六卷）……一頁
一。淨土文類聚鈔（一卷）……四三九
一。愚禿鈔（二卷）……四六五
一。二門偈……五〇三

教行信證

顯淨土眞實敎行證文類序

愚禿釋の親鸞の述

ひそかにおもんみれは。難思の弘誓は。難度海を度する大船。(おほきなるふね)無碍の光明は。無明の闇を破(やぶる)する惠日なり。しかればすなはち淨邦緣熟して。調達闍世をして。逆害を興ぜしむ。淨業機あらはれて。釋迦韋提をして。安養をえらばしめたまへり。これすなはち。權化の仁ひとしく苦惱の群萠を救濟(すくひすくふ)し。世雄の悲まさしく逆謗闡提をめぐまんとおほす。かるかゆゑにしんぬ。圓融至德の嘉號

は。惡を轉して德をなす正智。難信金剛の信樂は。うたがひをのぞき德をえしむる眞理なり。しかれば凡小修しやすき眞敎。愚鈍ゆきやすき捷徑(みち)なり。大聖一代の敎この德海にしくなし。穢をすて淨をねがひ。行にまどひ信にまどひ。心くらく識すくなく。惡おもくさはりおほきもの。ことに如來の發遣(おこしつかはす)をあふぎ。かならず最勝の直道に歸して。もはらこの行につかへたゞこの信をあがめよ。あゝ弘誓の强緣。多生にもまうあひがたく。眞實の淨信。億劫にもえがたし。たま〳〵行信をえは。とをく宿緣をよろこべ。もしまたこのたび疑網(うたかひのあみ)に覆蔽(おほひかくす)せられば。かへりてまた曠劫を逕歷(へたり)せん。まことなるかな。攝取不捨の眞言。超世希有の正法。聞思して遲慮(おもんぱかり)することなかれ。こゝに愚禿釋の親鸞よろこばしきかな。西蕃月氏の聖典。東夏日域の師釋。あひかたくして

いまあふことをえたり。きゝかたくしてすでにきくことをえたり。眞(しん)宗(しゅ)の教行證(けうぎやうしよう)を敬信(きやうしん)して。ことに如來(によらい)の恩(おん)德(とく)のふかきことをしんぬ。こゝをもてきくところをよろこひ。うることころを嘆(たん)(ほむ)するなり。

大無量壽經　眞實の教。淨土眞宗。

眞實の教をあらはす一。

眞實の行をあらはす二。

眞實の信をあらはす三。

眞實の證をあらはす四。

眞佛土をあらはす五。

化身土をあらはす六。

顯淨土眞實敎文類一

愚禿釋の親鸞の集

つしんで淨土眞宗を案ずるに。二種の廻向あり。一には往相。二には還相なり。往相の廻向について。眞實の敎行信證あり。それ眞實の敎をあらはさは。すなはち大無量壽經これなり。この經の大意は。彌陀ちかひを超發して。ひろく法藏をひらきて。凡小をあはれんで。えらんで功德の寶(たから)を施(ほどこす)することをいたす。釋迦世に出興して。道敎を光闡(ひろめ ひろむ)して群萌をすくひ。めぐむに眞實の利をもて。

せんとおほしてなり。こゝをもて如來の本願をとくを經の宗致とす。すなはち佛の名號をもて經の體とするなり。なにをもてか出世の大事なりとしることをうるとならは。大無量壽經にのたまはく。今日世尊諸根悦豫(よろこびたまへるいろなり)し。姿色(すがたのいろ)清淨にして。光顔巍巍とましますこと。あきらかなるかゝみのきよくして。かけ表裏にとほるかことし。威容顯曜にして。超絶(こえすくれたまへり)したまへること無量なり。いまたかつて瞻覩(みたてまつらすといふ)せす。殊妙(すくれたまへるなり)なることけふのことくましますをはやゝしかなり。大聖わか心に念言すらく。今日世尊奇特の法に住したまへり。今日世雄佛の所住に住したまへり。今日世眼道師の行に住したまへり。今日世英最勝の道に住したまへり。今日天尊如來の德を行したまへり。去來現の佛。佛と佛とあひ念したまへり。いまの佛も諸佛を念したまふことなきことをえんや。な

んかゆゑそ。威神のひかりひかりいまししかると。こゝに世尊阿難につけてのたまはく。諸天のなんちをおしへてきたして佛にとはしむるか。みつから恵見をもて威顔をとへるやと。阿難佛にまふさく。諸天のきたりてわれをおしふるもののあることなし。みつから所見をもてこの義をとひたてまつるならくのみと。佛ののたまはく。よきかな阿難。とへるところはなはた心よろし。深き智慧眞妙の辯才をおこして。衆生を愍念(あはれみおほしめす)せんとして。この恵義をとへり。如來無蓋の大悲をもて。三界を矜哀(おほいなるあはれみ)したまふ。世に出興するゆゑは。道敎を光闡して群萠をすくひ。めくむに眞實の利をもてせんとおほしてなり。無量億劫にもまうあひかたまく。みたてまつりかたきこと。なをし靈瑞華のときありてときにいましいつるかことし。いまとへるところは。饒益するところおほし。一切の諸天人民を開

化す。阿難まさにしるへし。如來の正覺は。その智はかりかたくして。道御(みちびき たまふ)(道字作導)したまふところおほし。惠見(惠字作慧)無碍にして。よく過絶(さゝめ たつ)することなし。(上巳)無量壽如來會にのたまはく。阿難佛にまふしてまふさく。世尊われ如來の光瑞希有なるをみたてまつるかゆゑに。この念をおこせり。天等によるにあらず。佛阿難につけたまはく。よきかな〱。なんちいまこゝろよくとへり。よく微妙の辨才(わきまふ)を觀察して。よく如來にかくのことき義をとひたてまつる。なんち一切如來應正等覺。および大悲に安住(やすくさ ゝまろ)して群生を利益せんかために。優曇華の希有なるかことく。大士世間に出現したまへり。かるかゆゑにこの義をとひたてまつる。またもろもろの有情を哀愍し利樂せんかためのゆゑに。如來にかくのことき義をとひたてまつれり。(上巳)平等覺經にのたまはく。佛阿難につけたま

はく。世間に優曇鉢樹あり。たゞ實ありてはなあることなし。天下に佛ましますへいましはなのいつるかことしならくのみ。世間に佛ましませとも。はなはたまうあふことをえかたし。いまわれ佛になりて。天下にいてたり。もし大德ありて聰明善心にして、佛意をしるによりて。もしわすれすは佛邊にありて佛につかへたまふ。もしいまとへるところ。あまねくきゝあきらかにきけ、(已上)憬興師のいはく。今日世尊奇特の法に住したまへり。(神通輪によりて、現したまふところの相なり。たゞつねにことなるのみにあらす、またひとしきものなきかゆゑに。)今日世雄佛の所住に住したまへり。(普等三昧に住して、よく衆魔雄健天を制するかゆゑに。)今日世眼導師の行に住したまへり。(五眼を導師の行となつく。衆生を引導すること、過上なきかゆゑに。)今日世英最勝の道に住したまへり。(佛四智に住して、ひとりひてたまへること、ひとしきことなきかゆゑに。)今日天尊如來の德を行したまへり。(すなはち第一義天なり。佛性不空の義なるをもてのゆゑに。)阿難まさにしるべ

し。

如來正覺は。（すなはち奇特の法なり。）惠見無礙にして。（最勝の道を述するなり。）よく過絶（つくすたゆ）することなし。（すなはち如來の徳なり。）（已上）しかれはすなはちこれ眞實の教をあらはす明證なり。まことにこれ如來興世の正說。奇特最勝の妙典。一乘究竟の極說。速疾圓融の金言。十方稱讃の誠言。時機純熟の眞教なり。しるへし。

顯淨土眞實教文類一

顯淨土眞實行文類二

愚禿釋の親鸞の集

諸佛稱名の願　淨土眞實の行。選擇本願の行。

つしんて往相の廻向を案するに。大行あり。大信あり。大行といふは。すなはち無礙光如來のみなを稱するなり。この行はすなはちこれもろ〱の善法を攝し。もろ〱の德本を具せり。極速圓滿す。眞如一實の功德寶海なり。かるかゆゑに大行となつく。しかるにこの行は大悲の願よりいてたり。すなはちこれ諸佛稱揚の願となつけ。また諸佛稱名の願となつく。また諸佛咨嗟（ほめむ）の願となつけ。また

往相廻向の願となつくへし。また選擇稱名の願となつくへきなり。
諸佛稱名の願。大經にのたまはく。たとひわれ佛をえたらんに。十方世界の無量の諸佛。こと〳〵く咨嗟してわか名を稱せずといはゝ。正覺をとらし。(上已)またのたまはく。われ佛道をならんにいたりて。名聲(ふちのみななり)十方にこえん。究竟してきこゆるところなくは。ちかふ正覺をとらし。衆のために寶藏(たから)をひらきて。ひろく功德の寶(たから)を施(ほどこさん)せん。つねに大衆のなかにして。説法師子吼せん。(要を抄す。)
願成就の文。經にのたまはく。十方恒沙の諸佛如來。みなともに無量壽佛の威神功德不可思議なるを讚嘆したまふ。(上已)またのたまはく。無量壽佛の威神きはまりなし。十方世界無量無邊不可思議の諸佛如來かれを稱嘆せさるはなし。(上已)またのたまはく。その佛の本願力。みなをきゝて往生せんとおもへは。みなこと〳〵くかのくにゝいたり

て。おのづから不退轉にいたる。(巳上)無量壽如來會にのたまはく。いま如來に對(むかひたてまつりて)して弘誓をおこせり。まさに無上菩提の因を證すへし。もしもろ〳〵の上願を滿足せずは。十力無等尊(力字作方)をとらし。心あるひは常行にたえざらんものに施せん。ひろく貧窮をすくひて。もろ〳〵の苦をまぬからしめ。世間を利益して安樂ならしめん。(乃至)最勝丈夫修行(丈字作大)しおはりて。かの貧窮において伏藏とならん。善法を圓滿して等倫(ひとしきともがら)なけん。大衆のなかにして師子吼せん。(巳上抄出)またのたまはく。阿難この義利をもてのゆゑに。無量無數不可思議無有等等無邊世界の諸佛如來。みなともに無量壽佛の所有の功德を稱讃したまふ。(巳上)佛說諸佛阿彌陀三耶三佛薩樓佛檀過度人道經にのたまはく。第四に願ずらく。それがし作佛せしめんとき。わが名字をしてみな八方上下無央數の佛國にきこえしめん。みな諸佛をしてお

の〱比丘僧大衆のなかにして。わか功德國土の善をとかしめん。諸天人民蜎飛蠕動（むくめきとひむくめきうこく）のたくひ。わか名字をきゝて。慈心せさるはなけん。歡喜踊躍せんもの。みなわかくにゝ來生せしめ。この願をえていまし作佛せん。この願をえすは。つゐに作佛せし。（巳上）

無量清淨平等覺經の卷上にのたまはく。われ作佛せんとき。わか名をして八方上下無數の佛國にきかしめん。諸佛おの〱弟子衆のなかにして。わか功德國土の善を嘆せん。諸天人民蠕動（むくめきうこく）のたくひ。わか名字をきゝて。みなこと〱く躍踊せんもの。わかくにゝ來生（きたりむまれしめん）せしめん。しからすはわれ作佛せし。われ作佛せんとき。他方佛國の人民。前世に惡のためにわか名字をきゝ。およひまさしく道のためにわかくにゝ來生せんとおもはん。いのちおへてみなまた三惡道にかへらさらしめて。すなはちわかくにゝ生せんこと

心の所願にあらん。しからはわれ作佛せしと。阿闍世王太子。およひ五百の長者子。無量清淨佛の二十四願をきゝて。みなおほきに歡喜踊躍して。心中にともに願していはく。われらまた作佛せんとき。みな無量清淨佛のことくならしめん。佛すなはちこれをしろしめしてもろ〳〵の比丘僧につけたまはく。この阿闍世王太子および五百の長者子。のち無央數劫をさりて。みなまさに作佛して。無量清淨佛のことくなるへし。佛ののたまはく。この阿闍世王太子。五百の長者子。菩薩の道をなしてよりこのかた。無央數劫に。みなをのゝゝ四百億佛を供養しおはりて。いままたきたりてわれを供養せり。この阿闍世王太子。および五百人等。みな前世に迦葉佛のとき。わかために弟子となれりき。いまみなまた會(あふ)してこれともにあひあへるなり。すなはちもろ〳〵の比丘僧。佛のみことをきゝて。みな

心に踊躍して歡喜せさるものなけん。(乃至)かくのことときのひと佛名をきゝて。こゝろよく安穩にして大利をえん。われらかたくひこの德をえん。このもろ〳〵の刹によきところをえん。無量覺その決をさつけん。われ前世に本願あり。一切のひと法をとくをきかは。みなこと〳〵くわかくにゝ來生せん。わか願するところみな具足せん。もろ〳〵のくにより來生せんもの。みなこと〳〵くこのくにゝ來到して。一生に不退轉をえん。速疾にこえてすなはち安樂國の世界にいたるへし。無量光明土にいたりて。無數の佛を供養せん。この功德あるにあらさるひとは。この經の名をきくことをえす。たゝ淸淨に戒をたもてるもの。いましかへりてこの正法をきく。惡と憍慢と蔽と懈怠とのものは。もてこの法を信することかたし。宿世のとき佛をみたてまつるもの。このみて世尊の敎を聽聞せん。ひとのいのち

まれにうへし。佛世にましませともはなはたまうあひかたし。信慧ありていたるへからす。もし聞見せは精進にしてもとめよ。この法をきゝてしかもわすれす。すなはちみてうやまひえておほきによろこはゝ。すなはちわかよき親厚なり。これをもてのゆゑに道意を發（おこす）せよ。たとひ世界にみてらん火をも。このなかをすきて法をきくことをえは。かならすまさに世尊となりて。まさに一切生老死を度せんとすへし。悲華經の大施品の二巻にのたまはく。（曇無讖三藏の譯）ねかはくはわれ阿耨多羅三藐三菩提を成しおはらんに。無量無邊阿僧祇の餘佛の世界の所有の衆生。わか名をきかんもの。もろ〱の善本を修して。わか界に生せんとおもはん。ねかはくはそれいのちをすてゝのち。必定して生することをえしめん。たゝし五逆と聖人を誹謗せんと正法を廢壞せんとをはのそかん。（已上）しかれはみなを稱するに

よく衆生の一切の無明を破し。よく衆生の一切の志願をみてたまふ。稱名はすなはちこれ最勝眞妙の正業なり。正業はすなはちこれ念佛なり。念佛はすなはちこれ南無阿彌陀佛。南無阿彌陀佛はすなはちこれ正念なり。しるへし。十住毘婆娑論にいはく。あるひとのいはく。般舟三昧および大悲を諸佛のいへとなつく。この二法よりもろ〳〵の如來を生す。このなかに般舟三昧を父とす。大悲を母とす。またつきに般舟三昧はこれ父なり。無生法忍はこれ母なり。助菩提のなかにとくかことし。般舟三昧の父。大悲無生の母。一切もろ〳〵の如來。この二法より生すと。いへに過咎なけれは。家清淨なり。かるかゆゑに清淨といふは。六波羅密。四功德處なり。方便。般若波羅密は。善慧なり。般舟三昧大悲諸忍。この諸法清淨にしてとかあることなし。かるかゆゑに家清淨となつく。この菩薩この諸法を

もていへとす。かるかゆゑに過咎あることなし。世間道を轉して出世上道にいるものなり。世間道を即是凡夫所行道（行字作得）となつく。轉して休息となつく。凡夫道は。究竟して涅槃にいたることあたはす。つねに生死に往來す。これを凡夫道となつく。出世間は。この道によりて。三界をいつることをうるかゆゑに。出世間道となつく。上は妙なるかゆゑに。なつけて上とす。入はまさしく道を行するかゆゑに。なつけて入とす。この心をもて初地にいるを。歡喜地となつく。問ていはく。初地なんかゆゑぞなつけて歡喜とするや。こたへていはく。初果の究竟して涅槃にいたることをうるかことし。菩薩この地をうれは。心つねに歡喜おほし。自然に諸佛如來の種を增長することをう。このゆゑにかくのごときのひとを賢善者となつくることをう。初果をうるかことしといふは。ひとの須陀洹道をうるか

ことし。よく三惡道の門をとつ。法をみて法にいり。法をえて堅牢の法に住して。傾動すへからす。究竟して涅槃にいたる。見諦所斷の法を斷するかゆゑに。心おほきに歡喜す。たとひ睡眠懶墮なれとも。二十九有(九字作五)にいたらす。一毛(ひさつのけ)をもて百分となして。一分の毛をもて大海のみつをわかちとらんかことし。二三諦苦すてに滅せんかことし。大海の水は餘のいまた滅せさるもの〻ことし。二三諦のことき。心おほきに歡喜せん。菩薩もかくのことし。初地をえおはるを。如來のいへに生すとなつく。一切天龍夜叉乾闥婆(乃至)聲聞辟支等。ともに供養し恭敬するところなり。なにをもてのゆゑに。このいへ過咎あることなし。かるかゆゑに世間道を轉して出世間道にいる。たゝ佛を樂敬すれは。四功德處をえ。六波羅密の果報をう。滋味もろ〳〵の佛種を斷せさるかゆゑに。心おほきに歡喜

す。この菩薩の所有の餘の苦は二三の水渧のことし。百千億劫に阿耨多羅三藐三菩提をうといへとも。無始生死の苦においては二三の水渧のことし。滅すへきところの苦は。大海のみつのことし。このゆゑにこの地をなつけて歡喜とす。問ていはく。初歡喜地の菩薩この地のなかにありて多歡喜となつく。もろ〳〵の功德をうることをなすかゆゑに。歡喜を地とす。法を歡喜すへし。なにをもてかしかも歡喜するや。こたへていはく。つねに諸佛および諸佛の大法を念すれは。必定して希有の行なり。このゆゑに歡喜おほし。かくのことときらの歡喜の因緣のゆゑに。菩薩初地のなかにありて。心に歡喜おほし。諸佛を念すといふは。燃燈等の過去の諸佛。阿彌陀等の現在の諸佛。彌勒等の將來の諸佛を念するなり。つねにかくのことき の諸佛世尊を念すれは。現にまへにましますかことし。三界第一に

して。よくすくれたるひとましまさす。このゆゑに歡喜おほし。諸佛の大法を念せは。略して諸佛の四十不共法をとかん。一には自在の飛行こゝろにしたかふ。二には自在の變化ほとりなし。三には自在の所聞無閡なり。四には自在に無量種門をもて一切衆生の心をしろしめす。(乃至)念必定のもろ〳〵の菩薩は。もし菩薩阿耨多羅三藐三菩提の記をえつれは。法位(のりくらゐ)にいり無生忍をうるなり。千万億數の魔の軍衆壞亂することあたはす。大悲心をえて大人法を成す。(乃至)これを念必定の菩薩となつく。希有の行を念するは。必定の菩薩第一希有の行を念するなり。心に歡喜せしむ。一切凡夫のおよふとあたはさるところなり。一切聲聞辟支佛の行することあたはさるところなり。佛法無閡解脫および薩婆若智を開示(ひらきしめす)す。また(亦字作人)十地のもろ〳〵の所行の法を念すれは。なつけて心多歡喜とす。この

ゆゑに菩薩初地にいることをうれは。なつけて歡喜とす。問ていはく。凡夫人のいまた無上道心を發せさるあり。あるひは發心するものあり。いまた歡喜地をえさらん。このひと諸佛および諸佛の大法を念せんと。必定の菩薩および希有の行を念して。また歡喜をえんと。初地をえん菩薩の歡喜と。このひとゝなんの差別かあるや。こたへていはく。菩薩初地をえては。その心歡喜おほし。諸佛無量の德われまたさためてまさにうへし。初地をえん必定の菩薩は。諸佛を念するに無量の功德います。われまさにかならすかくのことき事(こ)をうへし。なにをもてのゆゑにわれすてにこの初地をえ。必定のなかにいれり。餘はこの心あることなけん。このゆゑに初地の菩薩おほく歡喜を生す。餘はしからす。なにをもてのゆゑに。餘は諸佛を念すといへともこの念をなすことあたはす。われかならすまさ

に作佛すへし。たとへは轉輪聖子の轉輪王のいへにむまれて。轉輪王の相を成就して。過去の轉輪王の功德尊貴を念して。この念をなさん。われいままたこの相あり。またまさにこの豪富尊貴をうへし。心おほきに歡喜せん。もし轉輪王の相なくは。かくのことときのよろこひなからんかことし。必定の菩薩もし諸佛および諸佛の大功德威儀尊貴を念すれは。われこの相あり。かならすまさに作佛すへし。すなはちおほきに歡喜せん。餘はこの事あることなけん。定心は。ふかく佛法にいりて心動すへからす。またいはく。信力增上はいかん。聞見するところありて。必受(受字作定)してうたかひなけれは增上となつく。殊勝となつくと。問ていはく。二種の增上あり。一には多。二には勝なり。いまの說なにものぞ。こたへていはく。このなかの二事ともにとかん。菩薩初地にいれは。もろ〳〵の功德のあぢはひ

をうるかゆゑに。信力轉増（うたゝまさろ）す。この信力をもて。諸佛の功德無量深妙なるを籌量（かそへはかろ）して。よく信受す。このゆゑにこの心また多なり。また勝（すくれたり）なり。ふかく大悲を行するひとは。衆生を愍念すること。骨體（體字作髓）に徹入するかゆゑに。なつけて深とす。一切衆生のために佛道をもとむるかゆゑに。なつけて大とす。慈心はつねに利事をもとめて。衆生を安穩す。慈に三種あり（乃至）またいはく。佛法に無量の門あり。世間の道に難あり易あり。陸道の歩行はすなはちくるしく。水道の乗船（ふねにのろ）はすなはち樂しきかことし。菩薩の道もまたかくのことし。あるひは勤行精進のものあり。あるひは信方便の易行をもてとく阿惟越致にいたるものあり。（乃至）もしひととく不退轉地にいたらんとおもはゞ。恭敬の心をもて執持して名號を稱すへし。もし菩薩この身において。阿惟越致地にいたることをえ。

阿耨多羅三藐三菩提を成せんとおもはゝ。まさにこの十方諸佛を念すへし。名號を稱すること。寶月童子所問經の阿惟越致品のなかにとくかことし。(乃至)西方に善世界の佛を無量明と號す。身光智慧あきらかにして。てらすところ邊際なし。それみなをきくことあるものは。すなはち不退轉をう。(乃至)過去無數劫に佛まします。海德と號す。このもろ〳〵の現在の佛みなかれにしたかひて願をおこせり。壽命はかりあることなし。光明てらしてきはまりなし。國土はなはた淸淨なり。みなをきゝてさためて佛にならん。(乃至)問ていはく。たゝこの十佛の名號をきゝて。執持して心におけは。すなはち阿耨多羅三藐三菩提を退せさることをう。また餘佛餘菩薩のみなましまし〳〵て阿惟越致にいたることをうとせんや。こたへていはく。阿彌陀等の佛およひ諸大菩薩みなを稱し。一心に念すれは。また不退轉をうることかく

のことし。阿彌陀等の諸佛また恭敬禮拜し。その名號を稱すへし。いままさにつふさに無量壽佛をとくへし。世自在王佛、（乃至その餘の佛あり。）この諸佛世尊現在十方の淸淨の世界に。みなみなを稱し阿彌陀佛の本願を憶念したまふことかくのことし。もしひとわれを念し名を稱してみつから歸すれは。すなはち必定にいりて。阿耨多羅三藐三菩提をう。このゆゑにつねに憶念すへし。偈をもて稱讚す。無量光明慧。身は眞金のやまのことし。われいま身口意をして。合掌し稽首し禮したてまつる。（乃至）ひとよくこの佛の無量力功德を念すれは。即はちのときに必定にいる。このゆゑにわれつねに念したてまつる。（乃至）もしひと佛にならんと願して。心に阿彌陀を念すれは。ときに應してために身を現したまふ。このゆゑにわれかの佛の本願力を歸命す。十方のもろ〳〵の菩薩もきたりて供養し法をきく。このゆゑにわれ稽

首したてまつる。（乃至）もしひと善根をうゑて。うたかへはすなはちはなひらけす。信心清淨なれははなひらけて。すなはち佛をみたてまつる。十方現在の佛。種々の因縁をもて。かの佛の功德を嘆したまふ。われいま歸命し禮したてまつる。（乃至）かの八道のふねに乘して。よく難度海（わたりかたきうみ）を度す。みつから度しまたかれを度せん。われ自在人を禮したてまつる。諸佛無量劫にその功德を讃揚（ほめあく）せんに。なをつくすことあたはし。清淨人を歸命したてまつる。われいままたかくのことし。無量の德を稱讃す。この福の因縁をもて。ねかはくは佛つねにわれを念したまへ。（抄出）淨土論にいはく。われ修多羅。眞實功德相によりて。願偈惣持をときて。佛敎と相應せり。佛の本願力をみそなはすに。まうあふて空しく過くる者なし。よくすみやかに功德の大寶海を滿足せしむ。またいはく。菩薩は四種の門にいりて。—

自利の行成就したまへり。しるへし。菩薩は第五門にいて〻。廻向利益他の行成就したまへり。しるへし。菩薩はかくのことく五門の行を修して。自利利他してすみやかに阿耨多羅三藐三菩提を成就することをうるかゆゑに。(抄出)論の註にいはく。つしんて龍樹菩薩の十住毗婆娑を案するに。いはく。菩薩阿毘跋致をもとむるに。二種の道あり。一には難行道。二には易行道なり。難行道といふは。いはく五濁の世無佛のときにおいて。阿毘跋致をもとむるを難とす。この難にいまし多途(おほくのみち)あり。ほゞ五三をいひてもて義のこゝろをしめさん。一には。外道の相善は菩薩の法をみたる。二には。聲聞は自利にして大慈悲をさふ。三には。無顧の惡人他の勝徳を破す。四には。顛倒の善果よく梵行を壞す。五には。たゝこれ自力にして他力のたもつなし。かくのことときの事目にふるゝにみな是なり。

たとへは陸路の歩行はすなはちくるしきかことし。易行道といふは。いはくたゝ信佛の因縁をもて。淨土に生せんと願す。佛願力に乘して。すなはちかの清淨の土に往生することをえしむ。佛力住持して。すなはち大乘正定の聚にいれたまふ。正定はすなはちこれ阿毗跋致なり。たとへは水路の乘船はすなはちたのしきかことし。この無量壽經優婆提舍は。けたし上衍の極致。不退の風航（ほかけふね）なるものなり。無量壽はこれ安樂淨土の如來の別號なり。釋迦牟尼佛王舍城およひ舍衛國にましまして。大衆のなかにして。無量壽佛の莊嚴功德をときたまふ。すなはち佛の名號をもて經の躰とす。のちの聖者婆藪般頭菩薩如來大悲の敎を服膺（うけもちゐる）して。經にそへて願生の偈をつくれり。（已上）またいはく。また所願かろからす。もし如來威神をくはへたまはすは。まさになにをもてか達せん。神力を乞加す。このゆゑ

にあふいてつけたまへり。我一心といふは天親菩薩の自督のことはりなり。いふこゝろは無碍光如來を念して安樂に生せんと願す。心々相續して他想間雜することなし。(乃至)歸命盡十方無礙光如來は。歸命はすなはちこれ禮拜門なり。盡十方無碍光如來はすなはちこれ讃嘆門なり。なにをもてかしらん。歸命はこれ禮拜なりとは。龍樹菩薩阿彌陀如來の讃をつくれるなかに。あるひは稽首禮といひ。あるひは我歸命といひ。あるひは歸命禮といへり。この論の長行のなかにまた五念門を修すといへり。五念門のなかに禮拜はそれひとつなり。天親菩薩すでに往生を願す。あに禮せさるへけんや。かるかゆゑにしんぬ。歸命はすなはちこれ禮拜なりと。しかるに禮拜はたゝこれ恭敬にして。かならすしも歸命ならす。歸命はこれ禮拜なり。もしこれをもて推するに。歸命は重とす。偈は己心をのふ。よろしく歸

命といふへし。論に偈義を解するに。ひろく禮拜を談す。彼此あひ成す。義においていよ〳〵あらはれたり。なにをもてかしらん。盡十方無碍光如來はこれ讃嘆門なりとは。しもの長行のなかにいはく。いかんか讃嘆する。いはくかの如來のみなを稱するなり。かの如來の光明智相のごとく。かの名義のごとく。實のごとく修行し相應せんとおもふかゆゑに。(乃至)天親いま盡十方無碍光如來とのたまへり。すなはちこれかの如來のみなによりてかの如來の光明智相のごとく。讃嘆するかゆゑに。しんぬこの句はこれ讃嘆門なりと。願生安樂國といふは。この一句はこれ作願門なり。天親菩薩歸命のこゝろなり。(乃至)問ていはく。大乘經論のなかに處々に衆生畢竟無生にして虚空のごとしととけり。いかんそ天親菩薩願生とのたまふや。こたへていはく。衆生無生にして虚空のごとしとゝくに二種あり。一に

は。凡夫の實の衆生とおもふところのことく。凡夫の所見の實の生死のことし。この所見の事。畢竟してあらゆることなけん。龜毛のことし。虚空のことし。二には。いはく諸法は因緣生のゆゑに。すなはちこれ不生にして。あらゆることなきこと虚空のことし。天親菩薩願生するところは。これ因緣の義なり。因緣の義なるかゆゑにかりに生となづく。凡夫の實の衆生實の生死ありとおもふかこときにはあらさるなり。問ていはく。なんの義によりて往生とときや。こたへていはく。このあひたの假名人のなかにおいて。五念門を修せしむ。前念と後念と因となる。穢土の假名人淨土の假名人。決定して一をえす。決定して異をえす。前心後心またかくのことし。なにをもてのゆゑに。もし一ならはすなはち因果なけん。もし異ならはすなはち相續にあらす。この義一異を觀する門なり。論のなかに

委曲(くはし)なり。第一行の三念門を釋しおはんぬ。(乃至)我依修多羅眞實功德相。說願偈總持。與佛敎相應とのたまへり。(乃至)いつれのところにかよる。なんのゆゑにかよる。いかんかよる。いつれのところにかよるとならは修多羅によるなり。なんのゆゑにかよるとならは如來すなはち眞實功德の相なるをもてのゆゑに。いかんかよるとならは五念門を修して相應せるかゆゑに。(乃至)修多羅は。十二部經のなかの直說(直字作眞)のものを修多羅となつく。いはく四阿含三藏等のほかの大乘の諸經をまた修多羅となつく。このなかに依修多羅といふは。これ三藏のほかの大乘修多羅なり。阿含等の經にはあらさるなり。眞實功德相といふは。二種の功德あり。一には。有漏の心より生して。法性に順せす。いはゆる凡夫人天の諸善。人天の果報。もしは因。もしは果。みなこれ顚倒す。みなこれ虛僞(むなしくいつはり)なり。このゆゑに

不實の功德となつく。二には。菩薩の智慧清淨の業よりおこりて。佛事を莊嚴す。法性によりて清淨の相にいれり。この法顚倒せす。虛僞ならす。眞實の功德となつく。いかんか顚倒せさる。法性により二諦に順するかゆゑに。いかんか虛僞ならさる。衆生を攝して畢竟淨にいるゝかゆゑなり。說願偈總持。與佛敎相應といふは。持(たもつ)は不散不失になつく。總は少をもて多を攝(おさむ)するになつく。(乃至)願は欲樂往生になつく。(乃至)與佛敎相應といふは。たとへは凾蓋相稱(はことふたとあひかなふ)するかことし。(乃至)いかんか廻向する。一切苦惱の衆生をすてすして。心につねに作願すらく。廻向を首として。大悲心を成就することをえたまへるかゆゑに。廻向に二種の相あり。一には往相。二には還相なり。往相といふはおのれか功德をもて。一切衆生に廻施(めくらしほとこす)して。作願してともに阿彌陀如來の安樂淨土に往生せし

めたまへるなり、（已上抄出）安樂集にいはく。觀佛三昧經にいはく。父の王をすゝめて念佛三昧を行せしめたまふ。父の王佛にまふさく。佛地の果德。眞如實相。第一義空。なにゝよりてか。弟子をしてこれを行せしめさると。佛父の王につけたまはく。諸佛の果德無量深妙の境界神通解脫まします。これ凡夫所行の境界にあらさるかゆゑに。父の王をすゝめて念佛三昧を行せしめたてまつると。父の王佛にまふさく。念佛の功そのかたちいかんそと。佛父の王につけたまはく。伊蘭林の方四十由旬ならん。一科の牛頭栴檀あり。根芽（ねくき）ありといへともなをいまたつちをいてさるに。その伊蘭林やゝくさくしてかうはしきことなし。もしその華菓（はなのみ）を噉（くらふ）することあらは。狂（くるふこと）を發（おこす）してしかも死せん。のちのときに栴檀の根芽漸々に生長して。わつかに樹にならんとす。香氣昌盛にして。

つゐによくこのはやしを改變（あらたまる）して。あまねくみな香美（かうはしくよからしむ）ならしむ。衆生みるものみな希有の心を生せんかことし。佛父の王につけたまはく。一切衆生生死のなかにありて。念佛の心もまた〳〵かくのことし。たゝよく念をかけてやまされは。さためて佛前に生す。ひとたび往生をうれは。すなはちよく一切の諸惡を改變して大慈悲を成すること。かの香樹の伊蘭林をあらたむるかことし。いふところの伊蘭林といふは。衆生の身のうちの三毒三障無邊の重罪にたとふ。栴檀といふは。衆生の念佛の心にたとふ。わつかに樹とならんとすといふは。いはく一切衆生たゝよく念をつみてたえされは業道成辨するなり。問ていはく。一衆生の念佛の功をはかりてまた一切をしるへし。なにゝよりてか一念の功力よく一切の諸障を斷することそ。ひとつの香樹の四十由旬の伊蘭林をあらためて。ことこ

とく香美ならしむるかことくならんや。こたへてのたまはく。諸部の大乘によりて。念佛三昧の功能不可思議なるをあらはさん。いかんとならは華嚴經にいふかことし。たとへはひとありて師子のすちをもて。もて琴(こと)の絃(を)(絃字作絲)とせんに。音聲ひとたひ奏するに。一切の餘の絃(絃字作絲)こと〴〵くみな斷壞するかことし。もしひと菩提心のなかに念佛三昧を行すれは。一切の煩惱。一切の諸障(もろもろのさはり)ことことくみな斷滅す。またひとありて。牛羊驢馬一切の諸乳(もろもろのち)をしほしとりて一器(ひとつのうつはもの)のなかにおかんに。もし師子の乳一滴(ひとしたゝり)をもてこれをなくるに。たゝちにすきてはゝかりなし。一切の諸乳こと〴〵みな破壞して變して清水となるかことし。もしひとたゝよく菩提心のなかに念佛三昧を行すれは。一切の惡魔諸障たゝちにすくるにはゝかりなし。またかの經にいはく。たとへはひとありて翳

身薬をもて。處々に遊行するに。一切の餘行このひとをみさるかことし。もしよく菩提心のなかに念佛三昧を行すれは。一切の惡神。一切の諸障。このひとをみす。もろ〳〵の處々にしたかひてよく遮鄣（さいき りさいふ）することなきなり。なんかゆゑそとならはよくこの念佛三昧を念するは。すなはちこれ一切三昧のなかの王なるかゆゑなり。またいはく。摩訶衍のなかにときていふかことし。諸餘の三昧は三昧ならさるにはあらす。なにをもてのゆゑに。あるひは三昧あり。たゝよく貪をのそきて。瞋癡をのそくことあたはす。あるひは三昧あり。たゝよく瞋をのそきて。癡貪をのそくことあたはす。あるひは三昧あり。たゝよく癡をのそきて。瞋をのそくことあたはす。あるひは三昧あり。たゝよく現在のさはりをのそきて。過去未來の一切の諸鄣をのそくことあたはす。もしよくつねに念佛三昧を修すれ

は。現在過去未來の一切の諸郭をとふことなくみなのそく。(已上)またいはく。大經の讃にいはく。もし阿彌陀の德號をきゝて歡喜讃仰し心に歸依すれは。しも一念にいたるまて大利をう。すなはち功德の寶を具足すとす。たとひ大千世界にみてらん火をも。またたゝちにすきて佛のみなをきくへし。阿彌陀をきかはまた退せされ。このゆゑに心をいたして稽首し禮したてまつる。またいはく。また目連所問經のことし。佛目連につけたまはく。たとへは萬川長流に草木ありて。まへはうしろをかへりみす。うしろはまへをかへりみす。すへて大海に會するかことし。世間もまたしかなり。豪貴富樂(たかくたうとく とみたのしむ)自在なることありといへとも。こと〳〵く生老病死をまぬかるゝことをえす。たゝ佛經を信せさるによりて。後世にひとゝなりてさらにはなはだ困劇して。千佛の國土に生することをうることあたはす。

このゆゑにわれとかく。無量壽佛國はゆきやすくとりやすくして。しかもひと修行して往生することあたはす。かへりて九十五種の邪道につかふ。われこのひとをときてまなこなきひとゝなつく。みゝなきひとゝなつくと。經教すてにしかなり。なんそ難をすてゝ易行道によらさらんや。(已上)光明寺の和尚ののたまはく。また文珠般若にいふかことし。一行三昧をあかさんとおもふ。たゝすゝめてひとり空閑に處して。もろ〳〵の亂意をすてゝ心を一佛にかけて相貌を觀せす。もはら名字を稱すれは。すなはち念のなかにおいて。かの阿彌陀佛およひ一切の佛等をみることをうと。問ていはく。なんかゆゑそ觀をなさしめすして。たゝちにもはら名字を稱せしむるは。なんのこゝろかあるや。こたへていはく。いまし衆生さはりおもくして。境細心麁なり。識あかり神とひて。觀成就しかたきによりてなり。

こゝをもて大聖悲憐してだゝちにすゝめて。もはら名字を稱せしむ。まさしく稱名やすきによるかゆゑに。相續してすなはち生す。問ていはく。すてにもはら一佛を稱せしむるに。なんかゆゑぞ境現することすなはちおほき。これあに邪正あひまじはり一多雜現するにあらすや。こたへていはく。佛と佛とひとしく證して。かたち二別なし。たとひ一を念して多をみるとも。なんの大道理にかそむかんや。また觀經にいふかことし。すゝめて坐觀禮念等を行せしむ。みなすへからくおもてを西方にむかふれは最勝なるへし。樹のさきよりかたふけるか。たふるゝにかならすまかれるにしたかふかことし。かるかゆゑにかならすことのさはりありて。西方にむかふにおよはすは。たゝ西にむかふおもひをなすにまたえたり。問ていはく。一切の諸佛三身おなしく證し。悲智果圓にして。また無二なるへし。方にし

たかひて禮念し一佛を課稱せんに。また生することをうへし。なんかゆゑそ。ひとへに西方を嘆して專禮念等をすゝむるなんの義かあるや。こたへていはく。諸佛の所證は平等にしてこれひとつなれとも。もし願行をもてきたしおさむるに。因縁なきにあらす。しかるに彌陀世尊もと深重の誓願をおこして。光明名號をもて十方を攝化したまふ。たゝし信心をして求念せしむれは。かみ一形をつくし。しも十聲一聲等にいたるまて。佛願力をもて。徃生をえやすし。このゆゑに釋迦および諸佛すゝめて。西方にむかふるを別異とすならくのみ。またこれ餘佛を稱念してさはりをのそき。つみを滅することあたはさるにはあらさるなり。しるへし。もしよくかみのことく念々相續して。畢命を期とするものは。十即十生。百即百生なり。なにをもてのゆゑに。外の雑縁なし正念をうるかゆゑに。佛の本願

と相應することをうるかゆゑに。教に違せさるかゆゑに。佛語に隨順するかゆゑに。(已上)またいはく。たゝ念佛の衆生をみそなはして。攝取してすてさるかゆゑに。阿彌陀となつく。(已上)またいはく。彌陀の智願海は。深廣にして涯底なし。みなをきゝて往生せんとおもへは。みなこと〲くかのくにゝいたる。たとひ大千にみてらん火にも。たゝちにすきて佛名をきけ。みなをきゝて歡喜し讃すれは。みなまさにかしこに生することをうへし。萬年に三寶滅せんに。この經住することを百年せん。そのとききゝて一念せん。みなまさにかしこに生することをうへし。(要を抄す)またいはく。現にこれ生死の凡夫。罪鄣深重にして。六道に輪廻せり。くるしみいふへからす。いま善知識にあひて。彌陀本願の名號をきくことをえたり。一心に稱念して往生を求願す。ねかはくは佛の慈悲本弘誓願をすてたまはされは。

弟子を攝受したまはん。(上已)またいはく。問ていはく。阿彌陀佛を稱念し禮觀して。現世にいかなる功德利益かあるや。こたへていはく。もし阿彌陀佛を稱すること一聲するに。すなはちよく八十億刧の生死の重罪を除滅す。禮念已下もまたかくのことし。十往生經にいはく。もし衆生ありて。阿彌陀佛を念して。往生を願すれは。かの佛すなはち二十五の菩薩をつかはして。行者を擁護し。もしは行もしは住。もしは坐。もしは臥。もしは晝。もしは夜。一切の時。一切の處に。惡鬼惡神をしてそのたよりをえしめさるなり。また觀經にいふかことし。もし阿彌陀佛を稱禮念して。かのくにゝ往生せんと願すれば。かの佛すなはち無數の化佛。無數の化觀音勢至菩薩をつかはして。行者を護念したまふ。またさきの二十五の菩薩等と百重千重行者を圍遶(かこみめぐる)して。行住坐臥。一切時處。もしは晝もしは夜

をとはす。つねに行者をはなれたまはす。いますてにこの勝益あり。たのむへし。ねかはくはもろ〳〵の行者おの〳〵至心をもちゐて。ゆくことをもとめよ。また無量壽經にいふかことし。もしわれ成佛せんに。十方の衆生。わか名號を稱せん。しも十聲にいたるまて。もし生せすは正覺をとらし。かの佛いま現にまし〳〵て成佛したまへり。まさにしるへし。本誓重願むなしからす。衆生稱念すれはかならす往生をう。また彌陀經にいふかことし。もし衆生ありて。阿彌陀佛をとくをきゝて。すなはち名號を執持すへし。もしは一日。もしは二日乃至七日。一心に佛を稱してみたれされ。いのちおはらんとするとき。阿彌陀佛もろ〳〵の聖衆と現してそのまへにましまさん。このひとおはらんとき。心顚倒せすして。即ちかのくにゝ往生することをえん。佛舍利弗につけたまはく。われこの利をみる

かゆゑにこの言をとく。もし衆生ありて。この説をきかんものは。まさに願をおこしかのくにゝ生せんと願すへし。つきしもにときていはく。東方の如恒河沙等の諸佛。おの／＼本國にして。その舌相をいたして。あまねく三千大千世界におほふて。誠實の言をときたまはく。なんちら衆生みなこの一切諸佛の護念したまふところの經を信すへし。いかんか護念經となつくる。もし衆生ありて。阿彌陀佛を稱念せんこと。もしは七日一日。下至一聲乃至十聲一念等におよふまて。かならす往生をうと。この事を證誠せるかゆゑに護念經となつく。つきしもの文にいはく。もし佛を稱して往生するものは。つねに六方恒河沙等の諸佛のために護念せらる。かるかゆゑに護念經となつく。いますてに此増上の誓願あり。たのむへし。もろ／＼の佛子等なんそこゝろをはげましてゆかさらんや。（智昇法師の集諸經禮懺儀の下卷は。善

（導和尚の禮讃なり。これによる。）またいはく。弘願といふは。大經の說のことし。一切善惡の凡夫生することをうるは。みな阿彌陀佛の大願業力に乘して增上緣とせさるはなし。またいはく。南無といふは。すなはちこれ歸命なり。またこれ發願廻向の義なり。阿彌陀佛といふは。すなはちこれその行なり。この義をもてのゆゑに。かならす往生をう。またいはく。攝生增上緣といふは。無量壽經の四十八願のなかにとくかことし。佛のたまはく。もしわれ成佛せんに。十方の衆生わかくにゝ生せんと願して。わか名字を稱すること。しも十聲にいたるまて。わか願力に乘して。もし生せすといはゝ正覺をとらしと。これすなはちこれ往生を願する行人。いのちおはらんとするとき。願力攝して往生をえしむるかゆゑに。攝生增上緣となつく。またいはく。善惡の凡夫廻心し起行して。こと〳〵く往生をえしめんと欲す。

これまたこれ證生增上緣なり。（上已）またいはく。門々不同にして八万四なり。無明と果と業因とを滅せんかためなり。利劍（ときつるき）はすなはちこれ彌陀の號なり。一聲稱念するにつみみなのぞこる。微塵の故業智にしたかひて滅す。おしへさるに眞如の門に轉入（うつりいる）す。娑婆長劫の難をまぬかるゝことをうることは。ことに知識釋迦の恩をかうふれり。種々の思量巧方便をもて。えらひて彌陀弘誓の門をえしめたまへり。（已上要を抄す。）しかれは南無の言は歸命なり。歸の言は（至なり。）また歸說なり。說の字は（悅の音）また歸說なり。說の字は（稅の音悅稅ふたつの音告なり。述なり。ひとのこゝろをのべのぶるなり。）命の言は（業なり。招引なり。使なり。敎なり。道なり。信なり。計なり。召なり。）こゝをもて歸命は。本願招喚の勅命なり。發願廻向といふは。如來すてに發願して衆生の行を廻施したまふの心なり。即是其行といふは。すなはち選擇本願これなり。必得往生といふは。不退のくらゐにいたるこ

とをうることをあらはす。經には即得といへり。釋には必定といへり。即の言は願力をきくによりて。報土の眞因決定する時刻の極促(つゞまる)を光闡するなり。必の言は審(あきらか)なり。然なり。分極(わかつ)なり。金剛心成就のかほはせなり。淨土五會念佛略法事儀讃にいはく。それ如來敎をもうけたまふに。廣略根にしたかふ。つゐに實相に歸せしめんとなり。眞の無生をえんもの。たれかよくこれをあたへんや。しかるに念佛三昧はこれ眞無上深妙の門なり。彌陀法王四十八願の名號をもて。こゝに佛願力をことゝして衆生を度したまふ。(乃至)如來つねに三昧海のなかにして。細綿(こまか)をあけたまへるをや。父の王にいひてのたまはく。王いま坐禪してたゞまさに念佛すへし。あに離念に同して無念をもとめんや。生をはなれて無生をもとめんや。相好をはなれて法身をもとめんや。文をはなれて解脱をもとめ

めんや。（乃至）それおほきなるかな。至理の眞法。一如にしてものを化しひとを利す。弘誓各別なるかゆゑに。わか釋迦濁世に應生し。阿彌陀淨土に出現したまふ。まさに穢淨兩殊なりといへとも利益齊一なり。もし修しやすく證しやすきは。まことにたゝ淨土の敎門なり。しかるにかの西方殊妙にして。その國土に比しかたし。かさるに百寶をもてし。はちす九品にひらくもて人をおさむること。それ佛の名號なり。（乃至）稱讃淨土經による。釋の法照。

如來の尊號ははなはた分明なり。十方世界にあまねく流行せしむ。たゝみなを稱するのみありてみなゆくとをう。觀音勢至をのつからきたりむかへ給ふ。彌陀の本願ことに起殊せり。（起字作超）慈悲方便して凡夫をひく。一切衆生みな度脫す。みなを稱すれはすなはちつみ消除することをう。凡夫もし西方にいたることをうれは。曠劫塵沙の

つみ消亡す。六神通を具し自在をう。なかく老病をのそき無常をはなる。

佛本行經による。　法照。

なにものをかこれをなつけて正法とする。もし道理によらはこれ眞宗なり。好惡いまのときすへからく決擇(あきらめ)すへし。一々に子細朦朧(おほう)することなかれ。正法よく世間に超出す。持戒坐禪を正法となつく。念佛成佛はこれ眞宗なり。佛言をとらさるをは外道となつく。因果を撥無する見を空とす。正法よく世間を超出す。禪律いかんそこれ正法ならん。念佛三昧はこれ眞宗なり。性をみ心をさとるはすなはちこれ佛なり。いかんか道理相應せさらん。(略抄)

阿彌陀經による。

西方は道にすゝむこと娑婆にすくれたり。五欲および邪魔なきによ

りてなり。成佛にもろ〱の善業をいたはしくせす。華臺に端坐して彌陀を念す。五濁の修行はおほく退轉す。念佛して西方にゆくにはしかす。かしこにいたれは自然に正覺をなる。苦界にかへりきたりて津梁とならん。萬行のなかに急要とす。迅速なること淨土門にすきたるはなし。たゝ本師金口の說のみにあらす。十方諸佛ともにつたへ證したまふ。この界に一人佛のみなを念すれは。西方にすなはちひとつのはちすありて生す。たゝし一生つねにして不退なれは。ひとつのはなこのあひたにかへりいたりてむかふ。(略抄)

般舟三昧經による。慈愍和尚。

今日道場の諸衆等。(等字作生)恒沙曠劫より惣してへかへれり。この人身をはかるに値遇しかたし。たとへは優曇華のはしめてひらくるかことし。まさしくまれに淨土の敎をきくにまうあへり。まさしく念佛の

法門のひらくるにまうあへり。まさしく彌陀の弘誓のよはひたまふにまうあへり。まさしく大衆の信心の廻するにまうあへり。まさしく今日經によりて贊するにまうあへり。まさしくちきりを上華臺にむすふにまうあへり。まさしく道場に魔事なきにまうあへり。まさしく無病にしてすへてよくかへるにまうあへり。まさしく七日の功成就するにまうあへり。四十八願かならすあひたつさふ。あまねく道場の同行のひとをすゝむ。ゆめ〳〵廻心していさいなん。とふ家郷はいつれのところにかある。極樂のいけのうち七寶のうてなり。かの佛因中に弘誓をたてたまへり。みなをきゝてわれを念せはすへてむかへきたらしめん。貧窮と富貴とをえらはす。下智と高才とをえらはす。多聞と淨戒をたもてるとをえらはす。破戒と罪根のふかきとをえらはす。たゝ廻心しておほく念佛せしむれは。よく瓦礫を

して變してこかねとなさしむ。ことはを現前の大衆等によす。同縁さらんひとはやくあひ尋ねん。とふ。いつれのところをあひたつねてかゆかんと。答へて曰く。彌陀淨土のうちに。とふ。なにゝよりてかかしこに生するをえん。答へていはく。念佛をのつから功を成す。とふ。今生に罪障おほし。いかんそ淨土にあへてあひいらんや。答へて曰く。みなを稱すれはつみ消滅す。たとへは明燈の闇中にいるか如し。とふ。凡夫生することをうやいなや。いかんそ一念に闇中あきらかならんや。答へていはく。うたかひをのそきておほく念佛すれは。彌陀決定してをのつから親近したまふ。（要を抄す。）

新無量壽觀經による。法照。

十惡五逆いたれる愚人。永劫に沈淪して久塵にあり。一念彌陀のみなを稱得して。かしこにいたれはかへりて法性の身に同す。（已上）憬興師

のいはく。如來の廣說に二あり。はしめにはひろく如來淨土の因果。すなはち所行所成をときたまへるなり。のちにはひろく衆生往生の因果。すなはち所攝所益をあらはし給へるなり。またいはく。悲華經の諸菩薩本授記品にいはく。そのときに寶藏如來轉輪王をほめていはく。よきかな〳〵。(乃至)大王なんち西方をみるに百千万億の佛土をすきて。世界あり。尊善無垢となつく。かの界に佛まします。尊音王如來となつく。(乃至)いま現在に。もろ〳〵の菩薩のために正法をとく。(乃至)純一大乘清淨にしてましはることなし。そのなかの衆生等一に化生す。また女人およひその名字なし。かの佛の世界の所有の功德淸淨の莊嚴なり。こと〳〵く大王の所願のことくして異なけん。(乃至)いまなんちかあさなをあらためて。無量淸淨とす。(已上)無量壽如來會にいはく。ひろくかくのことときの大弘誓願をおこして。みなすてに成就し

たまへり。世間に希有なり。この願をおこしおはりて實のことく種々の功德具足して。威德廣大淸淨の佛土を莊嚴したまへり。(已上)またいはく。福智二嚴成就したまへるかゆゑに。つふさにひとしく衆生に行を施したまへるなり。おのれか所修をもて衆生を利したまふかゆゑに。功德成せしめたまへり。またいはく。久遠の因によりて。佛にまうあひ法をきゝて。慶喜すへきかゆゑに。またいはく。人聖にくにたえなり。たれかちからをつくささらん。善をなして生を願せよ。善によりてすてに成したまへり。みつから果をえす。かるかゆゑに自然といふ。貴賤をえらはす。みな徃生をえしむ。かるかゆゑに著無上下といふ。またいはく。ゆきやすくしてしかもひとなし。そのくに逆違せす。自然のひくところなり。因を修すれはすなはちゆく。修することなけれは生することとすくなし。因を修して來生す

るにつゐに違逆せす。すなはちゆきやすきなり。またいはく。本願力のゆゑに。（すなはちゆくは誓願のちからなり。）滿足願のゆゑに。（願さしてかくるこさなきかゆゑに。）明了願のゆゑに。（これをもさむるこさ。むなしからさるかゆゑに。）堅固願のゆゑに。（壞することあたはさるによるかゆゑに。）究竟願のゆゑに。（かならすはたしさくるかゆゑに。）またいはく。惣してこれをいはゝ。凡小をして欲往生のこゝろをまさしめんとおもふかゆゑに。すへからくかの土のすくれたることをあらはすへし。またいはく。すてにこの土にして菩薩の行を修すといへり。すなはちしんぬ無諍王この方にましますことを。寶海もまたしかなり。またいはく。佛の威德廣大をきくかゆゑに。不退轉をうるなり。（已上）樂邦文類にいはく。惣官の張掄かいはく。佛號はなはたたもちやすし。淨土ははなはたゆきやすし。八万四千の法門この捷徑（さきみち）にしくはなし。たゝよく清晨俛仰のいとまをやめて。つゐに永劫不壞のたすけをなすへし。これす

なはちからをもちゐることはなはた徹にして。功をおさむることいましつくることあることなけん。衆生またなんのくるしみあれはか。みつからすてゝしかもせさらんや。あゝ夢幻(ゆめまぼろし)にして眞にあらす。壽天(いのちもろく)にしてたもちかたし。呼吸のあひたに。すなはちこれ來生なり。ひとたひ人身をうしなひぬれは。萬劫にも復(かへろ)せす。このときさとらすは。佛もし衆生をいかゝしたまはん。ねかはくはふかく無常を念して。いたつらに後悔をのこすことなかれ。淨樂の居士張掄の縁をすゝむ。(上已)台教の祖師山陰(慶文法師)のいはく。まことに佛名は眞應の身よりして建立せるかゆゑに。慈悲海よりして建立せるかゆゑに。誓願海よりして建立せるかゆゑに。智慧海よりして建立せるかゆゑに。法門海よりして建立せるかゆゑに。もしたゝもはら一佛の名號を稱するは。すなはちこれつふさに諸佛の名號を

稱する也。功德無量なれは。よく罪障を滅す。よく淨土に生す。なんそ必すうたかひを生せんや。(已上)律宗の祖師元照のいはく。いはんやわか佛大慈淨土を開示して。慇懃にあまねく諸大乘を勸囑(すゝめつくし)したまへり。目にみみゝにきゝて。ことに疑謗を生してみつからあまく沈溺して。超昇をねかはす。如來ときて憐憫(あはれみ)すへきものゝためにしたまへり。まことにこの法のひとり常途にことなることをしらさるによりてなり。賢愚をえらはす。緇素をえらはす。修行の久近を論せす。造罪の重輕をとはす。たゝ決定の信心をしてすなはちこれ往生の因種ならしむ。(已上)またいはく。いま淨土の諸經にならひに魔をいはす。すなはちしんぬ。この法に魔なきことあきらけし。山陰の慶文法師の正信法門に。これを辨することはなはたつまひらかなり。いまためにつふさにかの問をひきていはく。あるひはひと

ありていはく。臨終に佛菩薩のひかりをはなち臺を持したまへるをみたてまつり。天樂異香來迎往生す。ならひにこれ魔事なりと。この說いかんそや。こたへていはく。首楞嚴によりて三昧を修習することあり。あるひは陰魔（かくれたり）を發動す。摩訶衍論によりて三昧を修習することあり。あるひは外魔を發動す。（いはく天魔なり。）止觀論によりて。三昧を修習することあり。あるひは時魅を發動す。これらならひにこれ禪定を修するひと。その自力に約してまつ魔種あり。さためて擊發（うちおこす）をかうふるかゆゑにこの事を現す。もしよくあきらかにしりて。おのく對治をもちゐれは。すなはちよく除遣せしむ。もし聖の解をなせはみな魔障をかうふるなり。（かみにこの方の入道をあかす。すなはち魔事を發す。）いま所修の念佛三昧に約するに。いまし佛力をたのむ。帝王にちかつけはあへておかすものなきかことし。けたし阿彌陀佛大慈悲力。

大誓願力。大智慧力。大三昧力。大威神力。大摧邪力。大降魔力。天眼遠見力。天耳遙聞力。他心徹鑒力。光明徧照攝取衆生力ましますによりてなり。かくのごときらの不可思議功德のちからまします。あに念佛のひとを護持して。臨終のときにいたるまで。障礙なからしむることあたはさらんや。もし護持をなさすは。すなはち慈悲力なんそましまさん。もし魔障をのそくことあたはすは。智慧力。三昧力。威神力。摧邪力（をくたく）。降魔力またなんそましまさんや。もし鑒察することあたはすして。魔障をなすことをかうふらは。天眼遠見力。天耳遙聞力。他心徹鑑力またなんそましまさんや。經にいはく。阿彌陀佛の相好光明あまねく十方世界をてらす。念佛の衆生をは攝取してすてたまはす。もし念佛して臨終に魔障をかうふるといはゝ。光明徧照攝取衆生力またなんそましまさんや。いはんや

念佛のひとの臨終の感相。衆經よりいてたり。みなこれ佛のみことなり。なんそ貶して魔境(おさしむ)とすることをえんや。いまために邪疑(ひかみうたかふ)を決破す。まさに正信を生すへし。(已上かの文)またいはく。一乘の極唱終歸をこと〳〵く樂邦にさす。万行の圓修最勝をひとり果號にゆつる。まことにもて因より願をたつ。こゝろさしをとり行をさはめ。塵點劫をへて。濟衆の仁(しゆしやうたすくふあはれみ。)をいたけり。芥子の地も捨身のところにあらさることなし。悲智六度。攝化してもてのこすことなし。内外の兩財もとむるにしたかひてかならす應す。機と緣と熟し。行滿し功なり。一時にまとかに三身を證す。万德すへて四字にあらはる。(已上)またいはく。いはんやわか彌陀は名をもてものを攝したまふ。こゝをもてみゝにきゝくちに誦するに。無邊の聖德識心に攬入す。なかく佛種となりて。頓に億劫の重罪をのそき。無上

菩提を獲證す。まことにしんぬ少善根にあらず。これ多善根なり。(上已)

またいはく。正念のなかに。凡人の臨終は識神主なし。善惡の業種發現せさることなし。あるひは邪見をおこし。あるひは繫戀(つなかれこふるなり)を生し。あるひは猖狂惡相を發せん。もはらみな顛倒の因となつくるに。さきに佛を誦してつみ滅しさはりのそこり。淨業うちに薫し。慈光ほかに攝して。苦をまぬかれ樂をうること一刹那のあひたなり。しもの文に生をすゝむ。その利これにあり。(上已)慈雲法師のいはく。たゝ安養の淨業捷眞(さきまこさ)なり。修すへし。もし四衆ありて。またすみやかに無明を破しなかく五逆十惡重輕等のつみを滅せんとおもはゝ。まさにこの法を修すへし。大小の戒體とをくまた淸淨なることをえしむ。念佛三昧をえしめ。菩薩の諸波羅密を成就せんとおもはゝ。まさにこの法を學すへし。臨終にもろ〳〵の怖畏をはな

れしめ。身心安快にして。衆聖現前し。授手接引せらるゝことをえ。はしめて塵勞をはなれて。すなはち不退にいたり。長劫をへすすなはち無生をえんとおもはゝ。まさにこの法等を學すへし。古賢の法語によくしたかふことなからんや。已上五門綱要を略標す。自餘はつくさす。くはしく釋文にあり。開元の藏錄を按するに。この經におほよそ兩譯あり。さきの本はすてに亡しぬ。いまの本はすなはち畺良耶舍の譯なり。僧傳にいはく。畺良耶舍こゝには時稱といふ。宋の元嘉のはしめに京邑にはしめたり。文帝のときなり。慈雲讃していはく。了義のなかの了義。圓頓のなかの圓頓なり。(已上)大智となへていはく。圓頓一乘純一にして雜なし。(已上)律宗の戒度の曰く。佛名はすなはちこれ劫をつみて薰修し。その万德をとる。すへて四字にあらはる。このゆゑにこれを稱するに益をうることあさきにあらす。(已上)

律宗の用欽のいはく。いまもしわか心口をもて。一佛の嘉號を稱念すれは。すなはち因より果にいたるまて。無量の功德具足せさることなし。(已上)またいはく。一切諸佛微塵劫をへて。實相を了悟して。一切をえさるかゆゑに。無相の大願をおこして。修するに妙行に住することなし。證するに菩提をうることなし。住するに國土を莊嚴するにあらす。現するに神通の神通なきかゆゑに。舌相を大千に徧して。無說の說をしめす。かるかゆゑにこの經を勸信せしむ。あに心におもひくちにはかるへけんや。わたくしにいはく。諸佛の不思議の功德。須臾に彌陀の二報莊嚴におさむ。持名の行法は。かの諸佛のなかにまたすへからく彌陀をおさむへきなり。(已上)三論の祖師嘉祥のいはく。問。念佛三昧なゝによりてかよくかくのことくのおほくのつみを滅することをうるや。解していはく。佛に無量の功德いま

す。佛の無量の功德を念するかゆゑに。無量のつみを滅することを
えしむ。(已上)法相の祖師法位のいはく。諸佛はみな德を名にほとこす。
名を稱するはすなはち德を稱するなり。德よくつみを滅し福を生す。
名もまたかくのことし。もし佛名を信すれは。よく善を生し惡を滅
すること決定してうたかひなし。稱名往生これなんのまとひかあら
んや。(已上)禪宗の飛錫のいはく。念佛三昧は善の最上なり。万行の元首
なるかゆゑに三昧王といふ。(已上)往生要集にいはく。雙卷經の三輩の
業。淺深ありといへとも。しかも通してみな一向專念無量壽佛とい
へり。三に四十八願のなかに。念佛門において別してひとつの願を
おこしてのたまはく。乃至十念せん。もし生せすは正覺をとらし。
四に觀經には。極重の惡人。他の方便なし。たゝ彌陀を稱して。極
樂に生することをう。(已上)またいはく。心地觀經の六種の功德による

へし。一には無上大功徳田。二には無上大恩徳。三には無足二足及以多足衆生のなかの尊なり。四にはめて値遇しかたきこと優曇華のことし。五にひとり三千大千界にいてたまふ。六に世出世間の功徳圓滿せり。義つふさにかくのこときらの六種の功徳によりて。つねによく一切衆生を利益したまふ。（已上）この六種の功徳によりて。信和尙のいはく。一には念すへし。ひとたひ南無佛と稱すれはみなすてに佛道をなる。かるかゆゑにわれ無上功徳田を歸命し禮したてまつる。二には念すへし。慈眼をもて衆生をみそなはすこと。平等にして一子のことし。かるかゆゑにわれ極大慈悲母を歸命し禮したてまつる。三には念すへし。十方の諸大士彌陀尊を恭敬したてまつる。かるかゆゑにわれ無上兩足尊を歸命し禮したてまつる。四には念すへし。ひとたひ佛名をきくことをうること優曇華よりもすきたり。か

るかゆゑにわれ極難値遇者を禮したてまつる。五には念すへし。一百倶胝界には二尊ならひいてたまはす。かるかゆゑにわれ希有大法王を歸命し禮したてまつる。六には念すへし。佛法衆德海は三世おなしく一體なり。かるかゆゑにわれ圓融万德尊を歸命し禮したてまつる。(已上)またいはく。波利質多樹のはな。一日ころもに薰するに。瞻蔔華。波師迦華。千歳薰すといへとも。およふことあたはさるところなり。(已上)またいはく。一斤の石汁よく千斤のあかゝねを變してこかねとなす。雪山にくさあり。なつけて忍辱とす。うしもし食すれは。すなはち醍醐をう。月利沙昻星をみれはすなはち菓實をいたすかことし。(已上)選擇本願念佛集(源空集)にいはく。南無阿彌陀佛。(往生の業には念佛を本とす。)またいはく。それすみやかに生死をはなれんとおもはゝ。二種の勝法のなかに。しはらく聖道門をさしおきて。えらんて淨土門にいれ。

淨土門にいらんとおもはゝ。正雜二行のなかに。しはらくもろ〳〵の雜行をなけすてゝ。えらんて正行に歸すへし。正行を修せんとおもはゝ。正助二業のなかに。なを助業をかたはらにして。えらんて正定業をもはらにすへし。正定の業といふは。すなはちこれ佛名を稱するなり。みなを稱すれはかならす生することをう。佛の本願によるかゆゑに。(已上)あきらかにしりぬ。これ凡聖自力の行にあらす。かるかゆゑに不廻向の行となつくるなり。大小聖人重輕惡人。みなおなしくひとしく選擇大寶海に歸して念佛成佛すへし。こゝをもて論の註にいはく。かの安樂國土は。阿彌陀如來の正覺淨華の化生するところにあらさることなし。同一に念佛して別の道なきかゆゑに。(已上)しかれは眞實の行信をうれは。心に歡喜おほきかゆゑに。これを歡喜地となつく。これを初果にたとふることは。初果の聖者なを睡眠し

懈惰なれとも二十九有(九字作五)にいたらす。いかにいはんや十方群生海。この行信に歸命すれは。攝取してすてたまはす。かるかゆゑに阿彌陀佛となつけたてまつる。これを他力といふ。こゝをもて龍樹大士は即時入必定といへり。曇鸞大師は入正定之數といへり。あふいてこれをたのむへし。もはらこれを行すへきなり。まことにしんぬ。德號の慈父ましまさすは。能生の因かけなん。光明の悲母ましまさすは。所生の緣そむきなん。能所の因緣和合すへしといへとも。信心の業識にあらすは。光明土にいたることなし。眞實信の業識これすなはち內因とす。光明名の父母これすなはち外緣とす。內外の因緣和合して。報土の眞身を得證す。かるかゆゑに宗師光明名號をもて十方を攝化したまふ。たゝし信心をして求念せしむとのたまへり。また念佛成佛これ眞宗といへり。また眞宗あひかたしといへるを。

しるへし。おほよそ往相廻向の行信について。行にすなはち一念あり。また信に一念あり。行の一念といふは。いはく稱名の徧數について。選擇易行の至極を顯開(あらはし)す。かるかゆゑに大本にのたまはく。佛彌勒にかたりたまはく。それかの佛の名號をきくことをえて歡喜踊躍して乃至一念せんことあらん。まさにしるへし。このひとは大利をうとす。すなはちこれ無上の功德を具足するなり。(已上)光明寺の和尚は下至一念といへり。また一聲一念といへり。また專心專念といへり。(已上)智昇師の集諸經禮懺儀の下卷にいはく。深心はすなはちこれ眞實の信心なり。自身はこれ煩惱を具足せる凡夫。善根薄少にして。三界に流轉して火宅をいてすと信知す。いま彌陀の本弘誓願は。名號を稱すること下至十聲等におよふまて。さためて往生をうと信知して。一念にいたるにおよふまて。疑心あることなし。

かるかゆゑに深心となつく。(已上)經には乃至といひ。釋には下至といへり。乃下そのことはことなりといへとも。そのこゝろこれひとつなり。また乃至は。一多包容(かねいる)のことはなり。大利といふは小利に對せることはなり。無上といふは有上に對せることはなり。まことにしんぬ。大利無上は一乘眞實の利益なり。小利有上はすなはちこれ八万四千の假門なり。釋に專心といへるは。すなはち一心なり。二心なきことをあらはすなり。專念といへるは。すなはち一行なり。二行なきことをあらはすなり。いま彌勒付屬の一念は。すなはちこれ一聲なり。一聲すなはちこれ一念なり。一念すなはちこれ一行なり。一行すなはちこれ正行なり。正行すなはちこれ正業なり。正業すなはちこれ正念なり。正念すなはちこれ念佛なり。すなはちこれ南無阿彌陀佛なり。しかれは大悲の願船に乘して。光明の廣海にう

かみぬれは。至徳のかせしつかに衆禍のなみ轉す。すなはち無明の闇を破し。すみやかに無量光明土にいたりて大般涅槃を證す。普賢の徳にしたかふなり。しるへし。安樂集にいはく。十念相續は。これ聖者のひとつのかずの名ならくのみ。すなはちよく念をつみおもひをこらして。他事を縁せされは業道成辨せしめてすなはちやみぬ。またいたはしく頭數を記せされ。またいはく。もし久行のひとの念はおほくこれによるへし。もし始行のひとの念はかすを記するまたよし。これまた聖敎によるなり。(已上)これすなはち眞實の行をあらはす明證なり。まことにしんぬ。選擇攝取の本願。超世希有の勝行。圓融眞妙の正法。至極無碍の大行なり。しるへし。

他力といふは。如來の本願力なり。論にいはく。本願力といふは。大菩薩法身のなかにおいて。つねに三昧にありて。しかも種々の身。

種々の神通。種々の説法を現したまふことをしめす。みな本願力よりおこるをもてなり。たとへは阿修羅の琴の皷するものなしといへとも。しかも音曲自然なるかことし。これを教化地の第五の功徳相となつく。(已上)菩薩は四種の門にいりて。自利の行成就したまへり。しるへし成就は。いはく自利滿足せるなり。應知といふは。いはく自利によるかゆゑに。すなはちよく利他す。これ自利にあたはすして。しかもよく利他するにはあらすとしるへきなり。菩薩は第五門にいてゝ。廻向利益他の行成就したまへり。しるへし成就は。いはく廻向の因をもて教化地の果を證す。もしは因もしは果。一事として利他にあたはさることあることなきなり。應知といふは。いはく利他によるかゆゑに。すなはちよく自利す。これ利他にあたはすして。しかもよく自利するにはあらすとしるへきなり。菩薩はかくのこと

く五門の行を修して。自利々他して。すみやかに阿耨多羅三藐三菩提を成就することをえたまへり。かるかゆゑに佛のえたまふところの法をなつけて阿耨多羅三藐三菩提とす。この菩提をえたまふをもてのゆゑになつけて佛とす。いま速得阿耨多羅三藐菩提といへるは。これはやく佛になることをえたまへるなり。阿をは無になつく。耨多羅をは上になつく。三藐をは正になつく。三をは偏になつく。菩提をは道になつく。かねてこれを譯して。なつけて無上正偏道とす。無上はいふこゝろは。この道。理をきはめ。性をつくすことさらにすきたるひとなし。なにをもてかこれをいふとならは。正をもてのゆゑに。正は聖智なり。法相のことくしてしかもしるかゆゑに稱して正智とす。法性は相なきゆゑに。聖智無知なり。偏に二種あり。一には聖心。あまねく一切の法をしろしめす。二には法身。あまね

く法界にみてり。もしは身もしは心。偏せさることなきなり。道は無碍道なり。經にいはく。十方無碍人。一道より生死をいてたまへり。一道は。一無碍道なり。無碍は。いはく生死すなはちこれ涅槃なりとしるなり。かくのことき等の入不二の法門。無碍の相なり。

問ていはく。なんの因緣ありてか。速得成就阿耨多羅三藐三菩提といへるや。こたへていはく。論に五門の行を修して。もて自利々他成就したまへるかゆゑにといへり。しかるにまことにその本をもとむれは。阿彌陀如來を增上緣とするなり。他利と利他と談するに左右あり。もしをのつから佛をしていはゝよろしく利他といふへし。をのつから衆生をしていはゝよろしく他利と云へし。いままさに佛力を談せんとす。このゆゑに利他をもてこれをいふ。まさにしるへしこのこゝろなり。おほよそこれかの淨土に生すると。およひかの

菩薩人天の所起の諸行は。みな阿彌陀如來の本願力によるかゆゑに。なにをもてかこれをいふとならは。もし佛力にあらすは。四十八願すなはちこれいたつらにまうけたまへらん。いまひとしく三願をとりて。もて義のこゝろを證せん。願してのたまはく。たとひわれ佛をえたらんに。十方の衆生心をいたし信樂して。わかくにゝ生せんとおもふて。乃至十念せん。もし生せすは正覺をとらし。たゝし五逆と誹謗正法とをはのそくと。佛願力によるかゆゑに。十念念佛して。すなはち往生をう。往生をうるかゆゑにすなはち三界輪轉の事をまぬかる。輪轉なきかゆゑに。このゆゑにすみやかなることをうる一の證なり。願してのたまはく。たとひわれ佛をえたらんに。くにのうちの人天。定聚に住しかならす滅度にいたらすは。正覺をとらしと。佛願力によるかゆゑに。正定聚に住せん。正定聚に住する

かゆゑに。かならす滅度にいたる。もろ〳〵の廻伏の難なし。このゆゑにすみやかなることをうる二の證なり。願してのたまはく。たとひわれ佛をえたらんに。他方佛土のもろ〳〵の菩薩衆。わかくにゝ來生して。究竟してかならす一生補處にいたらしめん。その本願の自在の所化。衆生のためのゆゑに。弘誓のよろひをきて。德本を積累し。一切を度脱して。諸佛のくにゝあそひ。菩薩の行を修して。十方諸佛如來を供養し。恒沙無量の衆生を開化して。無上正眞の道を立せしめんをはのそく。常倫に超出し。諸地の行現前し。普賢の德を修習せん。もししからすは正覺をとらしと。佛の願力によるかゆゑに。常倫に超出し。諸地の行現前し。普賢の德を修習せん。常倫に超出し諸地の行現前するをもてのゆゑに。このゆゑにすみやかなることをうる三の證なり。これをもて他力を推するに增上緣とす。

しからさることをえんや。まさにまた例をひきて自力他力の相をしめすへし。ひと三塗をおそるゝかゆゑに。禁戒を受持す。禁戒を受持するかゆゑに。よく禪定を修す。禪定を修するをもてのゆゑに。神通を修習す。神通をもてのゆゑに。よく四天下にあそふかことし。かくのこときらをなつけて自力とす。また劣夫の驢にまたかりてのほらされとも。轉輪王のみゆきにしたかへは。すなはち虚空に乘して四天下にあそふに。鄣礙するところなきかことし。かくのこときらをなつけて他力とす。おろかなるかな。のちの學者。他力の乘すへきをきゝて。まさに信心を生すへし。みつから局分(かぎりわかつ)することなかれ。(巳上)元照律師のいはく。あるひはこの方にして。惑を破し眞を證するは。すなはち自力をはこふかゆゑに大小の諸經に談す。あるひは他方にゆきて。法をきゝ道をさとるは。すへからく他力を

たのむへきかゆゑに往生淨土をとく。彼此ことなりといへとも。方便にあらさることなし。自心をさとらしめんとなり。(上巳)一乘海といふは。一乘は大乘なり。大乘は佛乘なり。一乘をうるは阿耨多羅三藐三菩提をうるなり。阿耨菩提はすなはちこれ涅槃界なり。涅槃界はすなはちこれ究竟法身なり。究竟法身をうるはすなはち一乘を究竟するなり。如來にことなることましまさす。異の法身ましまさす。如來はすなはち法身なり。一乘を究竟するはすなはちこれ無邊不斷なり。大乘は二乘三乘あることなし。二乘三乘は一乘にいらしめんとなり。一乘はすなはち第一義乘なり。たゝこれ誓願一佛乘なり。涅槃經にいはく。善男子。實諦となつけず大乘といふ。大乘にあらさるは實諦となつけす。善男子、實諦はこれ佛の所說なり。魔の所說にあらす。もしこれ魔說は佛說にあらす。實諦となつけす。善男

子。實諦は一道清淨にして二あることなし。(上已)またのたまはく。いかんか菩薩一實に信順する。菩薩は一切衆生をしてみな一道に歸せしむと了知するなり。一道はいはく大乘なり。諸佛菩薩衆生のための故に。これをわかちて三とす。このゆゑに菩薩不逆に信順す。(上已)またいはく。善男子。畢竟に二種あり。一には莊嚴畢竟。二には究竟畢竟なり。一には世間畢竟。二には出世畢竟なり。莊嚴畢竟は六波羅蜜なり。究竟畢竟は一切衆生うるところの一乘なり。一乘はなつけて佛性とす。この義をもてのゆゑにわれ一切衆生こと〳〵く佛性ありとくなり。一切衆生こと〳〵く一乘あり。無明おほへるをもてのゆゑに。みることをうることあたはす。(上已)またいはく。いかんか一とする。一切衆生こと〳〵く一乘なるかゆゑに。いかんか非一なる。三乘をとくかゆゑに。いかんか非一非々一なる。無數の法なるかゆ

ゑなり。(已上)華嚴經にいはく。文殊の法はつねにしかなり。法王はたゞ一法なり。一切無碍人一道より生死をいてたまへり。一切諸佛の身たゞこれ一法身なり。一心一智慧なり。力無畏もまたしかなり。(已上)しかれはこれらの覺悟は。みなもて安養淨刹の大利。佛願難思の至德なり。海といふは久遠よりこのかた凡聖所修の雜修雜善の川水を轉し。逆謗闡提恒沙無明の海水を轉して。本願大悲智慧眞實恒沙万德の大寶海水となる。これを海のことしとたとふるなり。まことにしんぬ。經にときて煩惱のこほりとけて功德のみつとなるとのたまへるかことし。(已上)願海は二乘雜善の中下の屍骸をやとさす。いかにいはんや人天の虚假邪僞の善業。雜毒雜心の屍骸をやとさんや。かるかゆゑに大本にのたまはく。聲聞あるひは菩薩。よく聖心をきはむることなし。たとへはむまれてよりめしゐたるものゝ。ゆきてひとを開

導せんとおもはんかことし。如來智慧海。深廣にして涯底なし。二乘のはかるところにあらす。たゝ佛のみひとりあきらかにさとりたまへり。(上巳)淨土論にいはく。なにものか莊嚴不虛作住持功德成就。偈に佛の本願力をみそなはすに。まうあふてむなしくすくるものなし。よくすみやかに功德の大寶海を滿足せしむとのたまへるかゆゑに。不虛作住持功德成就は。けたしこれ阿彌陀如來の本願力なり。いままさに略して虛空の相にして住持にあたはさるをしめして。もてかの不虛作住持の義をあらはす。乃至いふところの不虛作住持は。もと法藏菩薩の四十八願と今日阿彌陀如來の自在神力とによる。願もて力を成す。力もて願につく。願徒然ならす。力虛設ならす。力願あひかなふて。畢竟してたかはす。かるかゆゑに成就といふ。またいはく。海はいふこゝろは佛の一切種智深廣にして涯もなし。二乘雜善

の中下の屍骸をやとさす。これを海のことしとたとふ。このゆゑに天人不動の衆清淨の智海より生すといへり。不動はいふこゝろは。かの天人大乘根を成就して。傾動すへからさるなり。(已上)光明寺ののたまはく。われ菩薩藏頓敎一乘海による。またいはく。瓔珞經のなかには漸敎をとけり。万劫に功を修して不退を證す。觀經彌陀經等の說は。すなはちこれ頓敎菩提藏なり。(已上)樂邦文類にいはく。宗釋禪師のいはく。還丹の一粒は。くろかねを變してこかねとなす。眞理の一言は。惡業を轉して善業となす。(已上)しかるに敎について。念佛諸善比挍對論するに。難易對。頓漸對。橫竪對。超涉對。順逆對。大小對。多少對。勝劣對。親疎對。近遠對。深淺對。强弱對。重輕對。廣狹對。純雜對。徑迂對。捷遲對。通別對。不退退對。直辨因明對。名號定散對。理盡非理盡對。勸無勸對。無間間對。斷不斷對。相續

不續對。無上有上對。上々下々對。思不思議對。因行果德對。自說他說對。迴不迴向對。護不護對。證不證對。讃不讃對。付屬不付屬對。了不了敎對。機堪不堪對。選不選對。眞假對。佛滅不滅對。法滅利不利對。自力他力對。有願無願對。攝不攝對。入定聚不入對。報化對あり。この義かくのごとし。しかるに本願一乘海を按するに。圓融滿足極速無碍絕對(たいをたつ)不二の敎なり。また機について對論するに。信疑對。善惡對。正邪對。是非對。實虛對。眞僞對。淨穢對。利鈍對。奢促對。豪賤對。明闇對あり。この義かくのごとし。しかるに一乘海の機を按するに。金剛信心絕對不二の機なり。しるへし。うやまふて一切往生人等にまふさく。弘誓一乘海は。無碍無邊。(碍字作量)最勝深妙。不可說。不可稱。不可思議の至德を成就したまへり。なにをもてのゆゑに。誓願不可思議なるかゆゑに。悲願はたとへは大

虚空のことし。もろ〳〵の妙功德廣無邊なるかゆゑに。なをし大車のことし。あまねくよくもろ〳〵の凡聖を運載するかゆゑに。なをし妙蓮華のことし。よく一切世間の法に染せられさるかゆゑに。善見藥王のことし。よく一切煩惱のやまひを破するかゆゑに。なをし利劍のことし。よく一切憍慢の鎧を斷するかゆゑに。勇將(たけき)幢(はたほこ)のことし。よく一切のもろ〳〵の魔軍を伏するかゆゑに。なをし利鋸(さきのこきり)のことし。よく一切無明の樹をきるかゆゑに。なをし利斧のことし。よく一切諸苦のえたをきるかゆゑに。善知識のことし。一切生死の縛をとくかゆゑに。なをし導師のことし。よく凡夫出要の道をしらしむるかゆゑに。なをし涌泉のことし。知慧水をいたして窮盡することなきかゆゑに。なをし蓮華のことし。一切のもろ〳〵の罪垢に染せられさるかゆゑに。なをし疾風のことし。よく一切の

もろ〳〵の鄣霧を散するかゆゑに。なをし好蜜のことし。一切功徳のあちはひを圓滿せるかゆゑに。なをし正道のことし。もろ〳〵の群生をして智城にいらしむるかゆゑに。なをし磁石のことし。本願の因をすふかゆゑに。閻浮檀金のことし。一切有爲の善を映奪(かゝやかしうばふ)するかゆゑに。なをし伏藏のことし。よく一切のもろ〳〵の佛法を攝するかゆゑに。なをし大地のことし。三世十方一切如來出生するかゆゑに。日輪のひかりのことし。一切凡愚の癡闇を破して信樂を出生するかゆゑに。なをし君王のことし。一切上乘人に勝出せるかゆゑに。なをし嚴父(いつくしきちゝ)のことし。一切のもろ〳〵の凡聖を訓導するかゆゑに。なをし悲母(かなしみのはゝ)のことし。一切凡聖の報土眞實の因を長生するかゆゑに。なをし乳母のことし。一切善惡の往生人を養育し守護したまふかゆゑに。なをし大地のことし。よく一切の

往生をたもつかゆゑに。なをし大水のことし。よく一切煩惱の垢をすゝくかゆゑに。なをし大火のことし。よく一切諸見のたきゝをやくかゆゑに。なをし大風のことし。あまねく世間に行せしめて所碍（さふるところ）なきかゆゑに。よく三有繋縛の城をいたしてよく二十五有の門をとつ。よく眞實報土をえしめよく邪正の道路を辨す。愚痴海をつくしてよく願海（によらいのほんくわん）に流入せしむ。一切智船に乘せしめてもろ〳〵の群生海にうかふ。福智藏を圓滿し。方便藏を開顯せしむ。まことに奉持すへし。ことに頂戴すへきなり。おほよそ誓願について眞實の行信あり。また方便の行信あり。その眞實の行願は。諸佛稱名の願なり。その眞實の信願は。至心信樂の願なり。これすなはち選擇本願の行信なり。その機はすなはち一切善惡大小凡愚なり。往生はすなはち難思議往生なり。佛土はすなはち報佛報土なり。こ

れすなはち誓願不可思議一實眞如海なり。大無量壽經の宗致。他力眞宗の正意なり。こゝをもて知恩報德のために。宗師の釋をひらきたるにのたまはく。それ菩薩は佛に歸す。孝子の父母に歸し。忠臣の君后に歸して。動靜おのれにあらす。出沒かならすゆゑあるかことし。恩をしり德を報す。理よろしくまつ啓すへし。また所願かろからす。もし如來威神を加したまはすは。まさになにをもてか達せんとする。神力を乞加す。このゆゑにあふいてつぐ。(已上)しかれは人聖の眞言に歸し。大祖の解釋を閲して佛恩の深遠なるをしりて。正信念佛偈をつくりていはく。

無量壽如來に歸命し。不可思議光に南無したてまつる。法藏菩薩の因位のとき。世自在王佛のみもとにありて。諸佛淨土の因。國土人天の善惡を覩見して。無上殊勝の願を建立し。希有の大弘誓を超發

せり。五劫これを思惟して攝受す。かさねてちかふらくは名聲十方にきこえんと。あまねく無量無邊光。無礙無對光炎王。清淨歡喜智慧光。不斷難思無稱光。超日月光をはなちて塵刹をてらす。一切の群生光照をかうふる。本願の名號は正定の業なり。至心信樂の願を因とす。等覺をなり大涅槃を證することは。必至滅度の願成就なり。如來世に興出したまふゆゑは。たゝ彌陀の本願海をとかんとなり。五濁惡時の群生海。如來如實のみことを信すへし。よく一念喜愛の心を發すれは。煩惱を斷せすして涅槃をう。凡聖逆謗ひとしく廻入すれは。衆水海にいりて一味なるかことし。攝取の心光つねに照護したまふ。すてによく無明の闇を破すといへとも。貪愛瞋憎の雲霧。つねに眞實信心の天におほへり。たとへは日光の雲霧におほはるれとも。雲霧のしたあきらかにしてやみなきかことし。信をえてみて

うやまひおほきに慶喜すれは。すなはちよこさまに五惡趣を超截す。一切善惡の凡夫人。如來の弘誓願を聞信すれは。佛廣大勝解のひとゝのたまへり。このひとを分陀利華(分字作芬)となつく。彌陀佛の本願念佛は。邪見憍慢惡衆生。信樂受持することははなはたもてかたし。難のなかの難これにすきたるはなし。印度西天の論家。中夏日域の高僧。大聖興世の正意をあらはし。如來の本誓機に應せることをあかす。釋迦如來楞伽山にして。衆のために告命したまはく。南天竺に龍樹大士世にいてゝ。こと〳〵くよく有無の見を摧破せん。大乘無上の法を宣說し。歡喜地を證して安樂に生せんと。難行の陸路くるしきことを顯示して。易行の水道たのしきことを信樂せしむ。彌陀佛の本願を憶念すれは。自然にすなはちのとき必定にいる。たゝよくつねに如來のみなを稱して。大悲弘誓の恩を報すへしといへり。

天親菩薩論をつくりてとかく。無碍光如來に歸命したてまつる。修多羅によりて眞實をあらはして。横超の大誓願を光闡す。ひろく本願力の廻向によりて。群生を度せんかために一心をあらはす。功徳大寶海に歸入すれは。かならす大會衆のかすにいることをう。蓮華藏世界にいたることをうれは。すなはち眞如法性の身を證せん。煩惱の林にあそんて神通を現し。生死のそのにいりて應化をしめすといへり。本師曇鸞は梁の天子。つねに鸞のところにむかふて菩薩と禮したてまつる。三藏流支淨敎をさつけしかは。仙經を焚燒して樂邦に歸したまひき。天親菩薩の論註解して。報土の因果誓願をあらはす。往還の廻向は他力による。正定の因はたゝ信心なり。惑染の凡夫信心發すれは。生死すなはち涅槃なりと證知せしむ。かならす無量光明土にいたれは。諸有の衆生みなあまねく化すといへり。道

綽聖道の證しかたきことを決して。たゝ淨土に通入すへきことをあかす。万善の自力勤修を貶す。圓滿の徳號專稱をすゝむ。三不三信のをしへ慇懃にして。像末法滅おなしく悲引す。一生惡をつくれとも弘誓にまうあひぬれは。安養界にいたりて妙果を證せしむと。善導ひとり佛の正意をあきらかにせり。定散と逆惡とを矜哀して。光明名號因縁をあらはす。本願の大智海に開入すれは。行者まさしく金剛心をうけしむ。慶喜の一念相應してのち。韋提とひとしく三忍をえ。すなはち法性の常樂を證せしむと。源信ひろく一代の教をひらきて。ひとへに安養に歸して一切をすゝむ。專雜の執心淺深を判して。報化二土まさしく辨立せり。極重惡人はたゝ佛を稱すへし。われまたかの攝取のなかにあれとも。煩惱まなこをさえてみたてまつらすといへとも。大悲ものうきことなくしてつねにわれをてらし

たまへりと。本師源空は佛教をあきらかにして。善惡の凡夫人を憐愍せしむ。眞宗の教證を片州に興す。選擇本願惡世にひろむ。生死輪轉のいへにかへりきたることは。決するに疑情をもて所止とす。すみやかに寂靜無爲のみやこにいることは。かならす信心をもて能入とすといへり。弘經の大士宗師等。無邊の極濁惡を拯濟したまふ。道俗時衆ともに同心に。たゝこの高僧の説を信すへし。
六十行すてにおはんぬ。一百二十句。

顯淨土眞實行文類二

顯淨土眞實信文類序

それおもんみれは。信樂を獲得することは。如來選擇の願心より發起す。眞心を開闡(ひらきひらく)することは。大聖矜哀(あはれみあはれみたまふ)の善巧より顯彰(あらはれあらはる)せり。しかるに末代の道俗。近世の宗師。自性唯心にしづんで。淨土の眞證を貶(おとしむ)す。定散の自心にまどふて。金剛の眞信にくらし。こゝに愚禿釋の鸞。(作親鸞)諸佛如來の眞說に信順して。論家釋家の宗義を披閱(ひらきみる)す。ひろく三經の光澤をかうふりて。ことに一心の華文をひらく。しはらく疑問をいたして。つひに明證をいたす。まことに佛恩の深重なるを念して。人倫の哢言をはぢす。淨邦をねかふ徒衆。(ともから)穢域をいとふ庶類。(もろもろのたくひ)取捨をくはふといふとも。毀謗(そしりそしること)を生することなかれ。

顯淨土眞實信文類三 本

愚禿釋の親鸞の集

至心信樂の願　正定聚の機

つしんて往相の廻向を按するに。大信あり。大信心は。すなはちこれ長生不死の神方。忻淨厭穢の妙術。選擇廻向の直心。利他深廣の信樂。金剛不壞の眞心。易往無人の淨信。心光攝護の一心。希有最勝の大信。世間難信の捷徑。證大涅槃の眞因。(まことのたね)極速圓融の白道。眞如一實の信海なり。この心すなはちこれ念佛往生の願よりいてたり。この大願を選擇本願となつく。また本願三心の願となつく。また至心信樂の願となつく。また往相信心の願となつくへきなり。し

かるに常没の凡愚。流轉の群生。無上妙果の成しかたきにはあらす。眞實の信樂まことにうることかたし。なにをもてのゆゑに。いまし如來の加威力によるかゆゑに。ひろく大悲廣惠のちからによるかゆゑに。たま〳〵淨信をえは。この心顚倒せす。この心虚僞ならす。こゝをもて極惡深重の衆生大慶喜心をえ。もろ〳〵の聖尊の重愛をうるなり。至心信樂の本願の文。大經にのたまはく。たとひわれ佛をえたらんに。十方の衆生心をいたし信樂して。わかくにゝむまれんと思ふて乃至十念せん。もしむまれすは正覺をとらし。たゝし五逆と誹謗正法とをはのそくと。(已上)無量壽如來會にのたまはく。もしわれ無上覺を證得せんとき。餘佛の刹のなかのもろ〳〵の有情類。わか名をきゝ。おはらんに。所有の善根心々く廻向せしむ。わかくにゝ生せんと願して。乃至十念せん。もし生せすは菩提をとらし。たゝし

無間惡業をつくり。正法およびもろ〳〵の聖人を誹謗せんをはのぞく。（上巳）本願成就の文經にいはく。あらゆる衆生。その名號をきゝて。信心歡喜せんこと。乃至一念せん。至心に廻向したまへり。かのくにゝ生ぜんと願すれは。すなはち往生をえ不退轉に住す。たゞし五逆と誹謗正法とをはのぞく。（上巳）無量壽如來會にのたまはく。他方の佛國の所有の有情。無量壽如來の名號をきゝて。よく一念の淨信をおこして歡喜せしめ。所有の善根廻向したまへるを愛樂して。無量壽國に生ぜんと願せは。願にしたかひて皆むまれ。不退轉乃至無上正等菩提をえん。五無間正法を誹謗しおよひ聖者をそしらんをはのぞく。（上巳）またのたまはく。法をきゝてよくわすれす。みてうやまひゑておほきによろこはゝ。すなはちわかよき親友（したしきとも）なり。このゆゑにまさにこゝろをおこすへし。（上巳）またのたまはく。かくのごときら

の類は。大威德のひとなり。よく廣大佛法の異門に生せん、(已上)またのたまはく。如來の功德は佛のみみつからしろしめせり。たゝ世尊ましまして。よく開示(ひらきしめし)したまふ。天龍夜叉およはさるところなり。二乘をのつから名言をたつ。もしもろ〳〵の有情まさに作佛して。行普賢にこえ彼岸にのほりて。一佛の功德を敷演(しきのふ)せんとき。多劫不思議をこえん。この中間において。身は滅度すとも佛の勝惠はよくはかることなけん。このゆゑに信聞およひもろ〳〵の善友(よきとも)の攝受を具足して。かくのことき深妙の法をきくことをえは。まさにもろ〳〵の聖尊に重愛せらるゝことをうへし。如來の勝智偏虛空の所說の義言はたゝ佛のみさとりたまへり。このゆゑにひろく諸智士をきゝて。わか敎如實の言を信すへし。人趣の身うることはなはたし。如來の出世にまふあふこともまたかたし。信惠おほきときま

さにいましえん。このゆゑに修せんもの精進すへし。かくのことき の妙法すてに聽聞せは。つねに諸佛をしてしかもよろこひを生せしめたてまつるなり。（抄出）論の註にいはく。かの如來のみなを稱し。かの如來の光明智相のことく。かの名義のことく。實のことく修行し相應せんとおもふかゆゑに。稱彼如來名といふは。いはく無碍光如來のみなを稱するなり。如彼如來光明智相といふは。佛の光明はこれ智慧の相なり。この光明十方世界をてらすに鄣碍あることなし。よく十方衆生の無明の黑闇をのそく。日光珠光のたゝ室穴のうちの闇を破するかことときにはあらさるなり。如彼名義欲如實修行相應といふは。かの無碍光如來の名號よく衆生の一切の無明を破す。よく衆生の一切の志願をみてたまふ。しかるに稱名憶念することあれとも。しかも無明なを存して。しかも所願をみてさるは。いかんとな

れは。實のことく修行せさると名義と相應せさるによるかゆゑなり。いかんか不如實修行と名義と相應せさるとする。いはく。如來はこれ實相の身なり。これものゝための身なりとしらす。また三種の不相應あり。一には信心あつからす。存せるか如し。亡せるかこときのゆゑに。二には信心一ならす。決定なきかゆゑに。三には信心相續せす。餘念へたつるかゆゑに。この三句展轉してあひ成す。信心あつからさるをもてのゆゑに決定なし。決定なきかゆゑに念相續せす。また念相續せさるかゆゑに。決定の信をえす。決定の信をえさるかゆゑに。心あつからさるへし。これと相違せるを如實修行相應となつく。このゆゑに論主はしめに我一心とのたまへり。(已上)讃阿彌陀佛の偈にいはく。(曇鸞和尚の造なり)あらゆるもの阿彌陀の德號をきゝて。信心歡喜してきくところをよろこはんこと。いまし一念におよふまて

せん。至心のひと廻向したまへり。生せんと願すれはみなゆくことをえしむ。たゝ五逆と謗正法とをはのそく。かるかゆゑにわれ頂禮して往生を願す。(已上)光明寺の觀經義にのたまはく。如意といふは。二種あり。一には衆生のこゝろのことし。かの心念にしたかひて。みなこれを度すへし。二には彌陀のこゝろのことし。五眼まとかにてちらし。六通自在にして。機の度すへきものをみそなはして。一念のうちに。前なく後なく。身心ひとしくおもむき。三輪開悟して。おのく益することおなしからさるなり。(已上)またいはく。この五濁五苦等は。六道に通してうけていまたなきものはあらす。つねにこれに逼惱(せめなやます)す。もしこの苦をうけさるものは。すなはち凡數の攝にあらさるなり。(抄出)またいはく。何等爲三よりしも必生彼國にいたる已來は。まさしく三心を辨定してもて正因とすることをあかす。すな

はちその二あり。一には世尊機にしたかひて益をあらはすこと。意密（こゝろにかくす）にしてしりかたし。佛みつから問てみつから徵（はたせむる）したまふにあらすは。解をうるによしなきことをあかす。二には如來かへりてみつからさきの三心のかすをこたへたまふことをあかす。經にのたまはく。一には至誠心。至といふは眞なり。誠といふは實なり。一切衆生の身口意業の所修の解行。かならす眞實心のうちになしたまひしをもちゐんことをあかさんとおもふ。ほかに賢善精進の相を現することをえされ。うちに虛假をいたけはなり。貪瞋邪僞。奸詐百端（むさほりいかりひかみいつはるかくましくいつはることもゝはしなり）にして。惡性やめかたく。事蛇蝎におなし。三業をおこすといへとも。なつけて雜毒の善とす。また虛假の行となつく。眞實の業となつけさるなり。もしかくのことき安心起行をなすは。たとひ身心を苦勵して。日夜十二時に。急にもと

め急になして。頭燃をはらふかことくするもの。すへて雜毒の善となつく。この雜毒の行を迴して。かの佛の淨土に生せんことをもとめんと欲するは。これかならす不可なり。何をもてのゆゑに。まさしくかの阿彌陀佛因中に菩薩の行を行したまひしとき。乃至一念一剎那も。三業の所修。みなこれ眞實のうちになしたまひしによりてなり。おほよそほとこしたまふところ趣求をなす。またみな眞實なり。また眞實に二種あり。一には自利眞實。二には利他眞實なり。(乃至)不善の三業をは。かならす眞實心のうちにすてたまへるをもちゐよ。またもし善の三業をおこさは。かならす眞實心のうちになしたまひしをもちゐて。内外明闇をえらはす。みな眞實をもちゐるかゆゑに。至誠心となつく。二には深心。深心といふは。すなはちこれ深信の心なり。また二種あり。一には決定してふかく自身は現にこれ罪惡

生死の凡夫。曠劫よりこのかた。つねに沒しつねに流轉して。出離の緣あることなしと信す。二には決定してふかくかの阿彌陀佛の四十八願は。衆生を攝受して。うたかひなくおもんはかりなけれは。かの願力に乘して。さためて往生をうと信す。また決定してふかく釋迦佛この觀經の三福九品定散二善をときて。かの佛の依正二報を證讃して。人をして忻暴(ねかひこかれすむ)せしむと信す。また決定して深く彌陀經のなかに。十方恒沙の諸佛。一切凡夫を證勸して。決定して生することをうと信するなり。また深信するもの。あふきねかはくは一切の行者等。一心にたゝ佛語を信して。身命をかへりみす決定して行によりて。佛のすてしめたまふものをはすなはちすて。佛の行せしめたまふものをはすなはち行し。佛のさらしめたまふところをはすなはちされ。これを佛教に隨順し佛意に隨順すとなつく。これを

佛願に隨順すとなつく。これを眞の佛弟子となつく。また一切の行者。たゝよくこの經によりて。ふかく行を信するはかならす衆生をあやまたさるなり。なにをもてのゆゑに。佛はこれ滿足大悲の人なるかゆゑに。實語したまふかゆゑに。佛をのそきて已還(このかた)は。智行いまた滿せす。その學地にありて。正習の二障ありていまたのそこらさるによりて。果願いまたまとかならす。これらの凡聖はたとひ諸佛の敎意を測量すれとも。いまた決了することあたはす。平章することありといへとも。かならすすへからく佛證をこふて定とすへきなり。もし佛意にかなへは。すなはち印可して如是如是とのたまふ。もし佛意にかなはさるをは。すなはちなんたちか所說この義不如是とのたまふ。印せさるは。すなはち無記無利無益の語におなし。佛の印可したまふは。すなはち佛の正敎に隨順す。もし佛の所

有言説は。すなはちこれ正教。正義。正行。正解。正業。正智なり。もしは多もしは少。すへて菩薩人天等をとはす。その是非を定めんや。もし佛の所説はすなはちこれ了教なり。菩薩等の説をはことく〳〵く不了教となつくるなり。しるへし。このゆゑにいまのときあふひて一切有縁の往生人等をすゝむ。たゝふかく佛語を信して専注奉行すへし。菩薩等の不相應の教を信用して。もて疑礙をなし。まとひをいたきてみつからまとひて。往生の大益を廢失すへからす。（乃至）釋迦一切の凡夫をおしへすゝめて。この一身をつくして。専念専修して。いのちをすてゝのち。さためてかのくにゝむまるといふは。すなはち十方諸佛こと〳〵くみなおなしくほめ。おなしくすゝめ。おなしく證したまふ。なにをもてのゆゑに。同躰の大悲なるかゆゑに。一佛の所化はすなはちこれ一切佛の化なり。一切佛の化はすなはちこ

れ一佛の所化なり。すなはち彌陀經のなかにとかく。釋迦極樂の種〳〵の莊嚴を讃嘆したまふ。また一切の凡夫をすゝめて。一日七日一心にもはら彌陀の名號を念せしめて。さためて往生をえしめたまふ。つきしもの文にのたまはく。十方におの〳〵恒河沙等の諸佛まし〳〵て。おなしく釋迦よく五濁惡時惡世界惡衆生惡見惡煩惱惡邪無信のさかりなるときにおいて。彌陀の名號を指讃して。衆生を勸勵して稱念すれはかならす往生をうとほめたまふ。すなはちその證なり。また十方の佛等衆生の釋迦一佛の所說を信せさらんことをおそれて。すなはちともに同心同時に。おの〳〵舌相をいたして。あまねく三千世界におほふて。誠實の言をときたまはく。なんたち衆生。みなこの釋迦の所說所讃所證を信すへし。一切の凡夫罪福の多少。時節の久近をとはす。たゝよくかみ百年をつくし。しも一日七日にいた

るまて。一心にもはら彌陀の名號を念して。さためて往生をうること。かならすうたかひなきなり。このゆゑに一佛の所説をは。すなはち一切の佛おなしくその事を證誠したまふ。これを人について信を立すとなつくるなり。(乃至)またこの正のなかについて。また二種あり。一には一心にもはら彌陀の名號を念して。行住坐臥にじせつの久近をとはす。念々にすてさるをは。これを正定の業となつく。かの佛の願に順するかゆゑに。もし禮誦等によるをは。すなはちなつけて助業とす。この正助二行をのそきて已外の自餘の諸善をは。ことく〱く雜行となつく。(乃至)すへて踈雜の行となつくるなり。かるかゆゑに深心となつく。三には廻向發願心。(乃至)また廻向發願して生するものは。かならす決定して眞實心のうちに廻向したまへる願をもちゐて。得生の想をなせ。この心深信せること。金剛のことくなるによりて。

一切の異見異學別解別行人等のために。動亂破壞せられす。たゝこれ決定して。一心にとりて正直にすゝんて。かのひとの語をきくことをえされ。すなはち進退の心ありて。怯弱を生して廻顧すれは。道におちてすなはち往生の大益を失するなり。問ていはく。もし解行不同の邪雜のひとらありて。きたりてあひ惑亂して。あるひは種々の疑難をときて。往生をえしといひ。あるひはいはん。なんたち衆生。曠劫よりこのかた。および今生の身口意業に。一切凡聖の身のうへにおいて。つふさに十惡五逆四重謗法闡提破戒破見等のつみをつくりて。いまた除盡(のそきつくす)することあたはす。しかるにこれらのつみは。三界惡道に繫屬す。いかんそ。一生修福の念佛をもて。すなはちかの無漏無生のくにゝいりて。なかく不退のくらゐを證悟することをえんや。こたへていはく。諸佛の敎行かす塵沙にこえた

り。さとりをうくる機縁情にしたかひてひとつにあらす。たとへは世間のひとまなこにみつへく。信すへきかこときは。明のよく闇を破し。空のよく有をふくみ。地のよく載養し。水のよく生潤し。火のよく成壊するかことし。かくのこときの等の事。こと〳〵く待對の法となつく。すなはち目にみつへし。千差万別なり。いかにいはんや佛法不思議のちから。あに種々の益なからんや。したかひて一門をいつるは。すなはち一煩惱の門をいつるなり。したかひて一門にいるは。すなはち一解脱智慧の門にいるなり。これかために縁にしたかひて行をおこして。おの〳〵解脱をもとめよ。なんちなにをもてか。いまし有縁の要行にあらさるをもてわれを鄣惑する。しかるにわか所愛は。すなはちこれわか有縁の行なり。すなはちなんちか所求にあらす。なんちか所愛は。すなはちこれなんちか有縁の行なり。

またわか所求にあらす。このゆゑにおの〳〵所樂にしたかひて。しかもその行を修すれは。かならすとく解脱をうるなり。行者まさにしるへし。もし解を學せんとおもはゝ。凡より聖にいたり乃至佛果まで。一切さはりなし。みな學することをえよ。もし行を學せんとおもはゝ。かならす有緣の法によれ。すこしき功勞をもちゐるにおほく益をうれはなり。また一切往生人等にまうさく。いまさらに行者のために。ひとつの譬喩をときて。信心を守護してもて外邪異見の難をふせかん。なにものかこれや。たとへはひとありて西にむかひてゆかんとするに。百千の里ならん。忽然(たちまち)として中路にふたつのかはあり。一にはこれ火のかはみなみにあり。二にはこれ水のかはきたにあり。二河おの〳〵ひろさ百歩。おの〳〵ふかくしてそこなし。南北にほとりなし。まさしく水火の中間にひとつの白道

あり。ひろさ四五寸はかりなるへし。このみちひんかしのきしより西のきしにいたるに。またなかさ百歩。そのみつの波浪(なみ)ましはりすきて道をうるほす。その火焔またきたりて道をやく。水火あひましはりて。つねにして休息することなけん。このひとすてに空曠のはるかなるところにいたるに。さらに人物なし。おほく群賊悪獣ありて。このひとの單獨(ひとへに ひとり)なるをみて。きほひきたりて。このひとをころさんとす。死をおそれて。たゝちにはしりて西にむかふに。忽然としてこの大河をみて。すなはちみつから念言すらく。この河南北に邊畔(ほとり)をみす。中間にひとつの白道をみる。きはめてこれ狹少なり。ふたつのきしあひさることちかしといへとも。なにゝよりてかゆくへき。今日さためて死せんことうたかはす。まさしくいたりかへらんとすれは。群賊悪獣漸々にきたりせむ。まさしく南北

にさりはしらんとすれは。悪獣毒蟲きほひきたりてわれにむかふ。まさしく西にむかひて道をたつねてしかもゆかんとすれは。またおそらくはこの水火の二河に墮せんことを。ときにあたりて惶怖すること。またいふへからす。すなはちみつから思念すらく。われいまかへるともまた死せん。住すともまた死せん。ゆくともまた死せん。一種として死をまぬかれされは。われやすくこの道をたつねて。さきにむかひてしかもゆかん。すてにこの道あり。かならす度すへしと。この念をなすとき。ひんかしのきしにたちまちにひとのすゝむるこゑをきく。きみたゝ決定してこの道をたつねてゆけ。かならす死の難なけん。もし住せはかならす死せんと。また西のきしのうへにひとありてよはふていはく。なんち一心正念にしてたゝちにきたれ。われよくなんちをまもらん。すへて水火の難に墮せんことをお

それされと。このひとすてにこゝにつかわし。かしこによはふをきゝて。すなはちみつからまさしく身心にあたりて。決定して道をたつねて。たゝちにすゝんて疑怯退心を生せす。あるひはゆくこと一分二分するに。ひんかしのきしの群賊等よはふていはく。きみかへりきたれ。このみち嶮悪なりすくることをえし。かならす死せんことうたかはす。われらすへて悪心ありてあひむかうことなしと。このひとよはふこゑをきくといへとも。またかへりみす。一心にたゝちにすゝんて。道を念してしかもゆけは。須臾にすなはち西のきしにいたりて。なかくもろ〳〵の難をはなれ。善友あひみて慶楽することやむことなかちんかことし。これはこれたとへなり。つきにたとへを合せは。ひんかしのきしといふは。すなはちこの娑婆の火宅にたとふ。西のきしといふは。すなはち極楽寶國にたとふ。群賊悪

獸いつはりしたしむといふは。すなはち衆生の六根六識六塵五陰四大にたとふ。ひとなき空迥のさはといふは。すなはちつねに惡友にしたかひて眞の善智識にあはさるにたとふ。水火の二河といふは。すなはち衆生の貪愛は水のことし。瞋憎は火のことしとたとふ。中間の白道四五寸といふは。すなはち衆生の貪瞋煩惱のなかに。よく清淨願往生の心を生せしむるにたとふ。いまし貪瞋こはきによるかゆゑに。すなはち水火のことしとたとふ。善心微なるかゆゑに白道のことしとたとふ。また水波つねに道をうるほすといふは。すなはち愛心つねにおこりてよく善心を染汚するにたとふ。また火焔つねに道をやくといふは。すなはち瞋嫌の心よく功德の法財をやくにたとふ。ひと道のうへをゆきてたゝちに西にむかふといふは。すなはちもろ〳〵の行業を廻してたゝちに西方にむかふにたとふ。ひんかし

のきしにひとのこゑのすゝめつかはすをきゝて。道をたつねてたゝちに西にすゝむといふは。すなはち釋迦すてに滅したまふて。のちのひとみたてまつらす。なを敎法ありてたつぬへきにたとふ。すなはちこれをこゑのことしとたとふるなり。あるひはゆくこと一分二分するに群賊等よはひかへすといふは。すなはち別解別行惡見のひとら。みたりに見解をもてたかひにあひ惑亂し。およひみつからつみをつくりて退失すとたとふ。西のきしのうへにひとありてよはふといふは。すなはち彌陀の願意にたとふ。須臾に西のきしにいたりて善友あひみてよろこふといふは。すなはち衆生ひさしく生死にしつんて。曠劫より輪廻し迷倒して。みつからまとふて解脱するによしなし。あふいて釋迦發遣して。おしへて西方にむかへたまふをかうふり。また彌陀の悲心招喚したまふによりて。いま二尊のこ

ゝろに信順して。水火の二河をかへりみす。念々にわするゝことなく。この願力の道に乘して。いのちをすてゝのち。かのくにゝ生することをえて。佛とあひみて慶喜することなんそきはまらむといふにたとふるなり。また一切の行者。行住坐臥に三業の所修晝夜時節をとふことなく。つねにこの解をなし。つねにこの想をなす。かるかゆゑに廻向發願心となつく。また廻向といふは。かのくにゝ生しおはりて。かへりて大悲をおこして生死に廻入して。衆生を敎化するをまた廻向となつくるなり。三心すてに具すれは。行として成せさることなし。願行すてに成して。もし生せすはこのことはりあることなし。またこの三心。また定善の義を通攝す。しるへし。(巳上)またいはく。うやまひて一切往生の智識等にまうさく。おほきにすへからく慚愧すへし。釋迦如來はまことにこれ慈悲の父母なり。種々の

方便をもて。われらか無上の信心を發起(おこしおこさしめたまふ)せしめたまへり。(已上)
貞元の新定釋教の目錄卷第十一にいはく。集諸經禮懺儀。(上下)大唐西崇福寺の沙門智昇の撰なり。貞元十五年十月二十三日になすらへて。勘編(かんかふつらぬる)していると云々。懺儀の上卷は。智昇諸經によりて懺儀をつくるなかに。觀經によりて善導の禮懺の日中の時の禮をひけり。下卷は。比丘善導の集記と云々。かの懺儀によりて要文を鈔していはく。二には深心すなはちこれ眞實の信心なり。自身はこれ煩惱を具足せる凡夫。善根薄少(うすくすくなく)にして。三界に流轉して。火宅をいてすと信知し。いま彌陀の本弘誓願は。名號を稱すること。しも十聲一聲等にいたるにおよふまて。さためて往生をうと信知して。一念にいたるにおよふまて疑心(うたかひのこゝろ)あることなし。かるかゆゑに深心となつく。(乃至)それかの彌陀佛の名號をきくことをうることありて。

歡喜して一念をいたせは。みなまさにかしこに生することをうへし。（抄出）往生要集にいはく。入法界品にいはく。たとへはひとありて不可壞のくすりをうれは。一切の怨敵そのたよりをえさるかことし。菩薩摩訶薩もまた〳〵かくのことし。菩提心不可壞の法藥をうれは。一切の煩惱諸魔怨敵壞することあたはさるところなり。たとへはひとありて住水寶珠をえてその身に瓔珞とすれは。ふかき水中にいりて。しかも沒溺せさるかことし。菩提心の住水寶珠をうれは。生死海にいりて。しかも沈沒せす。たとへは金剛は百千劫にをいて。水中に處して。しかも爛壞しまた異變なきかことし。菩提の心もまた〳〵かくのことし。無量劫において。生死のなかのもろ〳〵の煩惱業に處するに。斷滅することあたはす。また損減（そこなひうせすといふ）なし。（已上）またいはく。われまたかの攝取のなかにあれとも。煩惱まなこをさへ

てみたてまつることあたはすといへとも。大悲ものうきことなくして。つねにわか身をてらしたまふ(上巳)しかれはもしは行もしは信。一事として阿彌陀如來の清淨願心の廻向成就したまふところにあらさることあることなし。因なくして他の因のあるにはあらさるなり。しるへし。

問。如來の本願すでに至心信樂欲生のちかひをおこしたまへり。なにをもてのゆゑにか。論主一心といふや。答。愚鈍の衆生解了やすからしめしかために。彌陀如來三心をおこしたまふといへとも。涅槃の眞因はたゞ信心をもてす。このゆゑに。論主三を合して一とせる歟。わたくしに三心の字訓をうかゝふに。三すなはち一なるへし。そのこゝろいかんとならは。至心といふは。至といふはすなはちこれ眞なり。實なり。誠なり。心といふはすなはちこれ種なり。實なり。

信樂といふは。信といふはすなはちこれ眞なり。實なり。誠なり。滿なり。極なり。成なり。用なり。重なり。審なり。驗なり。宣なり。忠なり。樂といふはすなはちこれ欲なり。願なり。愛なり。悦なり。歡なり。喜なり。賀なり。慶なり。欲生といふは。欲といふはすなはちこれ願なり。樂なり。覺なり。知なり。生といふはすなはちこれ成なり。作なり。爲なり。興なり。あきらかにしりぬ。至心はすなはちこれ眞實誠種の心なるかゆゑに。疑蓋まじはることなきなり。信樂はすなはちこれ眞實誠滿の心なり。極成用重の心なり。審驗宣忠の心なり。欲願愛悦の心なり。歡喜賀慶の心なるかゆゑに。疑蓋まじはることなきなり。欲生はすなはちこれ願樂覺知の心なり。成作爲興の心なり。大悲廻向の心なるかゆゑに。疑蓋まじはることなきなり。いま三心の字訓を按するに。眞實の心にして虚假まじは

ることなし。正直の心にして邪僞ましはることなし。まことにしんぬ疑蓋間雜なきかゆゑに。これを信樂となつく。信樂すなはちこれ一心なり。一心すなはちこれ眞實信心なり。このゆゑに論主はしめに一心といへる歟。しるへし。

また問。字訓のことき。論主のこゝろ三をもて一とせる義。その理しかるへしといへとも。愚惡の衆生のために。阿彌陀如來すてに三心の願をおこしたまへり。いかん思念せんや。答。佛意はかりかたし。しかりといへとも。ひそかにこの心を推するに。一切の群生海。無始よりこのかた乃至今日今時にいたるまて。穢惡汚染にして。清淨の心なし。虚假諂僞にして。眞實の心なし。こゝをもて如來一切苦惱の衆生海を悲憫して。不可思議兆載永劫において。菩薩の行を行したまひしとき。三業の所修。一念一刹那も清淨ならさることな

し。眞心ならさることなし。如來清淨の眞心をもて。圓融無碍不可思議不可稱不可說の至德を成就したまへり。如來の至心をもて。諸有の一切煩惱惡業邪智の群生海に廻施したまへり。すなはちこれ利他の眞心をあらはす。かるかゆゑに疑蓋まじはることなし。この至心は。すなはちこれ至德の尊號をその躰とせるなり。こゝをもて大經にのたまはく。欲覺瞋覺害覺を生せす。欲想瞋想害想を生せす。色聲香味の法に著せす。忍力成就して。衆苦をはからす。少欲知足にして。染恚癡なし。三昧常寂にして。智慧無碍なり。虛僞諂曲の心あることなし。和顏愛語にして。こゝろをさきにして承問す。勇猛精進にして。志願ものうきことなし。もはら清白の法をもとめて。もて群生を惠利しき。三寶を恭敬し。師長に奉事しき。大莊嚴をもて。衆行を具足して。もろ〳〵の衆生をして功德成就せしめたまへ

り。(已上)無量壽如來會にいはく。佛阿難につげたまはく。かの法處(處字作藏)比丘。世間自在王如來および諸天人魔梵沙門婆羅門等のまへにして。ひろくかくのごときの大弘誓をおこしき。みなすでに成就したまへり。世間に希有にして。この願をおこしをはりて。實のごとく安住す。種々の功德具足して。威德廣大淸淨佛土を莊嚴せり。かくのごときの菩薩の行を修習せるとき。無量無數不可思議無有等々億那由他百千劫をふるうちに。はじめていまだかつて貪瞋および癡欲害恚の想をおこさず。色聲香味觸の想をおこさず。諸の衆生において。つねに愛敬(敬字作欲)をねがふこと。なほし親屬のごとし。(乃至)その性調順(さとのほりしたがひて)にして暴惡(あらくあしきこころ)あることなし。もろ〱の有情において。つねに慈忍の心をいだきて詐諂(いつはりへつらはす)せす。また懈怠なし。善言策進(よきことはをもてはげましすゝみて)して。もろ〱の白法をもとめしむ。あまねく群生の

ために。勇猛（たけくはげしくして）にして退することなく。世間を利益する大願圓滿したまへり。（畧出）光明寺の和尚のたまはく。この雜毒の行を廻してかの佛の淨土に求生せんとおもふは。これかならず不可なり。なにをもてのゆゑに。まさしくかの阿彌陀佛因中に。菩薩の行を行したまひしとき。乃至一念一刹那も。三業の所修みなこれ眞實心のなかになしたまへるによりてなり。おほよそほどこしたまふところ趣求をなす。またみな眞實なり。また眞實に二種あり。一には自利眞實。二には利他眞實なり。（乃至）不善の三業をは。かならず眞實心のうちにすてたまへるをもちゐよ。またもし善の三業をおこさは。かならす眞實心のうちになしたまへるをもちゐて。内外明闇をえらはす。みな眞實をもちゐるかゆゑに。至誠心となつく。（要を鈔す）しかれは大聖の眞言。宗師の釋義。まことにしんぬ。この心すなはちこれ不可思議不

可稱不可說。一乘大智願海廻向利益他の眞實心なり。これを至心となづく。すでに眞實といへり。眞實といふは。涅槃經にいはく。實諦といふは。一道淸淨にして二あることなきなり。眞實といふは。すなはちこれ如來なり。如來はすなはちこれ眞實なり。眞實はすなはち虛空なり。虛空はすなはちこれ眞實なり。眞實はすなはちこれ佛性なり。佛性はすなはちこれ眞實なり。（已上）釋に不能內外明闇といへり。內外といふは。內はすなはちこれ出世なり。外はすなはちこれ世間なり。明闇といふは。明はすなはちこれ出世なり。闇はすなはちこれ世間なり。また明はすなはち智明なり。闇はすなはち無明なり。涅槃經にいはく。闇はすなはち世間なり。明はすなはち出世なり。闇はすなはち無明なり。明はすなはち智明なり。（已上）つぎに信樂といふは。すなはちこれ如來の滿足大悲圓融無碍の信心海なり。この

ゆゑに疑蓋間雜あることなし。かるかゆゑに信樂となつく。すなはち利他廻向の至心をもて信樂の躰とするなり。しかるに無始よりこのかた。一切群生海無明海に流轉し。諸有輪に沈迷(しつみまさふ)し。衆苦輪(くるしみ)に繫縛(つなきしはろ)せられて。清淨の信樂なし。法爾として眞實の信樂なし。こゝをもて無上の功德値遇しかたく。最勝の淨信獲得しかたし。一切凡小。一切時中に。貪愛の心つねによく善心をけかし。瞋憎の心つねによく法財をやく。急作急修して。頭燃をはらふかことくすれとも。すへて雜毒雜修の善となつく。また虛假諂僞の行となつく。眞實の業となつけさるなり。この虛假雜毒の善をもて。無量光明土に生せしと欲する。これかならす不可なり。なにをもてのゆゑに。まさしく如來菩薩の行を行したまひしとき。三業の所修。乃至一念一刹那も。疑蓋ましはることなきによりてなり。この心はす

なはち如來の大悲心なるかゆゑに。かならす報土の正定の因となる。如來苦惱の群生海を悲憐して。無碍廣大の淨信をもて。諸有海に廻施したまへり。これを利他眞實の信心となつく。本願信心の願成就の文。經にのたまはく。あらゆる衆生。その名號をきゝて。信心歡喜せんこと乃至一念せん。(已上)またいはく。他方佛國の所有の衆生。無量壽如來の名號をきゝて。よく一念の淨信をおこして。歡喜せん。(已上)涅槃經にいはく。善男子大慈大悲をなつけて佛性とす。なにをもてのゆゑに。大慈大悲はつねに菩薩にしたかふこと。かけのかたちにしたかふかことし。一切衆生つひにさためてまさに大慈大悲をうへし。このゆゑにときて一切衆生悉有佛性といふなり。大慈大悲はなつけて佛性とす。佛性はなつけて如來とす。大喜大捨をなつけて佛性とす。なにをもてのゆゑに。菩薩摩訶薩はもし二十五有にあたは

す。すなはち阿耨多羅三藐三菩提をうることあたはす。もろ〱の衆生つひにまさにうへきをもてのゆゑなり。このゆゑにときて一切衆生悉有佛性といへるなり。大喜大捨はすなはちこれ佛性なり。佛性はすなはちこれ如來なり。佛性は大信心となつく。なにをもてのゆゑに。信心をもてのゆゑに。菩薩摩訶薩はすなはちよく檀波羅密乃至般若波羅密を具足せり。一切衆生はつひにさためてまさに大信心をうへきかゆゑに。このゆゑにときて一切衆生悉有佛性といふなり。大信心はすなはちこれ佛性なり。佛性はすなはちこれ如來なり。佛性は一子地となつく。なにをもてのゆゑに。一子地の因縁をもてのゆゑに。菩薩はすなはち一切衆生において。平等心をえたり。一切衆生はつひにさためてまさに一子地をうへきかゆゑに。このゆゑにときて一切衆生悉有佛性といふなり。一子地はすなはちこれ佛性

なり。佛性はすなはちこれ如來なり。(已上)またいはく。あるひは阿耨多羅三藐三菩提をとくに。信心を因とす。これ菩提の因また無量なりといへとも。もし信心をとけはすなはちすてに攝盡(おさめつくす)しぬ。(已上)またいはく。信にまた二種あり。一には聞より生す。二には思より生す。このひとの信心。聞よりしてしかも生して思より生せす。このゆゑになつけて信不具足とす。また二種あり。一には道ありと信す。二には得者を信す。このひとの信心たゝ道ありと信して。すへて得道のひとありと信せす。これをなつけて信不具足とす。(已上抄出)華嚴經にいはく。この法をきゝて信心を歡喜して。うたかひなきものは。すみやかに無上道をならん。もろ／＼の如來とひとしと。またいはく。如來よくなかく一切衆生のうたかひをたゝしむ。その心の所樂にしたかひてあまねくみな滿足せしむ。またいはく。信は道のもと

ゝす。功德の母なり。一切のもろ〳〵の善法を長養す。疑網を斷除して。愛流をいてゝ。涅槃無上の道を開示せしむ。信は垢濁（あかにごる）なし。心清淨にして。憍慢を滅除す。恭敬の本なり。また法藏第一のたからとす。淸淨の手として衆行をうく。信はよく惠施して心におしむことなし。信はよく歡喜して佛法にいる。信はよく智功德を增長す。信はよくかならす如來地にいたる。信は諸根をして淨明利ならしむ。信力堅固にしてよく壞することなし。信はよくながく煩惱の本を滅す。信はよくもはら佛の功德にむかへしむ。信は境界において所著なし。諸難を遠離して。無難をえしむ。信はよく衆魔のみちを超出し。無上解脫道を示現せん。信は功德のためにたねをやふらす。信はよく菩提樹を生長す。信はよく最勝智を增益す。信はよく一切佛を示現せん。このゆゑに行によりて次第をとく。信樂最

勝にしてはなはたうることかたし。(乃至)もしつねに諸佛を信奉すれは。すなはちよく大供養を興集す。もしよく大供養を興集すれは。かのひと佛の不思議を信す。もしつねに尊法に信奉すれは。すなはち佛法をきくに厭足なし。もし佛法をきくに厭足なけれは。かのひと法の不思議を信す。もしつねに清淨僧に信奉すれは。すなはち信心退轉せさることをう。もし信心退轉せさることをうれは。かのひとの信力よくうこくことなし。もし信力よくうこくことなきことをうれは。すなはち諸根淨明利なることをう。もし諸根淨明利なることをうれは。すなはち善知識に親近することをう。すなはち善知識に親近することをうれは。すなはちよく廣大の善を修集す。もしよく廣大の善を修集すれは。かのひと大因力を成就す。もしひと大因力を成就すれは。すなはち殊勝決定の解(さとり)をう。もし殊勝決定の解を

うれは。すなはち諸佛のために護念せらる。もし諸佛のために護念せらるれは。すなはちよく菩提心を發起す。もしよく菩提心を發起すれは。すなはちよく佛の功德を勤修せしむ。もしよく佛の功德を勤修すれは。すなはちよくむまれて如來のいへにあり。もしむまれて如來のいへにあることをうれは。すなはち善をして巧方便を修行す。もし善をして巧方便を修行すれは。すなはち信樂の心淸淨なることをう。もし信樂の心淸淨なることをうれは。すなはち增上の最勝心をう。もし增上の最勝心をうれは。すなはちつねに波羅密を修習す。もしつねに波羅密を修習すれは。すなはちよく摩訶衍を具足す。もしよく摩訶衍を具足すれは。すなはちよく法のことく佛を供養せん。もしよく法のことく佛を供養すれは。すなはちよく念佛の心動せす。もしよく念佛の心動せされは。すなはちつねに無量佛を

覩見す。もしつねに無量佛を覩見すれは。すなはち如來の躰常住をみる。もし如來の躰常住をみれは。すなはちよく法なかく不滅なることをしる。もしよく法なかく不滅なることをしれは。辨才無障碍（さいちたえてさはりなきなり）をうることをう。もし辨才無障碍をうれはすなはちよく無邊の法を開演す。もしよく無邊の法を開演すれは。すなはちよく慈愍して衆生を度す。もしよく慈愍して衆生を度すれは。すなはち堅固の大悲心をう。もし堅固の大悲心をうれは。すなはちよく甚深の法を愛樂す。もしよく甚深の法を愛樂すれは。すなはちよく有爲のとかを捨離す。もしよく有爲のとかを捨離すれは。すなはち憍慢およひ放逸をはなる。もし憍慢およひ放逸をはなるれは。すなはちよく一切衆を兼利す。もしよく一切衆を兼利すれは。すなはち生死に處して疲厭なけん。（略抄）論の註にいはく。如實修行相應となづく。

このゆゑに論主はしめに我一心とのたまへり。(已上)またいはく。經のはしめに如是と稱す。信をあらはして能入とす。(已上)つきに欲生といふは。すなはちこれ如來諸有の群生を招喚したまふ勅命なり。すなはち眞實の信樂をもて欲生の躰とするなり。まことにこれ大小凡聖定散自力の廻向にあらす。かるかゆゑに不廻向となつくるなり。しかるに微塵界の有情。煩惱海に流轉し。生死海に漂沒して。眞實の廻向心なし。淸淨の廻向心なし。このゆゑに如來一切苦惱の群生海を矜哀して。菩薩の行を行したまひしとき。三業の所修乃至一念一刹那も。廻向心を首として。大悲心を成就することをえたまへるかゆゑに。利他眞實の欲生心をもて。諸有海に廻施したまへり。欲生すなはちこれ廻向心なり。これすなはち大悲心なるかゆゑに。疑蓋ましはることなし。こゝをもて本願の欲生心成就の文。經にのたまはく。至

心に廻向したまへり。かのくにゝ生せんと願すれは。すなはち往生をえ不退轉に住す。たゝし五逆と誹謗正法とをはのぞく。(已上)またのたまはく。所有の善根廻向したまへるを歡喜愛樂して。無量壽國に生せんと願すれは。願にしたかひてみな生して。不退轉乃至無上正等菩提をう。五無間誹謗正法および謗聖者をのぞく。(已上)淨土論にいはく。いかんか廻向せる。一切苦惱の衆生をすてすして。心につねに作願すらく。廻向を首として。大悲心を成就することをえたまへるかゆゑに。廻向に二種の相あり。一には往相。二には還相なり。往相といふは。おのれか功德をもて。一切衆生に廻施したまひて。作願してともにかの阿彌陀如來の安樂淨土に往生せしめたまふなり。還相といふは。かの土に生しをはりて。奢摩他毗婆舍那方便力成就することをえて。生死の稠林に廻入して。一切衆生を教化して。ともに佛

道にむかへしめたまふなり。もしは往もしは還。みな衆生をぬきて生死海を渡せんかためにしたまへり。このゆゑに廻向爲首得成就大悲心故とのたまへり。(已上)またいはく。淨入願心といふは。論にいはく。またさきに觀察莊嚴佛土功德成就と。莊嚴佛功德成就と。莊嚴菩薩功德成就とをときつ。この三種の成就は。願心莊嚴したまへるなり。しるへし。しるへしといふは。この三種の莊嚴成就は。もと四十八願等の清淨願心の莊嚴したまふところなるによりてなり。因淨なるかゆゑに果淨なり。因なくして他の因のあるにはあらさるなり。(已上)また論にいはく。出第五門といふは。大慈悲をもて一切苦惱の衆生を觀察して。應化の身をしめして。生死のその。煩惱のはやしのなかに廻入して。神通に遊戲し。敎化地にいたる。本願力の廻向をもてのゆゑに。これを出第五門となつくとのたまへり。(已上)光明寺の和尚

のたまはく。また廻向發願してむまるゝものは。かならず決定眞實心のうちに廻向したまへる願をもちゐて。得生の想をなせ。この心ふかく信せること金剛のごとくなるによりて。一切の異見異學別解別行人等のために動亂破壞せられず。たゞこれ決定して一心にとりて正直にすゝんで。かのひとのことはをきくことをえされ。すなはち進退の心ありて怯弱を生し。廻顧すれは道におちてすなはち往生の大益を失するなり。(已上)まことにしんぬ。二河の譬喩のなかに白道四五寸といふは。白道は。白の言は黒に對するなり。白はすなはちこれ選擇攝取の白業。往相廻向の淨業なり。黒はすなはちこれ無明煩惱の黒業。二乘人天の雜善なり。道の言は路に對せるなり。道はすなはちこれ本願一實の直道。大般涅槃無上の大道なり。路はすなはちこれ二乘三乘万善諸行の小路なり。四五寸といふは。衆生の四大

五陰にたとふるなり。能生清淨願心といふは。金剛の眞心を獲得するなり。本願力の廻向の大信心海なるかゆゑに。破壞すへからす。これを金剛のことしとたとふるなり。觀經義に道俗時衆等おの〳〵無上の心をおこせとも。生死はなはたいとひかたく。佛法またねかひかたし。ともに金剛のこゝろさしをおこして。橫に四流を超斷せよ。まさしく金剛の心をうけて。一念に相應してのち。果涅槃をえんひとゝいへり。（要を鈔す）またいはく。眞心徹倒して。苦の娑婆をいとひ。樂の無爲をねかひて。なかく常樂に歸すへし。たゝし無爲のさかひ。輕爾としてすなはちかなふへからす。苦惱の娑婆。輙然（たやすし）としてはなるゝことをうるによしなし。金剛のこゝろさしをおこすにあらずよりは。なかく生死の元をたゝんや。もしまのあたり慈尊にしたかひたてまつらすは。なんぞよくこのなかきなけきをまぬかれん。

またいはく。金剛といふはすなはちこれ無漏の體なり。（上已）まことにしんぬ。至心信樂欲生。そのことはことなりといへとも。そのこゝろこれひとつなり。なにをもてのゆゑに。三心すてに疑蓋ましはることなし。かるかゆゑに眞實の一心。これを金剛の眞心となつく。金剛の眞心これを眞實の信心となつく。眞實の信心はかならす名號を具す。名號はかならすしも願力の信心を具せさるなり。このゆゑに論主はしめに我一心とのたまへり。また如彼名義（かのみやうきのことく）欲如實修行相應故（しちのことくしゆきやうし。そうおうせんとおもふかゆゑにと）とのたまへり。おほよそ大信心海を按すれは。貴賤緇素をえらはす。男女老少をいはす。造罪の多少をとはす。修行の久近を論せす。行にあらす善にあらす。頓にあらす漸にあらす。定にあらす散にあらす。正觀にあらす邪觀にあらす。有念にあらす無念にあらす。尋常にあらす臨終にあらす。多念にあらす

一念にあらず。たゞこれ不可思議不可稱不可說の信樂なり。たとへは阿伽陀藥のよく一切の毒を滅するかことし。如來誓願のくすりはよく智愚の毒を滅するなり。しかるに菩提心について二種あり。一には竪。二には横なり。また竪についてまた二種あり。一には竪超、二には竪出なり。竪超竪出は權實顯密大小の敎をあかす。歷劫迂廻の菩提心。自力の金剛心。菩薩の大心なり。また横についてまた二種あり。一には横超。二には横出なり。横出といふは。正雜定散他力のなかの自力の菩提心なり。横超といふは。これすなはち願力廻向の信樂。これを願作佛心といふ。願作佛心すなはちこれ横の大菩提心なり。これを横超の金剛心となつくるなり。横竪の菩提心。そのことはひとつにして。そのこゝろことなりといへとも。入眞を正要とす。眞心を根本とす。邪雜をあやまりとす。疑情を失とするな

り。忻求淨刹の道俗。ふかく信不具足の金言を了知し。なかく聞不具足の邪心をはなるへきなり。論の註にいはく。王舍城所說の無量壽經を按するに。三輩生のなかに。行に優劣ありといへとも。みな無上菩提の心を發せさるはなし。この無上菩提心はすなはちこれ願作佛心なり。願作佛心はすなはちこれ度衆生心なり。度衆生心はすなはちこれ衆生を攝取して有佛の國土に生せしむる心なり。此ゆゑにかの安樂淨土に生せんと願するものは。かならす無上菩提心を發するなり。もしひと無上菩提心を發せすして。たゝかの國土の受樂ひまなきをきゝて。樂のためのゆゑに生せんと願せん。またまさに往生をえさるへきなり。このゆゑにいふこゝろは自身住持の樂をもとめす。一切衆生の苦をぬかんとおもふかゆゑに。住持の樂といふは。いはくかの安樂淨土は。阿彌陀如來の本願力のために住持せら

れて。受樂ひまなきなり。おほよそ迴向の名義を釋せは。いはくおのれか所集の一切の所德をもて。一切衆生に施與したまひて。ともに佛道にむかへしめたまふなり。（抄出）元照律師のいはく。他のなすことあたはさるかゆゑに甚難なり。世こそりていまたみたてまつらさるかゆゑに希有なりといへり。またいはく。念佛の法門は。愚智豪賤をえらはす。久近善惡を論せす。たゝ決誓猛信をとれは。臨終惡相なれとも十念に往生す。これすなはち具縛の凡愚居沽の下類。刹那に成佛の法を超越す。世間甚難信といふへきなり。またいはく。この惡世にして修行成佛するを難とするなり。もろ〱の衆生のために。この法門をとくをふたつの難とするなり。さきの二難をうけて。すなはち諸佛所讃のむなしからさるこゝろをあらはす。衆生さゝてしかも信受せしめよとなり。（已上）律宗の用欽のいはく。法の難をとく

なかに。まことにもてこの法凡を轉して聖となすこと。なをしたなこゝろをかへすかごとくなるをや。おほきにこれやすかるへきかゆゑに。おほよそあさき衆生はおほく疑惑を生せん。すなはち大本に易往而無人といへり。かるかゆゑにしんぬ難信なりと。聞持記にいはく。愚智をえらはすといふは。性に利鈍あり。豪賤をえらはすといふは。報に强弱あり。久近を論せすといふは。功に淺深あり。善惡をえらはすといふは。行に好醜あり。決誓猛信をとれは。臨終惡相なれともといふは。すなはち觀經の下品中生に。地獄の衆火一時にともにいたると等いへり。具縛の凡愚といふは。二惑またくあるかゆゑに。屠沽の下類。刹那に戍佛の法を超越す。一切世間甚難信といふべきなりといふは。屠はいはく宰利（ころすこさを　つかさゝる）沽はすなはち醞賣。かくのことさの惡人。たゝ十念によりてすなはち超往をう。あに

難信にあらずや。　阿彌陀如來は眞實明・平等覺・難思議・畢竟依・大應供・大安慰・無等々・不可思議光と號したてまつる。(上巳)樂邦文類の後序にいはく。淨土を修するものつねにおほけれとも。　その門をえてしかもたゝちにいたるものいくはくもなし。　淨土を論するものつねにおほけれとも。　その要をえてしかもたゝちにをしふるものあるひはすくなし。かつていまたきかす自障自蔽をもて説をなすとあるもの。　うるによりてもてこれをいふ。　それ自障は愛にしくなし。　自蔽は疑にしくなし。　たゝし疑愛の二心つひに障礙なからしむるは。　すなはち淨土の一門なり。　いまたはしめて間隔せす。　彌陀の洪願つねにをのつから攝持(おさめたもちたまふ)したまふ必然の理(ことはり)なり。(上巳)

顯淨土眞實信文類三　本

顯淨土眞實信文類三 末

愚禿釋の親鸞集

それ眞實信樂を案するに。信樂に一念あり。一念といふは。これ信樂開發の時尅の極促をあらはし。廣大難思の慶心をあらはす。こゝをもて大經にのたまはく。あらゆる衆生。その名號をきゝて。信心歡喜せんこと。乃至一念せん。至心に廻向したまへり。かのくにゝ生ぜんと願ずれは。すなはち往生をえ。不退轉に住せん。またのたまはく。他方佛國の所有の衆生。無量壽如來の名號をきゝて。よく一念の淨信をおこして。歡喜愛樂せん。またのたまはく。その佛の本願力。みなをきゝて往生せんとおもはん。またのたまはく。佛の

聖德の名をきく。(已上)涅槃經にいはく。いかなるをかなつけて聞不具足とする。如來の所說は十二部經なり。たゞ六部を信して。いまた六部を信せす。このゆゑになつけて聞不具足とす。またこの六部の經を受持すといへども。六部の經を讀誦にあたはすして。他のために解說するは利益するところなし。このゆゑになつけて聞不具足とす。またこの六部の經をうけをはりて。論義のためのゆゑに。勝他のためのゆゑに。利養のためのゆゑに。諸有のためのゆゑに。持讀誦說せん。このゆゑになつけて聞不具足とす。(已上)光明寺の和尚は。一心專念といふ。また專心專念といへり。(已上)しかるに經に聞といふは。衆生佛願の生起本末をきゝて。疑心あることなし。これを聞といふなり。信心といふは。すなはち本願力廻向の信心なり。歡喜といふは。身心の悅豫のかほはせをあらはす貌なり。乃至といふは。多少を攝す

ることはなり。一念といふは。信心二心なきかゆゑに一念といふ。これを一心となつく。一心はすなはち清淨報土の眞因なり。金剛の眞心を獲得するものは。横に五趣八難の道をこえて。かならす現生に十種の益をう。なにものをか十とする。一には冥衆護持の益。二には至德具足の益。三には轉惡成善の益。四には諸佛護念の益。五には諸佛稱讃の益。六には心光常護の益。七には心多歡喜の益。八には知恩報德の益。九には常行大悲の益。十には入正定聚の益なり。

宗師の專念といへるは。すなはちこれ一行なり。專心(一本作一念)といへるはすなはちこれ一心なり。しかれは願成就の一念はすなはちこれ專心なり。專心はすなはちこれ深心なり。深心はすなはちこれ深信なり。深信はすなはちこれ堅固深信なり。堅固深信はすなはちこれ決定心なり。決定心はすなはちこれ無上々心なり。無上々心はすなは

ちこれ眞心なり。眞心はすなはちこれ相續心なり。相續心はすなはちこれ淳心なり。淳心はすなはちこれ憶念なり。憶念はすなはちこれ眞實の一心なり。眞實の一心はすなはちこれ大慶喜心なり。大慶喜心はすなはちこれ眞實信心なり。眞實信心はすなはちこれ金剛心なり。金剛心はすなはちこれ願作佛心なり。願作佛心はすなはちこれ度衆生心なり。度衆生心は即はちこれ衆生を攝取して。安樂淨土に生せしむる心なり。この心すなはちこれ大菩提心なり。この心すなはちこれ大慈悲心なり。この心すなはちこれ無量光明惠によりて生するかゆゑに。願海平等なるかゆゑに發心ひとし。發心ひとしきかゆゑに道ひとし。道ひとしきかゆゑに大慈悲ひとし。大慈悲はこれ佛道の正因なり。かるかゆゑに論の註にいはく。かの安樂淨土にむまれんと願するものは。かならす無上菩提心を發するなり。また

いはく。是心作佛といふは。いふこゝろは心よく佛になるなり。是心是佛といふは。心のほかに佛ましまさすとなり。たとへは火木よりいてゝ。火木をはなるゝことをえす。木をはなれさるをもてのゆゑに。すなはちよく木をやく。木火のためにやかれて。木すなはち火となるかことし。光明のいはく。この心作佛す。この心これ佛なり。心のほかに異佛ましまさす。(上已)かるかゆゑにしんぬ。一心これを如實修行相應となつく。すなはちこれ正敎なり。これ正義なり。これ正行なり。これ正解なり。これ正業なり。これ正智なり。三心すなはち一心なり。一心すなはち金剛眞心の義こたへをはんぬ。しるへし。止觀の一にいはく。菩提といふは天竺のことは。こゝには道と稱す。質多といふは天竺のことなり。この方には心といふ。心といふはすなはち慮知なり。(上已)横超斷四流といふは。横超は。横といふは堅超堅

出に對す。超といふは迂に對し迴に對することはなり。竪超といふは。大乘眞實の敎なり。竪出といふは。大乘權方便の敎。二乘三乘迂迴の敎なり。横超といふは。すなはち願成就一實圓滿の眞敎眞宗これなり。また横出あり。すなはち三輩九品定散の敎。化土懈慢迂迴の善なり。大願淸淨の報土には。品位階次をいはす。一念須臾の頃に。速にとく無上正眞道を超證す。故に横超といふ。大本にのたまはく。無上殊勝の願を超發す。またのたまはく。われ超世の願をたつ。かならす無上道にいたらん。名聲十方にこえて。究竟してきこゆるところなくは。ちかふ正覺をならし。またのたまはく。かならす超絕してすつることをえて。安養國に往生せよ。横に五惡趣をきり。惡趣自然にとちん。道にのぼるに窮極なし。ゆきやすくしてしかもひとなし。その國逆違せす。自然のひくところなり、(已上)大阿彌

陀經（支謙三藏の譯なり）にのたまはく。超絶してすつることをうへし。阿彌陀佛國に往生すれは。横に五惡道をきりて。自然に閉塞す。道にのほることきはまりなし。ゆきやすくしてひとあることなし。そのくに逆違せす。自然のひくところなり。（已上）斷といふは。往相の一心を發起するかゆゑに。生としてまさにうくへき生なし。趣としてまたいたるへき趣なし。すてに六趣四生因亡し果滅す。かるかゆゑにすなはち頓に三有の生死を斷絶す。かるかゆゑに斷といふなり。四流はすなはち四暴流（あらきなかれ）なり。また生老病死なり。大本にのたまはく。かならすまさに佛道をなりて。ひろく生死のなかれを度すへし。またのたまはく。かならすまさに世尊となりてまさに一切の生老死を度せんとすへし。（已上）涅槃經にいはく。また涅槃は。なつけて洲渚とす。なにをもてのゆゑに。四大の暴河にたゝよふことあたはさるかゆゑ

に。なんらを四とする。一には欲暴。二には有暴。三には見暴。四には無明暴なり。このゆゑに涅槃をなつけて洲渚とす。（上已）光明寺の和尚のいはく。もろ〳〵の行者にまうさく。凡夫の生死貪していとはすはあるへからす。彌陀の淨土かろしめてねかはすはあるへからす。いとへはすなはち娑婆なかくへたつ。ねかへはすなはち淨土につねに居す。へたつれはすなはち六道の因亡し。輪廻の果をのつから滅す。因果すてに亡して。すなはちかたちと名と頓にたえぬるをや。またいはく。あふきねかはくは一切往生人等。よくみつからをのれか能を思量せよ。今身にかのくにゝ生せんとねかはんものは。行住坐臥に。かならすすへからく心をはけましをのれを尅（せめ）して晝夜に廢することなかるへし。畢命を期として。かみ一形にあるは。すこしきくるしきににたれとも。前念に命終して。後念にすなはちか

のくにゝ生して。長時永刧につねに無爲の法樂をうく。乃至成佛まてに生死をへす。あにたのしみにあらすや。しるへし。(上巳)眞の佛弟子といふは。眞の言は。僞に對し假に對するなり。弟子といふは。釋迦諸佛の弟子なり。金剛心の行人なり。この信行によりて。かならす大涅槃を超證すへきかゆゑに眞の佛弟子といふ。大本にのたまはく。たとひわれ佛をえたらんに。十方無量不可思議の諸佛世界の衆生の類。わか光明をかうふりて。その身にふるゝもの。身心柔輭にして。人天に超過せん。もししからすは正覺をとらし。たとひわれ佛をえたらんに。十方無量不可思議の諸佛世界の衆生の類。わか名字をきゝて。菩薩の無生法忍もろ〳〵の深總持をえすといはゝ正覺をとらし。(上巳)無量壽如來會にいはく。もしわれ成佛せんに。周徧十方無量無邊不可思議無等界の有情のともから。佛の威光をかうふりて

照觸せらるゝもの身心安樂にして。人天に起過せん。もしからすは菩提をとらし。(上巳)またいはく。法をきゝてよくわすれす。みてうやまひえておほきによろこはゝ。すなはちわかよき親友なり。またいはく。それ至心ありて安樂國に生せんと願するものは。智慧あきらかに達し功德殊勝なることをうへし。また廣大勝解者とのたまへり。またかくのことときちの類。大威德のものはよく廣大異門に生すとのたまへり。またいはく。もし念佛するものは。まさにしるへしこのひとはこれ人中の分陀利華なり。(上巳)安樂集にいはく。諸部の大乘によりて。說聽の方軌をあかさは。大集經にいはく。說法のひとにおいては。醫王のおもひをなせ。拔苦のおもひをなせ。所說の法をは。甘露のおもひをなせ。醍醐のおもひをなせ。それ聽法のひとは。增長勝解のおもひをなせ。愈病のおもひをなせ。もしよくかくのこと

くならは。説者聴者みな佛法を紹隆するにたへたり。つねに佛前に生せん。(乃至)涅槃經によるに。佛ののたまはく。もしひとたゝよく至心をもて。つねに念佛三昧を修すれは。十方の諸佛つねにこのひとをみそなはすこと。現にまへにましますかことし。このゆゑに涅槃經にいはく。佛迦葉菩薩につけたまはく。もし善男子善女人ありて。つねによく心をいたしもはら念佛するひとは。もしは山林にもあれ。もしは聚落にもあれ。もしは晝もしは夜。もしは坐もしは臥。諸佛世尊つねにこのひとをみそなはすこと。目のまへに現するかことし。つねにこのひとのためにしかも受施をなさん。(乃至)大智度論によるに。三番の解釋あり。第一には。佛はこれ無上法王なり。菩薩は法臣とす。たうとくするところおもんするところ。たゝ佛世尊なり。このゆゑにまさにつねに念佛すへきなり。第二には。もろ〳〵の菩薩あ

りてみつからいはく。われ曠劫よりこのかた。世尊われらか法身智身大慈悲身を長養したまふことをかうふることをえたりき。禪定智慧。無量の行願。佛によりて成することをえたり。報恩のためのゆゑに。つねに佛にちかつかんことを願す。また大臣の王の恩寵をかうふりて。つねにその王をおもふかことし。第三には。もろ〳〵の菩薩ありて。またこの言をなさく。われ因地にして。惡知識にあふて。般若を誹謗して惡道に墮しき。無量劫をへて。餘行を修すといへともいまたいつることあたはす。のちに一時において。善知識のほとりによりしに。われをしへて念佛三昧を行せしむ。そのときにすなはちよく。しかしながらもろ〳〵のさはりをして。まさに解脱することをえしめたり。この大益あるかゆゑに願して佛をはなれす。(乃至)大經にのたまはく。おほよそ淨土に往生せんとおもはゝ。かなら

す發菩提心をもちゐるをみなもとゝす。いかんとなれは菩提はすなはちこれ無上佛道の名なり。もし發心作佛せんとおもはゝ。この心廣大にして法界に周徧せん。この心長遠にして未來際をつくす。この心あまねくつふさに二乘のさはりをはなる。もしよくひとたひ發心すれは。無始生死の有輪をかたふく。(乃至)大悲經にいはゝ。いかんそなつけて大悲とする。もしもはら念佛相續してたえされは。その命終にしたかひて。さためて安樂に生せん。もしよく展轉してあひすゝめて念佛を行せしむるは。これらをこと〲く大悲を行するひとゝなつく。(已上要を抄す)光明師のいはく。たゝうらむらくは衆生のうたかふましきをうたかふことを。淨土對面してあひたかはす。彌陀の攝と不攝とを論することなかれ。こゝろ專心にして迴すると迴せさるとにあり。(乃至)あるひはいはく。今より佛果にいたるまて。長劫に佛をほ

めて慈恩を報せん。彌陀の弘誓のちからをかうふらすは。いつれのときいつれの刧にか娑婆をいてん（乃至）いかんか今日寶國にいたることを期せん。まことにこれ娑婆本師のちからなり。もし本師智識のすゝめにあらすは。彌陀の淨土いかんしてかいらん。またいはく。佛世はなはたまうあひかたし。ひと信惠あることかたし。たま〱希有の法をきくことこれまたもともかたしとす。みつから信しひとををしへて信せしむること。かたきかなかにうたゝまたかたし。大悲ひろくあまねく化する。まことに佛恩を報するになる。またいはく。彌陀の身色は金山のことし。相好の光明は十方をてらす。たゝ念佛のものゝみありて光攝をかうふる。まさにしるへし本願もとも強しとす。十方の如來したをのへて證したまふ。もはら名号を稱して西方にいたる。かの華臺にいたりて妙法をきく。十地の願行自然にあ

らはる。またいはく。たゝ阿彌陀佛を專念する衆生のみありて。かの佛心のひかりつねにこのひとをてらして。攝護して。すてたまはす。すへて餘の雜業の行者を照攝することをは論せす。これまたこれ現生護念增上緣なり、（已上）またいはく。心歡喜得忍といふは。これ阿彌陀佛國の清淨の光明。たちまちにまなこのまへに現せん。なんそ踊躍にたへん。この喜によるかゆゑに。すなはち無生の忍をうることとをあかす。また喜忍となつく。また悟忍となつく。また信忍となつく。これすなはちはるかに談す。いまた得處をあらはさす。夫人をしてひとしく心にこの益をねかはしめんとおもふ。勇猛專精にして。心にみんとおもふとき。まさに忍をさとるへし。これおほくこれ十信のなかの忍なり。解行已上の忍にはあらさるなり。またいはく。若念佛者よりしも生諸佛家にいたるこのかたは。まさしく念佛三昧

の功能超絶して。まことに雑善をして。比類とするとをうるにあらさることをあらはす。すなはちその五、あり。一には彌陀佛名を専念することをあかす。二には能念のひとを指讃することをあかす。三にはもしよく相續して念佛するひと。このひとはなはだ希有なりとす。さらにものとして。もてこれにたくらふへきことなきことをあかす。かるかゆゑに分陀利をひきてたとへとす。分陀利といふは人中の好華となつく。また希有華となつく。また人中の上々華となつく。また人中の妙好華となつく。この華あひつたへて蔡華となつくるこれなり。もし念佛のひとはすなはちこれ人中の好人なり。人中の妙好人なり。人中の上々人なり。人中の希有人なり。人中の最勝人なり。四には彌陀のみなを専念するひとは。すなはち観音勢至つねにしたかひて影護したまふこと。また親友知識のことくなることをあ

かす。五には今生にすてにこの益をかうふれり。いのちをすてゝすなはち諸佛のいへにいることをあかす。すなはち淨土これなり。かしこにいたりて長時に法をきゝ。歴事供養せん。因まとかに果滿す。道場の座あにはるかならんや。(上已)王日休かいはく。われ無量壽經をきくに。衆生この佛名をきゝて。信心歡喜せんこと乃至一念せんもの。かのくにゝ生せんと願すれは。すなはち往生をえ。不退轉に住すと。不退轉は。梵語にはこれを阿惟越致といふ。法華經にはいはく。彌勒菩薩の所得の報地なり。一念往生すなはち彌勒におなし。佛語むなしからす。この經はまことに往生の經術。脱苦の神方なり。みな信受すへし。(上已)大經にのたまはく。佛彌勒につけたまはく。この世界より。六十七億の不退の菩薩ありて。かのくにゝ往生せん。一々の菩薩はすてにむかし無數の諸佛を供養せりき。ついて彌勒のこ

とし。またいはく。佛彌勒につけたまはく。この佛土のなかに七十二億の菩薩あり。かれは無量億那由佗百千の佛のみもとにして。もろ〳〵の善根をうゑて。不退轉を成せるなり。まさにかのくにゝ生すへし。（抄出）律宗の用欽師のいはく。いたれること華嚴の極唱法華の妙談にしかんや。かつはいまた普授あることをみす。衆生一生にみな阿耨多羅三藐三菩提の記をうることは。まことにいふところの不可思議功德の利なり。（已上）まことにしんぬ。彌勒大士は等覺の金剛心をきはむるかゆゑに。龍華三會のあかつき。まさに無上覺位をきはむへし。念佛の衆生は橫超の金剛心をきはむるかゆゑに。臨終一念のゆふへ。大般涅槃を超證す。かるかゆゑに便同といふなり。しかのみならす。金剛心をうるものは。すなはち韋提とひとしくすなはち喜悟信の忍を獲得すへし。これすなはち往相廻向の眞心徹到するか

ゆゑに、不可思議の本誓によるかゆゑなり。禪宗の智覺念佛の行者をほめていはく。まれなるかな。佛力難思なれは。古今もいまたあらす。律宗の元照師のいはく。嗚呼教觀にあきらかなること。たれか智者にしかんや。をはりにのそんて觀經を擧し。淨土を讚してなかく逝きき。法界に達せること。たれか杜順にしかんや。四衆をすゝめ佛陀を念して。勝相を感して西にゆきゝ。禪にましはり性をみること。たれか高玉智覺にしかんや。みな社をむすひ佛を念して。ともに上品にのほりき。業儒才ある。たれか劉雷柳子厚白樂天にしかんや。しかるにみな筆をとりまことを書して。かの土に生せんと願しき。(已上)假といふは。すなはちこれ聖道の諸機。淨土の定散の機なり。かるかゆゑに光明師のいはく。佛教多門にして八万四なり。まさしく衆生の機の不同なるかためなり。またいはく。方便の假門ひ

としくしてことなることなし。またいはく。門々不同なるを漸教となつく。万劫苦行して無生を證す。(已上)僞といふはすなはち六十二見。九十五種の邪道これなり。涅槃經にいはく。世尊つねにときたまはく。一切のほかは九十五種をまなびてみな惡道におもむく。(已上)光明師ののたまはく。九十五種みな世をけかす。たゞ佛の一道のみひとり清閑(きよくみやびかなり)なり。(已上)まことにしんぬ。かなしきかな。愚禿鸞愛欲の廣海に沈沒し。名利の大山に迷惑して。定聚のかずにいることをよろこばす。眞證の證にちかつくことをたのします。はつへしいたむへし。それ佛難治の機をとくとして。涅槃經にいはく。迦葉世に三人あり。そのやまひ治しかたし。一には謗大乘。二には五逆罪。三には一闡提なり。かくのごときの三病。世のなかに極重なり。こと〱く聲聞緣覺菩薩のよく治するところにあらす。善男子。たと

へは病ひあれはかならす死するに治なからんに。もし瞻病隨意の醫藥あらんかことし。もし瞻病隨意の醫藥なからん。かくのことき やまひさためて治すへからす。まさにしるへし。このひとかならす死せんとうたかはす。善男子。この三種のひとまた〳〵かくのことし。佛菩薩にしたかひて聞治(治字作法)をえをはりて。すなはちよく阿耨多羅三藐三菩提心を發せん。もし聲聞緣覺菩薩ありて。あるひは法をときあるひは法をとかさるあらん。それをして阿耨多羅三藐三菩提心を發せしむることあたはす。(已上)またいはく。そのときに王舍大城に阿闍世王あり。その性弊惡にして。よく殺戮を行す。口の四惡貪恚愚癡を具して。その心熾盛なり。(乃至)しかるに眷屬のために。現世の五欲の樂に貪著するかゆゑに。父の王のつみなきに。よこさまに逆害を加す。父を害するによりておのれか心に悔熱を生す。(乃至)心悔熱す

るかゆゑに徧躰にかさを生す。そのかさ臭穢にして。附近すへからす。すなはちみつから念言すらく。われいまこの身にすてに華報をうけたり。地獄の果報まさにちかつきてとをからすとす。そのときにその母韋提希后。種々のくすりをもてしかもためにこれをぬる。そのかさつひに増すれとも降損あることなし。王すなはち母にまうさく。かくのことききのかさは心よりして生せり。四大よりおこれるにあらす。もし衆生よく治することありといはゝ。このことはりあることなけんと。ときに大臣あり。日月稱となつく。王のところに徃至して。一面にありてたちてまうしてまうさく。大王なんかゆゑそ愁悴して。顔容よろこはさる。身いたむとやせん。心いたむとやせんと。王臣にこたへていはまく。われいま身心あにいたまさることをえんや。わか父つみなきに。よこさまに逆害を加す。われ智者

にしたかひて。かつてこの義をきゝき。世に五人あり。地獄をまぬかれすと。いはく五逆罪なり。われいますてに無量無邊阿僧祇のつみあり。いかんそ身心をしていたまさることをえん。また良醫のわか身心を治せんものなけんと。臣大王にまうさく。おほきに愁苦することなかれと。すなはち偈をときていはく。もしつねに愁苦せは。うれへつひに増長せん。ひとねふりをこのめは。ねふりすなはちしけくおほきかことし。婬を貪し酒をたしなむも。また〱かくのことし。王のたまふところのことき。世に五人あり。地獄をまぬかれすとは。たれかゆきてこれをみてきたりて王にかたるや。地獄といふは。たゝちにこれ世間におほく智者とかく。王ののたまふところのことし。世に良醫の身心を治するものなけん。いま大醫あり。富蘭那となつく。一切知見して自在をえて。さためて畢竟して清淨梵

行を修習して。つねに無量無邊の衆生のために。無上涅槃の道を演説す。もろ〳〵の弟子のために。かくのごときの法をとけり。黒業あることなけれは。黒業の報なし。白業あることなけれは。白業の報なし。黒白業なけれは黒白業の報なし。上業および下業あることなし。この師いま王舍城のうちにいます。やゝねかはくは大王屈駕してかしこにゆけ。この師をして身心を療治せしむへしと。ときに王こたへていはまく。あきらかによくかくのごときわか罪を滅除せは。われまさに歸依すへし。またひとりの臣あり。なつけて藏德といふ。また王のところにゆきて。しかもこの言をなさく。大王なんかゆゑそ面貌憔悴して。脣口乾燥し。音聲微細なるや。(王乃)なんのくるしむところありてか。身いたむとやせん。心いたむとやせん。王すなはちこたへていはく。われいま身心いかんそいたまささらん。われ

癡盲にして惡目（一本作慧目）あることなし。もろ〳〵の惡友にちかつきて。ためによく提婆達多惡人のことはにしたかひて。正法の王によこさまに逆害を加す。われむかし智人の偈説せしをきゝき。もし父母佛をよひ弟子において。不善の心を生し。惡業をおこさん。かくのごときの果報。阿鼻獄にありと。この事をもてのゆゑに。われをして心怖して大苦惱を生せしむ。また良醫のありてしかも救療せらるゝことなけんと。大臣またいはく。やゝねかはくは大王しはらく愁怖することなかれ。法に二種あり。一には出家。二には王法なり。王法といふは。いはくその父を害せり。すなはち王國土。これ逆なりといふといへとも。實につみあることなけん。伽羅々虫のかならす母のはらをやふりて。しかうしてのちにいまし生するかことし。生の法かくのことし。母の身をやふるといへとも。實にまたつみなし。螺腹

の懐姙等また〱かくのことし。治國の法。法としてかくのごとくなるへし。父兄を殺すといへとも實につみあることなし。出家の法は。乃至蚊蟻殺するまたつみあり。(乃至)王のゝたまふところのことし。世に良醫の身心を治するものなけん。いま大師あり。末伽梨狗舍梨子となつく。一切知見して。衆生を憐愍すること。なをし赤子のことし。すてに煩惱をはなれて。よく衆生の三毒の利箭をぬく。(乃至)この師いま王舍大城にいます。やゝねかはくは大王そのところに徃至して。王もし見は衆罪消除せんと。ときに王こたへていはく。あきらかによくかくのこときわかつみを滅除せは。われまさに歸依すへしと。またひとりの臣あり。なつけて實德といふ。また王のところにいたりて。すなはち偈をときていはく。大王なんかゆゑぞ。身に瓔珞をぬき。かうへのかみ蓬亂せる。乃至かくのことくなるや(乃至)こ

れ心いたむとやせん。身いたむとやせんと。王すなはちこたへていはく。われいま身心あにいたまさることをえんや。わか父先王慈愛仁惻して。ことにみて矜念せり。實につみなし。ゆきて相師にとふ。相師こたへてまうさく。この兒むまれをはりて。さためてまさに父を害すへしと。この語をきくといへとも。なをみて瞻養す。むかし智者のかくのことき言をなすことをきゝき。もしひと母に通し。およひ比丘尼をけかし。僧祇物をぬすみ。無上菩提心をおこせるひとを殺し。およひその父を殺せん。かくのことき必定してまさに阿鼻地獄に墮すへしと。われいま身心あにいたまさることをえんや。大臣またいはく。やゝねかはくは大王また愁苦することなかれ。(王乃)一切衆生みな餘業あり。業縁をもてのゆゑに。しは〳〵生死をうく。もし先生に餘業あらしめは。王いまこれを殺せん。つひにな

んのつみかあらん。やゝねかはくは大王。こゝろをゆたかにしてうれふることなかれ。なにをもてのゆゑに。もしつねに愁苦すれは。うれへつひに増長す。ひとねふりをこのめは。ねふりすなはちしけくおほきかことし。婬を貪し酒をたしなむもまた〳〵かくのことし。乃至刪闍耶毘羅胝子またひとりの臣あり。悉知義となつく。すなはち王のところにいたりて。かくのことき の言をなさく。乃至王すなはちこたへていはく。われいま身心あにいたみなきことをえんや。乃至先王つみなきに。よこさまに逆害を興す。われまたむかし智者のときていひしをきゝき。もしひと父を害することあれは。まさに無量阿僧祇刧において大苦惱をうくへしと。われいまひさしからすしてかならす地獄に墮せん。また醫のわかつみを救療することなけん。大臣すなはちいはく。やゝねかはくは大王愁苦を放捨せよ。王きかすや。

むかし王ありき。なつけて羅摩といひき。その父を害しをはりて。王位をつくことをえたりき。跋提大王。毗樓眞王。那睺沙王。迦帝迦王。毗舍佉王。月光明王。日光明王。愛王。持多人王。かくのごときらの王。みなその父を害して。王位をつくことをえたりき。しかるにひとりとして王の地獄にいるものなし。いま現在に。毗瑠璃王。優陀耶王。惡性王。鼠王。蓮華王。かくのごときらの王。みなその父を害せりき。こと〱くひとりとして王の愁惱を生するものなし。地獄餓鬼天中といふといへとも。たれかみるものあるや。大王。たゝしふたつの有あり。一には人道。二には畜生なり。このふたつありといへとも。因緣生にあらす。因緣死にあらす。もし因緣にあらすはなにものか善惡あらん。やゝねかはくは大王愁怖をいたくことなかれ。なにをもてのゆゑに。もしつねに愁苦すれは。うれ

へつひに増長す。ひとねふりをこのめは。ねふりすなはちしけくおほきかてとし。婬を貪し酒をたしなむもまた〳〵かくのことしと。(乃至)阿耆多翅金欽婆羅。(乃至)また大臣あり。なつけて吉德といふ。(乃至)地獄といふは。なんの義ありとかせん。臣まさにこれをとくへし。地は地になつく。獄は破になつく。地獄を破せん。罪報あることなけん。これを地獄となつく。また地は人になつく。獄は天になつく。その父を害するをもてのゆゑに。人天にいたらん。この義をもてのゆゑに。婆蘇仙人となへていはく。羊を殺して人天の樂をう。これを地獄となつく。また地は命になつく。獄は長になつく。かの壽命の長を殺するをもてのゆゑに地獄となつく。大王。このゆゑにまさにしるへし。實に地獄なけん。大王。麥をうゑて麥をえ。稻をうゑて稻をうるかことし。地獄を殺してはかへりて地獄をえん。人を殺害しては

かへりて人をうへし。大王いままさに臣の所説をきくに實に殺害なかるへし。もし有我ならは。實にまた害なし。もし無我ならは。また害するところなけん。なにをもてのゆゑに。もし有我ならはつねに變易なし。常住をもてのゆゑに。殺害すへからす。不破不壞。不繫不縛。不瞋不喜はなをし虛空のことし。いかんそまさに殺害のつみあるへき。もし無我ならは。諸法無常なり。無常をもてのゆゑに。念々に壞滅す。念々に滅するかゆゑに。殺者死者みな念々に滅す。もし念々に滅せは。たれかまさにつみあるへき。大王火木をやくに火すなはちつみなきかことし。斧樹をきるに斧またつみなきかことし。鎌くさをかるに鎌實につみなきかことし。かたな人をころすにかたな實に人にあらす。かたなすてにつみなきかことし。ひといかんそつみあらんや。毒ひとをころすに毒實に人にあらす。毒藥つみ

ひとにあらさるかことし。いかんそつみあらんや。一切萬物みなまたかくのことし。實に殺害なけん。いかんそつみあらん。やゝねかはくは大王愁苦を生することなかれ。なにをもてのゆゑに。もしつねに愁苦せは。うれへつひに增長せん。ひとねふりをこのめは。ねふりすなはちしけくおほきかことし。婬を貪し酒をたしなむもまたくかくのことし。いま大師あり。迦羅鳩駄迦旃延となつく。(乃至)またひとりの臣あり。無所畏となつく。(乃至)いま大師あり。尼乾陀若犍子となつく。(乃至)そのときに大醫あり。なつけて耆婆といふ。王のところに往至して。まうしてまうさく。大王いつくんそねふることをえんやいなやと。王偈をもてこたへていはく。(乃至)耆婆われいまやまひおもし。正法の王において。惡逆害をおこす。一切良醫。妙藥呪術善巧瞻病の治することあたはさるところなり。なにをもてのゆゑに。わか父、

法王法のことくにをおさむ。實につみなし。よこさまに逆害を加す。魚のくかに處するかことし(乃至)われむかし智者のときていひしをきゝき。身口意業。もし清淨ならすは。まさにしるへし。このひとかならす地獄に墮せんと。われまたかくのことし。いかんそまさに安穩にねふることをうへきや。いまわれまた無上の大醫なし。法藥を演說せんに。わか病苦をのそきてんやと。耆婆こたへていはく。よきかなく〵。王。つみをなすといへとも。心に重悔を生して。しかも慙愧をいたけり。大王。諸佛世尊つねにこの言をときたまはく。ふたつの白法あり。よく衆生をたすく。一には慙。二には愧なり。慙はみつからつみをつくらす。愧は他ををしへてなさしめす。慙はうちにみつから羞恥す。愧は發露してひとにむかふ。慙は人にはつ。愧は天にはつ。これを慙愧となつく。無慙愧は。なつけて人とせす。

なつけて畜生とす。慙愧あるかゆゑにすなはちよく父母師長を恭敬す。慙愧あるかゆゑに。父母兄弟姉妹あることをとく。よきかな大王。つふさに慙愧あり。(乃至)王ののたまふところのことし。よく治するものなけん大王まさにしるへし。迦毗羅城に淨飯王の子。姓は瞿曇氏。悉達多となつく。師なくして覺悟せり。自然にして阿耨多羅三藐三菩提をえたり。(乃至)これ佛世尊なり。金剛智まし〳〵てよく衆生の一切惡罪を破せしむ。もしあたはすといはゝこのことはりあることなけんと。(乃至)大王如來に弟提婆達多といふひとあり。衆僧を破壞し。佛身より血をいたし。蓮華比丘尼を害す。三逆罪をつくれり。如來ために種々の法要をときたまふに。その重罪をしてすなはち微薄なることをえしめたまふ。このゆゑに如來を大良醫とす。六師にはあらさるなり。(乃至)大王。一逆をつくれはすなはちつふさにかくのことき の一

罪をうく。もし二逆罪をつくらは。すなはち二倍ならん。五逆つふさならは。罪もまた五倍ならん。大王いまさためてしんぬ。王の惡業かならすまぬかるゝことをえし。やゝねかはくは大王すみやかに佛のみもとにまうつへし。佛世尊をのそきて。餘はよくすくふことなけん。われいま汝をあはれむかゆゑに。あひすゝめてみちひくなりと。そのときに大王この語をきゝをはりて。心に怖懼をいたけり。身をあけて戰慄す。五體梓動して芭蕉樹のことし。あふいてこたへていはく。天これたれとかせん。色像を現せすしてたゝこゑのみあることは。大王われはこれ汝か父頻婆娑羅なり。なんちいままさに耆婆の所説にしたかふへし。邪見六臣のことはにしたかふことなかれと。ときにきゝをはりて悶絶躃地す。身のかさ増劇して。臭穢なることさきよりもまされり。もて冷藥をしてぬり瘡を治療すといへ

とも。かさあつかはし毒熱たゝ増して損することとなし。（巳上抄出）

一大臣日月稱となつく。一富蘭那となつく。

二藏德。二末伽梨拘舍離子となつく。

三一の臣あり。なつけて實德といふ。三那闍那毗羅眩子となつく。

四一の臣あり。悉知義となつく。四阿耆多翅金欽婆羅となつく。

五大臣なつけて吉德といふ。五婆蘇仙。

六加羅鳩駄迦旃延　六尼乾陀若犍子となつく。

またいはく。善男子。わかいふところのことし。阿闍世王のために涅槃にいらす。かくのことさの密義。なんちいまた解することあたはす。なにをもてのゆゑに。われ爲といふは。一切凡夫。阿闍世王は。あまねくおよひ一切五逆をつくるものなり。また爲は。すなはちこれ一切有爲の衆生なり。われつひに無爲の衆生のためにして世

に住せす。なにをもてのゆゑに。それ無爲は衆生にあらさるなり。阿闍世は。すなはちこれ煩惱等を具足せるものなり。また爲は。すなはちこれ佛性をみさる衆生なり。もし佛性をみんものには。われつひにためにひさしく世に住せす。なにをもてのゆゑに佛性をみるものは衆生にあらさるなり。阿闍世は。すなはちこれ一切いまた阿耨多羅三藐三菩提心を發せさるものなり。(乃至)また爲は。なつけて佛性とす。阿闍はなつけて不生とす。世は怨になつく。佛性を生せさるをもてのゆゑに。すなはち煩惱のあた生す。煩惱のあた生するかゆゑに。佛性をみさるなり。煩惱を生せさるをもてのゆゑに。すなはち佛性をみる。佛性をみるをもてのゆゑに。すなはち大般涅槃に安住することをう。これを不生となつく。このゆゑになつけて阿闍世とす。善男子。阿闍は不生になつく。不生は涅槃となつく。世は世

法になつく。爲は不汙になつく。世の八法をもてけかされさるところなるかゆゑに。無量無邊阿僧祇劫に涅槃にいらす。このゆゑにわれ阿闍世王のために無量億劫に涅槃にいらすとのたまへり。善男子。如來の密語不可思議なり。佛法衆僧また不可思議なり。菩薩摩訶薩また不可思議なり。大般涅槃經また不可思議なり。そのときに世尊大悲導師。阿闍世王のために月愛三昧にいれり。三昧にいりをはりて大光明をはなつ。そのひかり清凉にして。ゆきて王の身をてらしたまふに。身のかさすなはちいえぬ。(乃至)王のいはまく。耆婆かれは天中天なり。なんの因緣をもて。この光明を放たまふそや。耆婆答ていはく。大王いまこの瑞相はおよび王のためにするにあひ似たり。さきに世に良醫の身心を療治するものなしといふかゆゑに。このひかりをはなちてまつ王身を治す。しかうしてのちに心におよふ。王

のいはまく。耆婆。如來世尊またみたてまつらんとおもふそや。耆婆こたへてまうさく。たとへは一人にしかも七子あらん。この七子のなかにやまひにあへは。父母の心平等ならさるにあらされとも。しかも病子において心すなはちひとへにおもきかとし。大王如來もまたしかなり。もろ／＼の衆生において。平等ならさるにあらされとも。しかも罪者において。心ずなはちひとへにおもし。放逸のものにおいて。佛すなはち慈悲を生す。不放逸のものには。心すなはち放捨す。なんらをかなつけて不放逸のものとする。いはく六住の菩薩なり。大王諸佛世尊もろ／＼の衆生において。種姓老少中年。貧富時節。日月星宿。工巧下賤。僮僕婢使をみそなはさす。たゝ衆生の善心あるものをみそなはす。もし善心あれはすなはち慈念したまふ。大王まさにしるへし。かくのことき の瑞相は。すなはちこれ如

來月愛三昧によりてはなつところの光明なりと。王すなはち問ていはく。なんらをかなつけて月愛三昧とすると。耆婆こたへていはく。たとへは月のひかりよく一切の優鉢羅華をして開敷し鮮明ならしむるかことし。月愛三昧もまた〳〵かくのことし。よく衆生をして善心開敷せしむ。このゆゑになつけて月愛三昧とす。大王たとへは月のひかりよく一切みちをゆく人の心に歡喜を生せしむるかことし。月愛三昧もまた〳〵かくことし。よく涅槃道を修習せんもの、心に歡喜を生せしむ。このゆゑにまた月愛三昧となつく。(乃至)諸善のなかの王なり。甘露味とす。一切衆生の愛樂するところなり。このゆゑにまた月愛三昧となつく。(乃至)そのときに佛もろ〳〵の大衆につけてのたまはく。一切衆生阿耨多羅三藐三菩提にちかつく因緣のためには。善友をさきとするにはしかす。なにをもてのゆゑに。阿闍世王もし

耆婆のことは隨順せすは。來月七日に必定して命終して阿鼻獄に墮せん。このゆゑに日にちかつきたり。善友にしくことなし。阿闍世王また前路において。舍婆提にきく。毗瑠璃王。ふねに乘して海邊にいりて災して死す。瞿伽離比丘。生身(いきながら)に地にいりて。阿鼻獄にいたれり。須那刹多は種々の惡をつくりしかとも。佛所にいたりて。衆罪消滅しぬと。このことはをきゝをはりて耆婆にかたりていはまく。われいまかくのことときのふたつのことはをきくといへとも。なをいまたあきらかならす。さためて汝きたれり。耆婆われ汝とおなしく一象にのらんとおもふ。たとひわれまさに阿鼻地獄にいるへくとも。ねかはくは汝投持してわれをしておとさしめされ。なにをもてのゆゑに。われむかしかつてきゝき。得道の人は地獄にいらすと。(乃至)いかんそときてさためて地獄にいらんと言と。佛大王に告た

まはく。一切衆生の所作の罪業におほよそ二種あり。一には輕。二には重なり。もし心と口とにつくるは。すなはちなつけて輕とす。身と口と心とにつくるは。すなはちなつけて重とす。大王心におもひ口にときて身になさゝれは。うるところの報輕なり。大王むかし口に殺せよと勅せす。足をけつれといへりき。大王もし侍臣に勅せましかは。たちところに王の首をきらまし。坐のときにすなはちきるともなを罪をえし。いはんや王勅せす。いかんそつみをえん。王もしつみをえは。諸佛世尊もまたつみをえたまふへし。なにをもてのゆゑに。汝か父先王頻婆沙羅。つねに諸佛においてもろ〳〵の善根をうゑたりき。このゆゑに今日王位に居することをえたり。諸佛もしその供養をうけさらましかは。すなはち王たらさらまし。もし王たらさらましかは。汝すなはち國のために害を生することをえさ

らまし。もし汝父を殺してまさにつみあるへくは。われら諸佛また
つみましますへし。もし諸佛世尊つみをえたまふことなくは。汝ひ
とりいかんそしかも罪をえんや。大王頻婆沙羅むかし惡心ありて。
毘富羅山にして遊行して。鹿を射獵して曠野に周徧しき。こと〳〵
くうるところなし。たゝひとりの仙の五通具足せるをみる。みをは
りてすなはち瞋恚惡心を生しき。われいま遊獵す。このゆゑにまさ
しく坐することをえす。このひとかりてつひにさらしむ。すなはち
左右に勅して。しかもこれを殺せしむ。そのひと終にのそんて瞋を
生す。惡心ありて神通を退失して。しかも誓言をなさく。われ實に
辜なし。なんち心口をもて。よこさまに戮害をくはふ。われ來世に
おいて。またまさにかくのことく。かへりて心口をもて。しかも汝
を害すへしと。ときに王きゝをはりて。すなはち悔心を生して。死

屍を供養しき。先王かくのことく。なをかろくうくることをえて。地獄におちて。いはんや王しからすして。しかもまさに地獄に果報をうくへけんや。先王みつからつくりてかへりてみつからこれをうく。いかんそ王をしてしかも殺罪をえしめん。王のいふところのことし。父の王つみなくは。大王いかんそ失なきに。罪ありといはゝすなはち罪報あらん。惡業なくはすなはち罪報なけん。なんちか父先王もし罪あることなくは。いかんそ報あらん。頻婆沙羅現世のなかにおいて。また善果および惡果をえたり。このゆゑに先王また〱不定なり。不定なるをもてのゆゑに。殺もまた不定なり。殺不定なるはいかんしてかさためて地獄にいらんといはん。大王衆生の狂惑におほよそ四種あり。一には貪狂。二には藥狂。三には咒狂。四には本業縁狂なり。大王わか弟子のなかにこの四狂あり。おほく惡を

つくるといへとも。われつひにこのひと戒を犯せりと記せす。このひとの所作三惡にいたらす。もしかへりて心をえは。また犯といはす。王もと國を貪して。これ父の王を逆害す。貪狂の心をもてためになせり。いかんぞつみをえん。大王ひとの耽醉してその母を逆害せん。すてに醒悟しをはりて。心に悔恨を生せんかことし。まさにしるへし。この業また報をえし。王いま貪醉せり。本心の作せるにあらす。もし本心にあらすは。いかんそつみをえんや。大王たとへは幻師の四衢道のほとりにして。種々の男女象馬瓔珞衣服を幻作するかことし。愚癡のひとはおもふて眞實とす。有智のひとは眞にあらすとしれり。殺もまたかくのことし。凡夫は實とおもへり。諸佛世尊はそれ眞にあらすとしろしめせり。大王たとへは山谷の響の聲のことし。愚癡のひとはこれを實のこゑとおもへり。有智のひとはそ

れ眞にあらすとしれり。殺もまたかくのことし。凡夫は實とおもへり。諸佛世尊はそれ眞にあらすとしろしめせり。大王ひと怨ありて、いつはりきたりて親附するかことし。愚癡のひとはおもふて眞實とす。智者は了達してすなはちそれむなしくいつはれりとしらん。殺もまたかくのことし。凡夫は實とおもふ。諸佛世尊はそれ眞にあらすとしろしめせり。大王ひと鏡をとりてみづから面像をみるかことし。愚癡のひとはおもふて眞の面とす。智者は了達してそれ眞にあらすとしれり。殺もまたかくのことし。凡夫は實とおもふ。諸佛世尊はそれ眞にあらすとしろしめせり。大王熱のときの炎のことし。愚癡のひとはこれはこれ水とおもはん。智者は了達してそれ水にあらすとしらん。殺もまたかくのことし。凡夫は實とおもはん。諸佛世尊はそれ眞にあらすとしろしめせり。大王乾闥婆城のことし。愚

癡のひとはおもふて眞實とす。智者は了達してそれ眞にあらすとしれり。殺もまたかくのことし。凡夫は實とおもへり。諸佛世尊はそれ眞にあらすと了知したまへり。大王ひとのゆめのうちに五欲の樂をうくるかことし。愚癡のひとはこれをおもふて實とす。智者は了達してそれ眞にあらすとしれり。殺もまたかくのことし。凡夫は實とおもへり。諸佛世尊はそれ眞にあらすとしろしめせり。大王殺法殺業。殺因殺果。および解脫。われみなこれをさとれり。すなはちつみあることなけん。王殺をしるといへとも。いかんそ罪あらんや。大王たとへは人主ありて酒をつかさとれりとしれとも。もしそれのまされは。すなはちまたゑはさるかことし。また火としるといへとも燒燃せす。王もまたかくのことし。また殺をしるといへとも。いかんそつみあらんや。大王もろ〳〵の衆生ありき。日のいつるとき

において。種々のつみをつくる。月のいつるときにおいて。また劫盗を行せん。日月いてさるにすなはち罪をつくらす。日月によりてそのつみをつくらむといへとも。然るにこの日月實につみをえす。殺もまたかくのことし。(乃至)大王たとへは涅槃は有にあらす無にあらすして。しかもまたこれ有なるかことし。殺もまたかくのことして非有非無にしてしかもまたこれ有なりといへとも。慚愧のひとはすなはち非有とす。無慚愧のものはすなはち非無とす。果報をうくるものこれをなつけて有とす。空見のひとはすなはち非有とす。有見のひとはすなはち非無有とす。有見のものはまたなつけて有とす。なにをもてのゆゑに。有々見のものは果報をうるかゆゑに。無有見のものはすなはち果報なし。常見のひとはすなはち非有とす。無常見のものはすなはち非無とす。常々見のものは無とすることをえす。

なにをもてのゆゑに。常々見のものは惡業の果あるかゆゑに。このゆゑに常々見のものは無とすることをえす。この義をもてのゆゑに。非有非無にしてしかもまたこれ有なりといへとも。大王それ衆生は出入の息になつく。出入の息をたつ。かるかゆゑになつけて殺とす。諸佛俗にしたかへてまたときて殺とす。（乃至）世尊われ世間をみるに。伊蘭子より伊蘭樹を生す。伊蘭より栴檀樹の生するものをみす。われいまはしめて伊蘭子より栴檀樹を生するをみる。伊蘭子はわか身これなり。栴檀樹はすなはちこれわか心無根の信なり。無根はわれはしめて如來を恭敬せんことをしらす。法僧を信せす。これを無根となつく。世尊われもし如來世尊にまうあはすは。まさに無量阿僧祇劫において大地獄にありて無量の苦をうくへし。われいま佛をみたてまつる。この佛をみたてまつりて。うるところの功德をもて。

衆生の煩惱惡心を破壞せしむ。佛のたまはく。大王よきかな〳〵。われいま汝かならすよく衆生の惡心を破壞することをしれり。世尊もしわれあきらかによく衆生のもろ〳〵の惡心を破壞せは。われつねに阿鼻地獄にありて。無量劫のうちに。もろ〳〵の衆生のために。苦惱をうけしむともて苦とせす。そのときに摩伽陀國の無量の人民。こと〳〵く阿耨多羅三藐三菩提心をおこしき。かくのこときらの無量の人民大心を發するをもてのゆゑに。阿闍世王所有の重罪すなはち微薄なることをえしむ。王および夫人。後宮采女。こと〳〵くみなおなしく阿耨多羅三藐三菩提心をおこしき。そのときに阿闍世王耆婆にかたりていはく。耆婆われいまいまた死せすして。すてに天身をえたり。短命をすてゝしかも長命をえ。無常の身をすてゝしかも常身をえたり。もろ〳〵の衆生をして。阿耨多羅三藐三菩提心

を發せしむ。（乃至）諸佛の弟子このことはをときをはりてすなはち種々の寶幢をもて。（乃至）また偈頌をもてしかも讃嘆してまうさく。

實語はなはだ微妙なり。善巧句義において。甚深祕密の藏なり。衆のためのゆゑに所有廣博の言を顯示す。衆のためのゆゑに略してとかく。かくのごときの語を具足して。よく衆生を療す。もしもろ／＼の衆生ありて。この語をきくことをうるものは。もしは信をよび不信。さだめてこの佛說をしらん。諸佛つねに輭語をもて。衆のためのゆゑに麤をときたまふ。麤語および輭語。みな第一義に歸せん。このゆゑにわれいま世尊に歸依したてまつる。如來のみことは一味なること。なを大海の水のことし。これを第一諦となづく。かるかゆゑに無々義のみことにして。如來いまときたまふところの。種々無量の法。男女大小きゝて。おなしく第一

義をえしめん。無因また無果なり。無生また無滅なり。これを大涅槃となつく。きくもの諸結を破す。如來一切のために。つねに慈父母となりたまへり。まさにしるへしもろ〳〵の衆生は。みなこれ如來の子なり。世尊大慈悲は。衆のために苦行を修したまふ。人の鬼魅にくるはされて。狂亂して所爲おほきかことし。われいま佛をみたてまつることをえたり。うるところの三業の善。ねがはくはこの功德をもて。無上道に廻向せん。われいま供養するところの。佛法および衆僧。ねかはくはこの功德をもて。三寶つねに世にましまさん。われいままさにうへきところの。種々のもろ〳〵の功德。ねかはくはこれをもて衆生の四種の魔を破壞せん。われ惡知識にあひて。三世のつみを造作せり。いま佛前にしてくゆ。ねかはくはのちにさらにつくることなからん。ねかはくはも

ろ〳〵の衆生。ひとしくこと〳〵く菩提心をおこさしめん。心をかけてつねに十方一切佛を思念せん。またねかはくはもろ〳〵の衆生。なかくもろ〳〵の煩惱を破し。了々に佛性をみること。なを妙徳のことくしてひとしからん。

そのとき世尊阿闍世王をほめたまはく。よきかなよきかな。もしひとありてよく菩提心をおこさん。まさにしるへしこのひとはすなはち諸佛大衆を莊嚴すとす。大王汝むかしすてに毘婆尸佛において。はしめて阿耨多羅三藐三菩提心をおこしき。これよりこのかた。わか出世にいたるまて。その中間においていまたかつてまた地獄に墮して苦をうけす。大王まさにしるへし。菩提の心いまたかくのこときの無量の果報あり。大王けふより已往に。つねにまさに菩提の心を勤修すへし。なにをもてのゆゑに。この因緣にしたかひて。ま

さに無量の惡を消滅することをうへきかゆゑなりと。そのとき阿闍世王およひ摩伽陀國の人民。こそりて座よりしてたちて佛をめくること三帀して。辭退してみやにかへりにきと。(已上抄出)またいはく。善男子羅閲祇の王頻婆沙羅。その王の太子なつけて善見といふ。業因緣のゆゑに惡逆の心を生して。その父を害せんとするに。しかもたよりをえす。そのときに惡人提婆達多。また過去の業因緣によるかゆゑに。またわかところにおいて不善の心を生して。われを害せんとす。すなはち五通を修して。ひさしからすして。善見太子とともに親厚なることを獲得せり。太子のためのゆゑに。種々の神通の事を現作す。門にあらさるよりいて。門よりしていりて。門よりしていて。門にあらさるよりしている。あるときは象馬牛羊男子の身を示現す。善見太子みをはりてすなはち愛心喜心敬信の心を生す。これを本と

するかゆゑに。きひしく種々の供養の具をときて。しかもこれを供養す。またまうしてまうさく。大師聖人われいま曼陀羅華をみんとおもふと。ときに提婆達多すなはち法として三十三天にいたりて。かの天人にしたかひてしかもこれを來索するに。その福つくるかゆゑに。すへてあたふるものなけん。すてに華をえす。この思惟をなさく。曼陀羅樹は我々所なし。もしみつからとらんにまさになんのつみかあるへき。すなはちすゝんてとらんとするに。すなはち神通をうしなへり。かへりて己身をみれは。王舎城にあり。心に慚愧を生するに。またみることあたはす。善見太子またこの念をなさく。われいままさに如來のみもとに往至して大衆を來索すへし。佛もしゆるさは。われまさに意にしたかひてをしへて。すなはち舍利弗等に詔勅すへしと。そのときに提婆達多すなはちわかところにきたりて。

かくのことき の言をなさく。やゝねかはくは如來この大衆をもて。われに付屬せよ。われまさに種々に法をときて敎化してそれをして調伏せしむへしと。われ癡人にいはく。舍利弗等大智を聽聞して。世に信伏するところなり。われなを大衆をもて付屬せす。いはんや汝癡人つはきをくらふものをやと。ときに提婆達多またわかところにおいて。ますく惡心を生して。かくのことき の言をなさく。瞿曇なんちいままた大衆を調伏すといへとも。勢またひさしからし。まさにみるに磨滅すへしと。この語をなしをはるに。大地即時に六反震動す。提婆達多すなはちの時に地にたふれて。その身の邊より大暴風をいたして。もろくの塵土をふきてしかもこれを汙坌す。提婆達多惡相をみをはりて。またこの言をなさく。もしわれこの身現世にかならす阿鼻地獄にいらは。わか惡まさにかくのことき の大

惡をむくふへし。ときに提婆達多すなはちたちて善見太子のところに往至す。善見みをはりてすなはち聖人にとはく。なんかゆゑそ顏容憔悴して憂の色あるやと。提婆達多いはく。われつねにかくのことし。汝しらすやと。善見こたへていはく。そのこゝろを領說せん。なんの因緣あてかしかると。提婆達多のいはく。われいま汝かために。きはめて親愛をなす外人。汝をのりてもて非理とす。われこの事をきくに。あにうれへさることをえんや。善見太子またこの言をなさく。國のひといかんそ我を罵辱すると。提婆達のいはく。國のひと汝をのりて未生怨とすと。善見またいはく。なんかゆゑそ我をなつけて未生怨とする。たれかこの名をなすと。提婆達のいはく。汝いまたむまれさりしとき。一切相師みなこの言をなさく。この兒むまれをはりてまさにその父を殺すへし。このゆゑに外人みなこと〱

く汝を號して未生怨とす。一切内のひと汝か心をまもるかゆゑに。いひて善見とす。毘提夫人この語をきゝをはりて。すてに汝を生として。身を高樓のうへより。これを地にすてゝ。汝かひとつの指をやふれり。この因緣をもて。ひとまた汝を號して婆羅怨枝とす。われこれをきゝをはりて心に愁憤を生して。しかもまた汝にむかひてこれをとくことあたはす。提婆達多かくのこときらの種々の惡事をもてをしへて父を殺せしむ。もし汝か父死せは。われまたよく瞿曇沙門を殺せんと。善見太子ひとりの大臣にとはく。なつけて雨行といふ。大王なんかゆゑぞ。我に字をたてんとするに未生怨とつくると。大臣すなはちためにその本末をとく。提婆達多の所說のことくして異なけん。善見きゝをはりて。すなはち大臣とともに。その父の王をとりてこれを城のほかにとちて。四種の兵をもてしかもこれを守衛

せしむ。毘提夫人この事をきゝをはりて。すなはち王のところにいたる。ときに王を守て人をしてさへきりていることをゆるさす。そのときに夫人瞋恚の心を生して。すなはちこれを呵罵(せめのる)す。ときにもろ〳〵の守人すなはち太子につくらく。大王の夫人父の王をみんとおもふをは。いふかし。ゆるしてんやいなやと。善見きゝをはりて。また瞋嫌を生して。すなはち母のところにゆきて。すゝんで母の髪をひきて。刀をぬきてきらんとす。そのときに耆婆まうしていはく。大王國をたもちてよりこのかた。罪きはめておもしといへども女人におよばず。いはんや所生の母をやと。善見太子この語をきゝをはりて。耆婆のためのゆゑに。すなはち放捨して。さへきりて大王の衣服臥具飲食湯藥をたつ。七日をすきをはりて。王のいのちすなはちをはりぬと。善見太子父の喪をみをはりて。まさに悔心を

生ず。雨行大臣また種々の惡邪の法をもて。しかもためにこれをとく。大王一切の業行すべてつみあるとなし。なんがゆゑぞいましかも悔心を生ずるやと。耆婆またいはく。大王まさにしるべし。かくのごときの業は罪業二重なり。一には父の王を殺す。二には須陀洹を殺せり。かくのごときのつみは。佛をのぞきてさらによく除滅したまふひとなけんと。善見王のいはく。如來は清淨にして穢濁ましますことなし。われら罪人いかんしてかみたてまつることをえん。善男子。われこの事をしらんと。阿難につけたまはく。三月をすぎをはりて。われまさに涅槃すべきかゆゑに。善見きゝをはりて。すなはちわかところにきたれり。われために法をときて。重罪をしてうすきことをえしめ。無根の信をえしむ。善男子。わかもろ／＼の弟子この說をきゝをはりて。わかこゝろをさとらさるかゆゑにこの

言をなさく。如來さためて畢竟涅槃とときたまへり。善男子。菩薩に二種あり。一には實義。二には假名なり。假名の菩薩われ三月ありてまさに涅槃にいるへしときゝて。みな退心を生して。しかもこの言をなさく。もしそれ如來無常にして住したまはすはわれらいかゝせん。この事のためのゆゑに。無量世のうちに大苦惱をうけき。如來世尊は無量の功德を成就し具足したまへる。なをかくのことき死魔を壞することあたはす。いはんやわれらかともからまさによく壞すへけんやと。善男子。このゆゑにわれかくのことき菩薩のために。しかもこの言をなさく。如來は常住にして變易あることなし。わかもろ〳〵の弟子この說をきゝをはりて。わかこゝろをさとらされは。さためていはく。如來はつひに畢竟して涅槃にいらすと。（已上抄出）こゝをもていま大聖の眞說によるに。難化の三機。難治の三

病は。大悲弘誓をたのみ。利他の信海に歸すれは。これを矜哀して治す。これを憐憫して療したまふ。たとへは醍醐の妙藥の一切の病を療するかことし。濁世の庶類。穢惡の群生。金剛不壞の眞心を求念すへし。本願醍醐の妙藥を執持すへきなり。しるへし。

それ諸大乘によるに。難化の機をとけり。いま大經には唯除五逆誹謗正法といひ。あるひは唯除造無間惡業・誹謗正法・及諸聖人といへり。觀經には五逆の往生をあかして。謗法をとかす。涅槃經には難治の機と病とをとけり。これらの眞敎いかんか思量せんや。こたへていはく論の註にいはく。問ていはく。無量壽經にのたまはく。往生を願せんものみな往生をえしむ。たゝし五逆と誹謗正法とをのそく。觀無量壽經に五逆十惡もろ〳〵の不善を具せるもの。また往生をうといへり。この二經いかんか會せんや。こたへていはく。一經には二

種の重罪を具するをもてなり。一には五逆。二には誹謗正法なり。この二種のつみをもてのゆゑに。このゆゑに往生をえす。一經にはたゝ十惡五逆等のつみをつくるといふて。正法を誹謗すといはす。正法を謗せさるをもてのゆゑに。このゆゑに生することをえしむ。問ていはく。たとひ一人は五逆罪を具して。しかも正法を誹謗せされは。經に生することをうとゆるす。また一人ありて。たゝ正法を誹謗して。しかも五逆のもろ〳〵のつみなきもの。往生を願せは。生することをえてんやいなや。こたへていはく。たゝ正法を誹謗せしめて。さらに餘のつみなしといふとも。かならす生することをえし。なにをもてかこれをいふとならは。經にいはく。五逆の罪人阿鼻大地獄のなかに墮して。つふさに一劫の重罪をうく。誹謗正法のひとは阿鼻大地獄のなかに墮して。この劫もしつくれは。また轉して他

方の阿鼻大地獄のなかにいたる。かくのごとく展轉して。百千の阿鼻大地獄をふ。佛いつることをうる時節を記したまはす。正法を誹謗するつみ極重なるをもてのゆゑなり。また正法はすなはちこれ佛法なり。この愚癡のひとすでに誹謗を生す。いつくんぞ佛土を願生する理あらんや。たとひたゞかの安樂に生せんことを貪して生を願せんは。また水にあらさるこほり。けふりなき火をもとめんかことじ。あにうることはりあらんや。問ていはく。なんらの相かこれ誹謗正法なるや。こたへていはく。もし無佛・無佛法・無菩薩・無菩薩法といはん。かくのごときらの見をもて。もしは心にみつからさとり。もしは他にしたかひてその心をうけて。決定するをみな誹謗正法となつく。問ていはく。かくのごときらの計は。たゞこれおのれか事なり。衆生においてなんの苦惱あれはか五逆の重罪にこへんや。こた

へていはく。もし諸佛菩薩世間出世間の善道をときて。衆生を敎化するひとましまさすは。あに仁義禮智信あることをしらんや。かくのことき世間の一切善法みな斷し。出世間の一切賢聖みな滅しなん。汝たゝ五逆罪の重たることをしりて。しかも五逆罪の正法なきより生することをしらす。このゆゑに謗正法のひとはそのつみ最重なり。問ていはく。業道經にいはく。業道ははかりのことし。おもきものまつひく。觀無量壽經にいふかことし。ひとありて五逆十惡をつくり。もろ〱の不善を具せらん。惡道に墮して多劫を逕歷して無量の苦をうくへし。命終のときにのそんて。善知識のをしへて。南無無量壽佛を稱せしむるにあはん。かくのことく心をいたして。こゑをしてたえさらしめて。十念を具足すれは。すなはち安樂淨土に往生することをえて。すなはち大乘正定の聚にいりて。畢竟して不退

ならん。三塗のもろ〳〵の苦となかくへたつ。まつひくの義。理においていかんそ。また曠劫よりこのかた。つふさにもろ〳〵の行をつくる。有漏の法は三界に繋屬せり。たゝ十念をもて。阿彌陀佛を念して。すなはち三界をいては。繋業の義またいかんかせんとするや。こたへていはく。なんち五逆十惡の繋業等を重とし。下々品の人の十念を輕として。つみのためにひかれてまつ地獄に墮して。三界に繋在すへしといはゝ。いままさに義をもて輕重の義を校量すへし。心にあり。緣にあり。決定にあり。時節の久近多少にあるにはあらさるなり。いかんそ心にある。かの罪をつくる人はみつから虚妄顚倒の見に依止して生す。この十念は善知識の方便安慰して。實相の法をきかしむるによりて生す。一は實。一は虚なり。あにあひたくらふることをえんや。たとへは千歳の闇室に。ひかりもししはらくい

たれは。すなはち明朗なるかことし。闇あに室にあることと千歳にしてしかもさらしといふことをえんや。これを在心となつく。いかんか縁にある。かの罪をつくる人はみつから妄想の心に依止し。煩惱虚妄の果報の衆生に依止して生す。この十念は無上の信心に依止し。阿彌陀如來の方便莊嚴眞實清淨無量功德の名號によりて生す。たとへは人ありて。毒の箭をかうふりてあたるところ。筋をきり。骨をやふるに。滅除藥の皷をきけは。すなはち箭ぬけ毒のそこるかことし。（首楞嚴經にいはく。たとへはくすりありなつけて滅除といふ。もし闘戰のときに。もて皷にぬるに。皷のこゑをきくもの箭ぬけ毒のそこるかことし。菩薩摩訶薩もまたかくのことし。首楞嚴三昧に住して。その名をきくもの三毒の箭自然に抜出す。）あにかの箭ふかく毒はけし。皷の音聲をきくとも。箭をぬき毒をさることあたはしといふことをうへけんや。これを在縁となつく。いかんか決定にある。かの罪をつくる人は有後心有間心に依止して生す。この十念は無後心無間心に依止して生す。これ

を決定となつく。三の義を校量するに。十念は重なり。おもきものまつひきてよく三有をいつ。兩經一義ならくのみ。問ていはく。いくはくの時をかなつけて一念とするや。こたへていはく。百一の生滅を一刹那となつく。六十刹那をなつけて一念とす。このなかに念といふは。この時節をとらさるなり。たゝ阿彌陀佛を憶念してもしは總相もしは別相。所觀の縁にしたかひて。心に他想なくして。十念相續するをなつけて十念とすといふなり。たゝ名號を稱することもまた〳〵かくのことし。問ていはく。心もし他縁せはこれを攝してかへらしめて。念の多少をしるへし。たゝし多少をしらは。またひまなきにあらす。もし心をこらし想をとゝめは。またなにゝよりてか念の多少を記することをうへきや。答ていはく。經に十念といふは。業事成辦をあかすならくのみ。かならすしもすへからく頭數（かす）

なり）をしるへからさるなり。蟪蛄春秋をしらす。伊虫あに朱陽の節をしらんやといふかことし。しるものこれをいふならくのみ。十念業成といふは。これまた神に通するものこれをいふならくのみ。たゝ念をつみ相續して他事を縁せされはすなはちやみぬ。またなんそかりに念の頭數をしることをもちゐんや。もしかならすしることをもちゐはまた方便あり。かならす口授をもちゐよ。これを筆點に題することをえされと。（已上）光明寺の和尚のたまはく。問ていはく。四十八願のなかのことさは。たゝ五逆と誹謗正法とをのそきて往生をえしめす。いまこの觀經の下品下生のなかには。誹謗をえらんて五逆を攝せるはなんのこゝろかあるや。答ていはく。この義あふいて抑止門のなかにつきて解す。四十八願のなかのことき謗法五逆をのそくは。しかるにこの二業そのさはり極重なり。衆生もしつくれはたゝ

ちに阿鼻にいりて。歴劫周章していつへきによしなし。たゝし如來それこのふたつの過をつくらんをおそれて。方便してとゝめて往生をえすとのたまへり。またこれ攝せさるにはあらさるなり。また下品下生のなかに。五逆をとりて謗法をのそくことは。それ五逆はすてにつくれり。すてゝ流轉せしむへからす。かへりて大悲をおこして。攝取して往生せしむ。しかるに謗法の罪はいまたつくらす。またとゝめてもし謗法をおこさは。すなはち生するとをえしとのたまふ。これは未造業について解するなり。もしつくらはかへりて攝して生することをえしめん。かしこに生することをうといふとも。華合して多劫をへん。これらの罪人はなのうちにあるとき。三種のさはりあり。一には佛およひもろ／＼の聖衆をみることをえし。二には正法を聽聞することをえし。三には歴事供養をえし。これをのそき

て已外は。さらにもろ〳〵の苦なけん。經にいはく。なを比丘の三禪の樂にいるかことときなり。しるへし。華のなかにありて多劫ひらけすといふとも。阿鼻地獄のなかにして。長時永劫にもろ〳〵の苦痛をうけんにすくれさるへけんや。この義抑止門につきて解しをはんぬ。(已上)またいはく。なかく譏嫌を絶てひとしくして憂惱なし。人天善惡みなゆくことをう。かしこにいたりてことなることなし。齋同不退なり。なんのこゝろありてかしかるとならは。いまし彌陀の因地にして。世饒王佛のみもとにして。位をすて家をいてゝ。すなはち悲智の心をおこして。ひろく四十八願をひろめたまひしによりてなり。佛願力をもて。五逆と十惡と。罪滅し生することをえしむ。謗法闡提。迴心すれはみなゆく。(抄出)五逆といふは。もし淄州によるに。五逆にふたつあり。一には三乘の五逆。いはく。一にはことさ

らにおもふて父を殺す。二にはことさらにおもふて母を殺す。三にはことさらにおもふて羅漢を殺す。四には倒見して和合僧を破す。五には惡心をもて佛身より血をいたす。恩田にそむき福田に違するをもてのゆゑに。これをなつけて逆とす。この逆を執するものは。身やふれ命をへて。必定して無間地獄に墮して。一大劫のうちに無間の苦をうけん。無間の業となつく。また倶舍論のなかに五無間の同類の業あり。かの頌にいはく。母無學尼をけかす。（殺母罪の同類）住定の菩薩（殺父罪の同類）および有學無學を殺す。（殺羅漢の同類）僧の和合縁をうはふ。（破僧罪の同類）率都婆を破壞する。（出佛身血の同類）二には大乘の五逆。薩遮尼乾子經にとくかことし。一には塔を破壞し經藏を焚燒する。および三寶の財物を盜用する。二には三乘の法をそしりて。聖敎にあらすといひて。鄣破留難し隱蔽覆藏する。三には一切出家のひと。もしは戒無戒破戒の

ものを打罵し。呵責して過をとき。禁閉し。還俗せしめ。驅使債調し。斷命せしむる。四には父を殺し。母を害し。佛身より血をいたし。和合僧を破し。阿羅漢を殺す。五には謗して因果なく。長夜につねに十不善業を行するなり。(已上)かの經にいはく。一には不善の心をおこして獨學を殺害する。これ殺生なり。二には羅漢尼を婬する。これを邪行といふなり。三には所施の三寶物を侵損する。これ不與取なり。四には倒見して和合僧衆を破する。これ虛誑語なり。(略出)

顯淨土眞實信文類三　末

顯淨土眞實證文類四

愚禿釋の親鸞集

必至滅度の願　難思議往生

つしんて眞實證をあらはさは。すなはちこれ利他圓滿の妙位。無上涅槃の極果なり。すなはちこれ必至滅度の願よりいてたり。また證大涅槃の願となつくるなり。しかるに煩惱成就の凡夫。生死罪濁の群萠。往相迴向の心行をうれは。すなはちのときに大乘正定聚のかすにいるなり。正定聚に住するかゆゑに。かならす滅度にいたる。かならす滅度にいたるはすなはちこれ常樂なり。常樂はすなはちこれ畢竟寂滅なり。寂滅はすなはちこれ無上涅槃なり。無上涅槃はす

なはちこれ無爲法身なり。無爲法身はすなはちこれ實相なり。實相はすなはちこれ法性なり。法性はすなはちこれ眞如なり。眞如はすなはちこれ一如なり。しかれは彌陀如來は如より來生して。報應化種々の身を示現したまふ。必至滅度の願文。大經にのたまはく。たとひわれ佛をえたらんに。くにのうちの人天。定聚に住しかならす滅度にいたらすは正覺をとらし。(已上)無量壽如來會にのたまはく。もしわれ成佛せんに。くにのうちの有情。もし決定して等正覺をなり。大涅槃を證せすは菩提をとらし。(已上)

願成就の文。經にのたまはく。それ衆生ありて。かのくにゝ生するものは。みなことく〱正定の聚に住す。ゆゑはいかん。かの佛國のうちには。もろ〱の邪聚および不定聚なけれはなり。またのたまはく。かの佛國土は淸淨安穩にして。微妙快樂なり。無爲泥洹の

道にちかし。それもろ〳〵の聲聞菩薩天人。智慧高明にして。神通あきらかに達せり。こと〴〵くおなしく一類にして。かたちことなるかたちなし。たゞし餘方に因順するかゆゑに。人天の名あり。顔貌端正にして。世にこえて希有なり。容色微妙にして。天にあらず人にあらず。みな自然虚無の身無極の體をうけたるなり。またのたまはく。かのくにの衆生。もし當にむまれんもの。みなこと〴〵く無上菩提を究竟し。涅槃のところにいたらしめん。なにをもてのゆゑに。もし邪定聚および不定聚は。かの因を建立せることを了知することあたはさるかゆゑなり。（已上要を抄す）淨土論にいはく。莊嚴妙聲功德成就といふは。偈に梵聲悟深遠微妙聞十方といへるかゆゑに。これいかんそ不思議なるや。經にのたまはく。もしひとたゞかの國土の清淨安樂なるをきゝて。尅念して生せんと願せんものと。また往生を

うるものとはすなはち正定聚にいる。これはこれ國土の名字佛事をなす。いつくんそ思議すへきや。莊嚴主功德成就といふは。偈に正覺阿彌陀法王善住持といへるかゆゑに。これいかんか不思議なるや。正覺の阿彌陀不可思議にましますかの安樂淨土は。正覺阿彌陀の善力のために住持せられたり。いかんか思議することをうへきや。住は不異不滅になつく。持は不散不失になづく。不朽藥をもて種子にぬりて水におくにみたれず。火におくにこかれす。因緣をえてすなはち生するかことし。なにをもてのゆゑに。不朽藥のちからなるかゆゑなり。もしひとびとたび安樂淨土に生すれは。のちのときにこゝろに三界にむまれて。衆生を敎化せんと願して。淨土のいのちをすてゝ。願にしたかひて生をえて。三界雜生の火のなかにむまるといへとも。無上菩提の種子畢竟してくちす。なにをもてのゆゑに。

正覺阿彌陀の善住持をふるをもてのゆゑに。莊嚴眷屬功德成就といふは。偈に如來淨華衆正覺華化生といへるかゆゑに。これいかんそ不思議なるや。おほよそこの雜生の世界には。もしは胎もしは卵。もしは濕もしは化。眷屬そこはくなり。苦樂万品なり。雜業をもてのゆゑに。かの安樂國土はこれ阿彌陀如來正覺淨華の化生するところにあらさることなし。同一に念佛して。別のみちなきかゆゑに。とをく通するに。それ四海のうちみな兄弟とするなり。眷屬無量なり。いつくんそ思議すへきや。またいはく。往生をねかふもの。もとはすなはち三三の品なれとも。いまは一二の殊なし。また淄繩の一味なるかことし。いつくんそ思議すへきや。また論にいはく。莊嚴淸淨功德成就といふは。偈に觀彼世界相勝過三界道といへるかゆゑに。これいかんか不思議なるや。凡夫人の煩惱成就せるありて。

またかの淨土に生することをうれは。三界の繋業畢竟してひかす。すなはちこれ煩惱を斷せすして涅槃分をう。いつくんそ思議すへきや。（已上要を抄す）安樂集にいはく。しかるに二佛の神力また齊等なるへし。たゝし釋迦如來おのれか能をのへすして。ことさらにかの長をあらはしたまふこと。一切衆生をしてひとしく歸せさることなからしめしとおほしてなり。このゆゑに釋迦處々に嘆歸せしめたまへり。すへからくこのこゝろをしるへしとなり。このゆゑに曇鸞法師の正意西に歸するかゆゑに。大經にそえて奉讃していはく。安樂の聲聞菩薩衆。人天の智慧こと〳〵く洞達せり。身相莊嚴殊異なし。たゝし他方に順するかゆゑに名をつらぬ。顏容端正にして比すへきなし。精微妙軀にして人天にあらす。虛無の身無極の體なり。このゆゑに平等力を頂禮したてまつる。（已上）光明寺の疏にいはく。弘願といふは大

經の說のごときは。一切善惡の凡夫生することをうるは。みな阿彌陀佛の大願業力に乘して。增上緣とせすといふことなしとなり。また佛の密意弘深なれは。教門をしてさとりかたし。三賢十聖もはかりてうかゝふところにあらす。いはんやわれ信外の輕毛なり。あへて旨趣をしらんや。あふひておもんみれは。釋迦はこの方にして發遣し。彌陀はすなはちかのくにゝして來迎す。かしこによはひこゝにつかはす。あにゆかさるへけんや。たゝねんころに法につかへて。畢命を期として。この穢身をすてゝ。すなはちかの法性の常樂を證すへし。またいはく西方寂靜無爲のみやこには。畢竟逍遙にして有無をはなれたり。大悲心に薰して法界にあそふ。分身してものを利することひとしくしてことなることなし。あるひは神通を現してしかも法をとき。あるひは相好を現して無餘にいる。變現の莊嚴こゝ

ろにしたかひていへ。群生みるものつみみなのぞこる。まだ貪していはく。いさいなん。魔郷にはとゝまるへからす。曠劫よりこのかた六道に流転して。こと〳〵くみなへたり。いたるところに餘の樂なし。たゝ愁歎のこゑをきく。この生平をおへてのち。かの涅槃の城にいらん。（已上）それ眞宗の教行證を案すれは。如來大悲迴向の利益なり。かるかゆゑにもしは因もしは果。一事として阿彌陀如來の清淨願心の迴向成就したまへるところにあらさることあることなし。因淨なるかゆゑに果また淨なり。しるへし。二には還相迴向といふは。すなはちこれ利他教化地の益なり。すなはちこれ必至補處の願よりいてたり。また一生補處の願となづく。また還相迴向の願となつくへきなり。註論にあらはれたり。かるかゆゑに願文をいたさす。註論をひらくへし。淨土論にいはく。出第五門は。大慈悲をもて。一

切苦惱の衆生を觀察して。應化の身をしめす。生死の園。煩惱のはやしのなかに迴入して。神通に遊戲して。敎化地にいたる。本願力の迴向をもてのゆゑに。これを出第五門となつく。(已上)論の註にいはく。還相はかの土に生しおはりて。奢摩佗毗婆舍那方便力成就することをえて。生死の稠林に迴入して。一切衆生を敎化して。ともに佛道にむかはしむるなり。もしは往もしは還。みな衆生をぬきて生死海をわたさんかためなり。このゆゑに迴向を首として大悲心を成就することをえたまへるかゆゑにとのたまへり。またいはく。すなはちかの佛をみたてまつれは。未證淨心の菩薩畢竟して平等法身を得證す。淨心の菩薩と。上地のもろ〳〵の菩薩と。畢竟しておなしく寂滅平等をうるかゆゑにとのたまへり。平等法身は。八地已上法性生身の菩薩なり。寂滅平等の法なり。この寂滅平等の法をうるをもて

のゆゑに。なつけて平等法身とす。平等法身の菩薩の所得なるをもてのゆゑに。なつけて寂滅平等の法とするなり。この菩薩は報生三昧をう。三昧神力をもて。よく一處一念一時に十方世界に徧して。種々に一切諸佛および諸佛大會衆海を供養す。よく無量世界に佛法僧ましまさぬところにして。種々に示現し。種々に一切衆生を敎化し度脱してつねに佛事をなす。はしめに往來のおもひ供養のおもひ、度脱のおもひなし。このゆゑにこの身をなつけて平等法身とす。この法をなつけて寂滅平等の法とす。未證淨心の菩薩は初地已上。七地以還のもろ〳〵の菩薩なり。この菩薩またよく身を現すると。もしは百もしは千。もしは万もしは億。もしは百千万億。無佛の國土にして佛事を施作す。かならす心をなして三昧にいりて。いましよく作心せさるにあらす。作心をもてのゆゑに。なつけて未證淨心とす。

この菩薩安樂淨土に生して。すなはち阿彌陀佛をみんと願す。阿彌陀佛をみるとき。上地の諸菩薩と。畢竟して身ひとしく法ひとしと。龍樹菩薩婆藪槃頭菩薩のともから。かしこに生せんと願するものは。まさにこのためなるへしならくのみ。問ていはく。十地經を按するに。菩薩の進趣階級。やうやく無量の功勳あり。おほくの刧數をふ。しかうしてのちいましこれをう。いかんそ阿彌陀佛をみたてまつるとき。畢竟して上地のもろ／＼の菩薩と身ひとしく法ひとしきや。こたへていはく。畢竟はいまたすなはちひとしといふにはあらす。畢竟してこのひとしきことを失せさるかゆゑに。等といふならくのみと。問ていはく。もしすなはちひとしからすは。またなんそ菩薩といふことをえん。たゝ初地にのほれは。もてやうやく増進して。自然にまさに佛とひとしかるへし。なんそかりに上地の菩薩とひと

しといふや。こたへていはく。菩薩七地のなかにして大寂滅をうれは。かみに諸佛のもとむへきをみす。しもに衆生の度すへきをみす。佛道をすてゝ實際を證せんと欲す。そのときにもし十方諸佛の神力加勸することをえすは。すなはち滅度して。二乘と異なけん。菩薩もし安樂に往生して。阿彌陀佛をみたてまつるに。すなはちこの難なけん。このゆゑにすへからく畢竟平等といふへし。またつきに無量壽經のなかの阿彌陀如來の本願にのたまはく。たとひわれ佛をえたらんに。他方佛土の諸菩薩衆。わかくにゝ來生して。究竟してかならす一生補處にいたらん。その本願自在の所化。衆生のためのゆゑに。弘誓のよろひをきて。徳本を積累し。一切を度脱し。諸佛のくにゝあそひ。菩薩の行を修し。十方の諸佛如來を供養し。恒沙無量の衆生を開化して。無上正眞の道を立せしめんをは除く。常倫に

超出し。諸地の行現前し。普賢の德を修習せん。もししかちすは正覺をとらしと。この經を按して。かのくにの菩薩を推するに。あるひは一地より一地にいたらさるへし。十地の階次といふは。これ釋迦如來閻浮提にしてひとつの應化道ならくのみと。他方の淨土はなんそかならちすしもかくのことくならん。五種の不思議のなかに。佛法もとも不可思議なり。もし菩薩かならす一地より一地にいたりて超越の理なしといはゝ。いまたあへてつまひらかならす。たとへは樹ありて。なつけて好堅といふ。この樹地より生して百歲なちん。いましつふさに一日に長高なること百丈なるかことし。日々にかくのことし。百歲のたけをはかるにあに脩松に類せんや。松の生長するをみるに日に寸をすきす。かの好堅をきゝて。なんそよく即日をうたかはさらん。ひとありて釋迦如來羅漢を一聽に證し。無生を

終朝に制すとのたまへるをきゝて。これ接誘のみことにして。稱實の説にあらすとおもへり。この論事をきゝて。またまさに信せさるへし。それ非常のことはゝ。常人のみゝにいらす。これをしからすとおもへり。またそれよろしかるへきなり。略して八句をときて。如來の自利々他の功德莊嚴次第に成就したまへるを示現したまへりと。しるへし。これはいかんか次第なるとならは。さきの十七句はこれ莊嚴國土の功德成就なり。すてに國土の相をしんぬ。國土の主をしるへし。このゆゑにつきに佛莊嚴功德を觀す。かの佛もし莊嚴をなしていつれのところにしてか坐すると。このゆゑにまつ座を觀すへし。すてに座をしんぬ。すてによろしく座主をしるへし。このゆゑにつきに佛身業を莊嚴したまへるを觀す。すてに身業をしんぬ。いかなる聲名かましますと。しるへしこのゆゑにつきに佛口業を莊

嚴したまへるを觀す。すてに名聞をしんぬ。よろしく得名のゆゑをしるへし。このゆゑにつきに佛の心業を莊嚴したまへるを觀す。すてに三業具足したまへるをしんぬ。人天の大師となりて化をうくるにたえたるひとは。これたれそとしるへし。このゆゑにつきに大衆の功德を觀す。すてに大衆無量の功德いますことをしんぬ。よろしく上首はたれそとしるへし。このゆゑにつきに上首を觀す。上首はこれ佛なり。すてに上首おそらくは長劫におなしきことをしんぬ。このゆゑにつきに主を觀す。すてにこの主をしんぬ。主いかなる增上かましますと。このゆゑにつきに莊嚴不虛作住持を觀す。八句の次第成せるなり。菩薩を觀せは。いかんか菩薩の莊嚴功德成就を觀察する。菩薩の莊嚴功德成就を觀察せは。かの菩薩を觀するに四種の正修行功德成就したまへることありと。しるへし。眞如はこれ諸法

の正體なり。體如にして行すれは。すなはちこれ不行なり。不行にして行するを。如實修行となつく。體はたゝ一如にして。義をしてわかちて四とす。このゆゑに四行。一をもてまさしくこれをかぬ。なにものをか四とする。一には一佛土において。身動搖せすして十方に偏す。種々に應化して。實のごとく修行して。つねに佛事をなす。偈に安樂國は清淨にして。つねに無垢輪を轉す。化佛菩薩は日の須彌に住持するかごときのゆゑにとのたまへり。もろ／＼の衆生の淤泥華をひらくかゆゑにとのたまへり。八地已上の菩薩はつねに三昧にありて。三昧力をもて。身本處を動せすして。よくあまねく十方にいたりて。諸佛を供養し衆生を敎化す。無垢輪は。佛地の功德なり。佛地の功德は習氣煩惱の垢ましまさす。佛もろ／＼の菩薩のためにつねにこの法輪を轉す。もろ／＼の大菩薩またよくこの法輪を

もて。一切を開導して。暫時も休息なけん。かるかゆゑに常轉といふ。法身は日のことくして。應化身のひかりもろ〳〵の世界に徧するなり。日といふはいまたもて不動をあかすにたらされは。また如須彌住持といふなり。淤泥華といふは。經にのたまはく。高原の陸地には蓮華を生せす。卑濕の淤泥にいまし蓮華を生す。これは凡夫煩惱の泥のなかにありて。菩薩のために開導せられて。よく佛の正覺のはなを生するにたとふ。まことにそれ三寶を紹隆してつねにたえさらしむと。二にはかの應化身一切のとき前ならす後ならす。一心一念に大光明をはなちて。こと〳〵くよくあまねく十方世界にいたりて衆生を教化す。種々に方便し修行所作して。一切衆生の苦を滅除するかゆゑに。偈に無垢莊嚴のひかり。一念および一時に。あまねく諸佛の會をてらして。もろ〳〵の群生を利益するゆゑにと

のたまへり。かみに不動にしていたるといへり。あるひはいたるに前後あるへし。このゆゑにまた一念一時無前無後とのたまへり。三には。かれ一切の世界において餘なくもろ〱の佛會をてらす。大衆餘なく。廣大無量にして。諸佛如來の功德を供養恭敬讃嘆す。偈に天の樂華衣妙香等をふりて。諸佛の功德を供養し。ほむるに分別の心あることなきかゆゑにとのたまへりと。無餘といふは。あまねく一切世界一切諸佛大會にいたりて。一世界一佛會としていたらさることあることなきことをあかすなり。肇公のいはく。法身はかたちなくしてかたちをことにす。ならひに至韻に應す。ことはなくして玄籍いよ〱しき。冥權はかりことなくして。動して事と會することけたしこのこゝろなり。四にはかれ十方一切の世界に三寶ましまさぬところにおいて。佛法僧寶功德大海を住持し莊嚴して。あま

ねくしめして如實修行をさとらしむ。偈になんらの世界にか佛法功德寶ましまさざらん。われねがはくはみな往生して佛法をしめして佛のごとくせんとのたまへるがゆゑにと。かみの三句はあまねくいたるといふといへども。みなこれ有佛の國土なり。もしこの句なくは。すなはちこれ法身。ところとして法ならざることあらん。上善ところとして善ならざることあらん。觀行の躰相はをはりぬ。已下はこれ解義のなかの第四重なり。なづけて淨入願心とす。淨入願心は。またさきに觀察莊嚴佛土功德成就と。莊嚴佛功德成就と。莊嚴菩薩功德成就とをときつ。この三種の成就は。願心の莊嚴したまへるなりとしるべしといへり。應知といふは。この三種の莊嚴成就は。もと四十八願等の清淨願心の莊嚴せるところなるによりて。因淨なるがゆゑに果淨なり。因なくして他の因のあるにはあらずとしるべ

しとなり。略して入一法句をとくかゆゑにとのたまへり。かみの國土の莊嚴十七句と。如來の莊嚴八句と。菩薩の莊嚴四句とを廣とす。入一法句は略とす。なんかゆゑぞ廣略相入を示現するとならは。諸佛菩薩に二種の法身まします。一には法性法身。二には方便法身なり。法性法身によりて方便法身を生す。方便法身によりて法性法身をいたす。この二法身は異にしてわかつへからす。一にして同すへからす。このゆゑに廣略相入して。かぬるに法の名をもてす。菩薩もし廣略相入をしらされはすなはち自利々他するにあたはす。一法句は。いはく清淨句なり。清淨句は。いはく眞實の智慧無爲法身なるかゆゑにとのたまへり。この三句は展轉して相入す。なんの義によりてかこれをなつけて法とする。清淨をもてのゆゑに。なんの義によりてかなつけて清淨とする。眞實の智慧無爲法身をもてのゆゑ

なり。眞實の智慧は。實相の智慧なり。實相は無相なるかゆゑに。眞智無智なり。無爲法身は法性身なり。法性寂滅なるかゆゑに。法身は無相なり。無相のゆゑによく相ならさることなし。このゆゑに相好莊嚴すなはち法身なり。無知のゆゑによくしらさることなし。このゆゑに一切種智すなはち眞實の智慧なり。眞實をもてして智慧になつくることは。智慧は作にあらす非作にあらさることをあかす。無爲をもてして法身をたつることは。法身は色にあらす非色にあらさることをあかす。非にあらされはあに非のよく是なるにあらさらんや。けたし非なきをこれを是といふ。おのつから是にしてまた是にあらさることをまつことなきなり。是にあらす非にあらす。百非のたとへさるところなり。このゆゑに清淨句といへり。清淨句といふは。いはく眞實の智慧無爲法身なり。この清淨に二種あり。しる

へし。かみの轉入句のなかに。一法に通して清淨にいる。清淨に通して法身にいる。いままさに清淨をわかちて二種をいたすかゆゑなり。かるかゆゑにしるへしといへり。なんらか二種。一には器世間清淨。二には衆生世間清淨なり。器世間清淨といふは。さきにとくかことき の十七種の莊嚴佛土功德成就。これを器世間清淨となつく。衆生世間清淨といふは。さきにとくかことき の八種の莊嚴佛功德成就と。四種の莊嚴菩薩功德成就と。これを衆生世間清淨となつく。かくのことき の一法句に二種の清淨の義を攝すとしるへしとのたまへり。それ衆生は別報の體とす。國土は共報の用とす。體用ひとつならす。このゆゑにしるへし。しかるに諸法は心をして無餘の境界を成す。衆生および器また異にして一ならさることをえす。すなはち義をしてわかつに異ならす。おなしく清淨なり。器は用なり。い

はくかの淨土はこれかの清淨の衆生の受用するところなるかゆゑに。なつけて器とす。淨食に不淨の器をもちふれは。器不淨なるをもてのゆゑに。食また不淨なり。不淨の食に淨器をもちふれは。食不淨なるかゆゑに器また不淨なるかことし。かならすふたつともにいさぎよくしていまし淨と稱することをえしむ。こゝをもてひとつの清淨の名。かならす二種を攝す。問ていはく。衆生清淨といへるは。すなはちこれ佛と菩薩となり。かのもろ〳〵の人天この清淨のかすにいることをえんやいなや。こたへていはく。清淨となつくることをうるは實の清淨にあらす。たとへは出家の聖人は。煩惱の賊をころすをもてのゆゑに。なつけて比丘とす。凡夫の出家のものをまた比丘となつくるかことし。また灌頂王子初生のとき。三十二相を具して。すなはち七寶のために屬せらる。いまた轉輪王の事をなすこ

とあたはすといへとも。また轉輪王となつくるかことし。それかならす轉輪王たるへきをもてのゆゑに。かのもろ〳〵の人天もまた〳〵かくのことし。みな大乘正定の聚にいりて畢竟してまさに清淨法身をうへし。まさにうへきをもてのゆゑに清淨となつくることをうるなりと。善巧攝化といふは。かくのことき菩薩は奢摩他毗婆舍那廣略修行成就して柔軟心なりとのたまへり。柔軟心といふは。いはく廣略の止觀相順し修行して不二の心を成す。たとへは水をもてかけをとるに。清と靜とあひたすけて成就するかことし。實のことく廣略の諸法をしるとのたまへり。如實知といふは。實相のことくしてしるなり。廣のなかの二十九句。略のなかの一句。實相にあらさることなし。かくのことき巧方便廻向を成就したまへりとのたまへりと。かくのことき といふは。前後の廣略みな實相なるかことき なり。

實相をしるをもてのゆゑに。すなはち三界衆生の虚妄の相をしる。衆生の虚妄をしれは。すなはち眞實の慈悲を生す。眞實の法身をしれはすなはち眞實の歸依をおこす。慈悲と歸依と巧方便とはしもにあり。なにものか菩薩の巧方便廻向なる。菩薩の巧方便廻向といふは。いはく禮拜等の五種の修行をとく。所集の一切の功德善根は自身住持の樂をもとめす。一切衆生の苦をぬかんとおほすかゆゑに。作願して一切衆生を攝取して。ともにおなしくかの安樂佛國に生せしむ。これを菩薩の巧方便廻向成就となつくとのたまへり。王舍城所說の無量壽經を按するに。三輩生のなかに行に優劣ありといへとも。みな無上菩提の心を發せさるはなけん。この無上菩提心はすなはちこれ願作佛心なり。願作佛心はすなはちこれ度衆生心なり。度衆生心はすなはちこれ衆生を攝取して。有佛の國土に生せしむる心

なり。このゆゑにかの安樂淨土に生せんと願するものは。かならす無上菩提心を發するなり。もしひと無上菩提心を發せすして。たゝかの國土の受樂無間なるをきゝて。樂のためのゆゑに生せんと願するは。またまさに往生をえさるへし。このゆゑに自身住持の樂をもとめす。一切衆生の苦をぬかんとおほすかゆゑにとのたまへり。住持樂といふは。いはくかの安樂淨土は阿彌陀如來の本願力のために住持せられて。受樂ひまなきなり。おほよそ廻向の名義を釋せは。いはくおのれか所集の一切の功德をもて。一切衆生に施與して。ともに佛道にむかへしめたまふなり。巧方便といふは。いはく菩薩願すらく。おのれか智慧の火をもて一切衆生の煩惱の草木をやかんと。もし一衆生として成佛せさることあらは。われ佛にならしと。しかるに衆生いまたこと〴〵く成佛せさるに。菩薩すてにみつから成佛

せんは。たとへは火燧（ひはしをもて）して一切の草木をつんてやきてつくさしめんとおもふに。草木いまたつきさるに火燧すてにつきんかことし。その身をのちにして身をさきにするをもてのゆゑに。方便となつく。このなかに方便といふは。いはく作願して一切衆生を攝取して。ともにおなしくかの安樂佛國に生せしむ。かの佛國はすなはちこれ畢竟成佛の道路。無上の方便なり。鄣菩提門といふは。菩薩かくのことくよく廻向成就したまへるをしれは。すなはちよく三種の菩提門相違の法を遠離す。なんらか三種。一には智慧門によりて自樂をもとめす。我心自身に貪著するを遠離せるかゆゑにとのたまへり。知進守退を智といふ。空無我をしるを慧といふ。智によるかゆゑに自樂をもとめす。慧によるかゆゑに我心自身に貪著するを遠離せり。二には慈悲門によれり。一切衆生の苦をぬいて。無安衆生心を遠離

せるかゆゑにとのたまへり。苦をぬくを慈といふ。樂をあたふるを悲といふ。慈によるかゆゑに一切衆生の苦をぬく。悲によるかゆゑに無安衆生心を遠離せり。三には方便門によれり。一切衆生を憐愍したまふ心なり。自身を供養恭敬する心を遠離せるかゆゑにとのたまへり。正直を方といふ。外己を便といふ。正直によるかゆゑに一切衆生を憐愍する心を生す。外己によるかゆゑに自心を供養し恭敬する心を遠離せり。これを三種の菩提門相違の法を遠離すとなつく。順菩提門といふは。菩薩はかくのことく三種の菩提門相違の法を遠離して。三種の隨順菩提門の法滿足することをえたまへるかゆゑに。なんらか三種。一には無染清淨心。自身のために諸樂をもとめさるをもてのゆゑにとのたまへり。菩提はこれ無染清淨のところなり。もし身のために樂をもとめは。すなはち菩提に違しなん。このゆゑ

に無染清淨心はこれ菩提門に順するなり。ふたつには安清淨心。一切衆生の苦をぬくをもてのゆゑにとのたまへり。菩提はこれ一切衆生を安穩する清淨のところなり。もし作心して一切衆生をぬいて生死の苦をはなれしめすは。すなはち菩提に違しなん。このゆゑに一切衆生の苦をぬくは。これ菩提門に順するなりと。三には樂清淨心。一切衆生をして大菩提をえしむるをもてのゆゑに。衆生を攝取してかの國土に生せしむるをもてのゆゑにとのたまへり。菩提はこれ畢竟常樂のところなり。もし一切衆生をして畢竟常樂をえしめすはすなはち菩提に違しなん。この畢竟常樂はなにゝよりてかうる。大乘門によるなり。大乘門といふは。いはくかの安樂佛國土これなり。このゆゑにまた衆生を攝取してかの國土に生せしむるをもてのゆゑにとのたまへり。これを三種の隨順菩提門の法滿足せりとなづく。

しるへしと。名義攝對といふは。さきに智慧慈悲方便の三種の門般若を攝取す。般若方便を攝取すとときつ。しるへしとのたまへり。般若といふは如に達する慧の名なり。方便といふは權に通する智の稱なり。如に達すればすなはち心行寂滅なり。權に通すればすなはちつふさに衆機に省く智なり。つふさに應して無知なり。寂滅の慧また無知にしてつふさにはぶく。しかればすなはち智慧と方便と。あひ緣して動しあひ緣して靜なり。動靜を失せさることは智慧の功なり。靜動を廢せさることは方便のちからなり。このゆゑに智慧と慈悲と方便と般若を攝取す。般若は方便を攝取す。しるへしといふはいはく。智慧と方便はこれ菩薩の父母なり。もし智慧と方便とによらすは。菩薩の法則成就せさることをしるへし。なにをもてのゆゑに。もし智慧なくして衆生のためにするときんは。すなはち顚倒

に墮せん。もし方便なくして法性を觀するときんは。すなはち實際を證せん。このゆゑにしるへしと。さきに遠離我心貪著自身遠離無安衆生心遠離供養恭敬自身心をときつ。この三種の法は障菩提心を遠離するなりとしるへしとのたまへり。諸法におの／＼障碍の相あり。風はよく靜をさふ。土はよく水をさふ。濕はよく火をさふ。五黑十惡は人天をさふ。四顚倒は聲聞の果をさふるかことし。このなかの三種は菩提をさふる心を遠離せすと。しるへしといふは。もし無障をえんとおもはゝ。まさにこの三種の障碍を遠離すへきなり。さきに無染淸淨心・安淸淨心・樂淸淨心をときつ。この三種の心は略して一處にして妙樂勝眞心を成就したまへり。しるへしとのたまへり。樂に三種あり。一には外樂。いはく五識所生の樂なり。二には內樂。いはく初禪二禪三禪の意識所生の樂なり。三には法樂。いはく智慧

所生の樂なり。この智慧所生の樂は佛の功德を愛するよりおこれり。これは遠離我心と。遠離無安衆生心と。遠離自供養心とこの三種の心清淨に增進して。略して妙樂勝眞心とす。妙の言はそれ好なり。この樂は佛を緣して生するをもてのゆゑに。勝の言は三界のうちの樂に勝出せり。眞の言は虛僞ならす顚倒せさるなり。願事成就といふは。かくのごときの菩薩は。智慧心・方便心・無障心・勝眞心をして。よく清淨佛國土に生せしめたまへり。しるへしとのたまへり。應知といふは。いはくこの四種の清淨の功德。よくかの清淨佛國土に生することをえしむ。これ他緣をして生するにはあらすとしるへしとなり。これを菩薩摩訶薩五種の法門に隨順して。所作こゝろにしたかひて自在に成就したまへりとなつく。さきの所說のごとき。身業・口業・意業・智業・方便・智業・法門に隨順せるかゆゑにとのたまへり。隨

意自在といふは。いふこゝろは。この五種の功德力よく淸淨佛土に生せしめて。出沒自在なり。身業といふは禮拜なり。口業といふは讃嘆なり。意業といふは作願なり。智業といふは觀察なり。方便智業といふは迴向なり。この五種の業和合せり。すなはちこれ往生淨土の法門に隨順して。自在の業成就したまへりとのたまへり。利行滿足といふは。また五種の門ありて。やうやくに五種の功德を成就したまへりと。しるへし。なにものか五門。一には近門。二には大會衆門。三には宅門。四には屋門。五には薗林遊戲地門なりとのたまへり。この五種は入出の次第の相を示現せしむ。入相のなかに。はしめに淨土にいたるは。これ近相なり。いはく大氣正定聚にいるは。阿耨多羅三藐三菩提にちかつくなり。淨土にいりおはるは。すなはち如來の大會衆のかすにいるなり。衆のかすにいりおはりぬれ

は。まさに修行安心の宅にいたるなるへし。宅にいりおはれは。まさに修行所居の屋寓にいたるなるへし。修行成就しおはりぬれは。まさに敎化地にいたるへし。敎化地はすなはちこれ菩薩の自娯樂の地なり。このゆゑに出門を薗林遊戯地門と稱すと。この五種の門は。はしめの四種の門は入て功德を成就したまへり。第五門は。出の功德を成就したまへりとのたまへり。この入出の功德は。なにものかこれや。釋すらく入第一門といふは。阿彌陀佛を禮拜して。かのくにゝ生せしめんかためにするをもてのゆゑに。安樂世界に生することをえしむ。これを第一門となつく。佛を禮して佛國に生せんと願するはこれはしめの功德の相なりと。入第二門といふは。阿彌陀佛を讃嘆し。名義に隨順して如來のみなを稱せしめ。如來の光明智相によりて修行せるをもてのゆゑに。大會衆のかずにいることをえし

む。これを入第二門となつくとのたまへり。如來の名義によりて讃嘆する。これ第二の功德の相なりと。入第三門といふは。一心に專念し作願してかしこに生して。奢摩他寂靜三昧の行を修するをもてのゆゑに。蓮華藏世界にいることをえしむ。これを入第三門となつく。寂靜止を修せんためのゆゑに。一心にかのくにゝ生せんと願する。これ第三の功德相なりと。入第四門といふは。かの妙莊嚴を專念し觀察して毘婆舍那を修するをもてのゆゑに。かのところにいたることをえて。種々の法味の樂を受用せしむ。これを入第四門となつくとのたまへり。種々の法味の樂といふは。毘婆舍那のなかに。觀佛國土清淨味・攝受衆生大乘味・畢竟住持不虛作味・類事起行願取佛土味あり。かくのごときらの無量の莊嚴佛道の味あるかゆゑに。種々とのたまへり。これ第四の功德の相なりと。出第五門といふは。大慈悲

をもて一切苦惱の衆生を觀察して。應化身をしめして。生死の薗煩惱のはやしのなかに迴入して。神通に遊戯し教化地にいたる。本願力の廻向をもてのゆゑに。これを出第五門となつくとのたまへり。示應化身といふは。法華經の普門示現の類のごときとなり。遊戯にふたつの義あり。一には自在の義。菩薩衆生を度すること。たとへは師子の鹿をうつに所爲はゝからさるかことさんは。遊戯するかことし。二には度無所度の義なり。菩薩衆生を觀するに。畢竟してところなし。無量の衆生を度すといへとも。實に一衆生として滅度をうるものなし。衆生を度すとしめすこと遊戯することとし。本願力といふは。大菩薩法身のなかにおいて。つねに三昧にまし〱て。種々の身。種々の神通。種々の説法を現することをしめすこと。みな本願力よりおこるをもてなり。たとへは阿修羅の琴の鼓するものな

しといへとも。音曲自然なるかことし。これを教化地の第五の功徳相となつくとのたまへり。(已上抄出)しかれは大聖の眞言。まことにしんぬ。大涅槃を證することは願力の廻向によりてなり。還相の利益は利他の正意をあらはすなり。こゝをもて論主は廣大無碍の一心を宣布して。あまねく雜善堪忍の群萠を開化す。宗師は大悲往還の廻向を顯示して。ねんごろに他利利他の深義を弘宣したまへり。あふいて奉事すへし。ことに頂戴すへしと。

顯淨土眞實證文類四

顯淨土眞實證文類四

顯淨土眞佛土文類五

愚禿釋の親鸞の集

光明無量の願　　壽命無量の願

つしんて眞佛土を按すれは。佛は。すなはちこれ不可思議光如來なり。土は。またこれ無量光明土なり。しかれはすなはち大悲の誓願に酬報す。かるかゆゑに眞の報佛土といふ。すてにして願います。すなはち光明壽命の願これなり。大經にのたまはく。たとひわれ佛をえたらんに。光明よく限量ありて。しも百千億那由佗の諸佛のくにをてらさゝるにいたらは。正覺をとらしと。また願にのたまはく。たとひわれ佛をえたらんに。壽命よく限量ありて。しも百千億

那由佗劫にいたらは。正覺をとらじと。願成就の文にのたまはく。佛阿難につけたまはく。無量壽佛の威神光明。最尊第一にして。諸佛の光明のおよふことあたはさるところなり。(乃至)このゆゑに無量壽佛をは無量光佛。無邊光佛。無碍光佛。無對光佛。炎王光佛。淸淨光佛。歡喜光佛。智慧光佛。不斷光佛。難思光佛。無稱光佛。超日月光佛と號す。それ衆生ありて。このひかりにまうあふものは。三垢消滅し。身意柔軟なり。歡喜踊躍して。善心こゝに生す。もし三塗勤苦のところにありても。この光明をみれは。みな休息をえて。また苦惱なし。壽終之後にみな解脫をかうふる。無量壽佛は光明顯赫にして。十方を照曜す。諸佛の國土にきこえさることなし。たゝわれのみいまその光明を稱するにあらす。一切の諸佛聲聞緣覺もろもろの菩薩衆。ことごとくともに嘆譽すること。またまたかくのことし。

もし衆生ありて。その光明の威神功德をきゝて。日夜に稱說して。至心不斷なれは。こゝろの所願にしたかひて。そのくにゝ生することをえて。もろ〳〵の菩薩聲聞大衆のために。ともに嘆譽しその功德を稱せられん。それしかうしてのち佛道をうるときにいたりて。あまねく十方諸佛菩薩のためにその光明をほめられんこと。またいまのことくならん。佛のたまはく。われ無量壽佛の光明威神魏魏殊妙なるをとくこと。晝夜一劫すとも。なをいまたつくすことあたはしと。佛阿難にかたりたまはく。無量壽佛は壽命長久にして。勝計すへからす。なんちむしろしれりや。たとひ十方世界の無量の衆生。みな人身をえて。こと〳〵く聲聞緣覺を成就せしめて。すへてともに集會し。おもひをもはらにし心をひとつにして。その智力をつくして。百千万劫においてこと〳〵くともに推算して。その壽命長

遠のかすをはからんに。窮盡してその限極をしることあたはしと。(抄出)無量壽如來會にのたまはく。阿難この義をもてのゆゑに。無量壽佛にまた異名まします。いはく。無量光。無邊光。無著光。無碍光。光照王。端嚴光。愛光。喜光。可觀光。不可思議光。無等。(等下有光字)不可稱量光。暎蔽日光。暎蔽月光。掩奪日月光なり。かの光明清淨廣大にして。あまねく衆生をして身心悅樂せしむ。また一切餘の佛刹中の天龍夜叉阿修羅等みな歡悅をえしむと。(已上)無量清淨平等覺經にのたまはく。(帛延譯)速疾にこえてすなはち安樂國の世界にいたるへし。無量光明土にいたりて。無數の佛を供養すと。(已上)佛說諸佛阿彌陀三那三佛薩樓佛檀過度人道經(支謙譯)にのたまはく。佛のたまはく。阿彌陀佛の光明最尊第一にしてならひなし。諸佛の光明みなおよはさるところなり。八方上下無央數の諸佛のなかに。佛の頂中の光明七

丈をてらすあり。佛の頂中の光明一里をてらすあり。（乃至）佛の頂中の光明二百万佛國をてらすあり。佛のたまはく。もろ〳〵の八方上下無央數の佛の頂中の光明炎照するところ。みなかくのごとし。阿彌陀佛の頂中の光明の炎照するところ。千万佛國なり。諸佛の光明のてらすところに近遠あるゆゑはいかんとなれは。もとそれ前世の宿命に道をもとめて菩薩たりしに。所願をてらすに功德おの〳〵おのつから大小あり。それしかうしてのち作佛するときにいたりて。おの〳〵みつからこれをえたり。このゆゑに光明うたゝ同等ならさらしむ。諸佛の威神同等なるならくのみ。自在のこゝろの所欲。作爲してあらかしめはかゝす。阿彌陀佛の光明のてらすところ最大なり。諸佛の光明みなおよふことあたはさるところなり。佛阿彌陀佛の光明の極善なることを稱譽したまふ。阿彌陀佛の光明は極善にして。

善のなかの明好なり。それこゝろよきことならひなし。絶殊無極なり。阿彌陀佛の光明は清潔にして。瑕穢なく缺滅なし。阿彌陀佛の光明は殊好にして日月の明よりもすくれたること。百千億萬倍なり。諸佛の光明のなかの極明なり。光明のなかの極好なり。光明のなかの極雄傑なり。光明のなかの快善なり。諸佛のなかの王なり。光明のなかの極尊なり。光明のなかの最明無極なり。もろ〳〵の無數天下の幽冥のところを炎照するに。みなつねに大明なり。諸有の人民蜎飛蠕動の類。阿彌陀佛の光明をみさることなし。みたてまつるものの慈心歡喜せさるものなけん。世間諸有の婬泆嗔怒愚癡のもの。阿彌陀佛の光明をみたてまつりて。善をなさゝるはなし。もろ〳〵の泥梨禽狩辟荔考掠勤苦のところにありて。阿彌陀佛の光明をみたてまつれは。いたりてみな休止してまた治することをえされとも。死し

てのち憂苦を解脱することをえさるものはなし。阿彌陀佛の光明とみなとは。八方上下無窮無極無央數の諸佛國にきかしめたまふ。諸天人民聞知せさることなし。聞知せんもの度脱せさるはなし。佛のたまはく。ひとりわれのみ阿彌陀佛の光明を稱譽せそ。八方上下無央數の佛辟支佛菩薩阿羅漢稱譽するところみなかくのことし。佛のたまはく。それ人民善男子善女人ありて。阿彌陀佛のみなをきゝて。光明を稱譽して。朝暮につねにその光好を稱譽して。至心斷絶せされは。心の所願にありて。阿彌陀佛國に往生すと。(已上)不空羂索神變眞言經にのたまはく。なんち當生のところは。これ阿彌陀佛清淨報土なり。蓮華より化生して。つねに諸佛をみたてまつる。もろ〳〵の法忍を證せん。壽命無量百千劫數ならん。直に阿耨多羅三藐三菩提にいたる。また退轉せす。われつねに祐護すと。(已上)涅槃經にのたまはく。

また解脱は。なつけて虛無といふ。虛無はすなはちこれ解脱。解脱はすなはちこれ如來なり。如來はすなはちこれ虛無なり。非作の所作なり。(乃至)眞解脱は。不生不滅なり。このゆゑに解脱すなはちこれ如來なり。如來またしかなり。不生不滅。不老不死。不破不壞にして。有爲の法にあらず。この義をもてのゆゑに。なつけて如來入大涅槃といふ。(乃至)また解脱は。無上上となつく。(乃至)無上上は。すなはち眞解脱なり。眞解脱は。すなはちこれ如來なり。(乃至)もし阿耨多羅三藐三菩提を成することをえをはりて。無愛無疑なり。無愛無疑はすなはち眞解脱なり。眞解脱はすなはちこれ如來なり。(乃至)如來はすなはちこれ涅槃なり。涅槃はすなはちこれ無盡なり。無盡はすなはちこれ佛性なり。佛性はすなはちこれ決定なり。決定はすなはちこれ阿耨多羅三藐三菩提なりと。迦葉菩薩佛にまうしてまうさく。世尊もし涅槃と

佛性と決定と如來とこれ一義名ならば。いかんぞときて三歸依ありとのたまへるや。佛迦葉につけたまはく。善男子一切衆生生死を怖畏するかゆゑに。三歸をもとむ。三歸をもてのゆゑに。すなはち佛性と決定と涅槃とをしるなり。善男子法の名一義異なるあり。法の名義倶異なるあり。名一義異といふは。佛と常法と常比丘僧とは常なり。涅槃虚空みなまたこれ常なり。これを名一義異となづく。名義倶異といふは。佛を爲覺となづく。法を不覺となづく。僧を和合となづく。涅槃を解脱となづく。虚空を非善となづく。また無碍となづく。これを名義倶異とす。善男子。三歸依といふは。また〱かくのごとしと。（略出）またのたまはく。光明は。不羸劣になづく。不羸劣といふは。なつけて如來といふ。また光明は。なつけて智慧とすと。（已上）またのたまはく。善男子一切有爲はみなこれ無常なり。虚空

は無爲なり。このゆゑに常とす。佛性は無爲なり。このゆゑに常とす。虛空はすなはちこれ佛性。佛性はすなはちこれ如來。如來はすなはちこれ無爲。無爲はすなはちこれ常。常はすなはちこれ法。法はすなはちこれ僧。僧はすなはち無爲。無爲はすなはちこれ常なり。(乃至)善男子。たとへは牛より乳をいたす。乳より酪をいたす。酪より生蘇をいたす。生蘇より熟蘇をいたす。熟蘇より醍醐をいたす。醍醐最上なり。もし服することあるものは。衆病みなのぞこる。所有のもろ〳〵のくすりはこと〳〵くそのなかにいるかことし。善男子。佛もまたかくのことし。佛より十二部經をいたす。十二部經より修多羅をいたす。修多羅より方等經をいたす。方等經より般若波羅蜜をいたす。般若波羅蜜より大涅槃をいたす。なをし醍醐のことし。醍醐といふは。佛性にたとふ。佛性はすなはちこれ如來なり。善男

子。かくのことき義のゆゑに。ときて如來所有の功德無量無邊不可稱計とのたまへり。（抄出）またのたまはく。善男子。道に二種あり。ひとつには常。ふたつには無常なり。菩薩の相にまた二種あり。ひとつには常。ふたつには無常なり。涅槃もまたしかなり。外道の道をなつけて無常とす。內道の道をはこれをなつけて常とす。聲聞緣覺所有の菩提をなつけて無常とす。菩薩諸佛の所有の菩提。これをなつけて常とす。外の解脫は。なつけて無常とす。內の解脫は。これをなつけて常とすと。善男子。道と菩提およひ涅槃とこと〱くなつけて常とす。一切衆生はつねに無量の煩惱のためにおほはれて。慧眼なきかゆゑに。みることをうることあたはすして。もろ〱の衆生戒定慧を修するをみんとおもふかために。修行をもてのゆゑに。道と菩提とおよひ涅槃とをみる。これを菩薩得道菩提涅槃となつく。

道の性相。實に不生滅なり。この義をもてのゆゑに投持すへからす。(王乃)道は色像なしといへともみつへし。稱量してしんぬへし。しかるに實に用あり。(王乃)衆生の心のこときは。これ色にあらす。長にあらす短にあらす。麁にあらす細にあらす。縛にあらす解にあらす。見にあらすといへとも。法としてまたこれ有なりと。(抄出)またのたまはく。善男子。大樂あるかゆゑに。大涅槃となつく。涅槃は無樂なり。四樂をもてのゆゑに。大涅槃となつく。なんらをかよつとする。ひとつには諸樂を斷するかゆゑに。樂を斷せされはすなはちなつけて苦とす。もし苦あらは。大樂となつけす。樂を斷するをもてのゆゑに。すなはち苦あることなけん。無苦無樂をいまし大樂となつく。涅槃の性は無苦無樂なり。このゆゑに涅槃をなつけて大樂とす。この義をもてのゆゑに。大涅槃となつく。またつぎに。善男子。樂に二種

あり。ひとつには凡夫。ふたつには諸佛なり。凡夫の樂は無常敗壞なり。このゆゑに無樂なり。諸佛は常樂なり。變易あることなきかゆゑに大樂となつく。またつぎに。善男子。三種の受あり。ひとつには苦受。ふたつには樂受。みつには不苦不樂受なり。不苦不樂これまた苦とす。涅槃も不苦不樂におなしといへとも。しかも大樂となつく。大樂をもてのゆゑに。大涅槃となつく。ふたつには大寂靜の故に。なつけて大樂とす。涅槃の性これ大寂靜なり。なにをもてのゆゑに。一切憒閙の法を遠離せるゆゑに。大寂をもてのゆゑに大涅槃となつく。みつには一切智のゆゑに。なつけて大樂とす。一切智にあらさるをは大樂となつけす。諸佛如來は一切智のゆゑに。なつけて大樂とす。大樂をもてのゆゑに。大涅槃となつく。よつには身不壞のゆゑに。なつけて大樂とす。身もし壞すへきはすなはち

樂となつけす。如來の身は金剛にして壞なし。煩惱の身無常の身にあらす。かるかゆゑに大樂となつく。大樂をもてのゆゑに大涅槃となつく。（已上）またのたまはく。不可稱量不可思議なるかゆゑに。なつけて大般涅槃とすることをう。純淨をもてのゆゑに。大涅槃となつく。いかんか純淨なる。淨に四種あり。なんらをかよつとする。ひとつには二十五有なつけて不淨とす。よくなかく斷するかゆゑに。なつけて淨とすることをう。淨すなはち涅槃なり。かくのことさの涅槃また有にしてこれ涅槃となつくることをう。實にこれ有にあらす。諸佛如來世俗にしたかふかゆゑに。涅槃有なりとときたまへり。たとへは世人父にあらさるを父といひ。母にあらさるを母といふ。實に父母にあらすして父母といふかことし。涅槃もまたしかなり。世俗にしたかふかゆゑに。ときて諸佛有にして大涅槃なりとのたまへ

り。ふたつには業清淨のゆゑに。一切凡夫の業は不清淨のゆゑに涅槃なし。諸佛如來は業清淨のゆゑに。かるかゆゑに大淨となつく。大淨をもてゆゑに大涅槃となつく。みつには身清淨のゆゑに。身もし無常なるをすなはち不淨となつく。如來の身は常なるかゆゑに大淨となつく。大淨をもてのゆゑに。大涅槃となつく。よつには心清淨のゆゑに。心もし有漏なるをなつけて不淨といふ。佛心は無漏なるかゆゑに大淨となつく。大淨をもてのゆゑに大涅槃となつく。善男子。これを善男子善女人となつくと（抄出）またのたまはく。善男子。諸佛如來は煩惱おこらす。これを涅槃となつく。所有の智慧法において無碍なり。これを如來とす。如來はこれ凡夫聲聞緣覺菩薩にあらす。これを佛性となつく。如來は身心智慧無量無邊阿僧祇の土に遍滿したまふ。障碍するところなし。これを虛空となつく。如

來は常住にして變易あることなけれは。なづけて實相といふ。この義をもてのゆゑに。如來は實に畢竟涅槃にあらす。これを菩薩となづく(已上)またのたまはく。迦葉菩薩いはく。世尊佛性は常なり。なを虚空のごとし。なんかゆゑぞ如來ときて未來とのたまふやと。如來もし一闡提のともから善法なしとのたまはゝ。一闡提のともから。それ同學同師父母親族妻子において。あにまさに愛念の心を生せさるへきや。もしそれ生せは。これ善にあらすやと。佛のたまはく。善哉善哉。善男子。こゝろよく此問を發せり。佛性はなを虚空のごとし。過去にあらす。未來にあらす。現在にあらす。一切衆生に三種の身あり。いはゆる過去未來現在なり。衆生未來に莊嚴清淨の身を具足して。佛性をみることをえん。このゆゑにわれ佛性未來といへりと。善男子。あるひは衆生のために。あるときは因をときて果

とす。あるときは果をときて因とす。このゆゑに經のなかに。命をときて食とす。色をみるを觸となつく。未來の身淨なるかゆゑに。佛性とゝく。世尊。佛の所說の義のことし。かくのことさのもの。なんかゆゑそときて一切衆生悉有佛性とのたまへると。善男子。衆生の佛性は現在に無なりといへとも。無といふへからす。虛空のことし。性は無なりといへとも。現在に無といふことをえす。一切衆生また無常なりといへとも。しかもこれ佛性は常住にして變なし。このゆゑにわれこの經のなかにおいてときたまふ。衆生の佛性は。非內非外にして。なを虛空のことしと。非內非外にして。それ虛空のことくして有なり。內外は虛空なれともなつけて一とし常とせす。また一切處有といふことをえす。虛空はまた內にあらす外にあらす。といへとも。しかももろ〳〵の衆生こと〴〵くみなこれにあり。衆

生の佛性もまた〳〵かくのことし。なんちかいふところの一闡提の
ともからのことし。もし身業・口業・意業・取業・求業・施業・解業かくのこと
きらの業あれとも。こと〳〵くこれ邪業なり。なにをもてのゆゑに。
因果をもとめさるかゆゑに。善男子。訶梨勒の菓根莖枝葉華實こと
〳〵くにかきかことし。一闡提の業もまた〳〵かくのことし。(巳上)また
のたまはく。善男子。如來は知諸根力を具足したまへり。このゆゑ
によく衆生の上中下根をさとり。分別してよくこのひとをしろしめ
して。下を轉して中となす。よくこのひとをしろしめして。中を轉して
上となす。よくこのひとをしろしめして。上を轉して中となす。よく
このひとをしろしめして。中を轉して下とす。このゆゑにまさにしる
へし。衆生の根性に決定あることなし。定なきをもてのゆゑに。あ
るひは善根を斷す。斷しおはりてかへりて生す。もしもろ〳〵の衆

生の根性定ならは。つひにさらに斷して。斷しおはりてまた生せさらん。また一闡提のともから。地獄に墮して壽命一劫なりとくへからすと。善男子。このゆゑに如來一切の法は定相あることなしとさきたまへり。迦葉菩薩佛にまうしてまうさく。世尊。如來は知諸根力を具足して。さためて善星まさに善根を斷すへしとしろしめさん。なんの因緣をもてその出家をゆるしたまふと。佛のたまはく。善男子。われ往昔のそのかみにおいて出家のとき。わか弟難陀。從弟阿難。提婆達多。子羅睺羅かくのごときらのともから。みなこと〱くわれにしたかひて出家修道す。われもし善星か出家をゆるさすは。そのひとつきにまさに王位をつくことをうへし。そのちから自在にしてまさに佛法を壞すへし。この因緣をもて。われすなはちその出家修道をゆるす。善男子。善星比丘もし出家せすは。また善根を斷

せん。無量世においても。すへて利益なけん。いま出家しおはりて善根を斷すといへとも。よく戒を受持して。耆舊長宿有德のひとを供養恭敬せん。初禪乃至四禪を修習せん。これを善因となつく。かくのごときの善因よく善法を生す。善法すてに生せはよく道を修習せん。すてに道を修習せは。まさに阿耨多羅三藐三菩提をうへし。このゆゑにわれ善星か出家をゆるす。善男子。もしわれ善星比丘か出家をゆるし戒をうけしめすは。すなはちわれを稱して如來具足十力とすることをえさらんと。（乃至）善男子。如來よく衆生のかくのごときの上中下根をしろしめす。このゆゑに佛は具知根力と稱す。迦葉菩薩佛にまうしてまうさく。世尊。如來はこの知根力を具足したまへり。このゆゑによく一切衆生上中下根利鈍の差別をしろしめして。ひとにしたかひ。こゝろにしたかひ。ときにしたかふかゆゑに。如來知諸根

力となつけたてまつる。(乃至)あるひはときて犯四重禁作五逆罪一闡提等みな佛性ありといふことありと。(乃至)如來世尊國土のためのゆゑに。時節のためのゆゑに。他語のためのゆゑに。ひとのためのゆゑに。衆根のためのゆゑに。一法のなかにおいて二種の說をなす。一名の法において無量の名をとく。一義のなかにおいて無量の名をとく。無量の義において無量の名をとく。いかんか一名に無量の名をとくや。なをし涅槃のことし。また涅槃となつく。また無生となつく。また無出となつく。また無作となつく。また無爲となつく。また歸依となつく。また窟宅となつく。また解脫となつく。また光明となつく。また燈明となつく。また彼岸となつく。また無畏となつく。また無退となつく。また安處となつく。また寂靜となつく。また無相となつく。また無二となつく。また一行となつく。また淸涼となつく。

また無闇となつく。また無礙となつく。また無諍となつく。また無濁となつく。また廣大となつく。また甘露となつく。また吉祥となつく。これを一名に無量の名をつくるとなつく。いかんか一義に無量の名をとくや。なをし帝釋のこと(乃至)いかんか無量の義において無量の名をとくやと。佛如來のみなのことし。如來の義異名異とす。また阿羅呵となつく。義異名異なり。また三藐三佛陀となつく。義異名異なり。また船師となつく。また導師となつく。また正覺となつく。また明行足となつく。また大師子王となつく。また沙門となつく。また婆羅門となつく。また寂靜となつく。また施主となつく。また到彼岸となつく。また大醫王となつく。また大象王となつく。また大龍王となつく。また施眼となつく。また大力士となつく。また大無畏となつく。また寶聚となつく。また商主となつく。また得

解脫となつく。また。大丈夫となつく。また天人師となつく。また大分陀利となつく。また獨無等侶となつく。また大福田となつく。また大智海となつく。また無相となつく。また具足八智となつく。かくのごとき一切義異名異なり。善男子。これを無量義のなかに無量の名をとくとなつく。また一義に無量の名をとくことあり。いはゆる陰のごとし。またなつけて陰とす。また顚倒となつく。またなつけて諦とす。またなつけて四念處とす。また四食となつく。また四識住處となつく。またなつけて有とす。またなつけて道とす。またなつけて時とす。またなつけて衆生とす。またなつけて世とす。また第一義となつく。また三修となつく。いはく身戒心なり。また因果となつく。また煩惱となつく。また解脫となつく。また十二因緣となつく。また聲聞辟支佛となつく。佛をまた地獄餓鬼畜生人天

となつく。また過去現在未來となつく。これを一義に無量の名をとくとなつく。善男子。如來世尊衆生のためのゆゑに。廣のなかに略をとく。略のなかに廣をとく。第一義諦をときて世諦とす。世諦の法をときて第一義諦とすと。（略出）またのたまはく。迦葉まうさく。世尊。第一義諦をまたなつけて。道とすまた菩提となつく。また涅槃となつく、（乃至）またのたまはく。善男子。われもて經のなかに。如來の身をとくにおほよそ二種あり。ひとつには生身ふたつには法身なり。生身といふは。すなはちこれ方便應化の身なり。かくのごとき身は。これ生老病死。長短黑白。是此是彼。是學無學といふことをうへし。わかもろ〳〵の弟子。この説をきゝおはりて。わかこゝろをさとられは。となへていはく。如來さためて佛身はこれ有爲の法なりとときかんと。法身はすなはちこれ常樂我淨なり。なかく一切

生老病死。非白非黑。非長非短。非此非彼。非學非無學をはなれたまへれは。もしは佛の出世および不出世に。つねに動せすして。變易あることなけん。善男子。わかもろ〳〵の弟子この說をきゝおはりて。わかこゝろをさとらされは。となへていはく。如來さためて佛身はこれ無爲の法なりとときたまへり。またいはく。わか所說の十二部經のことし。あるひは隨自意說。あるひは隨他意說。あるひは隨自他意說なり。（乃至）善男子。わか所說のことき。十住の菩薩すこしき佛性をみる。これを隨他意說となつく。なにをもてのゆゑに少見となつくるやと。十住の菩薩は首楞嚴等の三昧三千の法門たえたり。このゆゑに聲聞みつからしりて。まさに阿耨多羅三藐三菩提をうへくとも。一切衆生さためて阿耨多羅三藐三菩提をえんことをみす。このゆゑにわれ十住の菩薩少分佛性をみるとゝく。善男子。われつ

ねに一切衆生悉有佛性と宣說する。これを隨自意說となつく。一切衆生不斷不滅にして。乃至阿耨多羅三藐三菩提をうる。これを隨他意說ととく。一切衆生はこと〲く佛性あれとも。煩惱おほへるかゆゑに。みることをうることあたはすと。わか說かくのことし。なんちか說またしかなり。これを隨自他意說となつく。善男子。如來あるときは一法のためのゆゑに。無量の法をとくと。(抄出)またいはく。一切覺者をなつけて佛性とす。十住の菩薩はなつけて一切覺とすることをえさるかゆゑに。このゆゑにみるといへとも明了ならす。善男子。見に二種あり。ひとつには眼見。ふたつには聞見なり　諸佛世尊はまなこに佛性をみそなはす。たなこゝろのうちにおいて阿摩勒菓をみるかことし。十住の菩薩佛性を聞見すれとも。ことさらに了〲ならす。十住の菩薩たゝよくみつからさためて。阿耨多羅三藐三

菩提をうることをしりて。一切衆生こと〳〵く佛性ありとしることあたはす。善男子。また眼見あり。諸佛如來なり。十住の菩薩は佛性を眼見し。また聞見することあり。一切衆生乃至九地までに佛性を聞見す。菩薩もし一切衆生こと〳〵く佛性ありときけとも。心に信を生せされは聞見となつけすと（乃至）師子吼菩薩摩訶薩まうさく。世尊。一切衆生は如來の心相をしることをうることあたはす。まさにいかんか觀してしることをうへきや。善男子。一切衆生は實に如來の心相をしることあたはす。もし觀察してしることをえんとおもはゝ。ふたつの因緣あり。ひとつには眼見。ふたつには聞見なり。もし如來所有の身業をみたてまつらんは。まさにしるへし。これすなはち如來とす。これを眼見となつく。もし如來所有の口業を觀せん。まさにしるへし。これすなはち如來とす。これを聞見となつく。もし色

貌をみること一切衆生のともにひとしきものなけん。まさにしるへし。これすなはち如來とす。これを眼見となつく。もし音聲微妙最勝なるをきかん。衆生所有の音聲にはおなしからし。まさにしるへし。これすなはち如來とす。これを聞見となつく。もし如來所有の神通をみたてまつらんに。衆生のためとやせん利養のためとやせん。もし衆生のためにして。利養のためにせす。まさにしるへし。これすなはち如來とす。これを眼見となつく。もし如來を觀するに。他心智をもて衆生をみそなはすとき。利養のためにとき衆生のためにとかん。もし衆生のためにして。利養のためにせさらん。まさにしるへし。これすなはち如來とす。これを聞見となつく。(略出)淨土論にいはく。世尊われ一心に。盡十方無碍光如來に歸命したてまつりて。安樂國に生せんと願す。かの世界の相をみそなはすに。三界の道に

勝過せり。究竟して虚空のことし。廣大にして邊際なしとのたまへり。(已上)註論にいはく。莊嚴清淨功德成就は。偈に觀彼世界相勝過三界道故とのたまへり。これいかんか不思議なるや。凡夫人煩惱成就せるありて。またかの淨土に生することをうるに。三界の繫業畢竟してひかす。すなはちこれ煩惱を斷せすして涅槃分をう。いつくんそ思議すへきや。またいはく。正道の大慈悲は。出世の善根より生す。この二句は。莊嚴性功德成就となつく。(乃至)性はこれ本の義なり。いふこゝろは。これ淨土は法性に隨順して。法本事をそむかす。華嚴經の寶王如來の性起の義におなし。またいふこゝろは。積習して性をなす。法藏菩薩をさす。もろ〳〵の波羅密をあつめて積習して成せるところなり。また性といふは。これ聖種性なり。はしめ法藏菩薩世自在王佛のみもとにして無生忍をさとる。そのときのくらゐを聖種

性となつく。この性のなかにして四十八の大願をおこして。この土を修起したまへり。すなはち安樂淨土といふ。これかの因の所得なり。果のなかに因をとく。かるかゆへになつけて性とす。また性といふは。これ必然の義なり。不改の義なり。海の性一味にして衆流いるもの。かならす一味となりて。海のあちはひかれにしたかひてあらたまらさるかことしと。また人身の性不淨なるかゆへに。種〻の妙好色香美味身にいりぬれは。みな不淨となるかことし。安樂淨土はもろ〱の往生のひと。不淨のいろなし不淨の心なし。畢竟してみ・清淨平等無爲法身をえしむ。安樂國土清淨の性成就したまへるをもてのゆへなり。正道の大慈悲は出世の善根より生すといふは。平等の大道なり。平等の道をなつけて正道とするゆへは。平等はこれ諸法の體相なり。諸法平等なるをもてのゆへに發心ひとし。發心

ひとしきかゆへに道ひとし。道ひとしきかゆへに大慈悲ひとし、大慈悲はこれ佛道の正因なるかゆへに。正道大慈悲といへり。慈悲は三縁あり。一には衆生縁。これ小悲なり。二には法縁。これ中悲なり。三には無縁これ大悲なり。大悲はすなはちこれ出世の善なり。安樂淨土はこの大悲より生せるかゆへなれはなり。かるかゆへにこの大悲をいひて。淨土の根とす。かるかゆへに出世善根生といふなり。またいはく。問ていはく。法藏菩薩の本願力をよひ龍樹菩薩の所讃をたつぬるに。みなかのくにゝ聲聞は衆多なるをもて奇とするにたり。これなんの義かある。こたへていはく。聲聞は實際をもて證とす。はかるにさらによく佛道の根芽を生すへからす。しかるを佛本願の不可思議の神力をもて。攝してかしこに生せしむるに。かならすまさにまた神力をもてそれをして無上道心を生せしむへし。たと

へは鴆鳥水にいれは魚蜂こと〳〵く死す。犀牛これにふるれは死するものみなよみかへるかことし。かくのことく生すへからすして生せしむ。このゆへに奇とす。しかれは五不思議のなかに。佛法もとも不可思議なり。佛よく聲聞をしてまた無上道心を生せしめたまふ。まことに不可思議のいたりなり。またいはく。不可思議力といふはすへてかの佛國土の十七種莊嚴功德力不可得思議なることをさす。諸經にときてのたまはく。五種の不可思議あり。一には衆生多少不可思議。二には業力不可思議。三には龍力不可思議。四には禪定力不可思議。五には佛法力不可思議なり。このなかに佛土不可思議に二種のちからあり。一には業力。いはく法藏菩薩の出世の善根と大願業力の所成なり。二には正覺の阿彌陀法王のよく住持力をして攝したまふところなり。またいはく。自利々他を示現すといふは。略

してかの阿彌陀佛の國土の十七種の莊嚴功德成就をときつ。如來の自身利益大功德力成就と利益他功德成就とを示現したまへるかゆへにとのたまへり。略といふはかの淨土の功德無量にして。たゞ十七種のみにあらさることをあらはす。それ須彌を芥子にいれ毛孔に大海をおさむ、あに山海の神ならんや。毛芥のちからならんや。能神の人の神ならくのみと。またいはく。なにものか莊嚴不虛作住持功德成就。偈に佛の本願力をみそなはすにまうあふてむなしくすぐるものなし。よく功德大寶海を滿足せしむるかゆへにとのたまへり。不虛作住持功德成就といふは。けたしこれ阿彌陀如來の本願力なり。（乃至）いふところの不虛作住持は。もと法藏菩薩の四十八願と今日の阿彌陀如來の自在神力とによりてなり。願もて力を成す。力もて願につく。願徒然ならす力虛設ならす。力願あひかなふて畢竟してたかはく。

す。かるかゆへに成就といふ。(抄出)讃阿彌陀佛偈にいはく、(曇鸞和尚の造。)南無阿彌陀佛(釋して無量壽傍經となつく。ほめたてまつりてまた安養といふ。)成佛よりこのかた十劫をへたまへり。壽命まさにはかりあることなけん。法身の光輪法界に徧して世の盲冥をてらす。かるかゆへに頂禮したてまつる。智慧の光明はかるへからす。かるかゆへに佛をまた無量光と號す。有量の諸相光曉をかうふる。このゆへに眞實明を稽首したてまつる。解脫の光輪限齊なし。かるかゆへに佛をまた無邊光と號す。光觸をかうふるもの有無をはなる。このゆへに平等覺を稽首したてまつる。ひかりくものことくにして無碍なること虛空のことし。かるかゆへに佛をまた無碍光と號す。一切の有礙光澤をかうふる。このゆへに難思議を頂禮したてまつる。清淨光明對あることなし。かるかゆへに佛をまた無對光と號す。このひかりにまうあふものは業繫のそこる。

このゆへに畢竟依を稽首したてまつる。佛光照耀して最第一なり。佛をまた光炎王と號す。三塗の黒闇光啓をかうふる。このゆへに大應供を頂禮したてまつる。道光明朗にして色超絶したまへり。かるかゆへに佛をまた清淨光と號す。ひとたび光照をかうふるに罪垢のそこりみな解脱をえしむ。かるかゆへに頂禮したてまつる。慈光はるかにかふらしめ安樂を施す。かるかゆへに佛をまた歡喜光と號す。ひかりのいたるところのところに法喜をゑしむ。大安慰を稽首頂禮したてまつる。佛光よく無明の闇を破す。かるかゆへに佛をまた智慧光と號す。一切諸佛三乘衆こと〳〵くともに嘆譽す。かるかゆへに稽首したてまつる。光明一切のときあまねくてらす。かるかゆへに佛をまた不斷光と號す。聞光力のゆへに心不斷にてみな往生をえしむ。かるかゆへに頂禮したてまつる。そのひかり佛をのぞきては

よくはかることなけん。かるかゆへに佛をまた難思光と號す。十方諸佛往生を嘆しその功德を稱せしむ。かるかゆへに稽首したてまつる。神光は相をはなれたることなつくへからす。かるかゆへに佛をまた無稱光と號す。ひかりによりて成佛したまふ。ひかり赫然として諸佛の嘆したまふところなり。かるかゆへに頂禮したてまつる。光明照曜して日月にすきたり。かるかゆへに佛を超日月光と號す。釋迦佛嘆したまふことなをつきす。かるかゆへにわれ無等等を稽首したてまつる。(乃至)本師龍樹摩訶薩形像を誕す。はしめて頽綱をことはる邪扇を關閉し正轍をひらく。これ閻浮提の一切のまなこなり。尊語を伏承し歡喜地にして阿彌陀に歸して安樂に生せしむ。われ無始より三界にめくりて虛妄輪ために廻轉せらる。一念一時につくるところの業足六道につなかれ三塗にとゝまる。やゝねかはくは慈光護

念してわれをして菩提心を失せさらしめたまへ。われ佛慧功德のこゑを讃す。ねかはくは十方のもろ〱の有緣にきかしめて安樂に往生ずることをえしめんとおもはんもの。あまねくみなこゝろのことくして障碍なからしめん。あらゆる功德もしは大小一切に廻施してともに往生せしめん。不可思議光に南無し一心に歸命し稽首し禮したてまつる。十方三世の無量慧おなしく一如に乘して正覺と號す。二智圓滿して道平等なり。攝化することに緣にしたかふまことにそこはくならん。われ阿彌陀の淨土に歸するはすなはちこれ諸佛のくにゝ歸命するなり。われ一心をもて一佛を讃す。ねかはくは十方無碍人に徧せん。かくのことき十方無量佛こと〱くおの〱心をいたして頭面に禮したてまつるなりと。（已上抄出）光明寺の和尚ののたまはく。問ていはく。彌陀淨國ははたこれ報なりやこれ化なりとやせん。こ

たへていはく。これ報にして化にあらす。いかんかしることをうる。大乘同性經にとくかことし。西方の安樂阿彌陀佛はこれ報佛報土なりと。また無量壽經にのたまはく。法藏比丘世饒王佛のみもとにまし〱て。菩薩の道を行したまひしとき四十八願をおこして。一々の願にもしわれ佛をえたらんに。十方の衆生わが名號を稱してわかくにゝ生せんと願せん。しも十念にいたるまでもし生せすは正覺をとらしと。いますでに成佛したまへり。すなはちこれ酬因の身なり。また觀經のなかに上輩三人臨命終時にみな阿彌陀佛および化佛ともにこのひとを來迎すと。しかるに報身化をかねてともにきたりて手をさつく。かるかゆへになつけて與とす。この文證をもてのゆへにしんぬこれ報なりと。しかるに報應二身は眼目の異名なり。さきには報を翻して應となる。のちには應を翻して報となる。おほよそ報と

いふは因行むなしからすさためて來果をまねく。果をもて因に應するかゆへになつけて報とす。また三大僧祇の所修の萬行必定して菩提をうへし。いますてに道成せり。すなはちこれ應身なり。これすなはち過現の諸佛三身を辨立す。これをのそきて已外はさらに別の體ましまさす。たとひ無窮の八相名號塵沙なりとも。體に剋して論せはすへて化に歸して攝す。いまかの彌陀現にこれ報なり。問ていはく。すてに報といふは報身常住にしてなかく生滅なし。なんかゆへそ觀音授記經にとかく。阿彌陀佛また入涅槃の時ありと。この一義いかんか通釋せんや。こたへていはく。入不入の義はたゝこれ諸佛の境界なり。なを三乘淺智のうかゝふところにあらす。あにいはんや小凡たやすくよくしらんや。しかりといへとも。かならすしらんとおもはゝあへて佛經をひきてもて明證とせん。いかんとならは大

品經のなかにときていふかことし。佛須菩提につけたまはく。なんちかこゝろにおいていかん。もし化人ありて化人をなす。この化すこふる實事ありやいなや。むなしきものなりやいなや。須菩提まふさくいななり。世尊佛須菩提につけたまはく。色すなはちこれ化なり。受想行識すなはちこれ化なり。乃至一切種智すなはちこれ化なり。須菩提佛にまふしてまふさく。世尊もし世間の法これ化なりや。出世間の法またこれ化なりや。いはゆる四念處。四正勤。四如意足。五根五力。七覺分。八聖道分。三解脱門。佛十力。四無所畏。四無碍智。十八不共法ならひに諸法の果および賢聖人いはゆる須陀洹。斯陀含。阿那含。阿羅漢。辟支佛。菩薩摩訶薩、諸佛世尊この法またこれ化なりやいなや。佛須菩提につけたまはく。一切の法はみなこれ化なり。この法のなかにおいて聲聞法の變化あ

り。辟支佛法の變化あり。菩薩法の變化あり。諸佛法の變化あり。煩惱法の變化あり。業因緣法の變化あり。この因緣をもてのゆへに須菩提一切の法みなこれ化なりとのたまへり。須菩提佛にまふしてまふさく。世尊このもろ〳〵の煩惱斷はいはゆる須陀洹果。斯陀含果。阿那含果。阿羅漢果。辟支佛道はもろ〳〵の煩惱の習を斷す。みなこれ變化なりやいなや。佛須菩提につけたまはく。もし法の生滅の相あるはみなこれ變化なりとのたまへり。須菩提まふさく世尊なんらの法か變化にあらさると。佛のたまはく。もし法の無生無滅なるこれ變化にあらすと。須菩提まふさく。なんらかこれ不生不滅にして變化にあらさると。佛のたまはく。誑相なき涅槃この法變化にあらすと。世尊佛みつからときたまふかこときは諸法平等にして聲聞の作にあらす。辟支佛の作にあらす。諸菩薩摩訶薩の作にあらす。

諸佛の作にあらす。有佛無佛諸法の性つねに空なり。性空なるすなはちこれ涅槃なり。いかなるか涅槃の一法化のことくにあらさると。佛須菩提につけたまはく。かくのことしかくのことし。諸法は平等にして聲聞の所作にあらす。乃至性空なれはすなはちこれ涅槃なり。もし新發意の菩薩この一切の法みな畢竟して性空なり。乃至涅槃もまたみな化のことしときかは心すなはち驚怖しなん。この新發意の菩薩のためにことさらに生滅のものは化のことし。不生不滅のものは化のことくにあらすと分別するをや。いますてにこの聖教をもてあきらかにしんぬ。彌陀はさためてこれ報なり。たとひのちに涅槃にいらんその義さまたけなし。もろ〳〵の有智のひとしるへし。問ていはく。かの佛および土すてに報といはゝ。報法高妙にして小聖かなひかたし。垢鄣の凡夫いかんかいることをえんや。こたへてい

はく。もし衆生の垢障を論せは實に忻趣しかたし。まさしく佛願に託してもて強縁となるによりて。五乘をしてひとしくいらしむることをいたす。またいはく。我今樂生彌陀より已下はまさしく夫人別して所求をえらふことをあかす。これ彌陀の本國は四十八願なり。願々みな增上の勝因を發す。因によりて勝行をおこす。行によりて勝果を感す。果によりて勝報を感成す。報によりて極樂を感成す。樂によりて悲化を顯通す。悲化によりて智慧の門を顯開す。しかるに悲心无盡なり。智また无窮なり。悲智雙行してすなはちひろく甘露をひらく。これによりて法潤あまねく群生を攝す。諸餘の經典勸處ひろくおほし。衆聖心をひとしくしてみなおなしく指讃す。この因縁ありて如來ひそかに夫人をして別してえらはしむることをいたすことをあかす。またいはく。西方寂靜無爲のみやこは畢竟逍遙し

て有无をはなれたり。大悲心に薫して法界にあそふ。分身利物ひとしくして殊なし。いさいなん魔郷にはとゝまるへからす。曠劫よりこのかた流轉して六道こと〳〵くみなへたり。いたるところに餘の樂なしたゝ愁嘆のこゑをきく。この生平をおえてのちかの涅槃のみやこにいらんと。またいはく。極樂は無爲涅槃界なり。隨緣の雜善おそらくは生しかたし。かるかゆへに如來要法をえらひておしへて彌陀を念せしむることもはらにしてまたもはらならしむ。またいはく。佛にしたかひて逍遙して自然に歸す。自然はすなはちこれ彌陀國なり。無漏無生かへりてすなはち眞なり。行來進止につねに佛にしたかふて無爲法性身を證得すと。またいはく。彌陀の妙果をは號して無上涅槃といふ。(已上抄出)憬興師のいはく。無量光佛。(算數にあらさるかゆへに。)無邊光佛。(緣さしててらさゝることなきがゆへに。)無礙光佛。(人法としてよくさふることあることなきかゆへに。)無對

光佛。（諸菩薩のおよふところにあらさるかゆへに。）光炎王佛。（光明自在にして。さらにうへにすることなきかゆへに。）清淨光佛。（無貪の善根よりして現するかゆへに。また衆生の貪濁の心をのそく。貪濁の心なきかゆへに清淨といふ。）歡喜光佛。（無瞋の善根よりして生するかゆへに。よく衆生の瞋恚盛心をのそくかゆへに。）智慧光佛。（無癡の善根心よりおこる。また衆生の無明品心をのそくかゆへに。）不斷光佛。（佛の常光つねに照益をなすかゆへに。）難思光佛。（もろ〳〵の二乘測度するところにあらさるかゆへに。）無稱光佛。（また餘乘等とくことたふるところにあらさるかゆへに。）超日月光佛。（日はつねにてらすことあまねからさるへし。娑婆一耀のひかりなるかゆへに。）みなこれ光觸をかうふる。身は身心柔輭の願のいたすところなり。（已上要ぬきる）しかれは如來の眞說宗師の釋義あきらかにしんぬ。安養淨刹は眞の報土なることをあらはす。惑染の衆生こゝにして性をみることあたはす。煩惱におほはるゝかゆへに。經にこれ十住の菩薩少分佛性をみるとゝくとのたまへり。かるかゆへにしんぬ。安樂佛國にいたれはすなはちかならす佛性をあらはす。本願力の廻向に

よるかゆへに。また經には。衆生未來に淸淨の身を具足し莊嚴して。佛性をみることをうるとのたまへり。起信論にいはく。もしとくといへとも能說のありてとくへきものなく。また能念の念すへきもなしとしるをなつけて隨順とす。もし念をはなるゝをなつけて得入とす。得入といふは眞如三昧なり。いかにいはんや無念のくらゐは妙覺にあり。けたしもて了心は初生の相なり。しかも初相をしるといふは。いはゆる無念は菩薩十地のしるところにあらす。しかるにいまのひとなをいまた十信にかなはす。すなはち馬鳴大士によらさらんや。說より無說にいり。念より無念にいるとのたまへり。（略抄）それ報を按すれは。如來の願海によりて果成の土を酬報せり。かるかゆへに報といふ。しかるに願海について眞あり。假あり。こゝをもてまた佛土について眞あり。假あり。選擇本願の正因によりて眞佛土を

成就せり。眞佛といふは。大經には無邊光佛無碍光佛とのたまへり。また諸佛のなかの王なり。光明のなかの極尊なりとのたまへり。(已上)論には歸命盡十方無碍光如來といへり。眞土といふは大經には無量光明土とのたまへり。あるひは諸智土とのたまへり。(已上)論には究竟如虚空廣大無邊際といふ。往生といふは大經には皆受自然虚無之身無極之躰とのたまへり。(已上)論には如來淨華衆正覺華化生といへり。また同一念佛無別道故といへり。(已上)また難思議往生といふこれなり。假の佛土といふはしもにありてしるへし。すてにもて眞假みなこれ大悲の願海に酬報せり。かるかゆへにしんぬ。報佛土なりといふことを。まことに假の佛土の業因千差なれは土また千差なるへし。これを方便化身化土となつく。眞假をしらさるによりて如來廣大の恩德を迷失す。これによりていま眞佛眞土をあらはす。これすなはち眞宗の正意な

り。經家論家の正說。淨土宗師の解義あふいて敬信すへし。ことに擧持（うけたまはり たもつへし。）すへしとしるへしとなり。

顯淨土眞佛土文類五

顯淨土方便化身土文類六本

愚禿釋の親鸞集

至心發願の願　邪定聚の機。雙樹林下往生。
無量壽佛觀經のこゝろなり。

至心廻向の願　不定聚の機。難思往生。
阿彌陀經のこゝろなり。

つしんて化身土をあらはさは。佛といふは無量壽佛觀經の說のことし。眞身觀の佛これなり。土といふは觀經の淨土これなり。また菩薩處胎經等の說のことし。すなはち懈慢界これなり。また大無量壽經の說のことし。すなはち疑城胎宮これなり。しかるに濁世の群萠穢惡の含識。いまし九十五種の邪道をいてゝ。半滿權實の法門にい

るといへとも。眞なるものははなはたもてかたく。實なるものははなはたもてまれなり。僞なるものははなはたもておほく。虚なるものははなはたもてしけし。こゝをもて釋迦牟尼佛福德藏を顯說して群生海を誘引し。阿彌陀如來もと誓願をおこしてあまねく諸有海を化したまふ。すてにして悲願います。修諸功德の願となつく。また臨終現前の願となつく。また現前導生の願となつく。また來迎引接の願となつく。また至心發願の願となつくへきなり。こゝをもて大經の願にのたまはく。たとひわれ佛をえたらんに。十方の衆生菩提心をおこし。もろ〳〵の功德を修し心をいたし發願して。わかくにゝ生せんとおもはん。壽終のときにのそんて。たとひ大衆と圍繞してそのひとのまへに現せすといはゝ。正覺をとらし。悲華經の大施品にのたまはく。ねかはくはわれ阿耨多羅三藐三菩提をなりおはらんに。

その餘の無量無邊阿僧祇の諸佛世界の所有の衆生。もし阿耨多羅三藐三菩提心をおこし。もろ〳〵の善根を修してわか界に生せんとおもはんもの。臨終のときわれまさに大衆と圍繞してそのひとのまへに現すへし。そのひとわれをみて。すなはちわかまへにして心に歡喜をえん。われをみるをもてのゆへにもろ〳〵の障閡をはなれて。すなはち身をすてゝわか界に來生せしめん。（已上）この願成就の文はすなはち三輩の文これなり。觀經の定散九品の文これなり。また大經にのたまはく。無量壽佛のその道場樹はたかさ四百万里なり。そのもと周圍五十由旬なり。枝葉よもにしきて二十萬里なり。一切の衆寶自然に合成せり。月光摩尼持海輪寶衆寶の王たるをもてしかもこれを莊嚴せり。（乃至）阿難。もしかのくにの人天この樹をみるものは三法忍をえん。一には音響忍。二には柔順忍。三には無生法忍なり。これみ

な無量壽佛の威神力のゆへに。本願力のゆへに。滿足願のゆへに。明了願のゆへに。堅固願のゆへに。究竟願のゆへなり。(乃至)また講堂精舍宮殿樓觀。みな七寶をもて莊嚴し自然に化成せり。また眞珠明月摩尼衆寶をもて交露とす。そのうへに覆蓋せり。内外左右にもろ〳〵の浴地あり。十由旬。あるひは二十三十乃至百千由旬なり。縱廣深淺おの〳〵みな一等なり。八功德水湛然として盈滿せり。淸淨香潔にしてあちはひ甘露のことし。またいはく。その胎生のものは處するところの宮殿。あるひは百由旬。あるひは五百由旬なり。おの〳〵そのなかにして。もろ〳〵の快樂をうくること忉利天上のことし。またみな自然なり。そのときに慈氏菩薩佛にまふしてまふさく。世尊なんの因なんの緣ありてか。かのくにの人民胎生化生なると。佛。慈氏につけたまはく。もし衆生ありて疑惑の心をもて。もろ〳〵の

功德を修してかのくにゝ生せんと願せん。佛智。不思議智。不可稱智。大乘廣智。無等無倫最上勝智を了せすして。この諸智において疑惑して信せす。しかもなを罪福を信して善本を修習してそのくにゝ生せんと願せん。このもろ〳〵の衆生力の宮殿に生して。いのち五百歳つねに佛をみたてまつらす。經法をきかす。菩薩聲聞聖衆をみす。このゆへにかの國土にはこれを胎生といふ。(乃至)彌勒まさにしるへし。かの化生のものは智慧すくれたるかゆへに。その胎生のものはみな智慧なし。(乃至)佛彌勒につけたまはく。たとへは轉輪聖王の七寶の牢獄あらんかことし。種々に莊嚴し牀帳を張設し。もろ〳〵の繒幡をかけたらん。もしもろ〳〵の小王子つみを王にえたらん。すなはちかの獄のなかにいれてつなくに金鏁をもてせん。(乃至)佛彌勒につけたまはく。このもろ〳〵の衆生またかくのことし。佛智を疑惑するをもて

のゆへに。かの胎宮にむまれん。（乃至）もしこの衆生そのもとのつみをしりて。ふかくみつから悔責してかのところをはなるゝことをもとめん。（乃至）彌勒まさにしるへし。それ菩薩ありて。疑惑を生せは大利を失すとす。（已上抄出）如來會にのたまはく。佛彌勒につけたまはく。もし衆生ありて。疑悔にしたかひて善根を積集して。佛智。普徧智。不思議智。無等智。威德智。廣大智を希求せん。みつからの善根において信を生することあたはす。この因緣をもて五百歲において宮殿のなかに住せん。（乃至）阿逸多。なんち殊勝智のものを觀するに。かれは廣慧のちからによるかゆゑに。かの蓮華のなかに化生することをうけて結跏趺坐せん。なんち下劣のともからを觀するに。（乃至）もろ〱の功德修習することあたはす。かるかゆゑに因なくして無量壽佛に奉事せん。このもろ〱のひと等は。みなむかしの緣疑悔をなしていたすとこ

ろなれはなり。（乃至）佛彌勒につけたまはく。かくのことしかくのことし。もし疑悔にしたかひて。もろ〳〵の善根をうゑて。佛智乃至廣大智を希求することあらん。みつからの善根において信を生することあたはす。佛のみなをきくによりて信心をおこすかゆへに。かのくにヽ生すといへとも。蓮華のなかにして出現することをえす。かれらの衆生華胎のなかに處すること。なをし園苑宮殿のおもひのことし。（要を抄す）大經にのたまはく。もろ〳〵の小行の菩薩および少功德を修習するもの稱計すへからす。みなまさに往生すへし。またいはく。いはんや餘の菩薩少善根によりて。かのくにヽ生するもの稱計すへからす。（已上）光明寺の釋にのたまはく。はなにふくまれていまたいてす。あるひは邊界に生し。あるひは宮胎に墮す。（已上）憬興師のいはく。佛智をうたかふによりて。かのくにヽむまれてしかも邊地にありとい

へとも。聖化の事をかふらす。もし胎生せはよろしくこれをおもくすつへし。(上巳)首楞嚴院の要集に感禪師の釋をひきていはく。問。菩薩處胎經の第二とかく。西方こゝの閻浮提をさること十二億那由陀に懈慢界あり。(乃至)こゝろをおこせる衆生。阿彌陀佛のくにゝ生ぜんとおもふもの。みなふかく懈慢國土に著して。すゝんで阿彌陀佛のくにゝ生することあたはす。億千万衆ときに一人ありて。よく阿彌陀佛のくにゝ生すと。云々。この經をもて准難するに生することをうへしや。答。群疑論に善導和尚のさきの文をひきて。しかもこの難を釋してまたみつから助成していはく。この經のしもの文にいはく。なにをもてのゆへに。みな懈慢によりて執心牢固ならすと。こゝにしんぬ。雜修のものは執心不牢のひとゝす。かるかゆへに懈慢國に生す。もし雜修せすしてもはらこの業を行せは。これすなはち執心牢固にして

さためて極樂に生せん。（乃至）また報の淨土に生するものはきはめてすくなし。化の淨土に生するものはすくなからす。かるかゆへに經の別說實に相違せさるなり。（已上略抄）しかれはそれ楞嚴の和尙の解義を按するに。念佛證據門のなかに。第十八の願は。別願のなかの別願なりと顯開したまへり。觀經の定散の諸機は。極重惡人唯稱彌陀と勸勵したまへり。濁世の道俗よくみつからおのれか能を思量せよ。しるへし。

問。大本の三心と觀經の三心と一異いかんそ。答。釋家のこゝろによりて無量壽佛觀經を按すれは。顯彰隱密の義あり。顯といふはすなはち定散諸善をあらはし。三輩三心をひらく。しかるに二善三福は報土の眞因にあらす。諸機の三心は自利各別にしてしかも利他の一心にあらす。如來の異の方便忻慕淨土の善根なり。これはこの經

のこゝろなり。すなはちこれ顯の義なり。彰といふは如來の弘願をあらはし。利他通入の一心を演暢す。達多闍世の惡逆によりて。釋迦微咲の素懷をあらはし。韋提別選の正意によりて。彌陀大悲の本願を開闡す。これすなはちこの經の隱彰の義なり。こゝをもて經には敎我觀於淸淨業處といへり。淸淨業處といふは。すなはちこれ本願成就の報土なり。敎我思惟といふはすなはち方便なり。敎我正受といふはすなはち金剛の眞心なり。諦觀彼國淨業成者といへり。本願成就の盡十方無得光如來を觀知すへしとなり。廣說衆譬といへり。すなはち十三觀これなり。汝是凡夫心想羸劣といへり。すなはちこれ惡人往生の機たることをあらはす。諸佛如來有異方便といへり。すなはちこれ定散の諸善は方便の敎たることをあらはす。以佛力故見彼國土といへり。これすなはち他力のこゝろをあらはす。若佛滅

後諸衆生等といへり。すなはちこれ未來の衆生往生の正機たることをあらはす。若有合者名爲麁想といへり。これ定觀成しかたきことをあらはす。於現身中得念佛三昧といへり。すなはちこれ定觀成就の益は。念佛三昧をうるをもて觀の益とすることをあらはす。すなはち觀門をもて方便の教とせるなり。發三種心即便往生といへり。また復有三種衆生當得往生といへり。これらの文によるに。三輩について三種の三心あり。また二種の往生あり。まことにしんぬ。これいましこの經に顯彰隱密の義あることを。二經の三心まさに一異を談せんとす。よく思量すへきなり。大經觀經顯の義によれは異なり。彰の義によれは一なり。しるへし。しかれは光明寺の和尙のたまはく。しかるに娑婆の化主その請によるかゆゑに。すなはちひろく淨土の要門をひらく。安樂の能人別意の弘願を顯彰す。その要門と

いふはすなはちこの觀經の定散二門これなり。定はすなはち慮をやめてもて心をこらす。散はすなはち惡を廢してもて善を修す。この二行を廻して往生を求願せよとなり。弘願といふは大經の說のことし。またのたまはく。いまこの觀經はすなはち觀佛三昧をもて宗とす。また念佛三昧を宗とす。一心に廻願して淨土に往生するを體とす。敎の大小といふは。問ていはく。この經は二藏のなかにはいつれの藏にか攝する。二敎のなかにはいつれの敎にかおさむるや。こたへていはく。いまこの觀經は菩薩藏におさむ。頓敎の攝なり。またいはく。また如是といふはすなはちこれ法をさす。定散兩門なり。これすなはちさたむることはなり。機行すればかならす益す。これ如來の所說のみこと錯謬なきことをあかす。かるかゆへに如是となつく。また如といふは衆生のこゝろのことし。心の所樂にしたかひ

て佛すなはちこれを度したまふ。機教相應せるをまた稱して是とす。かるかゆへに如是といふ。また如是といふは。如來の所說漸をとくことと漸のことし。頓をとくことと頓のことし。相をとくことと相のことし。空をとくことと空のことし。人法をとくことと人法のことし。天法をとくことと天法のことし。小をとくことと小のことし。大をとくことと大のことし。凡をとくことと凡のことし。聖をとくことと聖のことし。因をとくことと因のことし。果をとくことと果のことし。苦をとくことと苦のことし。樂をとくことと樂のことし。遠をとくことと遠のことし。近をとくことと近のことし。同をとくことと同のことし。別をとくことと別のことし。淨をとくことと淨のことし。穢をとくことと穢のことし。一切の法をとくことと千差万別なり。如來の觀知歷々了然として。心にしたかひて行をたて。おの〳〵益することおなしからす。業果法

然としてすへて錯失なし。また稱して是とす。かるかゆへに如是といふ。またいはく欲生彼國者より。しも名爲淨業にいたる。このかたは。まさしく三福の行を勸修することをあかす。これは一切衆生の機に二種あることをあかす。一には定。二には散なり。もし定行によれはすなはち生を攝するにつきす。こゝをもて如來方便して三福を顯開してもて散動の根機に應したまへり。またのたまはく。また眞實に二種あり。一には自利眞實。二には利他眞實なり。自利眞實といふはまた二種あり。一には眞實心のうちに。自他の諸惡および穢國等を制作して。行住坐臥に一切菩薩の諸惡を制捨するにおなしく。われもまたかくのことくせんとおもふ。二には眞實心のうちに。自他凡聖等の善を勸修す。眞實心のうちの口業に。かの阿彌陀佛およひ依正二報を讚嘆す。また眞實心のうちの口業に。三界六道等の

自他の依正二報の苦惡の事を毀厭す。また一切衆生の三業所爲の善を讃嘆す。もし善業にあらすは。つしんてしかもこれをとをさかれ。また隨喜せされ。また眞實心のうちの身業に。合掌し禮敬し。四事等をもてかの阿彌陀佛および依正二報を供養す。また眞實心のうちの身業に。この生死三界等の自他の依正二報を輕慢し厭捨す。また眞實心のうちの意業に。かの阿彌陀佛および依正二報を思想し。觀察し憶念して。目のまへに現するかことくす。また眞實心のうちの意業に。この生死三界等の自他の依正二報を輕賤し厭捨す。（乃至）また決定してふかく釋迦佛この觀經の三福九品定散二善をときて。かの佛の依正二報を證讃して。ひとをして忻慕せしむと信す。（乃至）また深心は深信なりといふは。決定して自心を建立して。教に順して修行し。ながく疑錯をのぞきて。一切の別解別行異學異見異執のために。退失傾動せ

られさるなり。（乃至）つぎに行についで信をたつといふは。しかるに行に二種あり。一には正行。二には雜行なり。正行といふはもはら往生經の行によりて。行するものはこれを正行となつく。なにものかこれや。一心にもはらこの觀經、彌陀經。無量壽經等を讀誦する。一心にかのくにの二報莊嚴を專注し思想し觀察し憶念する。もし禮するには。すなはち一心にもはらかの佛を禮する。もしくちに稱するには。すなはち一心にもはらかの佛を稱する。もし讃嘆供養するには。すなはち一心にもはら讃嘆供養する。これをなつけて正とす。またこの正のなかについてまた二種あり。一には一心にもはら彌陀の名號を念して。行住座臥に時節の久近をとはす。念々にすてさるものこれを正定の業となつく。かの佛の願に順するかゆへに。もし禮誦等によるをはすなはちなつけて助業とす。この正助二行をのそ

きて己外。自餘の諸善をはことゝく雜行となつく。もしさきの正助二行を修するは心つねに親近して憶念たえす。なつけて無間とす。もしのちの雜行を行するはすなはち心つねに間斷す。廻向して生することをうへしといへとも。すへて疎雜の行となつくるなり。かるかゆへに深心となつく。三には廻向發願心。廻向發願心といふは。過去をよひ今生の身口意業に修するところの世出世の善根。をよひ他の一切の凡聖の身口意業に修するところの世出世の善根を隨喜して。この自他所修の善根をもて。ことゝくみな眞實の深信の心のうちに廻向して。かのくにゝ生せんと願す。かるかゆへに廻向發願心となつけるなり。またいはく。定善は觀をしめす緣なり。またいはく。散善は行をあらはす緣なり。またいはく。淨土の要あひかたし。(抄出)またいはく。觀經の說のことし。まつ三心を具してかならす

往生をう。なんらをか三とする。一には至誠心。いはゆる身業にかの佛を禮拜し。口業にかの佛を讃嘆し稱揚し。意業にかの佛を專念し觀察す。をほよそ三業をおこすに。かならす眞實をもちゐるかゆへに至誠心となつく。（乃至）三には迴向發願心。所作の一切の善根こと〳〵くみな迴して往生を願す。かるかゆへに迴向發願心となつく。この三心を具してかならす生することをう。もし一心かけぬれはすなはち生することをえす。觀經につふさにとくかことし。しるへし。（乃至）菩薩はすてに生死をまぬかれて。所作の善法迴して佛果をもとむ。すなはちこれ自利なり。衆生を敎化して未來際をつくす。すなはち利他なり。しかるにいまのときの衆生。こと〳〵く煩惱のために繫縛せられて。いまた惡道生死等の苦をまぬかれす。緣にしたかひて行をおこして。一切の善根つふさにすみやかに迴して。阿彌陀佛のくにゝ往生

せんと願せん。かのくにゝいたりおはりて。さらにおそるゝところなけん。かみのことき四修自然任運にして。自利々他具足せさることなし。しるへし。またいはく。もし専をすてゝ雑業を修せんとするものは。百はときにまれに一二をえ。千はときにまれに五三をう。なにをもてのゆへに。いまし雑縁亂動して正念を失するによるかゆへに。佛の本願と相應せさるかゆへに。敎と相違せるかゆへに。佛語に順せさるかゆへに。係念相續せさるかゆへに。憶想間斷するかゆへに。迴願慇重眞實ならさるかゆへに。貪瞋諸見の煩惱きたりて間斷するかゆへに。慚愧懺悔の心あることなきかゆへに。懺悔に三品あり。(乃至)上中下なり。上品の懺悔といふは。身の毛孔のうちより血なかれて。まなこのうちより血いたすものを上品の懺悔となつく。中品の懺悔といふは。偏身にあつきあせ毛孔よりいて。まなこのうち

より血なかるゝものを中品の懺悔となつく。下品の懺悔といふは。徧身にとほりあつくして。まなこのうちよりなみたいつるものを下品の懺悔となつく。これらの三品差別ありといへとも。これひさしく解脱分の善根をうゑたるひとなり。今生に法をうやまひひとをおもくして。身命をおしまず。乃至小罪ももし懺すれは。すなはちよく心髄にとほりて。よくかくのことく懺すれは。久近をとはす。所有の重鄣みな頓に滅盡せしむることをいたす。もしかくのことくせされは。たとひ日夜十二時に急にもとむれともつゐにこれ益なし。なさゝるものにたかはんや。しるへし。流涙流血等にあたはすといへとも。たゝよく眞心徹倒するものはすなはちかみとおなし。(已上)またいはく。すへて餘の雜業の行者を照攝すといふことを論せす。またいはく。如來五濁に出現して。よろしきにしたかひて方便して群萌

を化したまふ。あるひは多聞にしてしかも得度すととき。あるひはすこしきさとりて三明を證すととく。あるひは福慧ならへてさはりをいそくとおしへ。あるひは禪念して坐して思量せよとおしふ。種々の法門みな解脱す。またいはく、萬劫に功を修せんことまことにつきかたし。一時に煩惱もゝたひちたひへたつ。もし娑婆にして法忍を證せんことをまたは。六道にして恒沙劫にもいまた期あらん。門々不同なるを漸敎となつく。萬劫苦行して無生を證す。畢命を期としてもはら念佛すへし。須臾に命斷すれは佛迎將したまふ。一食のときなをひまあり。いかんそ萬劫に貪瞋せさらん。貪瞋は人天をうくるみちをさふ。三惡四趣のうちに身を安す。（要を抄す）またいはく。定散ともに迴して寶國にいれ。すなはちこれ如來の異の方便なり。韋提はすなはちこれ女人の相。貪瞋具足の凡夫のくらゐなり。（已上）論の註

にいはく。二種の功德の相あり。一には有漏の心より生して法性に順せす。いはゆる凡夫人天の諸善、人天の果報。もしは因もしは果しみなこれ顚倒す。みなこれ虚僞なり。かるかゆゑに不實の功德となつく。(上已)安樂集に大集經の月藏分をひきていはく。わか末法のときのなかの億々の衆生。行をおこし道を修せんに。いまた一人としてうるものあらしと。當今は末法これ五濁惡世なり。たゝ淨土の一門のみありて通入すへきみちなり。またいはく。いまた一萬劫にみたさることのかたは。つねにいまた火宅をまぬかれす。轉倒墜墮するかゆゑに。おの〳〵功をもちゐることはいたりておもく。報をうることは僞なり。(上已)しかるにいま大本によるに。眞實方便の願を超發す。また觀經には方便眞實の敎を顯鄣(鄣字作彰)す。小本には。たゝ眞門をひらきて方便の善なし。こゝをもて三經の眞實は。選擇本願を宗とするな

り。また三經の方便は。すなはちこれもろ〳〵の善根を修するを要とするなり。これによりて方便の願を按するに。假あり眞あり。また行あり信あり。願といふは。すなはちこれ臨終現前の願なり。行といふは。すなはちこれ修諸功德の善なり。信といふは。すなはちこれ至心發願欲生の心なり。この願の行信によりて。淨土の要門方便權假を顯開す。この要門より正助雜の三行をいたせり。この正助のなかについて專修あり。雜修あり。機について二種あり。一には定機。二には散機なり。また二種の三心あり。また二種の往生あり。二種の三心といふは。一には定の三心。二には散の三心なり。定散の心はすなはち自利各別の心なり。二種の往生といふは。一には即往生。二には便往生なり。便往生といふは。すなはちこれ胎生邊地雙樹林下の往生なり。即往生といふは。すなはちこれ報土化生なり。

またこの經に眞實あり。これすなはち金剛の眞心をひらきて。攝取不捨をあらはさんとす。しかれは濁世能化釋迦善逝至心信樂の願心を宣說したまふ。報土眞因は信樂を正とするかゆゑなり。こゝをもて大經には信樂といへり。如來の誓願疑蓋ましはることなし。かるかゆゑに信とのたまへるなり。觀經には深心ととけり。諸機の淺信に對せるかゆゑに深といへるなり。小本には一心とのたまへり。二行ましはることなきかゆゑに一とのたまへるなり。また一心について深あり淺あり。深といふは利他眞實の心これなり。淺といふは定散自利の心これなり。宗師のこゝろによるに。心によりて勝行をおこすに。門八万四千にあまれり。漸頓すなはちおの〳〵所宜にかなふて。緣にしたかふものすなはちみな解脫をかうふるといへり。しかるに常沒の凡愚定心修しかたし。息慮凝心のゆゑに散心行しかたし。

癈惡修善のゆゑにこゝをもて立相住心なを成しかたし。かるかゆゑにたとひ千年の壽をつくすとも。法眼いまたかつてひらけしといへり。いかにいはんや無相離念まことにえかたし。かるかゆゑに如來末代罪濁の凡夫は。立相住心なをうることあたはしと懸知したまへり。いかにいはんや。相をはなれてしかも事をもとめんは。術通なきひとの空に居して舍をたてんかことしといへり。門餘といふは。門はすなはち八萬四千の假門なり。餘はすなはち本願一乘海なり。をほよそ一代の教について。この界のうちにして入聖得果するを聖道門となつく。難行道といへり。この門のなかについて。大小漸頓。一乘二乘三乘權實顯密。竪出竪超あり。すなはちこれ自力利他教化地方便權門の道路なり。安養淨刹にして入聖證果するを淨土門となつく。易行道といへり。この門のなかについて。横出横超。假眞漸頓。助正

雜行。雜修專修あるなり。正といふは五種の正行なり。助といふは名號をのぞきて已外の四種これなり。雜行といふは正助をのぞきて。已外をことごとく雜行となづく。これすなはち橫出漸敎定散三福三輩九品自力假門なり。橫超といふは本願を憶念して自力の心をはなる。專修といふは。たゞ佛名を稱念して自力の心をはなるゝ。これを橫超他力となづくるなり。これすなはち專のなかの專。頓のなかの頓。眞のなかの眞。乘のなかの一乘なり。これすなはち眞宗なり。すでに眞實行のなかにあらはしおはんぬ。それ雜行雜修そのことはひとつにして。そのこゝろこれことなり。雜の言において万行を攝入す。五種の正行に對して五種の雜行あり。雜の言は人天菩薩等の解行雜せるかゆゑに雜といふ。もとより往生の因種にあらす。廻心廻向の善なり。かるかゆゑに淨土の雜行といふなり。また雜行について專行

あり專心あり。また雜行あり雜心あり。專行といふはもはら一善を修す。かるかゆゑに專行といふ。專心といふは廻向をもはらにするかゆゑに專心といへり。雜行雜心といふは諸善兼行するかゆゑに雜行といふ。定散心雜するかゆゑに雜心といふなり。また正助について專修あり雜修あり。この雜修について專心あり雜心あり。專修について二種あり。一にはたゝ佛名を稱す。二には五專あり。この行業について專心あり雜心あり。五專といふは。一には專禮。二には專讀。三には專觀。四には專名。五には專讃嘆。これを五專修となつく。專修そのことはひとつにして。そのこゝろこれことなり。すなはちこれ定專修なり。また散專修なり。專心といふは五正行をもはらにして。しかも二心なきかゆゑに專心といふ。すなはちこれ定專心なり。またこれ散專心なり。雜修といふは助正兼行するかゆゑに

雜修といふ。雜心といふは定散心雜するかゆゑに雜心といふなり。しるへし。おほよそ浄土の一切諸行において。綽和尚は万行といひ。導和尚は雜行と稱し。感禪師は諸行といへり。信和尚は感師によれり。空聖人は導和尚によりたまふ。經家によりて師釋をひらくに。雜行のなかの雜行雜心。雜行專心。專行雜心あり。また正行のなかの專修專心。專修雜心。雜修雜心は。これみな邊地胎宮懈慢界の業因なり。かるかゆゑに極樂に生すといへとも三寶をみたてまつらす。佛心光明餘の雜業の行者を照攝せさるなり。假令の誓願まことにゆへあるかな。假門の敎。欣慕の釋。これいよ／＼あきらかなり。二經の三心顯の義によれは異なり。彰の義によれは一なり。三心一異の義こたへおはんぬ。

また問。大本觀經の三心と小本の一心と一異いかんそ。答。いま方

便眞門の誓願について。行あり信あり。また眞實あり方便あり。願といふはすなはち植諸德本の願これなり。行といふはこれに二種あり。一には善本。二には德本なり。信といふはすなはち至心廻向欲生の心これなり。（二十の願なり）機について定あり散あり。往生といふはこれ難思往生これなり。佛といふはすなはち化身なり。土といふはすなはち疑城胎宮これなり。觀經に准知するに。この經にまた顯彰隱密の義あるへし。顯といふは。經家は一切諸行の少善を嫌貶して。善本德本の眞門を開示し。自利の一心をはけまして難思の往生をすゝむ。ここをもて經には。多善根多功德多福德因緣とときて。釋には九品ともに廻して不退をうといへり。あるひは念佛して西方にゆくにすきたるはなし。三念五念までも佛來迎したまふといへり。これはこの經の顯の義をしめすなり。これすなはち眞門のなかの方便なり。彰と

いふは。眞實難信の法をあらはす。これすなはち不可思議の願海を光闡して。無碍の大信心海に歸せしめんとおぼす。まことにすゝめ。すでに恒沙のすゝめなれは信もまた恒沙の信なり。かるかゆゑに甚難といへるなり。釋にたゝちに彌陀の弘誓のおもきによりて。凡夫をして念すれは。すなはち生せしむることをいたすといへり。これはこれ隱彰の義をひらくなり。經に執持といへり。また一心といへり。執の言は心堅牢にしてしかも移轉せさることをあらはすなり。持の言は不散不失になつくるなり。一の言は無二の言になつくるなり。心の言は眞實になつくるなり。この經は大乘修多羅のなかの無問自說の經なり。しかれは如來世に興出したまふゆゑは。恒沙の諸佛證護の正意たゝこれにあるなり。こゝをもて四依弘經の大士。三朝淨土の宗師。眞宗念佛をひらきて濁世の邪僞をみちひきたまふ。三經

の大綱顯彰隱密の義ありといへとも。信心をあらはして能入とす。かるかゆゑに。經のはしめに如是と稱す。如是の義はすなはちよく信する相なり。いま三經を按するに。みな金剛の眞心をもて最要とせり。眞心はすなはちこれ大信心なり。大信心は希有最勝眞妙清淨なり。なにをもてのゆゑに。大信心海ははなはたもていりかたし。佛力より發起するかゆゑに。眞實の樂邦ははなはたもてゆきやすし。願力によりてすなはち生するかゆゑに。いままさに一心一異の義を談せんとす。まさにこのこゝろなるへし。三經一心の義こたへおはんぬ。

それ濁世の道俗。すみやかに圓修至德の眞門にいりて。難思往生をねかふへし。眞門の方便につきて。善本あり德本あり。また定專心あり。また散專心あり。また定散雜心あり。雜心といふは大小凡聖一切善

惡。おの／＼助正間雜の心をもて名號を稱念す。まことに教は頓にして根は漸機なり。行は專にして心は間雜す。かるかゆゑに雜心といふ。定散の專心は。罪福を信する心をもて本願力を願求す。これを自力の專心となつくるなり。善本といふは如來の嘉名なり。この嘉名は万善圓備せり。一切善法の本なり。かるかゆゑに善本といふなり。德本といふは如來の德號なり。この德號は一聲稱念するに。至德成滿し衆禍みな轉す。十方三世の德號の本なり。かるかゆゑに德本といふなり。しかれはすなはち釋迦牟尼佛は。功德藏を開演して十方濁世を勸化したまふ。阿彌陀如來はもと果遂のちかひ（果遂の願といふは二十の願なり。）をおこして。諸有の群生海を悲引したまふ。すでにして悲願います。植諸德本の願となつく。また係念定生の願となつく。また不果遂者の願となつく。また至心廻向の願となつくへきなり。て

ゝをもて大經の願にのたまはく。たとひわれ佛をえたらんに。十方の衆生わか名號をきゝて。念をわかくにゝかけて。もろ〳〵の德本をうゑて。心をいたし廻向して。わかくにゝ生せんとおもはん。果遂せすといはゝ正覺をとらし。またのたまはく。この諸智において疑惑して信せす。しかるになを罪福を信して。善本を修習して。そのくにゝ生せんと願せん。このもろ〳〵の衆生かの宮殿に生せん。またのたまはく。もしひと善本なけれは。この經をきくことをえす。清淨に戒をたもてるものいまし正法をきくことをえん。(巳上)無量壽如來會にのたまはく。もしわれ成佛せんに。无量國のなかの所有の衆生。わか名をとかんをきゝて。もておのれか善根として極樂に廻向せん。もしむまれすといはゝ菩提をとらし。(巳上)平等覺經にいはく。この功德あるにあらさるひとは。この經の名をきくことをえす。たゝし清淨

に戒をたもてるもの。いましかへりてこの正法をきく。惡と憍慢と蔽と懈怠とはもてこの法を信することかたし。宿世のときに佛をみたてまつれるもの。このんて世尊の教を聽聞せん。ひとのいのちまれにうへし。佛は世にましませとも。はなはたまうあひかたし。信惠ありていたるへからす。もし聞見せは精進してもとめよ。(已上)觀經にのたまはく。佛阿難につけたまはく。なんちよくこのことはをたもて。このことはをたもてといふは。すなはちこれ無量壽佛のみなをたもてとなり。(已上)阿彌陀經にのたまはく。少善根福德の因緣をもてかのくにゝ生することをうへからす。阿彌陀佛をとくをきゝて名號を執持せよ。(已上)光明寺の和尚のたまはく。自餘の衆行はこれ善となつくといへとも。もし念佛にならふれはまたく比校にあらす。このゆゑに諸經のなかに。處々にひろく念佛の功能をほめたり。無量壽經の四十

八願のなかのことゝきは。たゝ彌陀の名號を專念して生することをうとあかす。また彌陀經のなかのことゝきは。一日七日彌陀の名號を專念して生することをう。また十方恒沙の諸佛證誠むなしからさるなり。またこの經の定散の文のなかには。たゝ名號を專念して生することをうと標す。この例ひとつにあらす。ひろく念佛三昧をあらはしおはんぬ。またのたまはく。また決定してふかく彌陀經のなかに。十方恒沙の諸佛一切凡夫を證勸して。決定して生することをうと信す。(乃至)諸佛の言行あひ違失したまはす。たとひ釋迦さして一切の凡夫をすゝめて。この一身をつくして專念專修していのちをすてゝのち。さためてかの國に生すといふは。すなはち十方の諸佛こと〳〵くみなおなしくほめ。おなしくすゝめ。おなしく證したまふ。なにをもてのゆゑに。同體大悲のゆゑに。一佛の所化はすなはちこれ一切佛

の化なり。一切佛の化はすなはちこれ一佛の所化なり。すなはち彌陀經のなかにとかく。(乃至)また一切の凡夫をすゝめて。一日七日一心にして彌陀の名號を專念すれは。さためて往生をうと。つきしもの文にのたまはく。十方におの〳〵恒河沙等の諸佛まし〳〵て。おなしく釋迦をほめたまはく。よく五濁惡時惡世界惡衆生惡煩惱惡邪無信のさかんなるときにおいて。彌陀の名號を指讃して。衆生を勸勵して稱念せしむれはかならす往生をうと。すなはちその證なり。また十方の佛等。衆生の釋迦一佛の所說を信せさらんことをおそれて。すなはちともに同心同時におの〳〵舌相をいたして。あまねく三千世界におほふて。誠實の言をときたまはく。なんたち衆生みなこの釋迦の所說所讃所證を信すへし。一切の凡夫罪福の多少時節の久近をとはす。たゝよくかみ百年をつくし。しも一日七日にいたるまで。一心

に彌陀の名號を專念すれは。さためて往生をうることかならすうたかひなきなり。このゆゑに一佛の所說をは。一切佛おなしくその事を證誠したまふ。これを人について信をたつとなつくるなり。（要を抄す）またのたまはく。しかるに佛の願意にのそむれは。たゝ正念にしてみなを稱せしむることをすゝめたり。往生の義のときこと雜散の業にはおなしからす。この經および諸部のなかに。處々にひろく嘆するかことき（は）すゝめてみなを稱せしむるを。まさに要益とせんとするなり。しるへし。またのたまはく。佛告阿難汝好持是語といふより已下は。まさしく彌陀の名號を付屬して。遐代に流通することをあかす。かみよりこのかた定散兩門の益をとくといへとも。佛の本願にのそむれは。こゝろ衆生をして一向にもはら彌陀佛のみなを稱せしむるにあり。またのたまはく。極樂は無爲涅槃界なり。隨緣の雜

善おそらくは生しかたし。かるかゆゑに如來要法をえらひて。おしへて彌陀を念せしめてもはらにして。またもはらならしめたまへり。またのたまはく。劫つきなんと欲するとき五濁さかんなり。衆生邪見にしてはなはた信しかたし。もはらにしてもはらなれと指授して。西路に歸せしむれとも。他のために破壞せられて。かへりてもとのことし。曠劫よりこのかたつねにかくのことし。これ今生にはしめてみつからさとるにあらす。まさしくよき强緣にあはさるによりて。輪廻して得度しかたからしむることをいたす。またいはく。種々の法門みな解脫すれとも。念佛して西方にゆくにすきたるはなし。かみ一形をつくし。十念三念五念にいたるまても佛來迎したまふ。たゝちに彌陀の弘誓のおもきをもて。凡夫をして念すれはすなはち生せしむることをいたす。またのたまはく。一切の如來方便をまうけた

まふこと。また今日の釋迦尊におなし。機にしたかひて法をとくにみな益をかうふる。おの〳〵悟解をえて眞門にいれ。(乃至)佛教多門にして八万四なり。まさしく衆生の機の不同なるかためなり。安身常住のところをもとめんとおもはゝ。まつ要行をもとめて眞門にいれ。またのたまはく。余このころみつから諸方の道俗を見聞するに。解行不同にして專雜異あり。たゝしこゝろをもはらにしてなさしむれは。十はすなはち十なから生す。雜を修して至心ならされは。千かなかにひとりもなし。(已上)元照律師の彌陀經義疏にいはく。如來持名の功すくれたることをあかさんと欲す。まつ餘善を貶して少善根とす。いはゆる布施持戒。立寺造像。禮誦座禪。懺念苦行。一切福業。もし正信なけれは廻向願求するにみな少善とす。往生の因にあらす。もしこの經によりて名號を執持せは決定して往生せん。すなはちしん

ぬ。稱名はこれ多善根多福德なり。むかしこの解をなしゝひとなを遲疑しき。ちかく襄陽の石碑の經の本文を得て理冥符なり。はしめて深信をいたく。かれにいはく。善男子善女人。阿彌陀佛をとくをきゝて一心にしてみたれす。名號を專稱せよ。稱名をもてのゆゑに諸罪消滅す。すなはちこれ多功德多善根多福德因緣なり。(已上)孤山の疏にいはく。執持名號といふは。執はいはく執受なり。持はいはく住持なり。信力のゆゑに執受心にあり。念力のゆゑに住持してわすれす。(已上)大本にのたまはく。如來の興世まうあひかたくみたてまつりかたし。諸佛の經道えかたくきゝかたし。菩薩の勝法諸波羅密きくことをうることまたかたし。善知識にあひ法をきゝよく行することこれまた難とす。もしこの經をきゝて信樂受持すること難かなかにかたし。これにすきてかたきことなし。このゆゑにわか法かくのこと

くなし。かくのことくとき。かくのことくおしふ。まさに信順して法のことく修行すへし。(已上)涅槃經にのたまはく。經のなかにとくかことし。一切梵行の因は善知識なり。一切梵行の因無量なりといへとも。善知識をとけはすなはちすてに攝盡しぬ。わか所説のことし。一切の惡行は邪見なり。一切の惡行の因無量なりといへとも。もし邪見をとけはすなはちすてに攝盡しぬ。あるひはとく。阿耨多羅三藐三菩提は信心を因とす。これ菩提の因また無量なりといへとも。信心をとけはすなはちすてに攝盡しぬ。またのたまはく。善男子。信に二種あり。一には信。二には求なり。かくのこときのひとまた信ありといへとも。推求にあたはす。このゆゑになつけて信不具足とす。信にまた二種あり。一には聞より生す。二には思より生す。このひとの信心聞よりして生して思より生せす。このゆゑになつけて

信不具足とす。また二種あり。一には道あることを信す。二には得者を信す。このひとの信心たゞ道あることを信して。すへて得道のひとあることを信せす。これをなつけて信不具足とす。また二種あり。一には信正。二には信邪なり。因果ありと佛法僧ありといはん。これを信正となつく。因果三寶の性ことなることなしといひて。もろ〳〵の邪語富闌那等を信する。これを信邪となつく。このひと佛法僧寶を信すといへとも。三寶同一の性相を信せす。因果を信すといへとも。得者を信せす。このゆゑになつけて信不具足とす。このひと不具足信を成就す。(乃至)善男子四の善事あり。惡果を獲得せん。なんらをか四とする。一には勝他のためのゆゑに經典を讀誦せん。二には利養のためのゆゑに禁戒を受持せん。三には他屬のためのゆゑにしかうして布施を行せん。四には非想非々想處のためのゆゑに繋

念思惟せん。この四の善事惡果報をえん。もしひとかくのごときの四事を修習せん。これを沒となつく。沒しおはりてかへりていづ。いておはりてかへりて沒す。なんかゆゑそ沒となつくる。三有をねかふかゆゑに。なんかゆゑそ出となつくる。明をみるをもてのゆゑに。明はすなはちこれ戒施定をきくなり。なにをもてのゆゑにかかへりて出沒する。邪見を增長し憍慢を生するかゆゑに。このゆゑにわれ經のなかにおいて偈をとかく。もし衆生ありて諸有をねかふて。有のために善惡の業を造作する。このひとは。涅槃道を迷失するなり。これを暫出還復沒となつく。黑闇生死海を行して解脫をうといへとも煩惱を雜するは。このひとかへりて惡果報をうく。これを暫出還復沒となつく。如來にすなはち二種の涅槃あり。一には有爲。二には無爲なり。有爲涅槃は無常なり。常樂我淨は無爲涅槃なり。常人

ありてふかくこの二種の戒ともに因果ありと信せん。このゆゑにな
つけて戒とす。戒不具足。このひとは信戒の二事を具せす。所樂多
聞にしてまた不具足なり。いかなるをなつけて聞不具足とする。如
來の所説は十二部經なり。たゞ六部を信していまた六部を信せす。
このゆゑになつけて聞不具足とす。またこの六部の經を受持すとい
へとも。讀誦にあたはすして他のために解説するは利益するところ
なけん。このゆゑになつけて聞不具足とす。またこの六部の經をう
けをはりて。論議のためのゆゑに。勝他のためのゆゑに。利養のた
めのゆゑに。諸有のためのゆゑに。持讀誦説せん。このゆゑになつ
けて聞不具足とす。（略抄）またのたまはく。善男子第一眞實の善知識は。
いはゆる菩薩諸佛なり。世尊なにをもてのゆゑに。つねに三種の善
調御をもてのゆゑなり。なんらをか三とする。一には畢竟輭語。二

には畢竟呵責。三には輭語呵責なり。この義をもてのゆゑに。菩薩諸佛はすなはちこれ眞實の善知識なり。またつぎに善男子佛および菩薩を大醫とするかゆゑに。善知識となつく。なにをもてゆゑに。やまひをしりくすりをしりて。やまひに應して藥をさつくるかゆゑに。たとへは良醫のよき八種の術のことし。まつ病相を觀す。相に三種あり。なんらをか三とする。いはく風熱水なり。風病のひとにはこれに蘇油をさつく。熱病のひとにはこれに石蜜をさつく。水病のひとにはこれに薑湯をさつく。病根をしるをもて。くすりをさつくるにいゆることをう。かるかゆゑに良醫となつく。佛をよひ菩薩もまた〱かくのことし。もろ〱の凡夫のやまひをしるに三種あり。一には貪欲。二には瞋恚。三には愚癡なり。貪欲のやまひにはをしへて骨相を觀せしむ。瞋恚のやまひには慈悲の相を觀せしむ。愚癡

のやまひには十二緣相を觀せしむ。この義をもてのゆゑに。諸佛菩薩を善知識となつく。善男子。たとへは船師のよくひとを度するかゆゑに。大船師となつくるかことし。諸佛菩薩もまた〳〵かくのことし。もろ〳〵の衆生をして生死の大海を度す。この義をもてのゆゑに善知識となつく。（抄出）華嚴經にのたまはく。なんち善知識を念せよ。われを生すること父母のことし。われをやしなふこと乳母のことし。菩提分を增長す。醫の衆疾を療するかことし。天の甘露をそゝくかことし。日の正道をしめすかことし。月の淨輪を轉するかことし。またいはく。如來大慈悲世間に出現して。あまねくもろ〳〵の衆生のために無上法輪を轉したまふ。如來無數劫に勤苦せんことは衆生のためなり。いかんかもろ〳〵の世間よく大師の恩を報せん。（已上）光明寺の和尙ののたまはく。たゝうらむらくは。衆生のうたかふまし

きをうたかふことを。淨土對面してあひたかはす。彌陀の攝と不攝とを論することなかれ。こゝろ專心にして迴すると迴せさるとにあり。あるひはいはく。けふより佛果にいたるまて。長劫に佛をほめて慈恩を報せん。彌陀の弘誓のちからをかうふらずは。いつれのとき。いつれの劫にか娑婆をいてん。いかんしてか今日寶國にいたることを期せん。まことにこれ娑婆本師のちからなり。もし本師知識のすゝめにあらすは。彌陀の淨土いかんしてかいらん。淨土に生することをえて慈恩を報せよ。またいはく。佛世はなはたまうあひかたし。ひと信慧あることかたし。たま〳〵希有の法をきくことこれまたもともかたしとす。みつからも信し。ひとをしへても信せしむること。かたきかなかにうたゝさらにかたし。大悲ひろくあまねく化するは。まことに佛恩を報するになる。またいはく。

いさいなん他郷にはとゝまるへからす。佛にしたかひて本家に歸せよ。本國にかへりぬれは。一切の行願自然に成す。悲喜ましはりなかる。ふかくみつからはかるに。釋迦佛の開悟によらすは。彌陀の名願いつれのときにかきかん。佛の慈恩をになひても。まことに報しかたし。またいはく。十方六道をなしくこれ輪廻してきはなし。循々として愛波にしつんてしかも苦海にしつむ。佛道の人身えかたくしていますてにえたり。淨土きゝかたくしていますてにきけり。信心をこしかたくしていますてにをこせり。(已上)まことにしんぬ。專修にしてしかも雜心なるものは大慶喜心をえす。かるかゆゑに宗師はかの佛恩を念報することなし。業行をなすといへとも心に憍慢を生す。つねに名利と相應するかゆゑに。人我みつからをほふて同行善知識に親近せさるかゆゑに。このんて雜緣にちかつきて。往生の正行を

自障々他するかゆゑにといへり。かなしきかな。垢鄣の凡愚。無際よりこのかた助正間雜し。定散心雜するかゆゑに出離その期なし。みつから流轉輪廻をはかるに。微塵劫を超過すとも。佛願力に歸しかたく大信海にいりかたし。まことに傷嗟すへし。ふかく悲嘆すへし。おほよそ大小聖人一切善人。本願の嘉號をもて。おのれか善根とするかゆゑに。信を生することあたはす。佛智をさとらす。かの因を建立せることを了知することあたはさるかゆゑに。報土にいることなきなり。こゝをもて愚禿釋の鸞。論主の解義をあふき。宗師の勸化によりて。ひさしく万行諸善の假門をいてゝ。なかく雙樹林下の往生をはなる。善本德本の眞門に廻入して。ひとへに難思往生の心をおこしき。しかるにいまことに方便の眞門をいてゝ。選擇の願海に轉入せり。すみやかに難思往生の心をはなれて。難思議往生を

とけんとおもふ。果遂のちかひまことにゆゑあるかな。こゝにひさしく願海にいりてふかく佛恩をしれり。至德を報謝せんかために眞宗の簡要をひろふて。つねに不可思議の德海を稱念す。いよ〳〵これを喜愛し。ことにこれを頂戴するなり。まことにしんぬ。聖道の諸教は在世正法のためにして。またく像末法滅の時機にあらす。すてにときをうしなひ機にそむけるなり。淨土眞宗は。在世正法像末法滅濁惡の群萠。ひとしく悲引したまふをや。こゝをもて經家によりて師釋をひらきたるに。說人の差別を辨せは。おほよそ諸經の起說五種にすきす。一には佛說。二には聖弟子說。三には天仙說。四には鬼神說。五には變化說なり。しかれは四種の所說は信用にたらす。この三經はすなはち大聖の自說なり。大論に四依を釋していはく。涅槃にいりなんとせんとき。もろ〳〵の比丘にかたりたまはく。今

日より法によりて人によらさるへし。義によりて語によらさるへし。智によりて識によらさるへし。了義經によりて不了義によらさるへし。法によるといふは。法に十二部あり。この法にしたかふへし。人にしたかふへからす。義によるといふは。義のなかに好惡罪福虛實をあらそふことなし。かるかゆゑに語はすてに義をえたり。義は語にあらさるなり。ひと指をもて月をおしふ。もてわれを示敎す。指を看視してしかも月をみさるかことし。ひとかたりていはん。われ指をもて月をおしふ。なんちをしてこれをしらしむ。なんちなんそ指をみてしかも月をみさると。これまたかくのことし。語は義の指とす。語は義にあらさるなり。これをもてのゆゑに語によるへからす。智によるといふは智よく善惡を籌量し分別す。識はつねに樂をもとむ。正要にいらす。このゆゑに識によるへからすといへり。了

義經によるといふは。一切智人います。佛第一なり。一切諸經書のなかに佛法第一なり。一切衆のなかに比丘僧第一なり。無佛世の衆生を佛これを重罪としたまへり。見佛の善根をうゑさるひとなり。(已上)

しかれは末代の道俗。よく四依をしりて法を修すへきなり。

しかるに正眞の敎意によりて。古德の傳說をひらく。聖道淨土の眞假を顯開して。邪僞異執の外敎を敎誡す。如來涅槃の時代を勘決して。正像末法の旨際を開示す。こゝをもて玄忠寺の綽和尚のいはく。

しかるに修道の身。相續してたえす。一万劫をへて。はしめて不退のくらゐを證す。當今の凡夫現に信想輕毛となつく。また假名といへり。また不定聚となつく。また外の凡夫となつく。いまた火宅をいてす。なにをもてかしることをうる。菩薩瓔珞經によりて。つふさに入道行位を辨するに。法爾なるかゆゑに難行道となつく。また

いはく。敎興の所由をあかして。時に約し機にかうふらしめて。淨土に勸歸することあらは。もし機と敎と時とそむけは。修しかたくいりかたし。正法念經にいはく。行者一心に道をもとめんとき。つねにまさに時と方便とを觀察すへし。もし時をえされは方便なし。これをなつけて失とす利となつけす。いかんとなれは。うるほへる木をきりて。もて火をもとめんに火うへからす。時にあらさるかゆゑに。もしかれたるたゝきをおりて。もて水をもとめんに水うへからす。智なきかことくのゆゑに。大集の月藏經にのたまはく。佛滅度ののちの第一の五百年には。わかもろ〳〵の弟子。慧を學することと堅固なることをえん。第二の五百年には。定を學することと堅固なることをえん。第三の五百年には。多聞讀誦を學すること堅固なることをえん。第四の五百年には。塔寺を造立し。福を修し。懺悔する

こと堅固なることをえん。第五の五百年には。白法隱滯しておほく諍訟あらん。すこしき善法ありて堅固なることをえん。いまのときの衆生をはかるに。すなはち佛世をさりてのちの第四の五百年にあたれり。まさしくこれ懺悔し。福を修し。佛の名號を稱すべきときのものなり。一念阿彌陀佛を稱するに。すなはちよく八十億劫の生死のつみを除却す。一念すでにしかなり。いはんや常念を修するはすなはちこれつねに懺悔するひとなり。またいはく。經の住滅を辨せはいはく。釋迦牟尼佛一代正法五百年。像法一千年。末法一万年には衆生減しつき。諸經こと〴〵く滅せん。如來痛燒の衆生を悲哀して。ことにこの經をとゞめて止住せんこと百年ならん。またのたまはく。大集經にいはく。わか末法のときのなかの億々の衆生。行をおこし道を修せんに。いまた一人としてうるものあらしと。當今は

末法にしてこれ五濁惡世なり。たゞ淨土の一門のみありて通入すへきみちなり。(上已)しかれは穢惡濁世の群生。末代の旨際をしらす。僧尼の威儀をそしる。いまのときの道俗。おのれか分を思量せよ。三時敎を按すれは。如來般涅槃の時代をかんかふるに。周の第五の主穆王五十一年壬申にあたれり。その壬申よりわか元仁元年甲申にいたるまて。二千一百八十三歳なり。また賢劫經仁王經涅槃等の說によるに。すてにもて末法にいりて六百八十三歳なり。末法燈明記(最澄製作)を披閱するにいはく。それ一如に範衛(衛字作圍)してもて化をなかすは。法王四海に光澤してもて風に乘するは仁王なり。しかれはすなはち仁王法王たかひにあらはれてものを開し。眞諦俗諦たかひによりて敎をひろむ。このゆゑに玄籍宇內(しやうきやうなり たいりなり)にみち。嘉猷天下にあふる。こゝに愚僧等率して天網にいり。ふして嚴科をあふく。いま

た寧處にいとまあらす。しかるに法に三時あり。ひとまた三品なり。化制のむねときによりて興替す。毀讚の文ひとにしたかひて取捨す。それ三石の運盛衰おなしからす。後五の機慧悟またことなり。あに一途によりてすくはんや。一理についてたゝさんや。かるかゆゑに正像末の旨際をつまひらかにして。こゝろみに破持僧の事をあらはさん。なかにおいて三あり。はしめに正像末を決す。つきに破持僧の事をさだむ。のちに教をあけて比例す。はしめに正像末を決するに。諸説をいたすことおなしからす。しはらく一説を述せん。大乘基に賢劫經をひきていはく。佛涅槃ののち正法五百年。像法一千年。この千五百年ののち釋迦の法滅盡せんと。末法をいはす。餘の所説に準するに。尼。八敬にしたかはすしてしかも懈怠するかゆゑに。法更增せす。かるかゆゑにかれによらす。また涅槃經に末法のなかにお

いて。十二万の大菩薩衆まし〳〵て法をたもちて滅せずと。これは上位によるかゆゑにまたおなしからす。問。もししからは千五百年のうちの行事いかんぞや。答。大術經によるに。佛涅槃ののちはしめの五百年には。大迦葉等の七賢聖僧次第に正法をたもちて滅せす。五百年ののち正法滅盡せんと。六百年にいたりて九十五種の外道きほひおこらん。馬鳴世にいでゝもろ〳〵の外道を伏せん。七百年のうちに龍樹世にいでゝ、邪見のはたほこをくたかん。八百年において比丘縦逸にして。わつかに一二道果をうるものあらん。九百年にいたりて奴を比丘とし婢を尼とせん。一千年のうちに不淨觀をひらかん。瞋恚して欲せん。千一百年に僧尼嫁娶せん。僧毗尼を毀謗せん。千二百年に諸僧尼等ともに子息あらん。千三百年に袈裟變してしろからん。千四百年に四部の弟子みな獵師のごとし。三寶物をうらん。

こゝにいはく。千五百年に拘睒彌國にふたりの僧ありて。たかひに是非をおこしてつゐに殺害せん。よりて教法龍宮におさまる。涅槃の十八および仁王等にまたこの文あり。これらの經文に准するに。千五百年ののち戒定慧あることなし。かるかゆゑに大集經の五十一にいはく。わか滅度ののちはしめの五百年には。もろ〳〵の比丘等。わか正法において解脱堅固ならん。（はしめに聖果をうるをなつけて解脱とす。）つきの五百年には禪定堅固ならん。つきの五百年には多聞堅固ならん。つきの五百年には造寺堅固ならん。のちの五百年には鬪諍堅固ならん。白法隱沒せんと。云々。このこゝろはしめの三分の五百年には。ついてのことなく戒定慧の三法堅固に住することをえん。すなはちかみにひくところの正法五百年。像法一千の二時これなり。造寺已後はならひにこれ末法なり。かるかゆゑに基の般若會の釋にいはく。正法五

百年。像法一千年。この千五百年ののち正法滅盡せんと。かるかゆゑにしんぬ。已後はこれ末法に屬す。問。もししからはいまの世はまさしくいつれのときにかあたれるや。答。滅後の年代。をほくの說ありといへともしはらく兩說をあく。一には法上師等周異の說によりていはく。佛第五の主穆王滿五十一年。壬申にあたりて入滅したまふ。もしこの說によらは。その壬申よりわか延曆二十年。辛巳にいたるまて一千七百五十歲なり。二には費長房等魯の春秋によらは。佛周の第二十の主匡王班四年。壬子にあたりて入滅したまふ。もしこの說によらは。その壬子よりわか延曆二十年。辛巳にいたるまて一千四百十歲なり。かるかゆゑにいまのときのこときはこれ最末のときなり。かのときの行事すてに末法に同せり。しかれはすなはち末法のなかにをいては。たゝ言敎のみありてしかも行證なけん。

もし戒法あらは破戒あるへし。すてに戒法なし。いつれの戒を破せんによりてか。しかも破戒あらんや。破戒なをなし。いかにいはんや持戒をや。かるかゆゑに大集にいはく。佛涅槃ののち無戒くにゝみたんと。云々。問。諸經律のなかに。ひろく破戒を制して衆にいることをゆるさす。破戒なをしかなり。いかにいはんや無戒をや。しかるにいまかさねて末法を論するに戒なし。あにきすなくしてみつからもていたまんや。答。この理しからす。正像末法の所有の行事。ひろく諸經にのせたり。内外の道俗たれか披諷せさらん。あに自身邪活を貪求して。持國の正法を隱蔽せんや。たたしいま論するところの末法には。たた名字の比丘のみあらん。この名字を世の眞寶とせん。福田なからんや。たとひ末法のなかに持戒あらは。すてにこれ怪異なり。市に虎あらんかことし。これたれか信すへきや。

問。正像末の事すてに衆經にみえたり。末法の名字を世の眞寶とせんことは聖典にいてたりや。答。大集の第九にいはく。たとへは眞金を無價のたからとするかことし。もし眞金なくはしろかねを無價のたからとす。もししろかねなくは鍮石僞寶を無價とす。もし僞寶なくは赤白銅鐵白錫鉛を無價とす。かくのことき一切世間のたからなれとも。佛法無價なり。もし佛寶なくは緣覺無上なり。もし緣覺なくは羅漢無上なり。もし羅漢なくは餘の賢聖衆をもて無上なり。もし餘の賢聖衆なくは得定の凡夫をもて無上とす。もし得定の凡夫なくは淨持戒をもて無上とす。もし淨持戒なくは漏戒の比丘をもて無上とす。もし漏戒なくは剃除鬚髮して。身に袈裟を著たる名字の比丘を無上のたからとす。餘の九十五種の異道に比するにもとも第一とす。世の供をうくへし。ものゝためのはしめの福田なり。なに

をもてのゆゑに。能身をやふる衆生怖畏するところなるかゆゑに。護持養育してこのひとを安置することあらん。ひさしからすして忍地をえん（已上經文）この文のなかに八重の無價あり。いはゆる如來像に緣覺聲聞および前三果。得定の凡夫持戒破戒無戒名字それついてのことし。正像末のときの無價のたからとするなり。はしめの四は正法の時。つきの三は像法の時。のちの一は末法の時なり。これによりてあきらかにしんぬ。破戒無戒こと〳〵くこれ眞寶なり。問。ふしてさきの文をみるに。破戒名字眞寶ならさることなし。なんかゆへそ涅槃と。大集經に國王大臣破戒の僧を供すれは。くにゝ三災おこりつゐに地獄に生す。破戒なをしかなり。いかにいはんや無戒をや。しかるに如來ひとつの破戒において。あるひはそしり。あるひはほむ。あに一聖の説兩判のとかあるをや。答。この理しからす。

涅槃等の經にしはらく正法の破戒を制す。像末代の比丘にはあらす。その名おなしといへともしかも時に異あり。時にしたかひて制許す。これ大聖の旨破なり。世尊において兩判のとかましまさす。問。もししからはなにをもてかしらん。涅槃等の經はたゝ正法所有の破戒を制止して。像末の僧にあらすと。答。ひくところの大集の所説の八重の眞實のことし。これその證なり。みな時にあたりて無價なりとす。かるかゆゑに。たゝし正法のときの破戒の比丘は淸淨衆をけかす。かるかゆゑに。佛かたく禁制して衆にいれす。しかるゆゑは涅槃の第三にのたまはく。如來いま無上の正法をもて。諸王大臣宰相比丘比丘尼に付屬したまへり。(乃至)破戒あり。正法をそしらは王およひ大臣四部の衆まさに苦治すへし。かくのことき王臣等無量の功德をえん。(乃至)これわか弟子なり。眞の聲聞なり。福をうること無量ならん。(乃至)

かくのことき の制文の法往々衆多なり。みなこれ正法にあかすところの制文なり。像末の教にあらす。しかるゆゑは像季末法には正法を行せされは。法としてそしるへきなし。なにをか毀法となつけん。戒として破すへきなし。たれをか破戒となつけん。またそのとき大王行としてまもるへきなし。なによりてか三災をいたし。および戒慧を失せんや。また像末には證果のひとなし。いかんしてか二聖に聽護せらるゝことをあかさん。かるかゆゑにしんぬ。かみの所説は。みな正法の世に持戒あるときに約して破戒あるかゆゑなり。つきに像法千年のうちに。はしめの五百年には。持戒やうやく減し。破戒やうやく增せん。戒行ありといへともしかも證果なし。かるかゆゑに涅槃の七にのたまはく。迦葉菩薩佛にまふしてまふさく。世尊佛の所説のことき は四種の魔あり。もし魔の所説および佛の所説。われ

まさにいかんしてかしかも分別することをうへき。もろ〳〵の衆生ありて魔行に隨逐せん。また佛說に隨順することあらは。かくのことき らのともからまたいかんかしらんと。佛。迦葉につけたまはく。われ涅槃して七百歲ののちに。これ魔波旬やうやくおこりて。まさにしきりにわか正法を壞すへし。たとへは獵師の身に法衣をきるかことし。魔波旬もまた〳〵かくのことし。比丘像。比丘尼像。優婆塞優婆夷像となさんこと。また〳〵かくのことし。(乃至)もろ〳〵の比丘奴婢僕使。牛羊象馬。乃至銅鐵釜鑊。大小銅盤所須のものを受畜し。耕田種販賣市易して穀米をまうくることをゆるす。かくのことき の衆事。佛大悲のゆゑに衆生を憐愍して。みなたくはふるとをゆるさんと。かくのことき の經律はこと〳〵くこれ魔說なりと。云々。すてに七百歲ののちに波旬やうやくをこらんといへり。かるかゆゑにし

んぬ。かのときの比丘やうやく八不淨物を貪畜せん。この妄說をなさん。すなはちこれ魔のともからなり。これらの經のなかに。あきらかに年代をさしてつふさに行事をとけり。さらにうたかふへからす。それ一文をあく。餘みな准知せよ。つきに像法ののちなかは、持戒減少し破戒巨多ならん。かるかゆゑに涅槃の六にのたまはく。（乃至）また十輪にいはく。もしわか法によりて出家して惡行を造作せん。これ沙門にあらずしてみつから沙門と稱し。また梵行にあらすしてみつから梵行と稱せん。かくのごときの比丘。よく一切天龍夜叉一切善法功德伏藏を開示して。衆生の善知識とならん。少欲知足ならすといへとも。剃除鬚髮して法服を被著せん。この因緣をもてのゆゑに。よく衆生のために善根を增長せん。もろ〳〵の天人にをいて善道を開示せん。乃至破戒の比丘これ死せるひとなりといへとも。しか

も戒の餘才牛黄のことし。これ死せりといへともしかもひとことさらにこれをとる。また麝香のことし。のちに用あるかことしと。云々。すてに迦羅林のうちに。ひとつの鎮頭迦樹ありといへり。これは像運すてにをとろへて破戒濁世にみち。わつかに一二持戒の比丘あらんにたとふるなり。またいはく。破戒の比丘これ死せるひとなりといへとも。なをし麝香の死して用あるかことし。衆生の善知識となること。あきらかにしんぬ。このときやうやく破戒をゆるして世の福田とす。さきの大集にをなし。つきに像季ののちはまたくこれ戒なし。佛時運をしろしめして。末俗をすくはんかために。名字の僧をほめて世の福田としたまへり。また大集の五十二にいはく。もしのちの末世にわか法のなかにをいて剃除鬚髪し。身に袈裟を著たらん名字の比丘。もし檀越ありて供養をなさは無量の福をえん。また

賢愚經にのたまはく。もし檀越將來末世に法乘つきんとせんに。まさしく妻をたくはへ子をわきはさましめん。四人以上の名字の僧衆まさに禮敬せんことを。舍利弗大目連等のことくすへし。またのたまはく。もし破戒を打罵し。身に袈裟をきたるをしることなからん。つみは万億の佛身より血をいたすにおなしからん。もし衆生ありて。わか法のために剃除鬚髮し袈裟を被服せん。たとひ戒をたもたすとも。かれらはことくくすてに涅槃の印のために印せらるゝなり。(乃至)大悲經にいはく。佛阿難につけたまはく。將來世において法滅盡せんと欲せんとき。まさに比丘比丘尼ありて。わか法のなかにおいて出家をえたらんもの。おのれか手に兒のひちをひきて。しかもともに遊行してかの酒家より酒家にいたらん。わか法のなかにおいて非梵行をなさん。かれら酒の因緣たりといへとも。この賢劫のなかに

おいて。まさに千佛まし〳〵て興出したまはん。わか弟子となるへし。つぎにのちに彌勒まさにわかところを補へし。乃至最後盧至如來まて。かくのことく次第になんぢまさにしるへし。阿難わか法のなかにおいて。たゝし性はこれ沙門の行にして。みつから沙門と稱せん。かたちは沙門に似てひさしく袈裟を被著することあらんものは。賢劫において彌勒を首として。乃至盧至如來まて。かのもろ〳〵の沙門かくのことぎの佛のみもとにして。無餘涅槃において。次第に涅槃にいることをえん。遺餘あることなけん。なにをもてのゆゑに。如來一切沙門のなかに乃至ひとたびも佛のみなを稱し。ひとたびも信を生せんもの。所作の功德つゐに虛設ならし。われ佛智をもて法界を測知するかゆゑなりと。云々。(乃至)これらの諸經にみな年代をさして。將來末世の名字の比丘を世の導師とす。もし正法のとき

の制文をもて。しかも末法世の名字の僧を制せは。敎機あひそむき人法合せす。これによりて律にいはく。非制を制すれはすなはち三明を斷す。記説するところこれつみありと。このかみに經をひきて配當しおはんぬ。のちの敎をあけて比例せは。末法法爾として正法毀壞し三業しるしなし。四儀そむくことあらん。しはらく像法決疑經にのたまふかことし。(乃至)また遺敎經にのたまはく。(乃至)また法行經にのたまはく。(乃至)鹿子母經にのたまはく。(乃至)また仁王經にのたまはく。(乃至)

(已上略抄)

顯淨土方便化身土文類六　末

それもろ〳〵の修多羅によりて。眞僞を勘決して外敎邪僞の異執を敎誡せは。涅槃經にのたまはく。佛に歸依せんものは。つひにまたその餘のもろ〳〵の天神に歸依せされ。(略出)般舟三昧經にのたまはく。優婆夷この三昧をきゝて學せんと欲せは。(乃至)みつから佛に歸命し。法に歸命し。比丘僧に歸命せよ。餘道につかふることをえされ。天を拜することをえされ。鬼神をまつることをえされ。吉良日をみることをえされ。(已上)またのたまはく。優婆夷三昧を學せんと欲せは。(乃至)天を拜し。神を祠祀することをえされ。(略出)大乘大方等日藏經卷第八魔王波旬星宿品第八の二にのたまはく。そのときに佉盧虱吒天衆につけていはく。このもろ〳〵の月等おの〳〵主儻あり。なんち四種の

衆生を救濟すへし。なにものをか四とする。地上の人諸龍夜叉乃至蝎等をたすけん。かくのことくのたくひみなこと〳〵くこれをたすけん。われもろ〳〵の衆生を安樂するをもてのゆゑに星宿を布置す。おの〳〵分部乃至摸呼羅の時等あり。またみなつふさにとかん。その國土方面のところにしたかひて。所作の事業隨順し増長せん。佉盧虱吒大衆のまへにして。たなこゝろをあはせてときていはく。かくのことく日月年時大小星宿を安置す。なにものをかなつけて六時ありとするや。正月二月を暄暖時となつく。三月四月を種作時となつく。五月六月は求降雨時なり。七月八月は物欲熟時なり。九月十月は寒凍の時なり。十有一月合して十二月は大雪の時なり。これ十二月をわかちて六時とす。また大星宿そのかす八あり。いはゆる歳星熒惑鎭星太白辰星日月荷羅睺星なり。また小星宿二十八あり。い

はゆる昴より胃にいたるまての諸宿これなり。われかくのこときの次第安置をなす。その法をときおはんぬ。なんたちみなすへからくまた見またきくへし。一切大衆こゝろにおいていかんそ。わかおくところの法。その事これ二十八宿および八大星の所行諸業にあらす。なんちか喜樂は是のため非のためにせす。よろしくおの〳〵宣說すへし。そのときに一切天人仙人阿修羅龍および賢那羅等。みなこと〳〵くたなこゝろをあはせて。こと〳〵くこの言をなさく。いま大仙のこときは天人のあひたにおいてもとも尊重とす。乃至諸龍をよび阿修羅よくすくれたるものなけん。智慧慈悲もとも第一とす。無量劫にをいてわすれす。一切衆生を憐愍するかゆゑに福報をえ。誓願みちをはりて功德海のことし。よく過去現在當來一切諸事。天人のあひたをしるに。かくのこときの智慧のもののあることなし。かくの

こときの法用日夜刹那をよび加羅時。大小星宿月半月滿年滿法用。さらに衆生よくこの法をなすことなけん。みなこと〳〵く隨喜し安樂ならん。われらよきかな大德衆生を安穩す。このときに佉盧虱吒仙人またこの言をなさく。この十二月一年始終かくのごとく方便す。大小星等刹那の時法みなすてにときをはんぬ。また〳〵四天大王を須彌山の四方面所に安置す。その〳〵ひとりの王ををく。このもろ〳〵の方所にしてをの〳〵衆生を領す。北方天王を毘沙門となつく。これその界のうちにをほく夜叉あり。南方天王を毘留茶となつく。ともにこれその界のうちにをほく鳩槃茶あり。西方天王を毘留博叉となつく。これその界のうちにをほくもろ〳〵の龍あり。東方天王を題頭隷吒となつく。これその界のうちに乾闥婆をほし。四方四維みなこと〳〵く。一切洲渚をよびもろ〳〵の城邑を擁護す。たま鬼神

をおきてしかもこれを守護せしむ。そのとき佉廬虱吒仙人。もろ〳〵の天龍夜叉阿修羅緊那羅摩睺羅加人非人等一切大衆にをいて。みな善哉と稱して歡喜無量なることをなす。このときに天龍夜叉阿修羅等日夜に佉廬虱吒を供養す。つぎにまたのちに無量世をすぎてまた仙人あらん。伽力伽となつく。世に出現してまたさらに別して。もろ〳〵の星宿小大月の法時節要略をときをかん。そのときに諸龍佉羅提山聖人の住處にありて。光味仙人を尊重し恭敬せん。その龍力をつくしてしかもこれを供養せん。（已上抄出）日藏經卷第九念佛三昧品第十にのたまはく。そのときに波旬この偈をときをはる。かの衆のなかにひとりの魔女あり。なつけて離暗とす。この魔女は。むかし過去にをいてもろ〳〵の徳本をうゑたりき。この說をなしていはく。沙門瞿曇はなつけて福德と稱す。もし衆生ありて佛名をきくことをえ

て一心に歸依せん。一切の諸魔かの衆生において惡をくはふることあたはす。いかにいはんや佛をみたてまつり。まのあたり法をきかんひと種々に方便し慧解深廣ならん。(乃至)たとひ千万億の一切魔軍。つねに須臾も害をなすことうることあたはす。如來いま涅槃道をひらきたまへり。女かしこにゆきて佛に歸依せんとおもふて。すなはちその父のためにしかも偈をときていはく。(乃至)三世の諸佛の法を修學して。一切の苦の衆生を度脫せん。よく諸法において自在をえ。當來にねかはくは。われかへりて佛のことくならんと。そのときに離暗この偈をときおはるに。父の王宮のうちの五百の魔女。姉妹眷屬の一切みな菩提の心を發せしむ。このときに魔王その宮のうちの五百の諸女。みな佛に歸して菩提心を發せしむるをみるに。おほきに瞋恚怖畏憂愁をます。(乃至)このときに五百のもろ〳〵の魔女等。また波旬のた

めにしかも偈をときていはく。もし衆生ありて佛に歸すれは。かのひと千億の魔におそれす。いかにいはんや生死のなかれを度せんとおもふて。無爲涅槃の岸にいたらん。もしよく一香華をもて。三寶佛法僧に持散することありて。堅固勇猛の心をおこさん。一切の衆魔壞することあたはし。(乃至)われら過去の無量の惡。一切また滅して餘あることなけん。至誠專心に佛に歸したてまつりおはらは。さためて阿耨菩提の果をえんと。そのときに魔王この偈をきゝおはりて。大瞋恚怖畏をまして心をこかし。憔悴憂愁してひとり宮内に坐す。このときに光味菩薩摩訶薩佛の說法をきゝて。一切衆生こと〳〵く攀緣をはなれ四梵行をえしむ。(乃至)さよく洗浴し。鮮潔のころもを著て菜食長齊して。からくくさきものをくらふことなかるへし。寂靜處にして。道場を莊嚴し正念結跏し。あるひは行しあるひは坐して。佛身

の相を念して亂心せしむることなかれ。さらに他縁し。その餘の事を念することなかれ。あるひは一日夜。あるひは七日夜し餘の業をなさゝれ。至心念佛すれは乃至佛をみたてまつる。小念は小をみたてまつり。大念は大をみたてまつる。乃至無量の念は佛の色身の無量無邊なるをみたてまつる。(略抄)日藏經卷第十護塔品第十三にのたまはく。ときに魔波旬。その眷屬の八十億衆と前後に圍繞して。佛所に往至す。いたりおはりて接足して。世尊を頂禮したてまつる。かくのことき の偈をとかく。(乃至)三世の諸佛の大慈悲わか禮をうけたまへ。一切のつみを懺せしむ。法僧二寶もまた〳〵しかなり。至心歸依したてまつるに異あることなし。ねかはくはわれ今日世の導師を供養し恭敬し。尊重したてまつるところなり。諸惡なかくつくしてまた生せし。いのちをつくすまて如來の法に歸依せんと。ときに魔波旬し

この偈をときおはりて。佛にまふしてまふさく。世尊如來われおよびもろ〳〵の衆生において。平等無二の心にしてつねに歡喜し慈悲含忍せんと。佛ののたまはく。かくのことくのときに魔波旬。大歡喜を生して清淨心をおこして。かさねて佛前にして接足頂禮し。みきにめくること三帀して恭敬合掌して。しりぞきて一面に住して世尊を瞻仰したてまつる。心に厭足なし。（已上抄出）大方等大集月藏經卷第五諸惡鬼神得敬信品第八の上にのたまはく。もろ〳〵の仁者。かの邪見を遠離する因緣において十種の功德をえん。なんらをか十とす。一には心性柔善にして伴侶賢良ならん。二には業報乃至奪命あることを信してもろ〳〵の惡をおこさす。三には三寶を歸敬して天神を信せす。四には正見をえて歲次日月の吉凶をえらはす。五にはつねに人天に生してもろ〳〵の惡道をはなる。六には賢善の心あきらか

なることをえ。ひと讃譽せしむ。七には世俗をすてゝつねに聖道をもとむ。八には斷常の見をはなれて因緣の法を信す。九にはつねに正信正行正發心のひとゝともにあひあつまりあはん。十には善道に生することをえしむ。この邪見を遠離する善根をもて。阿耨多羅三藐三菩提に廻向せん。このひとすみやかに六波羅密を滿せん。善淨佛土にしてしかも正覺をならん。菩提をえおはりてかの佛土にして。功德智慧一切善根衆生を莊嚴せん。そのくにゝ來生して天神を信せす。惡道のおそれをはなれて。かしこにして命終してかへりて善道に生せん。（略抄）月藏經卷第六諸惡鬼神得敬信品の第八の下にのたまはく。佛の出世ははなはたかたし。法僧もまた〳〵かたし。衆生の淨信もかたし。諸難をはなるゝこともまたかたし。衆生を哀愍することかたし。知足第一にかたし。正法をきくことをうることかたし。よく

修すること第一にかたし。かたきをしることをえて平等なれは。世においてつねに樂をうく。この十平等處は智者つねにすみやかにしらんと。(乃至)そのときに世尊。かのもろ〳〵の惡鬼神衆のなかにして。法をときたまふときに。かのもろ〳〵惡鬼神衆のなかにして。かの惡鬼神はむかし佛法において。決定の信をなせしかとも。かれのちのときにおいて。惡知識にちかつきて。心に他のとかをみる。この因縁をもて惡鬼神とむまる。(略抄)大方等大集經卷第六月藏分のなかに。諸天王護持品第九にのたまはく。そのときに世尊世間にしめすかゆゑに。娑婆世界の主。大梵天王に問てのたまはく。この四天下にこれたれかよく護持養育をなすと。ときに娑婆世界の主。大梵天王かくのことき言をなさく。大德婆伽婆。兜率陀天王無量百千の兜率陀天子とともに。北鬱單越を護持し養育せしむ。他化自在天王無量百

千の他化自在天子とともに。東弗婆提を護持し養育せしむ。化樂天王無量百千の化樂天子とともに。南閻浮提を護持し養育せしむ。須夜摩天王無量百千の須夜摩天子とともに。西瞿陀尼を護持し養育せしむ。大德婆伽婆毗沙門天王無量百千の諸夜叉衆とともに。北鬱單越を護持し養育せしむ。提頭賴吒天王無量百千の乾闥婆衆とともに。東弗婆提を護持し養育せしむ。毗樓勒天王無量百千の鳩槃茶衆とともに。南閻浮提を護持し養育せしむ。毗樓博叉天王無量百千の龍衆とともに。西瞿陀尼を護持し養育せしむ。大德婆伽婆。天仙七宿三曜三天童女北鬱單越を護持し養育せしむ。かの天仙七宿は虛危室壁奎婁胃なり。三曜は鎭星歲星熒惑星なり。三天童女は鳩槃彌那迷沙なり。大德婆伽婆。かの天仙七宿のなかに。虛危室の三宿はこれ鎭星の土境なり。鳩槃はこれ辰なり。壁奎の二宿はこれ歲星の土境な

り。彌那はこれ辰なり。婁胃の二宿はこれ熒惑の土境なり。迷沙は
これ辰なり。大德婆伽婆。かくのごときの天仙七宿三曜三天童女北
鬱單越を護持し養育せしむ。大德婆伽婆。天仙七宿三曜三天童女東
弗婆提を護持し養育せしむ。かの天仙七宿は昴畢觜參井鬼柳なり。
三曜は太白星歲星月なり。三天童女は毗利沙彌偸那羯迦陀迦なり。
大德婆伽婆。かの天仙七宿のなかに。昴畢の二宿はこれ太白の土境
なり。毗利沙はこれ辰なり。觜參井の三宿はこれ歲星の土境なり。
彌偸那はこれ辰なり。鬼柳の二宿はこれ月の土境なり。羯迦陀迦は
これ辰なり。大德婆伽婆。かくのごときの天仙七宿三曜三天童女東
弗婆提を護持し養育せしむ。大德婆伽婆。天仙七宿三曜三天童女南
閻浮提を護持し養育せしむ。かの天仙七宿は星張翼軫角亢氐なり。
三曜は日辰星太白星なり。三天童女は線訶迦若兜羅なり。大德婆伽

婆。かの天仙七宿のなかに。星張翼はこれ日の土境なり。綽訶はこれ辰なり。軫角の二宿はこれ辰星の土境なり。迦若はこれ辰なり。亢氐の二宿はこれ太白の土境なり。兜羅はこれ辰なり。大徳婆伽婆。かくのごときの天仙七宿三曜三天童女南閻浮提を護持し養育せしむ。大徳婆伽婆。かの天仙七宿三曜三天童女西瞿陀尼を護持し養育せしむ。かの天仙七宿は房心尾箕斗牛女なり。三曜は熒惑星歳星鎮星なり。三天童女は毘離支迦檀兜婆摩伽羅なり。大徳婆伽婆。かの天仙七宿のなかに。房心の二宿はこれ熒惑の土境なり。毘利支迦はこれ辰なり。尾箕斗の三宿はこれ歳星の土境なり。檀兇婆はこれ辰なり。牛女の二宿はこれ鎮星の土境なり。魔伽羅はこれ辰なり。大徳婆伽婆。かくのごときの天仙七宿三曜三天童女西瞿陀尼を護持し養育せしむ。大徳婆伽婆。この四天下に南閻浮提はもとも殊勝なりとす。

なにをもてのゆゑに。閻浮提のひとは勇健聰慧にして梵行佛に相應す。婆伽婆なかにおいて出世したまふ。このゆゑに四大天王こゝに倍增して。この閻浮提を護持し養育せしむ。十六の大國あり。いはく。鴦伽摩伽陀國。傍伽摩伽陀國。阿槃多國。支提國。この四の大國をは。毘沙門天王夜叉衆と圍繞して。護持し養育せしむ。迦尸國。都薩羅國。婆蹉國。摩羅國。この四の太國をは。提頭賴吒天王乾闥婆衆と圍遶して。護持し養育せしむ。鳩羅婆國。毘時國。槃遮羅國。踈那國。この四の大國をは。毘樓勒叉天王鳩槃茶衆と圍繞して。護持し養育せしむ。阿濕婆國。蘇摩國。蘇羅吒國。甘滿闍國。この四の大國をは。毘樓博叉天王もろ〳〵の龍衆と圍遶して。護持し養育せしむ。大德婆伽婆。過去の天仙。この四天下を護持し養育せしむ。かるかゆゑに。またかくのことく分布安置せしむ。のちにおいてその國土城

邑村落。塔寺園林。樹下塚間。山谷曠野。河泉波泊。乃至海中寶洲天祠にしたかひて。かの卵生胎生濕生化生において。もろ〳〵の龍夜叉羅刹餓鬼毘舍遮富單那迦吒富單那等かのなかに生して。かのところに還住して繫屬するところなし。他の敎をうけす。このゆゑにねかはくは佛この閻浮提の一切國土において。かのもろ〳〵の鬼神分布し安置して。護持のためのゆゑに。一切のもろ〳〵の衆生をまもらんかためのゆゑに。われらこの說において隨喜せんとおもふと。佛ののたまはく。かくのことし。大梵なんちか所說のことしと。そのときに世尊。かさねてこの義をあかさんとして。しかも偈をときてのたまはく。世間に示現するかゆゑに。導師梵王にとはまく。この四天下においてたれか護持し養育せん。かくのことき天師梵諸天王を首として。兜率他化天化樂須夜摩。よくかくのことき四天

下を護持し養育せしむ。四王および眷屬また〳〵よく護持せしむ。二十八宿等および十二辰十二天童女四天下を護持せしむ。その所生のところにしたかひて。龍鬼羅刹等他の敎をうけすは。かしこにかへりて護をなさしめん。天神等差別して願して佛分布せしめたまへり。衆生を憐愍せしかゆゑに。正法のともしひを燃然ならしむと。

そのときに佛月藏菩薩摩訶薩につけてのたまはく。淸淨土を了知するに。この賢劫のはしめ。人壽四万歲のとき。鳩留孫佛世に出興したまひき。かの佛無量阿僧祇億那由他百千の衆生のために。生死に廻して正法輪を輪轉せしむ。おふて惡道に廻して。善道および解脫の果を安置せしむ。かの佛この四大天下をもて。娑婆世界の主大梵天王。他化自在天王。化樂天王。兜率陀天王。須夜摩天王等に付屬せしむ。護持のゆゑに。養育のゆゑに。他の衆生を憐愍するかゆ

ゑに。三寶の種をして斷絶せさらしめんかゆゑに。熾然ならんかゆゑに。地の精氣。衆生の精氣。正法の精氣ひさしく住し增長せんかゆゑに。もろ〱の衆生をして。三惡道を休息せしめんかゆゑに。三善道に趣向せしかゆゑに。四天下をもて。大梵およひもろ〱の天王に付屬せしむ。かくのことく漸次に劫つき。もろ〱の天人つき。一切の善業白法つき滅して。大惡もろ〱の煩惱濁を增長せん。人壽三万歲のとき。拘那含牟尼佛世に出興したまふ。かの佛この四大天下をもて。娑婆世界の主大梵天王。他化自在天王。乃至四大天王。およひもろ〱の眷屬に付屬したまふ。護持養育のゆゑに。乃至一切衆生をして三惡道を休息して。三善道に趣向せしめんかゆゑに。この四天下をもて。大梵およひもろ〱の天王に付屬したまへり。かくのことく次第に劫つき。もろ〱の天人つき。白法またつき。大

惡もろ〳〵の煩惱溺を增長せん。人壽二万歲のとき。迦葉如來世に出興したまふ。かの佛この四大天下をもて。娑婆世界の主大梵天王。他化自在天王。化樂天王。兜率陀天王。須夜摩天王。憍尸迦帝釋。四天王等。およびもろ〳〵の眷屬に付屬したまへり。護持養育のゆゑに。乃至一切衆生をして三惡道を休息して。三善道に趣向せしめんかゆゑに。かの迦葉佛この四天下をもて。大梵四天王等に付屬し。およびもろ〳〵の天仙衆七曜十二天童女二十八宿等につけたまへり。護持のゆゑに。養育のゆゑに。清淨土を了知するに。かくのごとく次第に。いま劫濁。煩惱濁。衆生濁。大惡煩惱濁。鬪諍惡世の時。人壽百歲にいたりて。一切の白法つき。一切の諸惡闇翳ならん。世間はたとへは海水の一味にして大鹹なるかごとし。大煩惱のあちはひ世に遍滿せん。集會の惡黨。手に髑髏をとり。血をそのたなこゝ

ろにねらん。ともにあひ殺害せん。かくのごときの惡衆生のなかに。われいま菩提樹下に出世して。はしめて正覺をなれり。受提波利にいはく。もろ〳〵の商人食せん。かれらかためのゆゑに。この閻浮提をもて。天龍乾闥婆鳩槃茶夜叉等に分布せしむ。護持養育のゆゑに。これをもて大集十方所有の佛土。一切無餘の菩薩摩訶薩等。こと〳〵くこゝに來集せん。乃至この娑婆佛土にして。そのところの百億の日月。百億の四天下。百億の四大海。百億の鐵圍山。大鐵圍山。百億の須彌山。百億の四阿修羅城。百億の四大天王。百億の三十三天乃至百億の非想非々想處。かくのごとくかすを略せり。娑婆佛土。われこのところにしてしかも佛事をなす。乃至娑婆佛土の諸有のもろ〳〵の梵天王。およびもろ〳〵の眷屬魔天王。他化自在天王。化樂天王。兜率陀天王。須夜摩天王。帝釋天王。四大天王。阿修羅王。

龍王。夜叉王。羅刹王。乾闥婆王。緊那羅王。迦樓羅王。摩睺羅伽王。鳩槃茶王。餓鬼王。毗舍遮王。富單那王。迦吒富單那王等にをいて。こと〳〵くまさに眷屬としてこゝに大集せり。法をきかんかためのゆゑに。乃至こゝに娑婆佛土の所有のもろ〳〵の菩薩摩訶薩等。をよひもろ〳〵の聲聞一切餘なく。こと〳〵くこゝに來集せり。聞法のためのゆゑに。われいまこの所集の大衆のために。甚深の佛法を顯示せしむ。また世間をまもらんかためのゆゑに。この閻浮提所集の鬼神をもて分布安置す。護持養育すへしと。そのときに世尊またた娑婆世界の主大梵天王に問てのたまはく。過去の諸佛この四大天下をもて。かつてたれに付屬してか。護持養育をなさしめたまふと。ときに娑婆世界の主大梵天王まふさく。過去の諸佛この四天下をもて。かつてわれをよひ憍尸迦に付屬したまへりき。護持をなさしめ

てしかもわれ失ありやいなや。をのれか名をよひ帝釋の名をあらはす。たゝし諸餘の天王をよひ宿曜辰を稱せしむ。護持養育すへしと。そのときに娑婆世界の主大梵天王。よひ憍尸迦を帝釋佛足を頂禮してしかもこの言をなさく。大德娑迦婆。大德修迦陀われいまとかを謝すへし。われ小兒のことくして。愚癡無智にして。如來のみまへにしてみつから稱名せさらんや。大德婆迦婆やゝねかはくは容恕したまへ。大德修迦陀やゝねかはくは容恕したまへ。諸來の大衆またねかはくは容恕したまへ。われ境界にをいて言說敎令す。自在のところをえて護持養育すへし。乃至もろ〳〵の衆生をして。善道にをもむかしめんかゆゑに。われらむかし鳩留孫佛のみもとにして。すてに敎勅をうけたまはり。乃至三寶の種をしてすてに燃然ならしむ。拘那含牟尼佛迦葉佛のみもとにして。われ敎勅をうけたまはりして

とまたかくのことし。三寶の種にをいて。すてにねんころにして燃然ならしむ。地の精氣。衆生の精氣。正法のあちはひ。醍醐の精氣ひさしく住し増長せしむるかゆゑに。またわかこときもいま世尊のみもとにして。敎勅を頂受し。をのれか境界にをいて言說敎令す。自在のところをえて一切闘諍飢饉を休息せしめ。乃至三寶の種をして斷絶せさらしむるかゆゑに。三種の精氣ひさしく住して増長せしむるかゆゑに。惡行の衆生を遮障して行法の衆生を護養するかゆゑに。衆生をして三惡道を休息せしめ。三善道に趣向するかゆゑに。佛法をしてひさしく住することをえしめんかためのゆゑに。ねんころに護持をなすと。佛ののたまはく。よいかなよいかな。妙丈夫。なんちかくのことくなるへしと。そのときに佛。百億の大梵天王につけてのたまはく。所有の行法。法に住し法に順して。惡を厭捨せんも

のは。いまこと〳〵くなんたちか手のうちに付属す。なんたち賢首。百億の四天下各々の境界において。言説教令す。自在のところをえて。所有の衆生。弊悪麁獷悩害他において慈愍あることなし。後世のおそれを観せすして。刹利の心および婆羅門毗舎首陀の心を触悩せん。乃至畜生の心を触悩せん。かくのことし殺生をなす因縁。乃至邪見をなす因縁。その所作にしたかひて非時の風雨あらん。乃至地の精氣。衆生の精氣。正法の精氣。損減の因縁をなさしめは。なんち遮止して善法に住せしむへし。もし衆生ありて善をえんとおもはんもの。法をえんとおもはんもの。生死の彼岸に度せんとおもはんもの。檀婆羅密を修行することあらんところのもの。乃至般若波羅密を修行せんもの。所有の行法法に住せん。衆生および行法のために事をいとなまんもの。かのもろ〳〵の衆生。なんたちまさに護

持養育すへし。もし衆生ありて受持讀誦して。他のために演說し種々に經論を解說せん。なんたちまさにかのもろ〳〵の衆生と。念持方便して堅固力をうへし。所聞にいりてわすれす。諸法の相を智信して生死をはなれしめ。八聖道を修して三昧の根相應せん。もし衆生ありて。なんちか境界において法に住せん。奢摩他毗婆舍那次第に方便して。もろ〳〵の三昧と相應して。ねんころに三種の菩提を修習せんともとめんもの。なんたちまさに遮護し攝受して。ねんころに捨施をなして。乏少せしむることなかるへし。もし衆生ありて。その飲食衣服臥具をほとこし。病患の因緣に湯藥をほとこさんもの。なんたちまさにかの施主をして。五利增長せしむへし。なんらを五、とす。一にはいのち增長せん。二にはたから增長せん。三にはたのしみ增長せん。四には善行增長せん。五には慧增長するなり。なん

たち長夜に利益安樂をえん。この因縁をもてなんたちよく六波羅密をみてん。ひさしからすして一切種智を成することをえん。ときに娑婆世界の主大梵天王を首として。百億のもろ〳〵の梵天王とともに。こと〳〵くこの言をなさく。かくのことしかくのことし。大德婆伽婆。われら各々におのれか境界弊惡麁獷惱害において。他において慈愍の心なく。後世のおそれを觀せさらん。乃至われまさに遮障し。かの施主と五事を增長すへしと。佛ののたまはく。よいかな〳〵。なんちかくのことくなるへしと。そのときにまた一切の菩薩摩訶薩。一切の諸大聲聞。一切の天龍乃至一切の人非人等ありて。ほめてまふさく。よひかな〳〵。大雄猛子。なんたちかくのことき法ひさしく住することをえ。もろ〳〵の衆生をして。惡道をはなるゝことをえ。すみやかに善道におもむかしめんと。そのときに世尊かさ

ねてこの義をあかさんとをほして。しかも偈をときてのたまはく。われ月藏につけていはく。この賢劫のはしめにいりて。鳩留孫佛梵等に四天下を付屬したまふ。諸惡を遮障するかゆゑに。正法のまなこを熾然ならしむ。もろ〳〵の惡事を捨離し。行法のものを護持し。三寶の種を斷せす。三精氣を增長し。もろ〳〵の惡趣を休息し。もろ〳〵の善道にむかへしむ。拘那含牟尼また大梵王。他化化樂天乃至四天王に囑したまふ。つきのちに迦葉佛また梵天王。化樂等の四天。帝釋護世王過去のもろ〳〵の天仙に囑したまふ。もろ〳〵の世間のためのゆゑに。もろ〳〵の曜宿を安置して。護持し養育せしめたまへり。濁惡世にいたりて白法盡滅せんとき。われ獨覺無上にして人民を安置しまもらん。いま大衆のまへにしてしは〳〵われを惱亂せん。まさにすつへし。法をときてわれををいて護持せしめよ。

十方のもろ〳〵の菩薩一切ことごとく來集せん。天王もまたこの娑婆佛國土にきたらしめん。われ大梵王にとはく。たれかむかし護持するものと。帝釋大梵天。餘の天王をさししめすときに。釋梵王。とかを導師に謝していはく。われら王のところをところとして。一切の惡を遮鄣し。三寶の種を熾然ならしめ。三精氣を增長せん。諸惡の朋を遮鄣して善朋黨を護持せしむ、(已上略出)月藏經卷第七諸魔得敬信品第十にのたまはく。そのときにまた百億の諸魔あり。ともに同時に座よりしてたちて。合掌して佛にむかひたてまつる。佛足を頂禮してしかも佛にまうしてまふさく。世尊われをまたまさに大勇猛をおこして。佛の正法を護持し養育して。三寶の種を熾然ならしめて。ひさしく世間に住せしめ。いま地の精氣。衆生の精氣。法の精氣みなことごとく增長せしむへし。もし世尊聲聞の弟子ありて。法に住し

法に順し。三業相應してしかも修行せは。われらみなこと〳〵く護持し養育して。一切の所須ともしきところなからしめん。（乃至）この娑婆界にしてはしめ賢劫にいりしとき。狗樓孫如來すてに四天帝釋梵天王に囑せしめて。護持し養育せしめ。三寶の種を熾然ならしめ。三精氣を增長せしめたまひき。狗那含牟尼また四天下を梵釋諸天王に囑して。護持し養育せしむ。迦葉もまたかくのことし。すてに四天下を梵釋護世王に囑して。行法のひとを護持せしめて。過去の諸仙衆をよひ諸天仙星辰。もろ〳〵の宿曜また囑し分布せしめき。われ五濁世にいてゝ。もろ〳〵の魔のあたを降伏して。しかも大集會をなして。佛の正法を顯現せしむ。（乃至）一切のもろ〳〵の天衆。こと〳〵くともに佛にまうしてまふさく。われら王のところをところにして。みな正法を護持し。三寶の種を熾然ならしめ。三精氣を增長せしめ。もろ

〳〵の病疫飢饉をよひ闘諍をやめしめん。（乃至略出）提頭頼吒天王護持品にいはく。佛ののたまはく。日天子月天子。なんちわか法において護持し養育せは、なんちをして長壽にして。もろ〳〵の衰患なからしめしと、そのときにまた百億の提頭頼吒天王。百億の毗樓勒叉天王。百億の毗樓博叉天王。百億の毗沙門天王あり。かれら同時におよひ眷屬と座よりしてたちて。衣服を整理し。合掌し敬禮して。かくのことくの言をなさく。大德婆伽婆。われら各々におのれか天下にして。ねんころに佛法を護持し養育することをなさん。三寶の種をして熾然として。ひさしく住。三種の精氣みなこと〳〵く增長せしめん。（乃至）われいままた上首毗沙門天王と同心に。この閻浮提と北方との諸佛の法を護持す。（已上抄略）月藏經卷第八忍辱品第十六にのたまはく。佛ののたまはく。かくのことし〳〵。なんちかいふところのことし。

もしおのれか苦をいとひ。樂をもとむるを愛することあらん。まさに諸佛の正法を護持すへし。これよりまさに無量の福報をうへし。もし衆生ありて。わかために出家し。鬚髮を剃除し。袈裟を被服せん。たとひ戒をたもたさらん。かれらこと〳〵くすてに涅槃の印のために印せらるゝなり。もしまた出家して戒をたもたさらんもの。非法をもてしかも惱亂をなし。罵辱し毀呰せん。手をもて刀杖打縛し斫截することあらん。もし衣鉢をうはひおよひ種々の資生の具をうはゝんもの。このひとはすなはち三世の諸佛の眞實の報身を壞するなり。すなはち一切天人の眼目をはらふなり。このひと諸佛所有の正法三寶の種を隱沒せんとおもふかためのゆゑに。もろ〳〵の天人をして利益をえさらしむ。地獄に墮せんかゆゑに。三惡道增長し盈滿することをなすなり。(已上)またのたまはく。そのときにまた一切天

龍乃至一切迦吒富單那人非人等ありて。みなこと〳〵く合掌して。かくのことときの言をなさく。われら佛一切聲聞弟子。乃至もしまた禁戒をたもたされとも。鬚髮を剃除し。袈裟のかたはしをきんものにおいて。師長のおもひをなさん。護持養育してもろ〳〵の所須をあたへて。乏少なることなからしめん。もし餘の天龍乃至迦吒富單那等。その惱亂をなし。乃至惡心をもて。まなこをもてこれをみは。われらこと〳〵くともにかの天龍富單那等をして。所有の諸相缺減し醜陋ならしめん。かれをしてまたわれらともに住し。ともに食をあたふることをえさらしめん。また〳〵同處にして戯咲することをえし。かくのことく擯罰せん。(已上)またのたまはく。占相をはなれて正見を修習せしめ。決定してふかく罪福の因緣を信すへし。(抄出)首楞嚴經にのたまはく。かれらの諸魔。かのもろ〳〵の鬼神。かれらの

群邪。また徒衆ありて各々にみつからいはん。無上道をなりてわか滅度ののち。末法のなかにこの魔民おほからし。この鬼神おほからん。この妖邪おほからん。世間に熾盛にして。善知識となりて。もろ〳〵の衆生をして。愛見のあなにおとさしめん。菩提のみちをうしなひ。詃惑無識にして。おそらくは心をうしなはしめん。所過のところにそのいへ耗散して。愛見の魔となりて如來の種を失せん。（已上）

灌頂經にのたまはく。三十六部の神王。万億恒沙の鬼神を眷屬として。相をかくし番にかはりて。三歸をうくるひとをまもる。（已上）地藏十輪經にのたまはく。つふさにまさしく歸依して。一切の妄執吉凶を遠離せんもの。つひに邪神外道に歸依せされ。（已上）またのたまはく。あるひは種々にもしは少。もしは多。吉凶の相を執して鬼神をまつりて。（乃至）しかうして極重の大罪惡業を生し。無間罪にちかつかん。かく

のことき のひと。もしいまたかくのことき の大罪惡業を懺悔し除滅せすは。出家しおよひ具戒をうけしめさらんも。もしは出家し。あるひは具戒をうけしめんも。すなはちつみをえん。(已上)集一切福德三昧經のなかにのたまはく。餘乘にむかはされ。餘天を禮せされ。(已上)本願藥師經にのたまはく。もし淨信の善男子善女人等ありて。乃至盡形まてに餘天につかへされ。またのたまはく。また世間の邪魔外道妖孽の師の妄説を信して禍福すなはち生せん。おそらくはや丶もすれは心みつからた丶しからす。卜問してわさはひをもとめ。種々の衆生を殺せん。神明に解奏し。もろ〳〵の魍魎をよはふて福祐を請乞し。延年をねかはんとするにつひにうることあたはす。愚癡迷惑して邪を信し倒見して(さかさまにおひてたしからさるなり)つひに横死せしめ。地獄にいりていつる期あることなけん。(乃至)八にはよこさまに毒藥厭禱呪咀し。起

死鬼等のために中害せらる。（已上抄出）菩薩戒經にのたまはく。出家のひとの法は國王にむかひて禮拜せず。父母にむかひて禮拜せず。六親につかへず。鬼神を禮せず。（已上）佛本行集經の第四十二卷優婆斯那品にのたまはく。（闍那崛多の譯）そのときにかの三迦葉兄弟に。ひとりの外甥の螺髻梵志といふものあり。その梵志を優婆斯那となづく。（乃至）つねに二百五十の螺髻梵志弟子とともに仙道を修學しき。かれその舅迦葉三人をきくに。もろ／＼の弟子かの大沙門の邊に往詣して。阿舅鬚髪を剃除して袈裟衣をきる。みおはりて舅にむかひて。しかも偈をときていはく。舅等むなしく火をまつること。百年またく／＼むなしくかの苦行を修しき。今日おなしくこの法をすつること。なをし蛇のふるき皮をぬくかことくするをや。そのときにかの舅迦葉三人おなしくともに偈をもて。その外甥優婆斯那に報して。かくのことき言をな

さく。われらむかしむなしく火神をまつりて。また〳〵いたつらに苦行を修しき。われら今日この法をすつること。まことに蛇のふるき皮をぬくかことくす。（抄出）起信論にいはく。あるひは衆生ありて善根力なけれは。すなはちもろ〳〵の魔外道鬼神のために誑惑せらる。もしは座中にしてかたちを現して恐怖せしむ。あるひは端正の男女等の相を現す。まさに唯心の境界を念すへし。すなはち滅してつひに惱をなさす。あるひは天像菩薩像を現し。また如來像の相好具足せるをなして。もしは陀羅尼をとき。もしは布施持戒忍辱精進禪定智慧をとき。あるひは平等空無相無願。無怨無親。無因無果。畢竟空寂。これ眞の涅槃なりとゝかん。あるひはひとをして宿命過去の事をしらしめん。また未來の事をしる。他心智をえ辯才無礙ならしむ。よく衆生をして世間の名利の事に貪著せしむ。またひとをしてしは

しはいかり。しは〳〵よろこはしめ。性無常の准ならしむ。あるひはおほく慈愛し。おほくねふり。おほく宿し。おほくやまひす。その心懈怠なり。あるひはにはかに精進をおこして。のちにはすなはち休廢す。不信を生して。うたかひおほくおもんはかりおほし。あるひはもとの勝行をすてゝさらに雜業を修せしめ。もしは世事に著せしめ種々に牽纏せらる。またよくひとをしてもろ〳〵の三昧の少分相似せるををしむ。みなこれ外道の所得なり。眞の三昧にあらす。あるひはまたひとをしてもしは一日。もしは二日。もしは三日。乃至七日定中に住して。自然香味の飲食をえしむ。身心適悅して飢せす渴せす。ひとをして愛著せしむ。あるひはまたひとをして食に分齋なからしむ。たちまちにおほく。たちまちにすくなくして顏色變異す。この義をもてのゆゑに。行者つねに智慧をして觀察して。こ

の心をして。邪網に墮せしむることなかるへし。まさにつとめて正念にして。とらす著せすして。すなはちよくこのもろ〳〵の業鄣を遠離すへし。しるへし外道の所有の三昧は。みな見愛我慢の心をはなれす。世間の名利恭敬に貪著するかゆゑなり。（已上）辨正論（法琳の撰）にいはく。十喩九箴の篇。答李道士十異九述外の一異にいはく。太子老君は。神を玄妙玉女に託して。左腋をさきてむまれたり。釋迦牟尼は。胎を摩耶夫人によせて。右脇をひらきていてたり。（乃至）内の一喩にいはく。老君は。常にたかひて牧女に託して左よりいつ。世尊は。化にしたかひて聖母によりて右よりいてたまふ。開士のいはく。慮景裕戴詵韋處玄等か解五千文。をよひ梁の元帝周弘政等か老義類を案するにいはく。太上に四あり。いはく。三皇および堯舜これなり。いふこゝろは上古にこの大德の君あり。万民のかみにのそめり。かる

かゆゑに太上といふ。郭荘かいはく。ときにこれを賢とするところのものを君とす。材世に称せられさるものを臣とす。老子帝にあらす皇にあらす。四種のかきりにあらす。なんの典拠ありてかたやすく太上と称するや。道家玄妙および中胎朱韜玉禮等の經。ならひに出塞記をかんかふるにいはく。老はこれ李母からうめるところ。玄妙玉女ありといはす。すてに正説にあらす。もともかりの謬談なり。仙人玉録にいはく。仙人は妻なし。玉女は夫なし。女形をうけたりといへともつひに産せす。もしこの瑞あるはまことに嘉とすへしといふ。なんすれそ史記にも文なし。周書にものせす。虚をもとめて實をせめは。矯盲者のことはを信すならくのみ。禮にいはく。官をしりそきてくらゐなきは左遷せらる。論語にいはく。左衽は禮にあらすと。もし左をもて右にすくれたりとせは。道上行道するになん

そ左にめくらすして。しかもかへりて右にめくるや。くにの詔書にみないはく右のことしと。ならひに天の常にしたかふてなり。（乃至）外の四異にいはく老君は文王の日隆周の宗師たり。釋迦は莊王のとき罽賓の敎主たり。內の四喩にいはく。伯揚は職小臣におり。かたしけなく藏吏にあたれり。文王の日にあらす。また隆周の師にあらす。牟尼はくらゐ太子に居して。身特尊を證したまへり。昭王の盛年にあたれり。閻浮の敎主たり。（乃至）外の六異にいはく。老君は世に降して。はしめ周文の日より孔丘のときにおはれり。釋迦は生をくたして。淨飯のいへにはしまりて。わか莊王の世にあたれり。內の六喩にいはく。迦葉は桓王丁卯のとしにむまれて。景王壬午のとしにおふ。孔丘のときにおふといへとも姬昌の世にいてす。調御は昭王甲寅のとしに誕して。穆王壬申のとしにおふ。これ淨飯の胤たり。もと莊

王のさきにいてたまへり。開士のいはく。孔子周にいたりて老聃をみて禮をとふ。史記につふさにあらはる。文王の師たることすなはち典證なし。周のすゑにいてたり。そのこと周のはしめにたつぬへし。史文にのせす。(乃至)外の七異にいはく。老君はしめて周の代にむまれてのちに流沙にゆく。始終をはからす方所をしることなし。釋迦は西國に生してかの提河におはりぬ。弟子むねをうちて群胡おほきにさけふ。内の七喩にいはく。老子は頼郷にうまれて槐里にはうふらる。秦佚か弔をつまひらかにす。せめ通天の形にあり。瞿曇はかの王宮にいて丶慈鵠樹にかくれたまふ。漢明の世につたはりてひそかに蘭臺の書にまします。開士のいはく。莊子の内篇にいはく。老聃死して秦佚とふらふ。こゝにみたひさけんていつ。第子あやしんてとふ。夫子のともからにあらさるかと。秦佚かいはく。さきにわれいりて

少者をみるにこれを哭す。その父を哭するかことし。老者これを哭す。ろの子を哭するかことし。いにしへにこれを遁天の形といふ。はしめはおもへらくそのひとなりと。しかるにいま非なり。遁は隠なり。天は兇縛なり。形は身なり。いふこゝろははしめ老子をもて兇縛形の仙とす。いますなはち非なり。嗟そのいつはれる典ひとのこゝろをとる。かるかゆゑに死をまぬかれす。わか友にあらす。(王乃)内の十喩外の十異を答す。外は生より左右ことなる一なり。内は生より勝劣あり。内にさとしていはく。左衽はすなはち戎狄のたふとふところ。右命は中華のたふとふところとす。かるかゆゑに春秋にいはく。冢卿は命なし介卿はこれあり。またひたりならすや。史記にいはく。藺相如は功おほきにして。くらゐ廉頗か右にあり。これをはつ。またいはく。張儀相秦を右にして魏を左にす。犀首相韓を右にして魏を左にす。

蓋にいはく。たよりあらす。禮にいはく。左道亂群をはこれを殺す。あに右はまさりて左はおとれるにあらすや。皇甫謐か高士傳にいはく。老子は楚の相人。溫水のきたにいゐるす。事を常從子にひとしくす。常子疾あるにおよんで李耳ゆきてやまひをとふ。稽康かいはく。李耳涓子にしたかひて九仙の術をまなふ。太史公等か衆書を撿(一本作檢)するに。老子左腋をひらきてむまるといはす。すてにまさしくいてたることなし。承信すへからさることあきらかにしんぬ。戈をふるひ輪をあやつるは。けたし文武の先。五氣三光はまことに陰陽のはしめなり。こゝをもて釋門には右に轉することまた人用をたのしくす。張陵左道にす。まことに天の常にたかふ。いかんとなれは釋迦無緣の慈をこえて有機の召に應す。そのあとをかたるなり。(乃玉)それ釋氏は天上天下に介然としてその尊に居す。三界六道卓爾とし

てその妙をおす。(王乃)

外論にいはく。老君を範となす。たゝ孝たゝ忠。世をすくひひとを度す。慈をきはめ愛をきはむ。こゝをもて聲敎なかくつたへ。百王あらたまらす。玄風なかくかうらしめて万古たかふことなし。このゆゑにくにをおさめ。いへをおさむるに常然たり楷式たり。釋敎は義をすて。親をすて。仁ならす。孝ならす。闍王父をころせる翻してとかなしととく。調達兄を射て無間につみをう。これをもて凡をみちひく。さらに惡をますことをなす。これをもて世にのりとする。なんそよく善を生せんや。これ逆順の異十なり。內にさとしていはく。義はすなはち道德のいやしくするところ。禮は忠信のうすきより生す。璨仁匹婦をそしり。大孝は不匱を存す。しかふして凶にむかひてうたひわらふ。中夏のかたちにたかふ。喪にのそんてほときをた

ゝく。華俗のをしへにあらす。（原壌はゝ死して騎棺してそしらす。子桑死するさき子貢さふらふ。四子あひみてうたふ。しかるに孔子さきにまつりをたすけてわらふ。荘子妻死す。ほさきをたゝきてわらふ。）かるかゆゑにこれををしふるに孝をもてす。天下の人父たるを敬するゆゑなり。これををしふるに忠をもてす。天下の人君たるを敬するゆゑなり。化万國にあまねし。すなはち明辟のいたれるなり。仁四海にあらはる。まことに聖王の臣孝なり。佛經にいはく。識體六趣に輪廻す。父母にあらさることなし。生死三界に變易す。たれか怨親をわきまへん。またいはく。無明慧眼をおほふ。いまた生死のなかにゆかす。ゆきさたりてなすところさらにたかひに父子たり。怨親しは〳〵知識たり。知識しは〳〵怨親たり。こゝをもて沙門俗をすてゝ眞にをもむく。庶類を天屬にひとしくす。榮をすてゝ道につく。含氣を己親にひとしくす。（あまねくたゝしき心を行して。あまねくしたしきこゝろさしをひさしくする。）また道は清虚をたつとふ。

それ恩愛をおもくせんや。法は平等をたつとふ。それ怨親をきらはんや。あにまとひにあらすや。勢競親をわすれ。文史事をあかす。齋桓楚穆これそのともからなり。もて聖をそしらんとおもふ。あにあやまれるにあらすや。それ道の劣十なり。（乃至）二皇化をすへて。（須彌四域經にいはく。應聲菩薩を伏羲とす。吉祥菩薩を女媧とす。）淳風のはしめにおり。三聖ことはをたてゝ。（空寂所問經にいはく。迦葉を老子とす。儒童を孔子とす。光淨を顔回とす。）已澆のすゑをおこす。玄虚沖一のむね。黄老その談をさかりにし。詩書禮學の文。周孔その教をたかくす。謙をあきらかにし質をまもる。すなはち聖にのほる階梯なり。三畏五常は人天の由漸とす。けたし冥に佛理にかなふ。正辨極談にあらすや。なを道を瘖聾にそしる。方をさしまねいて遠邇をきはむることなし。津を兎馬にとふ。わたるをしりて淺深をはからす。これによりて談するに。殷周の世は釋教のよろしく行すへきところに

あらす。なを炎威ひかりをかゝやかす。童子目をたゝしくしてみることあたはす。迅雷ふるひうつ。儒夫耳をはりてきくことあたはす。こゝをもて河池わきうかふ。昭王神を誕することをおそる。雲霓いろを變す。穆后聖をうしなはんことをよろこふ。(周書異記にいはく。照王二十四年四月八日。江河泉水こと〳〵く泛漲せり。穆王五十二年二月十五日。暴風おこりて樹木おれ。天くもりくもくらくして。白虹の怪あり。)あによく葱河をこえて化をうけ。雲嶺をこえてまことをいたさんや。淨名にいはく。これ盲者まうあへり。日月のとかにあらすと。たま〳〵その鑿竅の辨をきはめんとす。おそらくは吾子混沌の性をいたむ。それしるところにあらす。その盲一なり。内に像塔を建造する指の二。漢明より已下齋梁におはるまて。王公守牧清信の士女。および比丘比丘尼等。冥に至聖を感し。くにに神光をみるものおほよそ二百餘人。あとを万山にみ。ひかりを滬瀆にうかへ。清臺のもとに満月のかた

ちをみ。雍門のほかに相輪のかけをみるかことときにいたりては。南平は應を瑞像にえ。文宣はゆめを聖牙に感す。蕭后ひとたひ鑄て尅成し。宋皇よたひ摸してならす。その例ははなはたおほし。つふさにのふへからす。あになんちか無目をもて。しかもかの有靈をきらはんや。しかるに德としてそなはらさるものなし。これをいふて涅槃とす。道として通せさるものなし。これをなつけて菩提とす。智としてあまねからさるものなし。これを稱して佛陀とす。この漢語をもてかの梵言を譯す。すなはち彼此の佛照然として信すへきなり。なにをもてかこれをあかすとならは。それ佛陀といふは。漢には大覺といふ。菩提といふは。漢には大道といふ。涅槃といふは。漢には無爲といふ。しかるに吾子ひめもすに菩提の地をふんて大道をしらす。すなはち菩提の異號なり。かたちを大覺のさかひにうけて。い

また大覺をならはす。すなはち佛陀の譯名なり。かるかゆゑに莊周公また大覺あれは。しかうしてのちにその大夢をしる。郭か註にいはく。覺は聖人なり。いふこゝろは患こゝろにあるはみなゆめなり。註にいはく。夫子と子游といまたことはをわすれて神解することあたはす。かるかゆゑに大覺にあらす。君子のいはく。孔丘の談こゝにまたつきぬ。涅槃寂照識としてさとるへからす。智としてしるへからす。すなはち言語たゑてしかも心行滅す。かるかゆゑにことはをわするゝなり。法身はすなはち三點四德の成するところ。蕭然として無累なり。かるかゆゑに。解脱と稱す。これその神解として患息するなり。夫子聖なりといへとも。はるかにもて功を佛にゆつれり。いかんとなれは劉向か古舊二錄を按するにいはく。佛流中夏をへて一百五十年ののち。老子まさに五千文をとく。しかれとも周と老とな

らひに佛教の所說をみる。言教往々たり。あきらめつへし、(乃至)正法念經にのたまはく。ひと戒をたもたされは諸天減少し。阿修羅さかんなり。善龍ちからなし。惡龍ちからあり。惡龍ちからあれはすなはち霜雹をくたし。非時の暴風疾雨ありて五穀みのらす。疾疫きほひおこりて人民飢饉し。たかひにあひ殘害す。もしひと戒をたもてはおほく諸天威光を增足し修羅減少す。惡龍ちからなし。善龍ちからあり。善龍ちからあれは。風雨ときに順し四氣和暢なり。甘雨くたりて稔穀ゆたかなり。人民安樂にして兵戈戰息し。疾疫行せさるなり。(乃至)君子のいはく。道士大霄か隱書元上か。眞書等にいはく。元上大道君。治五十五重無極大羅天のうち。玉京のうへ。七寶の臺。金床玉机にあり。仙童玉女の侍衛するところ。三十二天三界のほかに住す。神仙五岳の圖を按するにいはく。大道天尊は大玄都。玉光州。金眞の郡。天

保の縣。元明の郷。定志の里を治す。災およはさるところなり。靈書經にいはく。大羅はこれ五億五萬五千五百五十五重天の上天なり。五岳の圖にいはく。都は都なり。太上は大道なり。道のなかの道神なり。明君もとも靜をまもりて太玄の都におり。諸天内音にいはく。天と諸仙と樓都のつゝみをならす。玉京に朝晏してもて道君をたのしましむ。道士のあくるところの經の目を按するに。みないはく宋人陸修靜によりてしかも一千二百二十八巻をつらねたり。もと雜書諸子の名なし。しかるに道士いまつらぬるにすなはち二千四十巻あり。そのなかにおほく漢書藝文志の目をとりて。みたりに八百八十四巻をしるして道の經論とす。(玉乃)陶朱を按すれはすなはちこれ范蠡なり。まのあたり越王勾踐につかへて。君臣こと〳〵く呉にとらはれて。屎をなめ尿をのんてまたもてはなはたし。また〳〵范蠡か子

は。齋にころさる。父すてに變化の術あらは。なんそもて變化してこれをまぬかるゝことあたはさる。造立天地記を按するに。稱すらく。老子幽王の皇后のはらのなかに託生す。すなはちこの幽王の子なり。また身柱史たり。またこれ幽王の臣なり。化胡經にいはく。老子漢にありては東方朔たり。もしあきらかにしからは。しんぬ幽王犬戎のためにころさる。あに君父を愛して神符をあたへて。君父をして死せさらしめさるへけんや。(乃至)陸修靜か目錄をさす。すてに正本なし。なんそあやまりのはなはたしきや。しかるに修靜目をなすことすてにこれ大僞なり。いま玄都錄またこれ僞のなかの僞なり。(乃至)またいはく。大經のなかにとかく。道に九十六種あり。たゝ佛の一道これ正道なり。その餘の九十五種においてはみなこれ外道なりと。眹外道をすてゝもて如來につかふ。もし公卿ありてよくこのちかひ

にいらんものは。おの〳〵菩薩の心をおこすへし。老子。周公。孔子等これ如來の弟子として。しかも化をなすといへともすてに邪なり。たゝこれ世間の善なり。凡をへたて、聖となすことあたはす。公卿百官侯王宗室。よろしく僞をかへして眞につき。邪をすてゝ正にいるへし。かるがゆゑに經教成實論にときていはく。もし外道につかへて心おもく。佛法は心かろし。すなはちこれ邪見なり。もし心一等なる。これ無記にしてあたらす。もし善惡佛につかへて。孝子にてはき心すくなきはすなはちこれ清信なり。清といふは。清はこれ表裏ともにきよく。垢穢惑累みなつくす。信はこれ正を信して邪ならさるかゆゑに。清信佛弟子といふ。その餘ひとしくみな邪見なり。清信と稱することをえさるなり。(乃至)老子の邪風をすてゝ。法の眞教に入流せよとなり。(已上抄出)光明寺の和尚のたまはく。

上方の諸佛恒沙のことし。かへりて舌相をのへたまふ。ことは。娑婆の十惡五逆おほく疑謗し。邪を信し鬼につかへ。神魔をあかしめて。みたりにおもふて恩をもとめ。福あらんとおもへは災障禍横うたゝいよ／＼おほし。連年にやまひの床枕にふす。みゝしゐ。めしゐ。あしをれ手ひきつり。神明に承事してこの報をうるものゝためなり。いかんそすてゝ彌陀を念せさらん。(已上)天台の法界次第にいはく。一には佛に歸依す。經にいはく。佛に歸依せんもの。つひにかへりてその餘のもろ／＼の外天神に歸依せされ。またいはく。佛に歸依せんもの。つひに惡趣に墮せしといへり。二には法に歸依す。いはく大聖の所說。もしは敎。もしは理。歸依し修習せよとなり。三には僧に歸依す。いはく心いへをいてたる三乘正行のともに歸するかゆゑに。經にのたまはく。なかくまたかへりてその餘のもろ／＼の外道に歸

依せさるなり。(上巳)慈雲大師のいはく。しかるに祭祀の法は天竺には。韋陀支那祀典といへり。すてにいまた世にのかれす。眞を論すれは俗をこしらふる權方なり。(上巳)高麗の觀法師のいはく。餓鬼道梵語には闍黎多。この道また諸趣に徧す。福德あるものは山林塚廣神となし。福德なきものは不淨所に居し飲食をえす。つねに鞭打をうく。河をふさき海をふさきて。苦をうくること無量なり。諂誑の心意なり。下品の五逆十惡をつくりてこの道の身を感す。(上巳)神智法師釋していはく。餓鬼道はつねにうゑたるを餓といふ。鬼の言は尸に歸す。子(いにしへのかしこきひとなり)のいはく。いにしへは人死となつく。歸人とす。また天神を鬼といふ。地神を祇といふ。(至乃)かたちあるひは人ににたり。あるひは獸等のことし。心正直ならされはなつけて諂誑とす。大智律師のいはく。神はいはく鬼神なり。すへて四趣天修鬼獄におさむ。度律

師のいはく。魔はすなはち惡道の所收なり。止觀の魔事境にいはく。二に魔の發相をあかさは。管屬に通してみな稱して魔とす。くはしく枝異をたつぬれは三種をいてす。一には慢悵鬼二には時媚鬼。三には魔羅鬼なり。三種の發相各々不同なり。源信止觀によりていはく。魔は煩惱によりて菩提をさまたく。鬼は病惡をおこして命根をうはふ。(已上)論語にいはく。季路とはく。鬼神につかへんかと。子ののたまはく。つかふることあたはす。ひといつくんそよく鬼神につかへんや。(已上抄出)ひそかにおもんみれは。聖道の諸敎は行證ひさしくすたれ。淨土の眞宗は證道いまさかんなり。しかるに諸寺の釋門。敎にくらくして眞假の門戶をしらす。洛都の儒林。行にまとひて邪正の道路を辨することなし。こゝをもて興福寺の學徒。太上天皇(後鳥羽の院と號す。諱尊成)今上

（土御門の院と號す。諱爲仁）聖暦承元丁の卯の歳。仲春上旬の候に奏達す。主上臣下法にそむき義に違し。いかりをなしうらみをむすふ。これによりて眞宗興隆の太祖源空法師。ならひに門徒數輩罪科をかんかへす。みたりかはしく死罪につみす。あるひは僧儀をあらため。姓名をたまふて遠流に處す。予はそのひとつなり。しかれはすてに僧にあらす。俗にあらす。このゆゑに禿の字をもて姓とす。空師ならひに弟子等。諸方の邊洲につみして五年の居諸をへたり。皇帝（佐渡の院。諱守成）聖代建暦辛の未のとし。子月中旬第七日。勅免をかうふりて入洛已後。空洛陽東山のにしのふもと。とりへのゝきたのほとり。大谷に居したまひき。おなしき二年。壬の申寅月下旬第五日。むまのときに入滅したまふ。奇瑞稱計すへからす。別傳にみえたり。しかるに愚禿釋の鸞。建仁辛の酉の暦。雜行をすてゝ本願に歸す。元久乙の丑のとし。

恩恕をかうぶりて選擇を書しき。おなしきとし。初夏中旬第四日。選擇本願念佛集の内題の字。ならびに南無阿彌陀佛。往生之業。念佛爲本と釋の綽空の字と。空の眞筆をもてこれをかゝしめたまひき。おなしき日。空の眞影まうしあつかりて圖畫したてまつる。おなしき二年。閏七月下旬第九日。眞影の銘は眞筆をもて。南無阿彌陀佛と若我成佛。十方衆生。稱我名號。下至十聲。若不生者。不取正覺。彼佛今現在成佛。當知本誓重願不虚。衆生稱念必得往生の眞文とをかゝしめたまひき。またゆめのつげによりて綽空の字をあらためて。おなしき日御筆をもて名の字をかゝしめたまひおはんぬ。本師聖人今年七旬三の御としなり。選擇本願念佛集は禪定博陸（月輪殿兼實。法名圓照）の敎命によりて選集せしめたまふところなり。眞宗の簡要念佛の奥義これに攝在せり。みるものさとりやすし。まことにこれ希有最勝の華文。無上甚深の

寶典なり。としをわたり日をわたりて。その敎誨をかうふるひと千万なりといへとも。親といひ疎といひ。この見寫をうるともから。はなはたもてかたし。しかるにすでに製作を書寫し。眞影を圖畫せり。これ專念正業の德なり。これ決定往生の徵なり。よりて悲喜のなみたをおさへて。由來の緣をしるす。よろこはしきかな。心を弘誓の佛地にたて。念を難思の法海になかす。ふかく如來の矜哀をしりて。まことに師敎の恩厚をあふく。慶喜いよ〳〵いたり。至孝いよ〳〵おもし。これによりて眞宗の詮を鈔し。淨土の要をひろふ。たゝ佛恩のふかきことをおもふて。人倫のあさけりをはちす。もしこの書を見聞せんものは。信順を因とし。疑謗を緣として。信樂を願力にあらはし。妙果を安養にあらはさん。安樂集にいはく。眞言をとりあつめて往益を助修せん。いかんとなれは。さきに生せんものはのち

をみちびき。のちに生せんものはさきをとふらひ。連續無窮にしてねかはくは休止せさらしめんと欲す。無邊の生死海をつくさんかためのゆゑなり。(上巳)しかれは末代の道俗あふいて信敬すへきなり。しるへし華嚴經の偈にいふかことし。もし菩薩種々の行を修行するをみて。善不善の心をおこすことあれとも。菩薩みな攝取す。(上巳)

顯淨土眞實教行證文類六 末 終

淨土文類聚鈔

淨土文類聚鈔

愚禿釋の親鸞集

夫無碍難思の光耀は。苦を滅し樂を證す。万行圓備の嘉號は。さはりをけしうたかひをのぞく。末代の教行もはらこれを修すへし。濁世の目足かならすこれをつとむへし。しかれは最勝の弘誓を受行して。穢をすて淨をねかへ。如來の教勅を奉持して。恩を報し德を謝せよ。こゝに片州の愚禿。印度西蕃の論説に歸し。華漢日域の師釋をあふひて。眞宗の教行證を敬信す。ことにしんぬ。佛恩窮盡しかたけれは。あきらかに淨土文類聚をもちゐるなり矣。しかるに教といふは。すなはち大無量壽經なり。この經の大意は。彌陀ちかひを

超發して。ひろく法藏をひらきて。凡小をあはれんで。えらんで功德の寶を施することをいたす。釋迦世に出興して。道敎を光闡し群萠をすくひ。めくむに眞實の利をもてせんとおほしてなり。まことにこれ如來興世の眞說。奇特最勝の妙典。一乘究竟の極說。十方稱讃の正敎なり。如來の本願をとくを經の宗致とす。すなはち佛の名號をもて經の體とす。行といふはすなはち利他圓滿の大行なり。すなはち。これ諸佛咨嗟の願よりいてたり。また諸佛稱名の願となつけ。また往相正業の願となつくへし。しかるに本願力の廻向に二種の相あり。ひとつには往相。二には還相。往相について大行あり。また淨信あり。大行といふはすなはち無碍光如來のみなを稱す。この行はあまねく一切の行を攝し極速圓滿す。かるかゆゑに大行となつく。このゆゑに稱名はよく衆生の一切の無明を破し。よく衆生の

一切の志願をみてたまふ。稱名すなはち憶念。憶念すなはち念佛。念佛すなはちこれ南無阿彌陀佛なり。願成就の文經にのたまはく。十方恒沙の諸佛如來。みなともに無量壽佛の威神功德不可思議にましますことを讃嘆したまふ。あらゆる衆生。その名號をきゝて信心歡喜し。乃至一念せん。至心に廻向したまへり。かのくにゝ生せんと願すれは。すなはち往生をゑ不退轉に住すと。またのたまはく。佛彌勒にかたりたまはく。それかの佛の名號をきくことをうることありて歡喜踊躍し。乃至一念せん。まさにしるへし。このひとは大利をうとす。すなはちこれ無上の功德を具足すと。（已上）龍樹菩薩十住毘婆娑論にいはく。もしひとゝく不退轉地をえんとおもはゝ。恭敬の心をもて執持して名號を稱すへし。もしひと善根をうゑてうたかへはすなはちはなひらけす。信心清淨なるものは。はなひらけてすなは

ち佛をみたてまつる。天親菩薩淨土論にいはく。世尊われ一心に盡十方無碍光如來に歸命したてまつりて。安樂國に生せんと願す。われ修多羅眞實功德相によりて。願偈總持をときて佛敎と相應せり。佛の本願力をみそなはすに。まうあふてむなしくすくるものなし。よくすみやかに功德大寶海を滿足せしむ。(已上)聖言論說ことにもてしんぬ。凡夫迴向の行にあらす。これ大悲迴向の行なるかゆゑに不迴向となつく。まことにこれ選擇攝取の本願。無上超世の弘誓。一乘眞妙の正法。萬善圓修の勝行なり。經に乃至といふは上下をかねて中を略するこ

とはなり。一念といふはすなはちこれ專念。專念すなはちこれ一聲。一聲すなはちこれ稱名。稱名すなはちこれ憶念。憶念すなはちこれ正念。正念すなはちこれ正業なり。また乃至一念といふは。これさらに觀想功德遍數等の一念をいふにあらす。往生の心行を獲

得する時節の延促について。乃至一念といふなり。しるへし。

淨信といふは。すなはち利他深廣の信心なり。すなはちこれ念佛往生の願よりいてたり。また至心信樂の願となつけ。また往相信心の願となつくへし。しかるに薄地の凡夫底下の群生。淨信えかたく極果證しかたし。なにをもてのゆゑに。往相の迴向によらさるかゆゑに。疑網に纏縛せらるゝによるかゆゑに。いまし如來の加威力によるかゆゑに。ひろく大悲廣惠のちからによるかゆゑに。淸淨眞實の信心をう。この心顚倒せす。この心虛僞ならす。まことにしんぬ。無上妙果の成しかたきにあらす。眞實の淨信まことにうることかたし。眞實の淨信をうれは大慶喜心をう。大慶喜心をうといふは。經にのたまはく。それ至心に安樂國に生せんと願することあるものは。智慧明達し功德殊勝なることをうへしと。(要なさる)又經にのたまはく。この

ひとはすなはちこれ大威徳のひと。また廣大勝解のひとなりととけり。(已上)まことにこれ除疑獲徳の神方。極速圓融の眞詮。長生不死の妙術。威徳廣大の淨信なり。しかれはもしは行もしは信。一事として阿彌陀如來清淨願心の廻向成就したまふところにあらさることあることなし。因なくして。他の因あるにあらさるなりとしるへし。證といふは。すなはち利他圓滿の妙果なり。すなはちこれ必至滅度の願よりいてたり。また證大涅槃の願となつけ。また往相證果の願となつくへし。すなはちこれ清淨眞實至極畢竟無生なり。無上涅槃願成就の文經にのたまはく。それ衆生ありてかのくにゝ生するものは。みなこと〳〵く正定の聚に住す。ゆゑはいかん。かの佛國中にはもろ〳〵の邪聚および不定聚なけれはなり。またのたまはく。たゞ餘方に因順するかゆゑに天人の名あり。顔貌端政にして超世希有なり。

容色微妙にして天にあらす人にあらす。みな自然虚無の身無極の體をうけたり。またのたまはく。かならす超絶してすつることをえて安養國に往生せよ。横に五惡趣をきり惡趣自然にとつ。道にのほるに窮極なし。ゆきやすくしてひとなし。そのくに逆違せす。自然のひくところなり。(已上)聖言あきらかにしんぬ。煩惱成就の凡夫。生死罪濁の群萠。往相の心行をうれは。すなはち大乘正定の聚に住す。正定聚に住すれはかならす滅度にいたる。かならす滅度にいたれはすなはちこれ常樂。常樂すなはちこれ大涅槃。大涅槃すなはちこれ利他敎化地の果。この身すなはちこれ無爲法身。無爲法身すなはちこれ畢竟平等身。畢竟平等身すなはちこれ寂滅。寂滅すなはちこれ實相。實相すなはちこれ法性。法性すなはちこれ眞如。眞如すなはちこれ一如なり。しかれはもしは因もしは果。一事として阿彌陀如來

の清淨願心の廻向成就したまふところにあらさることあることなし。因淨なるかゆゑに果また淨なり。しるへし。ふたつに還相廻向といふは。すなはち利他敎化地の益なり。すなはちこれ必至補處の願よりいてたり。また一生補處の願となつく。また還相廻向の願となつくへし。願成就の文經にのたまはく。かのくにの菩薩。みなまさに一生補處を究竟すへし。その本願衆生のためのゆゑに。弘誓の功德をもてみつから莊嚴し。あまねく一切衆生を度脫せんと欲はんをはのそかんと。(已上)聖言あきらかにしんぬ。大慈大悲の弘誓。廣大難思の利益。いまし煩惱の稠林にいりて諸有を開導し。普賢の德にしたかふて群生を悲引す。しかれはもしは往もしは還。一事として如來清淨願心の廻向成就したまふところにあらさることあることなし。しるへし。こゝをもて淨土の緣熟して。調達闍世をして逆害を興せ

しめ。濁世機あはれんて釋迦韋提をして。安養をえらはしめたまへり。つら〳〵かれをおもひ。しつかにこれを念するに。達多闍世ひろく仁慈をほとこし。彌陀釋迦ふかく素懐をあらはせり。これによりて論主廣大無碍の淨信を宣布し。あまねく雜善堪忍の群生を開化す。宗師往還大悲の廻向を顯示して。ねんころに他利利他の深義を弘宣せり。聖權の化益あまねく一切凡愚を利せんかため。廣大の心行たゝ逆惡闡提を引せんとおほしてなり。いまねかはくは道俗等。大悲の願船には清淨の信心を順風とし。無明の闇夜には功德の寶珠を大炬とす。心くらくさとりすくなきもの。うやまひてこの道をつとめよ。惡おもくさはりおほきもの。ふかくこの信をあかめよ。噫弘誓の强緣多生にもまふあひかたく。眞實の淨信億劫にもえかたし。たま〳〵信心をえはとをく宿緣をよろこへ。もしまたこのたひ疑網

に覆弊せられは。かへてかならす曠劫多生を逕歴せん。攝取不捨の眞理。超捷易往の教勅。聞思して遲慮することなかれ。よろこはしきかな。愚禿あふいておもんみれは。心を弘誓の佛地にたてゝ。こゝろを難思の法海になかす。きくところを嘆し。うるところをよろこひて。眞言を採集し。師釋を鈔出して。もはら無上尊を念して。ことに廣大の恩を報す。これによりて曇鸞菩薩の註論を披閲するにいはく。それ菩薩は佛に歸す。孝子の父母に歸し。忠臣の君后に歸して。動靜おのれにあらす。出沒かならすゆゑあるかことし。恩をしりて德を報す。理よろしくまつ啓すへし。（要なさろ）佛恩の深重なることを信知して。念佛正信偈をつくりていはく。

西方不可思議尊。法藏菩薩因位のうちに。殊勝の本弘誓を超發して。無上大悲の願を建立したまふ。思惟攝取するに五劫をへたり。菩提

妙果上願にむくひたり。本誓を滿足するに十劫をへたり。壽命延長にしてよくはかることなし。慈悲深遠にして虛空のことし。智慧圓滿して巨海のことし。淸淨微妙無邊の刹。廣大莊嚴等具足せり。種々の功德こと〳〵く成滿す。十方諸佛のくに〳〵超踰せり。あまねく難思無碍光をはなちて。よく無明大夜の闇を破したまふ。智光明朗にして慧眼をひらく。名聲十方にきこえすといふことなし。如來の功德はたゝ佛のみしりたまへり。佛法藏をあつめて凡愚に施す。彌陀佛の日あまねく照耀す。すてによく無明の闇を破すといへとも。貪愛瞋嫌の雲霧。つねに淸淨信心の天におほへり。たとへはなを日月星宿の煙霞雲霧等におほはるといへとも。その雲霧のしたあきらかにして闇なきかことし。信知するに日月の光益にこえたり。かならす無上淨信のあかつきにいたれは。三有生死の雲はる。淸淨無碍

の光耀ほからかにして。一如法界の眞身あらはる。信を發して稱名すれば。ひかり攝護したまふ。また現生無量の德をう。無邊難思光不斷にして。さらに時處諸緣をへたつることなし。諸佛の護念まことにうたかひなし。十方おなしく稱讃し悦可す。惑染逆惡ひとしくみな生し。謗法闡提廻すればみなゆく。當來の世經道滅せんに。ことにこの經をとゝめて住すること百歳。いかんそこの大願を疑惑せん。たゝ釋迦如實のみことを信せよ。印度西天の論家。中夏日域の高僧。釋迦如來楞伽山にして。衆のために告命したまふ。南天竺に龍樹菩薩世に興出して。こと〳〵くよく有無の見を摧破せん。大乘無上の法を宣說し。歡喜地を證して安樂に生せんと。十住毘婆娑論をつくりて。難行の嶮路ことに悲憐せん。易行の大道ひろく開示す。恭敬の

心をもて。執持して名號を稱し。とく不退をうへし。信心清淨なれはすなはち佛をみたてまつる。天親菩薩論をつくりてとかく。修多羅によりて眞實をあらはす。横超の本弘誓を光闡し。不可思議の願を演暢す。本願力の廻向によるかゆゑに。具縛を度せんかために一心をあらはす。功德の大寶海に歸入すれは。かならす大會衆のかすにいることをう。蓮華藏世界にいたることをうれは。すなはち寂滅平等身を證せしむ。煩惱のはやしにあそひて神通を現し。生死の園にいりて應化をしめす。曇鸞大師をは。梁の蕭王は。つねに鸞のかたにむかひて菩薩と禮す。三藏流支淨敎をさつけしかは。仙經を焚燒して樂邦に歸す。天親菩薩の論註解して。如來の本願稱名にあらはす。往還の廻向は本誓による。煩惱成就の凡夫人。信心開發すれはすなはち忍をう。生死すなはち涅槃なりと證知す。かならす無量光

明土にいたりて。諸有の衆生みなあまねく化す。道綽聖道の證しかたきことを決して。たゝ淨土の通入すへきことをあかせり。萬善は自力なれは懃修を貶す。圓滿の德號は專稱をすゝむ。三不三信のおしへねんころにして。像末法滅おなしく悲引す。一生惡をつくれとも弘誓にまふあへは。安養界にいたりて妙果を證す。善導ひとり佛の正意にあきらかにして。ふかく本願によりて眞宗を興したまふ。定散と逆惡とを矜哀して。光明名號因緣をしめす。涅槃門にいりて眞心にまふあへは。かならす信喜悟の忍をうれは。難思議往生をうるひとなり。すなはち法性の常樂を證すと。源信ひろく一代の敎をひらきて。ひとへに安養に歸して一切をすゝむ。諸經論によりて敎行をえらひたまふ。まことにこれ濁世の目足たり。得失を專雜に決判して。念佛の眞實門に廻入せしむ。たゝ淺深を執心にさためて。

報化二土まさしく辨立せりと。源空もろ〱の聖典を曉了して。善惡の凡夫人を憐愍せしむ。眞宗の敎證片州に興す。選擇本願濁世にほとこす。生死流轉のいへに還來することは。決するに疑情をもて所止とす。すみやかに寂靜無爲のみやこにいることは。かならす信心をもて能入とす。論說師釋ともに同心に。無邊の極濁惡を拯濟す。道俗時衆みなこと〱くともに。たゝこの高僧の說を信すへし。

六十行一百二十句。偈頌すてに畢ぬ。

問。念佛往生の願すてに三心をおこす。論主なにをもてのゆゑに一心とのたまふや。答。愚鈍の衆生覺知やすからしめんかためのゆゑに。論主三を合して一としたまふ歟。三心といふは。ひとつには至心。ふたつには信樂。みつには欲生なり。わたくしに字訓をもて。論のこゝろをうかゝふに。三を合して一とすへし。そのこゝろいか

んとならは。ひとつには至心。至とは眞なり。誠なり。心といふは種なり。實なり。ふたつには信樂。信といふは眞なり。實なり。誠なり。滿なり。極なり。成なり。用なり。重なり。審なり。驗なり。樂といふは欲なり。願なり。慶なり。喜なり。樂なり。みつには欲生。欲といふは願なり。樂なり。覺なり。知なり。生といふは成なり。興なり。しかれは至心はすなはちこれ誠種眞實の心なるかゆゑに疑心あることなし。信樂はすなはちこれ眞實成滿の心なり。極成用重の心なり。欲願審驗の心なり。慶喜樂の心なり。かるかゆゑに疑心あることなし。欲生はすなはちこれ願樂の心なり。覺知成興の心なり。かるかゆゑに三心みなともに眞實にして疑心なし。疑心なきかゆゑに三心すなはち一心なり。字訓かくのことし。これを思擇すへし。また三心といふは。ひとつには至心。この心すなはちこれ

如來至德圓修滿足眞實の心なり。阿彌陀如來眞實の功德をもて、一切に廻施したまへり。すなはち名號をもて至心の體とす。しかるに十方衆生穢惡汚染にして淸淨の心なし。虛假雜毒にして眞實の心なし。こゝをもて如來因中に菩薩の行を行したまひしとき。三業の所修乃至一念一刹那も。淸淨眞實の心にあらさることあることなし。如來淸淨の眞心をもて。諸有の衆生に廻向したまへり。經にのたまはく。欲覺瞋覺害覺を生せす。欲想瞋想害想をおこさす。色聲香味の法に著せす。忍力成就して衆苦をはからす。少欲知足にして染恚癡なし。三昧常寂にして智慧無碍なり。虛僞諂曲の心あることなし。和顏愛語にしてこゝろをさきたて承問す。勇猛精進にして志願うむことなし。もはら淸白の法をもとめてもて群生を慧利す。三寶を恭敬し師長に奉事す。大莊嚴をもて衆行を具足し。もろ〳〵の衆生をして功

德成就せしめたまふと。いまこの心これ如來の淸淨廣大の至心なり。（抄出）聖言あきらかにしんぬ。これを眞實心となつく。至心すなはちこれ大悲心なり。かるかゆゑに疑心あることなし。ふたつには信樂。すなはちこれ眞實心をもて信樂の躰とす。しかるに具縛の群萌。穢濁の凡愚。淸淨の信心なし。眞實の信心なし。このゆゑに眞實の功德まうあひかたく。淸淨の信樂獲得しかたし。これによりて釋のこゝろをうかゝふに。愛心つねにおこりてよく善心をけかし。瞋嫌の心よく法財をやく。身心を苦勵して日夜十二時急走急作して。頭燃をはらふかことくすれとも。すへて雜毒の善となつく。また虛假の行となつく。眞實の業となつけす。この雜毒の善をもてかの淨土に廻向する。これかならす不可なり。なにをもてのゆゑに。まさしくかの如來菩薩の行を行したまひしとき。乃至一念一刹那も三業の所

修。みなこれ眞實心中になしたまひしによるかゆゑに。疑蓋まじはることなし。如來清淨眞實信樂をもて。諸有の衆生に廻向したまへり。本願成就の文經にのたまはく。あらゆる衆生その名號をきゝて信心歡喜せん。(抄出)聖言あきらかにしんぬ。いまこの心すなはちこれ本願圓滿清淨眞實の信樂なり。これを信心となづく。信心すなはちこれ大悲心なり。かるかゆゑに疑蓋あることなし。みつには欲生。すなはち清淨眞實の信心をもて欲生の躰とす。しかるに流轉輪廻の凡夫。曠劫多生の群生。清淨廻向の心なし。眞實廻向心なし。こゝをもて如來因中に菩薩の行を行したまひしとき。三業の所修乃至一念一剎那も。回向を首として大悲心を成就することをえたまふにあらさることあることなし。かるかゆゑに如來清淨眞實の欲生心をもて。諸有の衆生に廻向したまへり。本願成就の文經にのたまはく。至心廻向

願生彼國即得往生住不退轉と。（要をとる）聖言あきらかにしんぬ。いまこの心これ如來の大悲。諸有の衆生を招喚したまふ敎勅なり。すなはち大悲の欲生心をもてこれを迴向となづく。三心みなこれ大悲迴向心なるかゆゑに。清淨眞實にして疑蓋ましはることなし。かるかゆゑに一心なり。これによりて師釋をひらきたるに。いはく。にしのきしのうへにひとありてよはひていはく。なんち一心正念にしてたゝちにきたれ。われよくなんちをまもらん。すへて水火の難におちんことをおそれされと。また中間の白道といふは。すなはち貪瞋煩惱のなかに。よく清淨願往生の心を生せしむるにたとふ。あふひて釋迦の發遣をかうふり。また彌陀招喚したまふによりて。水火二河をかへりみす。かの願力の道に乘すと。（略出）こゝにしんぬ。能生清淨願心はこれ凡夫自力の心にあらす。大悲迴向の心なるかゆゑに。清淨願

心とのたまへり。しかれは一心正念といふは。正念すなはちこれ稱名。稱名すなはちこれ念佛なり。一心すなはちこれ深心。深心すなはちこれ堅固深信。堅固深信すなはちこれ眞心。眞心すなはちこれ金剛心。金剛心すなはちこれ無上心。無上心すなはちこれ淳一相續心。淳一相續心すなはちこれ大慶喜心。大慶喜心をうれはこの心三不に違す。この心三信に順す。この心すなはちこれ大菩提心。大菩提心すなはちこれ眞實信心。眞實信心すなはちこれ願作佛心。願作佛心すなはちこれ度衆生心。度衆生心はすなはちこれ衆生を攝取して。安樂淨土に生せしむる心なり。この心すなはちこれ畢竟平等心。この心すなはちこれ大悲心。この心作佛す。この心これ佛なり。これを如實修行相應となつく。しるへし。三心すなはち一心の義。こたへおはりぬ。

また問。大經の三心と觀經の三心と一異いかん。こたふ。兩經の三心すなはちこれひとつなり。なにをもてかしることをうるとならば。宗師の釋にいはく。至誠心のなかにいはく。至といふは眞。誠といふは實なりと。人につき行について信をたつるなかにいはく。一心に彌陀の名號を專念する。これを正定の業となづく。またいはく。深心すなはちこれ眞實信心なり。廻向發願心のなかにいはく。この心深信せることなをし金剛のことしと。あきらかにしんぬ。一心これ信心なり。專念すなはち正業なり。一心のなかに至誠回向の二心を攝在せり。さきの問のなかにこたへおはりぬ。また問。己前二經の三心と小經の執持と一異いかん。答。經にのたまはく。名號を執持すと。執といふは心堅牢にしてうつらす。持といふは不散不失になつく。かるかゆゑに不亂といへり。執持はすなはち一心。一心は

すなはち信心なり。しかれはすなはち執持名號の眞說。一心不亂の誠言かならすこれに歸すへし。ことにこれをあふくへし。論家宗師淨土眞宗をひらきて。濁世邪僞をみちひかんとなり。三經の大綱隱顯ありといへとも。一心を能入とすかるかゆゑに。經のはしめに如是と稱す。論主はしめに一心とのたまへり。すなはちこれ如是の義をあらはすなり。いま宗師の解をひらきたるに。いはく。如意といふは二種あり。一には衆生のこゝろのことし。かの心念にしたかひてみな應してこれを度す。二には彌陀のおんこゝろのことし。五眼圓照し六通自在にして。機の度すへきものをみそなはして。一念のうちに前なく後なく。身心ひとしくおもむく。三輪をもて開悟せしめて。おの〳〵益すること不同なり。またのたまはく。うやまてまうす。一切往生の知識等。おほきにすへからく慚愧すへし。釋迦如

來はまことにこれ慈悲の父母なり。種々の方便をもてわれらか無上の信心を發起せしめたまふ。(上巳)あきらかにしんぬ。二尊の大悲によりて一心の佛因をえたり。まさにしるへし。この人希有人なり。最勝人なりと。しかるに流天の愚夫。輪廻の群生。信心おこすことなし。眞心おこることなし。こゝをもて經にのたまはく。もしこの經をきゝて信樂受持することかたきかなかにかたし。これにすきたる難なし。また一切世間極難信法とときたまへり。まことにしんぬ。大聖世尊世に出興しだまふ。大事の因緣悲願の眞利をあらはして。如來の直說としたまへり。凡夫の則生をしめすを大悲の宗致とすとなり。これによりて諸佛の敎意をうかゝふに。三世の諸如來出世のまさしき本意。たゝ阿彌陀不可思議の願をとかんとなり。常沒の凡夫人。願力の廻向によりて眞實の功德をきゝ。無上の信心をうれはすなはち

大慶喜をえ不退轉地をう。煩惱を斷せしめすして。すみやかに大涅槃を證すとなり矣。

淨土文類聚鈔

淨土文類聚抄

愚禿鈔

愚禿鈔上

愚禿親鸞作

聞賢者信、顯愚禿心。賢者信、內賢外愚也。愚禿心、內愚外賢也。

就聖道淨土敎有二敎。

一大乘敎。　二小乘敎。

就大乘敎有二敎。

一頓敎。　二漸敎。

就頓敎復有二敎二超。

二敎者。

一難行聖道之實敎。所謂佛心眞言法華華嚴等之敎也。

二易行淨土本願眞實之敎。大無量壽經等也。

二超者。

一竪超。即身是佛。即身成佛等之證果也。

二橫超。選擇本願。眞實報土。即得往生也。

就漸敎復有二敎二出。

二敎者。

一難行聖道權敎法相等。歷劫修行之敎也。

二易行淨土要門。無量壽佛觀經之意。定散三福九品之敎也。

二出者。

一竪出。聖道歷劫。修行之證也。

二橫出。淨土胎宮。邊地懈慢之往生也。

就小乘敎有二敎。

一緣覺敎。一麟喩獨覺。二部行獨覺。

二聲聞教。初果預流向。第二果一來向。第三果不還向。第四果阿羅漢向。八輩也。

唯除阿彌陀如來選擇本願已外。大小權實顯密諸教。皆是難行道聖道門。又易行道淨土門之教。是曰淨土廻向發願自力方便假門也。應知。

大經選擇三種。

一法藏菩薩。

選擇本願。選擇淨土。選擇攝生。選擇證果。

二世饒王佛。

選擇本願。選擇淨土。選擇讚嘆。選擇證成。

三釋迦如來。

選擇彌勒付屬。

觀經選擇二種。

一釋迦如來。

選擇功德。選擇攝取。選擇讚嘆。選擇護念。選擇阿難付屬。

二章提夫人。

選擇淨土。選擇淨土機。

小經ニ勸信ニ二ツ。證成ニ二ツ。護念ニ二ツ。讚嘆ニ二ツ。難易ニ二アリ。

勸信ニ二ト者ハ。

一ニハ釋迦ノ勸信。釋迦ニ二アリ。　二ニハ諸佛ノ勸信。諸佛ニ二アリ。

證成ニ二ト者ハ。

一ニハ功德證成。　二ニハ往生證成ナリ。

護念ニ二ト者ハ。

一ニハ執持護念。釋迦ノ護念ナリ。　二ニハ發願護念。諸佛ノ護念ナリ。

讚嘆ニ二ト者ハ。

一ニハ釋迦讚嘆ニ二アリ。　二ニハ諸佛讚嘆ニ二アリ。

難易ニ二ト者ハ。

一ニハ難ハ疑情ナリ。　二ニハ易ハ信心ナリ。

執持ニ三アリ已今當　發願ニ三アリ已今當

法事讃ニ有リ三往生。

一ニハ難思議往生ハ大經ノ宗ナリ。　二ニハ雙樹林下往生ハ觀經ノ宗ナリ。

三ニハ難思往生ハ彌陀經ノ宗ナリ。

大經ニ言ク。證成シ玉フ本願ヲ三身シマス。

法身證成。經ニ言ク。空中ニシテ讃言ハク。決定メ必ス成玉ヘン無上正覺ヲ一。文

報身ノ證成。十方如來。

化身ノ證成。世饒王佛ナリ。

就テ佛土ニ有リ二種。

一ニハ者佛。　二ニハ者土ナリ。

就テ佛ニ有リ四種。

一法身。　二報身。　三應身。　四化身。

就法身有二種。

一法性法身。　二方便法身。

就報身有三種。

一彌陀。　二釋迦。　三十方。

就應化有三種。

一彌陀。　二釋迦。　三十方。

就土有四種。

一法身土。　二報身土。　三應身土。　四化身土。

就報土有三種。

一彌陀。　二釋迦。　三十方。

就彌陀化土有二種。

一疑城胎宮。　二懈慢邊地。

本願一乘。頓極頓速。圓融圓滿之教者。絶對不二之教。一實眞如之道也。應知。專中之專。頓中之頓。眞中之眞。圓中之圓。一乘一實大誓願海。第一希有之行也。

金剛眞心無碍信海。應知。

疏云。我依菩薩藏頓教一乘海。

讃云。瓔珞經中說漸教。萬劫修功證不退。觀經彌陀經等說。即是頓教菩提藏。文

圓頓者。圓名圓融圓滿。頓名頓極頓速。

二教對。

本願一乘海。頓極頓速圓融圓滿之教也。應知。

淨土要門。定散二善。方便假門。三福九品之教也。應知。

難易對。　橫竪對。　頓漸對。　超渉對。
眞假對。　順逆對。　純雜對。　邪正對。
勝劣對。　親䟽對。　大小對。　多少對。
重輕對。　通別對。　經迂對。　捷遲對。
廣狹對。　近遠對。　了不了敎對。　大利小利對。
無上有上對。　不廻廻向對。　自說不說對。　有願無願對。
有誓無誓對。　選不選對。　讃不讃對。　證不證對。
護不護對。　因明直辨對。　理盡非理盡對。　無間有間對。
相續不相續對。　退不退對。　斷不斷對。　因行果德對。
法滅不滅對。　自力他力對。　攝取不攝對。　入定聚不入對。
思不思議對。　報化二土對。　已上四十二對。就二敎法一應レ知ル。
眞實淨信心（內因ナリ）。　攝取不捨（外緣ナリ）。

信受本願前念命終。即入正定聚之數。文

即得往生後念即生。即時入必定。文

他力金剛心也。應知。又名必定菩薩也。文

便同彌勒菩薩。自力金剛心也。應知。大經言次如彌勒。文

二機對。

一乘圓滿機他力。

漸教廻心機自力。

信疑對。　賢愚對。　善惡對。　正邪對。

是非對。　實虛對。　眞僞對。　淨穢對。

好醜對。　妙麁對。　利鈍對。　奢促對。

希常對。　强弱對。　上々下々對。　勝劣對。

直入廻心對。　明闇對。　已上十八對。就二機應知。

又就二種機復有二種性。

二機者。

一善機。　二惡機。

二性者。

一善性。　二惡性。

又復就善機有二種。　又有傍正。

一定機。　二散機。　疏云一切衆生機有二種。一者定。二者散。文

又有傍正者。

一菩薩大小　二緣覺。　三聲聞辟支等。淨土之傍機也。

四天。　五人等。淨土之正機也。

又復就善性有五種。

一善性。　二正性。　三實性。　四是性。

五眞性。

又復就惡機有七種。

一十惡。　二四重。　三破見。　四破戒。

五五逆。　六謗法。　七闡提。

又復就惡性有五種。

一惡性。　二邪性。　三虛性。　四非性。

五僞性

光明寺和尚曰。

道俗時衆等。各發無上心。生死甚難厭。佛法復難忻。共發金剛志。

横超斷四流。觀入彌陀界。歸依合掌禮。正受金剛心。相應一念後。

果得涅槃者。文

淨土論曰。

世尊我一心。歸命盡十方。無碍光如來。願生安樂國。我依修多羅。眞實功德相。說願偈摠持。與佛敎相應。文

佛說無量壽經言。康僧鎧三藏譯

無得以我滅度之後復生疑惑。當來之世經道滅盡。我以慈悲哀愍。特留此經止住百歲。其有衆生値斯經者。隨意所願皆可得度。佛語彌勒。如來興世難値難見。諸佛經道難得難聞。菩薩勝法諸波羅蜜得聞亦難。遇善知識。聞法能行此亦爲難。若聞斯經信樂受持。難中之難無過此難。是故我法如是作。如是說。如是敎。應當信順如法修行。文

無量壽如來會言。菩提流支三藏譯

如來勝智徧虛空。所說義言唯佛悟。
是故博聞諸智士。應信我敎如實言。文

無量清淨平等覺經言。帛延三譯藏。

速疾超便可到　安樂國之世界。
至無量光明土　供養於無數佛。文
諸佛阿彌陀三耶三佛薩樓佛檀過度人道經言。支謙三藏譯
我般泥洹去後。經道留止千歲。千歲後經道斷絕。我皆慈哀特留是經法止住百歲。百歲中竟乃休止斷絕。在心所願皆可得道。略出
元照律師阿彌陀經義疏云。大智律師也。
勢至章云。十方如來憐念衆生。如母憶子。大論曰。譬如魚母若不念子。子即壞爛等。阿耨多羅此翻無上。三藐云正等。三菩提云正覺。即佛果號。薄地凡夫業惑纏縛。流轉五道百千万劫。忽聞淨土志願求生。一日稱名即超彼國。諸佛護念直趣菩提。可謂萬劫難逢。千生一遇。誓從今日終盡未來。在處讃揚多方勸誘。所感身上所化機緣。與阿彌陀等無有異。此心罔極唯佛證知。是故下三勸信。信我語者謂信敎也。如

不信我十方諸佛。豈虛妄乎。略出

建長七年乙卯八月廿七日書之

愚禿親鸞 八十三歲

愚禿鈔下

愚禿親作鸞

聞賢者信顯愚禿心。賢者信內賢外愚也。愚禿心內愚外賢也。

唐朝光明寺和尚觀經義云。先就上品上生位中至乃一從佛告阿難已下。即雙標二意。一明告命。二明辨定其位。此即修學大乘上善凡夫人也。三從若有衆生下至即便往生已來。正明摠擧有生之類。即有其四。一明能信之人。二明求願往生。三明發心多少。四明得生之益。四從何等爲三下至必生彼國已來。正明辨定三心以爲正因。即有二。一明世尊隨機顯益意密難知。非佛自問自徵無由得解。二明如來還自答前三心之數。經云。一者至誠心。至者

眞。誠者實。欲明一切衆生身口意業所修解行。必須眞實心中作。不得外現賢善精進之相。內懷虛假。貪瞋邪僞奸詐百端。惡性難侵事同蛇蝎。雖起三業名爲雜毒之善。亦名虛假之行。不名眞實業也。若作如此安心起行者。縱使苦勵身心。日夜十二時。急走急作。如炙頭燃者衆名雜毒之善。欲迴此雜毒之行求生彼佛淨土者此必不可也。何以故。正由彼阿彌陀佛因中行菩薩行時。乃至一念一刹那三業所修皆是眞實心中作。凡所施爲趣求亦皆眞實。又眞實有二種。一者自利眞實。二者利他眞實。就利他眞實亦有二種。

一者凡所施爲趣求。亦皆眞實。二者不善三業必須眞實心中捨。又若起善三業者。必須眞實心中作。不簡內外明闇須眞實故。名至誠心。言自利眞實者復有二種。一者眞實心中制捨。自他諸惡及穢國等行住坐臥想同一切菩薩制捨諸惡我亦如是也。二者眞實心中勤修自他凡聖

等善。眞實心中口業。讚歎彼阿彌陀佛及依正二報。又眞實心中口業。毀厭三界六道等自他依正二報苦惡之事。亦讚歎一切衆生三業所爲善。若非善業者敬而遠之亦不隨喜也。又眞實心中身業。合掌敬禮四事等。供養彼阿彌陀佛及依正二報。又眞實心中身業。輕慢厭捨此生死三界等自他依正二報。又眞實心中意業。思想觀察憶念彼阿彌陀佛及依正二報如現目前。又眞實心中意業。輕賤厭捨此生死三界等自他依正二報。文

一者至誠心者。至者眞。誠者實。即眞實也。

眞實有二種。

一者自利眞實
　難行道。　聖道門。　竪超。即身是佛。即身成佛。　自力也。
　竪出。自力中之漸教歷劫修行也。

二者利他眞實。
　易行道。　淨土門。　橫超。如來誓願他力也。

就自利眞實復有二種。

橫出。他力中之自力。定散諸行也。

一者厭離眞實。

聖道門。　難行道。　竪出。　自力。

竪出者難行道之教。以厭離爲本。自力之心故也。

二者忻求眞實。

淨土門。　易行道。　橫出。　他力。

橫出者易行道之教。以忻求爲本。何以故。由願力令厭捨生死之故也。

又就橫出眞實復有三種。

一者口業忻求眞實。

口業厭離眞實。

二者身業忻求眞實。

身業厭離眞實。

三者意業忻求眞實。

意業厭離眞實。

按宗師釋文。從一者眞實心中已下。至自他凡聖等善者。厭離爲先。忻求爲後。則是難行道自力竪出之義也。從眞實心中口業已下。至自他依正二報者。則是易行道他力横出之義也。二者深心。言深心者卽是深信之心也。亦有二種。一者決定。深信自身現是罪惡生死凡夫。曠劫已來常沒常流轉。無有出離之縁。二者決定。深信彼阿彌陀佛四十八願攝受衆生無疑無慮乘彼願力定得往生。文

今斯深信者。他力至極之金剛心。一乘無上之眞實信海也。

按文意。就深信有七深信。有六決定。

七深信者。

第一深信。決定深信自身。即是自利信心也。

第二深信。決定深信乘彼願力。即是利他信海也。

第三決定。深信觀經。

第四決定。深信彌陀經。

第五唯信佛語決定依行。

第六依此經深信。

第七又深心深信者。決定建立自心。

六決定者。已上如次應知。

利他信心就第五唯信佛語。有三遣三隨順三是名。

三遣者。

一佛遣捨者即捨。　二佛遣行者即行。　三佛遣去處即去。

三隨順者。

一是名隨順佛教。 二隨順佛意。 三是名隨順佛願。

三是名者。

一是名眞佛弟子。

上是名與此合三是名也。

就第六依（依觀經）依此經深信。 有六卽三印三無六正二了。

六卽者。

一若稱佛意卽印可言如是如是。

二若不可佛意者。卽言汝等所說是義不如是。

三不印者卽同無記無利無益之語。

四佛印可者卽隨順佛之正教。

五若佛所有言說卽是正教。

六若佛所說即是了教。

三印者。

一即印可。　二不印。　三佛印可。三印者有六即文中上

三無者。

一無記。　二無利。　三無益。三無者有六即文中

六正者。

一正教。　二正義。　三正行。　四正解。　五正業。　六正智。

二了者。

一若佛所說即是了教。　二菩薩等說盡名不了教也。　應知。

就第七（自利信心）又深心深信者。決定建立自心。有二別三異一問答。

二別者。

一別解。　二別行。

三異者。

一異學。　二異見。　三異執。

一問答中有四別四信。

四別者。

一處別。　二時別。　三對機別。　四利益別。

四信者。

一往生信心。凡夫疑難也。　二清淨信心。地前菩薩羅漢辟支佛等疑難也。

三上々信心。初地已上。十地已來疑難也。

四畢竟不起一念疑退之心也。報佛化佛疑難也。

就上々信心有五實二異。

五實者。

一眞實決了義。　二實知。　三實解。　四實見。　五實證。

二異者。

一異見。　二異解。

就報化二佛疑難、引彌陀經勸信。有二專四同二所化六惡二同三所。

二專者。

一專念　二專修。五種也。

四同者。

一同讃。　二同勸。　三同證。　四同躰。

二所化者。

一一佛所化即是一切佛化。　二一切佛所化即是一佛化。

六惡者。

一惡時。　二惡世界。　三惡衆生。

四惡見。　五惡煩惱。　六惡邪無信盛時也。

二同者。

一十方佛等同心。　二同時各出舌相。

三所者。

一所說。　二所讃。　三所證

一佛所說即一切佛同證誠其事也。此名就人立信也。應知。

次就行立信者。然行有二種。

一者正行。　二者雜行。

就正行有五正行六一心專修。

五正行者。

一一心專讀誦。　二一心專觀察。　三一心專禮佛。

四一心專稱佛名。　五一心專讃嘆供養。

又就此正中復有二種。

一者一心專念彌陀名號是名正定之業。二者若依禮誦等即名爲助業。

六一心者。如次一心也。六專修者。如次專修也。

又復就正雜二行復有二行。

一者定行　二者散行也。

又復就正雜復有二種。

一念佛。　二觀佛。

又就念佛復有二種。

一彌陀念佛。　二諸佛念佛。　法身報身應身化身。

又復就彌陀念佛有二種。

一正行定心念佛。　二正行散心念佛。

彌陀定散念佛是曰淨土眞門。亦名一向專修也。應知。

又復就諸佛念佛有二種。

一雜行定心念佛。二雜行散心念佛。諸佛定散念佛。是雜中之專行也。應知。

又復就觀佛復有二種。

一正之觀佛。二雜之觀佛。

又復就正觀佛復有二種。

一眞觀。二假觀。

又復就眞假有十三觀想。

日想。水想。地想。寶樹想。寶池。寶樓。華座。

像想。眞觀。觀音。勢至。普觀。雜觀。

又復就正散行有四種。

讀誦。禮拜。讚嘆。供養。

上來定散六種兼行故曰雜修。是名助業。名爲方便假門。亦名淨土要門也。應知。

又復就雜觀佛有二種。又有眞假。

一無想離念。　二立相住心。

又復就雜散行有三福。

一孝養父母奉事師長慈心不殺修十善業。

二受持三歸具足衆戒不犯威儀。

三發菩提心深信因果讀誦大乘勸進行者。

上來一切定散諸善悉名雜行。對六種正應有六種雜。雜行之言人天菩薩等解行雜故曰雜也。自元來非淨土業因是名發願行。亦名廻心行。故名淨土雜行。是名淨土方便假門。亦名淨土要門也。凡聖道淨土正雜定散皆是廻心之行也。應知。

三者迴向發願心者。言迴向發願心者有二種。

一過去今生自他所作善根。皆眞實深信心中迴向願生彼國。

二迴向發願生者。必須決定眞實心中迴向願作得生想。

就迴向發願生者有信心。

信心者。

作得生想此心深信由若金剛。

就此深信有譬喩二異二別一問答一迴向。

一譬喩者。

此心深信由若金剛

二異者。

一異見。　二異學。

二別者。

一別解。　二別行。

就一問答有七惡六譬二門四有緣二所求二所愛二欲學二必。

七惡者。

一十惡。　二五逆。　三四重。　四破戒。　五破見。

六謗法。　七闡提。

六譬者。

一明能破闇。　二空能含有。　三地能載養。　四水能生潤。

五火能成壞。　六二河。水河。火河。

二門者。

一隨出一門即出一煩惱門也。出愚癡門　二隨入一門即入一解脫智慧門也。入智惠海

四有緣者。

一汝何以乃將非有緣之要行鄣惑於我。

二然我之所愛即是我有緣之行。即非汝所求。

三汝之所愛即是汝有緣之行。亦非我所求。是故各隨所樂而修其行者必疾得解脫也。

四若欲學行者必藉有緣之法。少用功勞多得益。下

二所求者。如上文。　二所愛者如上文。　二欲學者

一行者當知。若欲學解從凡至聖乃至佛果。一切無礙皆得學也。

二若欲學行者必藉有緣之法。乃至

二必者。如上文。

就此深信中二廻向者。

自利
一常作此想常作此解故名廻向發願心。

利他々々廻向
二又言廻向者。生彼國已還起大悲。廻入生死教化衆生亦名廻向也。

就二河中。說一譬喩守護信心。以防外邪異見之難。

此道從東岸至西岸亦長百步。文

百步者。

譬人壽百歲也。

群賊惡獸者。

群賊者。別解別行異見異執惡見邪心定散自力之心也。

惡獸者。六根六塵五陰四大也。

常隨惡友者。

惡友者對善友。雜毒虛假之人也。

言無人空迥澤者。

惡友也。不値眞善知識也。眞言對假對僞。善知識者對惡知識也。

眞善知識。　正善知識。　實善知識。　是善知識。

善々知識。　善性人也。　惡知識者。　假善知識。

僞善知識。　邪善知識。　虚善知識。　非善知識。

惡善知識。　惡性人也。

言白道四五寸者。

白道者。白言對黑。道言對路。白者則是六度萬行定散也。斯則

自力小善路也。黑者則是六趣四生二十五有十二類生黑惡道也。

四五寸者。四言譬四大毒蛇也。五言喩五陰惡獸也。

言能生清淨願往生心者。

發起無上信心金剛眞心也。斯如來廻向之信樂也。

言或行一分二分者。

喩年歳時節也。

言惡見人等者。

憍慢懈怠邪見疑心之人也。

言又西岸上有人喚言。汝一心正念直來。我能護者。西岸上有人喚言者。阿彌陀如來誓願也。汝言行者也。斯則名必定菩薩。龍樹大士十住毘婆沙論曰。即時入必定。曇鸞菩薩論曰入正定聚之數。善導和尚言希有人也。最勝人也。妙好人也。好人也。上々人也。眞佛弟子也。一心言眞實信心也。正念言選擇攝取本願也。又第一希有行也。金剛不壞心也。直言對迴對迂也。又直言捨方便假門歸如來大願他力。欲使顯諸佛出世之直說也。來言對去對往也。又欲令還來報土也。我言盡十方無碍光如來也。不可思議光佛也。能言對不堪也。疑心之人也。護言顯阿彌陀佛果成之正意也。亦形攝取不捨之貌也。則是現生護念也。念道言念他力白道也。慶樂者慶言印可之言也。獲得之言也。樂言悅喜之言也。歡喜踊躍也。

仰蒙釋迦發遣指向西方者順也。又藉彌陀悲心招喚者信也。今信順二

尊之意不顧水火二河。念々無遺乘彼願力之道
就至誠心。難易對。彼此對。去來對。毒藥對。內外對。

難易對。

難者三業修善不眞實之心也。易者如來願力廻向之心也。

彼此對。

彼者淨邦也。此者穢國也。

去來對。

去者釋迦佛也。來者彌陀也。

毒藥對。

毒者善惡雜心也。藥者純一專心也。

內外對。

內外道外佛敎。內聖道外淨土。內疑情外信心。內惡性外善性。

内邪外正。　内虚外實。　内非外是。　内僞外眞。
内雜外專。　内愚外賢。　内假外眞。　内退外進。
内疎外親。　内遠外近。　内迂外直。　内違外隨。
内逆外順。　内輕外重。　内淺外深。　内苦外樂。
内毒外藥。　内怯弱外強剛。　内懈怠外勇猛。　内間斷外無間。
内自力外他力。

凡就心有二種三心。
一者自利心。　二者利他三信。

又有二種往生。
一者即往生。　二者便往生。

竊按觀經三心往生者。是則諸機自力各別之三心也。爲歸大經三信也。勸誘諸機欲使通入三信也。三信者斯則金剛眞心不可思議信心海也。

亦即往生ト者。斯則難思議往生眞ノ報土ナリ也。便往生トハ者。即チ是レ諸機各別ノ業

因果成ノ土ナリ。胎宮邊地懈慢界雙樹林下往生ナリ。亦難思往生也ナリト。應知シト。

建長七歳乙卯八月廿七日書之　愚禿親鸞八十三歳

二門偈

入出二門偈頌

愚禿親鸞作

世親菩薩依大乘　修多羅眞實功德　一心歸命盡十方　不可思議光如來
無碍光明大慈悲　斯光明即諸佛智　觀彼世界無邊際　究竟廣大如虛空
五者佛法不思議　此中佛土不思議　有二種不思議力　斯示安樂之至德
一者業力謂法藏　大願業力所成就　二者正覺阿彌陀　法王善力所攝持
女人根缺二乘種　安樂淨刹永不生　如來淨華諸聖衆　法藏正覺華化生
諸機本則三三品　今無一二之殊異　同一念佛無別道　猶如淄澠一味也
觀彼如來本願力　凡愚遇無空過者　一心專念速滿足　眞實功德大寶海
菩薩入出五種門　自利利他行成就　不可思議兆載劫　漸次成就五種門

何等名爲五念門　禮讚作願觀察迴　云何禮拜身業禮　阿彌陀佛正遍知
善巧方便諸群生　爲生安樂國意故　即是名入第一門　亦是名爲入近門
云何讚歎口業讚　隨順名義稱佛名　依如來光明智相　欲如實修相應故
則斯無礙光如來　攝取選擇本願故　是名爲入第二門　即獲入大會衆數
云何作願心常願　一心專念願生彼　得入蓮華藏世界　欲如實修奢摩他
是名爲入第三門　亦是名爲入宅門　云何觀察智慧觀　正念觀彼欲如實
修行毘婆舍那故　得到彼所則受用　種種無量法味樂　即是名入第四門
亦是名爲入屋門　菩薩修行成就者　四種成就入功德　自利行成就應知
第五成就出功德　菩薩出第五門者　云何迴向心作願　不捨苦惱一切衆
迴向爲首得成就　大悲心故施功德　生彼土已速疾得　奢摩他毘婆舍那
巧方便力成就已　入生死薗煩惱林　示應化身遊神通　至敎化地利群生
即是名出第五門　入薗林遊戲地門　以本願力迴向故　利他行成就應知

無礙光佛因地時　發斯弘誓建此願　菩薩已成智慧心　成方便心無鄣心
成就妙樂勝眞心　速得成就無上道　成自利利他功德　則是名爲入出門
婆藪槃頭菩薩論　本師曇鸞和尚釋　願力成就名五念　佛而言宜言利他
衆生而言言他利　當知今將談佛力　如實修行相應者　隨順名義與光明
以斯信心名一心　煩惱成就凡夫人　不斷煩惱得涅槃　則斯安樂自然德
泥淤華者經說言　高原陸地不生蓮　卑濕淤泥生蓮華　此喩凡夫在煩惱
泥中生佛正覺華　斯示如來本弘誓　不可思議力即是　入出二門名他力
道綽和尚解釋曰　月藏經言我末法　起行修道一切衆　未有一人獲得者
在此起心立行者　則此聖道名自力　當今末法是五濁　唯有淨土可通入
今時起惡造衆罪　恒常如暴風駛雨　本弘誓願令稱名　是爲穢濁惡衆生
是以諸佛勸淨土　縱令一生造惡業　三信相應是一心　一心淳心名如實
若不生者無是處　必得往生安樂國　生死即是大涅槃　則易行道名他力

入出二門偈頌

七十四行

善導和向義解曰　念佛成佛是眞宗　即是名爲一乘海　即是亦名菩提藏
即是圓教中圓教　即是頓教中頓教　眞宗叵遇難得信　難中之難無過此
釋迦諸佛是眞實　慈悲父母以種種　善巧方便令發起　我等无上眞實信
具足煩惱凡夫人　由佛願力獲得信　斯人即非凡數攝　是人中分陀利華
斯信最勝希有人　斯信妙好上上人　到安樂土必自然　即證法性之常樂

（親鸞上人全集上卷奥附）

正價金壹圓

明治三十九年四月五日印刷
明治三十九年四月十日發行
明治四十四年二月十日訂正五版

不許複製

監修者　南條文雄
監修者　村上專精
監修者　前田慧雲
發行者　東京市神田區南甲賀町　清水金右衛門
發行者　東京市京橋區中橋廣小路六番地　前川文三郎
印刷者　東京市神田區表神保町拾番地　今成温平

發兌元　東京市京橋區中橋廣小路六番地　前川文榮閣
電話京橋三七七番
振替口座東京四一〇九番

特約賣捌所

京都市油小路御前通上ル	興教書院
大阪市東區備後町	吉岡平助
大阪市東區淡路町	盛文館
大阪市東區南渡邊町	杉本書店
大阪市東區南久太郎町	福音社
名古屋市本町三丁目	川瀨代助
名古屋市宮町一丁目	星野文星堂
福岡縣久留米市米屋町	菊竹金文堂
熊本縣熊本市新町	長崎次郎
長野縣長野市大門町	西澤喜太郎
越後長岡市表四ノ町	目黑十郎
新潟縣越後水原町	西村萬松堂
福井縣福井市佐佳枝中町	品川書店
石川縣金澤市庄町	宇都宮書店

前川文榮閣出版發行圖書目錄

高橋五郎先生著書目

釋迦論

菊判洋裝　定價金八十錢　郵稅十錢

一切の世慾を退けつゝ一切衆生の爲めに不退轉の誓を起せる大恩教主の眞面目を著者獨特の精緻の見を以て詳論したるもの即ち是れ

增訂 人生觀

菊判洋裝　定價金七十錢　郵稅十錢

本書は古今幾多の人生觀を掲擧して遂に健全無病なる安心立命的大人生觀を說述せるもの、人間の人間たる本分を知らんと欲せば本書を讀め

宇宙觀

上製金壹圓五十錢　並製金壹圓廿五錢　郵稅各十五錢

萬物の靈長たるの人唯醉生夢死世は何たる我は何たる生は何死は何たるの理を知らずして有るべけんや本書這般の理を闡明して又餘す所なし

人生哲學

菊判洋裝　定價金七十五錢　郵稅十錢

學問と宗教とは本書を俟つて初めて琴瑟の和階に達すと云ふべし寔に是れ超群絶倫の最大人生哲學！

最新 一元哲學

菊判洋裝　定價金五十錢　郵稅八錢

著者が該博の識と深遠の考慮とは茲に一元哲學一巻を編出す。附錄に黑岩君著「天人論」の一元主義を評騭せる所痛快の著なりと謂ふべし

戰爭哲學

菊判洋裝　定價金四十錢　郵稅六錢

出て、戰ふ者居て守る者共に戰爭の哲理を常に胸底に藏するを要す、本書が立論の嶄新なる所逸すべからざるの著也

世界三聖論

菊判洋裝　定價金四十錢　郵稅六錢

著者の犀利なる筆を以て世界に於ける三聖の眞面目をして紙上に躍如たらしむるもの即ち本書也矣

日蓮論

菊判洋裝　定價金六十錢　郵稅十錢

大日本の法華經を唱へて自ら國家の柱石を以て任じ權勢と戰ひ迫害に對せる英雄僧日蓮の異彩を詳述せるは本書一篇の消息なり

豫言者 宮崎虎之助君著

我が新福音

俗姓宮崎道名メシヤ佛陀、虎之助君抱負の大なる其名の炳乎たる世の既に知る所今や我が新福音一篇を著す抑もや如何なる福音をか傳ふる、

菊判洋装 定價金四十錢 郵税六錢

正岡藝陽君著

新時代の道德

文壇の拗者大俗の牧師たる藝陽君新に新時代の道德なる一書を公にす氏が道德觀抑もや如何なる者をや齎らす

四六判洋装 定價金廿五錢 郵税四錢

屈山 小室重弘君著

實驗雄辯學

大演説家たる著者が多年の實驗に基き談論の秘訣雄辯の妙用を講述せられたる者學生諸君が必ず一本を備ふべきの書也

菊判洋装 定價金四十五錢 郵税六錢

獨乙ゲーテ原著 高橋五郎君譯

ファウスト

ゲーテが傑作ファウストは今や拉し來りて高橋五郎先生が明快なる邦文に譯する所となる原文一行邦文一行一字一句をも苟くもせず文壇稀出の快著たり

四六判洋装 定價金七十五錢 郵税十錢

獨逸ゲーテ原著 米國テーロル譯 高橋五郎君註疏

英文 ファウスト

本書は英文の粹を選び必要なる註疏を附して初學者の便にせらる英學者獨研究の好伴侶

四六判洋装 定價金四十五錢 郵税六錢

獨乙エッカルト原著 齊木仙醉君譯

譽の毒盃

獨逸文豪エッカルトの傑作にして材を希臘に取りたる大戯曲也ソクラテース、プラトン、ヘレナ、等幾多の登場人物は紙上に活躍す

菊判洋装 定價金五十錢 郵税八錢

海老名彈正先生著

耶蘇基督傳

井上博士の釋迦牟尼傳と相俟つて我讀書界多年の渴を充たしたるものは本書也現今基督傳中の白眉!

菊判洋装 定價金六十錢 郵税十錢

文學博士 井上哲次郎先生著

釋迦牟尼傳

釋迦の史傳として尤も完全無缺なる又考證該博なるものは本書なり好評嘖々陸續として申込み絶えず內容推して知るべきなり

菊判洋装 定價金六十錢 郵税十錢

文學博士　高瀨武次郎先生著

王陽明詳傳

王陽明の事蹟性行學説を詳密平易に傳したる者は本書也有爲の士は陽明が成効の歴史を繙き簡易實用の學を味ひ玉ふべし

菊版洋裝　定價金七十五錢　郵税十錢

高島圓先生著

一休和尚傳

元日に髑髏を振廻して人の度擔を抜き末期に糞を晒ふて梵天に捧げたる一休和尚は本篇に傳せられて餘す所なし

菊判洋裝　定價金四十五錢　郵税八錢

濱口惠璋先生著

曇鸞大師傳

支那南北朝の時代黄河々畔雁門の地にありて徐ろに靜寧の工夫を凝らし心靈慰安の道を宣べたる大師の傳を見よ

菊判洋裝　定價金四十五錢　郵税八錢

大内青巒先生閲　峰玄光先生著

道元禪師傳

禪師の禪で遂に曹洞宗なるものを形造れり師が事蹟性行學説は本書傳へて餘蘊なし

菊判洋裝　定價金四十五錢　郵税八錢

小野藤太先生著

弘法大師傳

書道の仙としての大師佛道啓發者として大師の傳は如何なる筆に依りて紹介せられたるか庶幾くば來つて本書に其の眞價を知れ

菊判洋裝　定價金四十五錢　郵税八錢

梅澤和軒先生著

西行法師傳

歌仙としての法師求道者としての法師は著者が多年の研究に依りて玆に紹介せらる希くは諸士よ天地人生に對する眞詩人の心靈の響を聞け

菊判洋裝　定價金六十錢　郵税八錢

文學博士　井上哲次郎先生著

菩提達磨傳

近刊　定價金七十五錢　郵税八錢

文學博士　村上專精先生述

教理と實踐

佛教研究の眼目とする所は教理の研究より寧ろ實踐窮行を重とす本書は尤も簡明に此の實踐を示せるものにして教理と實踐とあれ共大部分實踐に屬するもの今や淨土は開かれたり彼岸に往生せんとせば速かに本書に就けよ

菊判洋裝　定價金四十五錢　郵税七錢

ミルトン氏原著　高橋五郎先生譯

失樂園　近刊

原名パラダイスロスト

失樂園の大作從來日月と光を爭ふ、其脚色の巧妙なる、其結構の雄大なるや、宇宙を呑吐して綽々餘あり、魔王を掌上に弄し、地獄を脚下に蹂躪す、天軍魔軍旗鼓堂々隊伍整々空中に激戰し、雷霆閃々電火炎々遂に孰れか勝ち、孰れか敗る、亦是れ人生の秘密を金剛の筆に描き出せる者、高橋五郎先生の此飜譯亦原文一行譯文一行精細緻密加ふるに頭註の難句を解くあり、パラダイスロストの眞面目始めて茲に見る可し、先生拾數年の苦心今や譯成る、乞ふ愛讀を賜へ、

文學博士　前田慧雲先生著

大乘佛教史論

菊判全一冊
定價金七十五錢
郵税八錢

本書は大乘佛教の教理系統の異同を歷史的に考證したるものなり議論の明快と文辭の流暢とは的確なる考證と相俟つて一段の光彩を加ふ

舟橋水哉先生著

小乘佛教史論

菊判洋裝
定價金五十錢
郵税八錢

原始佛教は今日所謂小乘教にして大乘教は後世佛說に託して擴說數演せし新說なり本書は小乘教の印度より支那日本に傳來せし事實を蒐集して之に意見を加へ以て世に問はんとするものなり希くは斯學研讃の徒よ來つて本書一巻を繙け

トルストイ伯著　加藤直士譯

我宗教

菊判洋裝
定價金七十五錢
郵税八錢

伯を知らんと欲せば須らく本書に就け諸君本書を採りて心解默通讀むで僅に三四行に至らば伯は從容として眼前に到らむ

地理讀本

菊判クロース製
定價金六十錢
郵税八錢

及川奉次著　藤島武二畫
長原止水畫　赤松麟作畫
寫眞數十個入

極めて平易通俗に地理學に關する一般の智識を言文體に綴りたるもの家庭用として好適の教科參考用書たり

文學博士　南條文雄先生
文學博士　村上專精先生
文學博士　前田慧雲先生
監修

親鸞聖人全集

布綴洋裝
上下各金壹圓
郵税[illegible]錢

苟も眞宗の流を汲み聖人の人格に接せんとする[illegible]は是非一本を座右に供て永劫の生命を彼岸に得よ

田中智學序　山崎紫紅君著

法華經物語

菊版洋裝
定價金五十錢
郵税六錢

佛典の中心たる法華經の光彩は日の天に於けるが如く佛書の樞機こゝに馨す正法弘通の一助としてこの法華經物語は出てたり

女子大學校教授
學習院女子部教授
女子大學校教授
鹽井雨江先生著
小野鵞堂先生書
中村春堂先生書

新體女子用文

木版半紙習字和装
定價金七十五錢
郵税六錢

現代時文の大家鹽井雨江先生の新作を筆硯界の巨擘小野鵞堂中村春堂兩先生が淨書せられたるもの加ふるに極上和紙に印刷し高尚幽雅なる製本の體裁は更らに錦上花を添ふるものと云ふべし

宮中御歌所寄人　中邨秋香先生著

文鑑 千草の錦

和装雅製本
定價金七十錢
郵税十錢

先生が三十餘年間古學復興以來諸名家の文中男女學生の模範となるべき美文、記事、紀行、論説、消息、物語體等無慮數百編を選出せられたるもの即ち本書也

中邨秋香先生新作　小野鵞堂先生書

新編手紙 男子用

本版半紙摺
無類の美本
男女各一冊
定價金四十五錢
郵税八錢

女子消息 文の手ほどき

本書は中邨秋香先生の新作を小野鵞堂先生が大字に書せられたるもの習字作文兩用の好著たり

宮中御歌所寄人　中邨秋香先生著

古今集詳解

和装美本全四册
定價金二圓十錢
合本總クロース箱入定價金二圓廿五錢郵税廿四錢

國歌國文研究者に勿論我國文學の花を味はんとするものは前人未發の解釋書たる本書を先づ繙け

中邨秋香先生著　小野鵞堂先生書

新編書簡文例 男子用

木版半紙摺
頗高尚典雅
男女各一册

新編 女子書簡文例

定價金六十錢
郵税六錢

本書の文例は秋香先生の腦漿を擠れる作、書は鵞堂先生が大手腕を振はれたるもの兩々相俟ちて眞個男女學生が好伴侶

中邨秋香先生著

新編書簡文法式 男子用

新編 女子書簡文法式

總クロース
金文字入
定價金五十錢
郵税六錢
洋装頗美本
定價金六十錢
郵税六錢

書簡に法式を知らざるは尚人に禮なきが如し本書は今日の現状に依り舊新を對照して以て時宜に從ひ適當の式を設けられたるものなり

高須五湖先生著

速成 日露會話獨習

露語の發音、文法より、日常必要なる各種の用語を網羅せるもの 眞に當世會話の粋を萃めたるものと言ふべし

總クロース金字入 定價金五十錢 郵税六錢

渡部竹蔭君著

明治の家庭

本書は我國現今の不完全不規則極まれる家庭を矯正せんが爲めに生れたるもの家庭の王たるもの丶必讀すべき良書也

四六判洋裝 定價金廿五錢 郵税四錢

陸軍少將龜岡泰辰校閲 軍事普及會編

改正 徵兵問答

本書は徵兵に關する凡ての事を記せるものにして國家の干城たる青年子弟が來るべき務の最大説明書也

四六判洋裝 定價金三十錢 郵税四錢

綱島梁川先生著

病間録

本書は著者内生活の實録にして神秘久遠の海潮音を傳へたる近代的默示録也

布綴洋裝 定價金一圓廿錢 郵税十錢

綱島梁川先生著

回光録

法悦と健闘とを合せ得たる靜寧にして而も積極的なる著者の面目と其聖生活の消息を知らんと欲する者は來つて此の回光録一卷を繙け

布綴洋裝 定價金壹圓廿錢 郵税十二錢

中村春雨先生著

新約物語

布綴洋裝 定價金壹圓 郵税十錢

舊約物語

布綴洋裝 定價金壹圓五十錢 郵税十二錢

基督教の眞趣を家庭に傳へんが爲めに著者が苦心の大成せしめたる通俗の聖書にして最も平易に編述せられたるものなり

神學博士 三並良先生譯

オルデンベルグ氏 佛陀傳

本書は南方佛教を詳説せられたるものにして彼の錫蘭島に傳來せる「パリー」の經典に基き最も精密に最も嚴格に多年の蘊蓄を傾注して譯せられたるものなれば現時の佛教界に唯一無二の好參考書たるを疑はず斯學研究の士は必ず一本を備へよ

背皮頗美本 菊判五百余頁 定價三圓五十錢 郵税十八錢

安部磯雄君著

理想の人

虚偽虚飾の貴族的道德を痛罵して眞摯純朴の平民的道德を鼓吹し高尚なる士君子と善良なる市民の眞面目を發輝したるもの即ち之れ

四六判洋装 定價金七十錢 郵税八錢

山路愛山君著

支那思想史

自家の研鑽は自家知る東洋の思想は東洋の人自ら解釋せざるべからず著者の此識を懷くや久し此書則ち之を實にするもの丶一也

四六判洋装 定價金四十五錢 郵税八錢

浩々歌客君著

鷗心錄

現代文壇に獨歩する達觀明識異彩ある雄麗高華の文章は收めて此の鷗心錄にあり江湖讀書社會の多々益々味ふべき絶好文字也

四六判洋装 定價金六十錢 郵税六錢

堺枯川君著

婦人問題

著者は現社會主義者中の錚々たるものにしてまた家庭問題婦人問題に關して此主義に立つ一家の見を有す抑もや如何なる論をや有する

四六判洋装 定價金四十錢 郵税六錢

海老名彈正先生著

靈海新潮

著者が滿天下に號叫せる最大說教を輯めたるものにして現代宗教上の實際問題に就ての解釋を試み其根本の要義を提示せるもの也

洋装函入 定價金八十錢 郵税八錢

高木壬太郎先生著

基督敎安心論

著者が講壇及文壇より赤誠を披瀝したるものにして基督敎の立場より安心の道を說きたる者人生問題は本書に依て初めて解決せられん

洋装布綴 定價金七十錢 郵税八錢

清澤滿之先生著

懺悔錄

白河派の領袖として多年鬱結せる本山の陋習を打破せんと試みたる敎壇上の勇士清澤先生の遺著也如何なる事をか懺悔せる！

洋装布綴 定價金七十錢 郵税十錢

浩々洞同人著

沈思錄

讀者は熱湯を飲むが如き煩悶の中に本書を繙ひて其清涼の氣に觸れ以て宇宙の大靈の救濟に接し安住の天地に入らんとはし給はずや

洋装布綴 定價金六十錢 郵税十錢

瀧 精一先生著

藝術雜話

何人にも理解し易く、所謂應用美學の一書として美術家賞鑑家には勿論苟も美術に趣味を有する人々の必讀すべき書は本書也

洋裝布綴 定價金壹圓 郵税十錢

上田 敏先生著

文藝講話

萬般の藝術に就きて隨時公にせられたる泰西思潮研究の講話集也着實謹嚴なる體度を以て高遠精緻の說を述ぶる所他に其比なし

布綴洋裝 定價金壹圓 郵税十錢

五十嵐 力先生譯

兒童の研究

人の性格の固定するは兒童教育の眼目也後來の教育の根本實に兒童教育にあり子を預れる教師人性の芽萌に美しき枝振をなさしめんとせば本書を讀め

布綴美本 定價金壹圓 郵税十錢

建部遯吾先生著

靜觀餘錄

冷かなること水の如くにして透徹玉を欺き犀利なる觀察は事物の眞に徹底す靜觀餘錄の滋味滂浣として流るゝ泉の如く掬せば即ち玲瓏の響あり

布綴美本 定價金壹圓廿錢 郵税十二錢

山路愛山君著

社會主義管見

此書は山路愛山先生が其主義を發表せられたる一大論文也語は平易に意は深く全卷假名付にして何人にも解し易からしむ

四六判洋裝 定價金三十錢 郵税四錢

木下尙江君著

懺悔

戀に惱み死生に惱みたる著者が始めて人生の奧義に觸れて奮然新生活に驀進せんとする戰の宣言書也

四六判洋裝 定價金卅五錢 郵税四錢

高濱虛子君著

俳諧一口噺

俳諧一口噺は子規氏の隨筆に對して俳文の時代的變遷及進歩を示す虛子氏の文は幅あり深あり其內面的觀察は獨特の長所なり

四六判洋裝 定價金五十錢 郵税六錢

河東碧梧桐君著

俳句評釋

本書は猿蓑集を詳注せるもの初學者は勿論已に堂に上りたるものにも必讀の良參考書也

全二册 定價各金廿五錢 郵税各四錢

EAST-ASIAN LIB. UNIVERSITY OF TORONTO
3 1761 03172 3307